

字を造谷(役場)、鹿田、玉田、子生、田崎上太田、下太田の七區に分つてゐる。

沼前村

本村は郡の西北隅に位し夏海、大谷の二村と共に濁沼南岸にあり地勢頗る平坦である。人口約五千、田三九五町歩、畑六八五町歩に上る。名勝に濁沼あり日沼に作り古名を蒜間の江と稱した。風土記の阿多可奈湖なりとの論あるも未だ精確ならず。字を海老澤(役場)、宮ヶ崎、城之内、網掛、小堤、駒場、神宿に分つ。

東西兩派の無量壽寺(眞宗)あり共に二十四輩の一である。國寶の繪巻物を所藏してゐる。

徳宿村

本村は鉾田町の西北巴村と諏訪村の中間にある邑で村名は鹿島成幹の嫡子太郎親幹地頭となり子孫徳宿氏と稱せしよるといはれる。人口約三千七百、田二〇二町歩、畑九四〇町歩、山林九八〇町歩あり。名勝に徳宿城址がある。字は徳宿(役場)、大戸、舟木、駒木根、秋山、飯名の六區に分つてゐる。

瀧濱、柏熊新田、柏熊安房の六區に分れてゐて、縣廳へ五里、鉾田町よりバスの便ある。

新宮村

本村に就いては畑田(かまた)文書なる貴重なる文献あり、當國の一徴古に資せられ學者の賞玩する所となつてゐる。鉾田町の東方海に面せる村落にして、西は北浦に臨んでゐる。人口約二千七百、田二一〇町歩、畑五一〇町歩。字は畑田(役場)、白塚、大竹、安塚に分れてゐる。勝名に畑田城址がある。

巴村

本村は鹿島、行方、東茨城三郡の交會點に當り、人口約三千六百、田二七〇町歩、田六〇二町歩、産業組合がある。字は上富田(役場)、下富田、菅野谷、大和田、紅葉、鳥栖、當門の七區に分たる。チーゼルの産地である。富田と鳥栖には

諏訪村

本村は元三宅郷と呼ばれ諏訪神社あるによつてこの村名起る。鉾田町の東北方海に面せる村落である。人口約三千八百田一三三町歩、畑九二〇町歩、産業組合あり。字は縦山(役場)、勝下新田、勝下

上島村

本村は古く畑田村の内にて上島郷と稱せられた。常陸帯には「波上」と見元てゐる。新宮村の南方にして西は北浦に臨み砂丘の多い村である。人口約三千三百、田一八二町歩、畑四四七町歩。字を

梶山(役場)、波上、二重作、青山、臺濁澤に分つ。縣廳へ約十里、北浦へ舟運あり、鉾田、鹿島兩町へバスの便がある。

白鳥村

垂仁天皇の時白鳥天より飛來し化して童女となるとの傳説が村名の由來といはる。上島村の南方に隣接し西は北浦に臨み砂丘多し。人口約五千餘、田三三七町歩、畑六五〇町歩あり。名勝に國寶の釋迦像を藏する福泉寺と菩提樹がある。字は札(役場)、江川、中居、上幡木、飯島上澤、大藏、阿古の八區に別れてゐる。

(役場)、大小志崎、武井、武井釜、志崎濱津賀、和、棚井、荒井、青田、角折、の十一區に分つてゐる。舟運バスの便あり。名勝には、まなす自生南限地帯(天然記念物)がある。

中野村

本村は鹿島白鳥の中間にあるを以て村名を得たといふ。聖武帝の時本郡を分ちたる十八郷の一の中村郷に當る。大同村の南に隣接し人口約三千餘、田二二六町歩、畑二八八町歩あり。村内十三に上る寺院あり。字を林(役場)、奈良毛、中荒野、小山に分つてゐる。名勝には林古城址がある。

豊郷村

本村は鹿島の北にあり西は北浦東は波野村に接す。人口約一千四百、田二四三町歩、畑一二五町歩あり。字を須賀(役場)、猿田、田谷沼新田、田野邊、沼尾田谷、山ノ上に分つ。鹿島、鉾田兩町よりバスの便あり、北浦鹿島灘等舟運がよい、名勝には劍聖塚原ト傳の墓がある。夫木集に「沼のをの池主水神代よりたへぬやふかきちかひなるならん」とある沼尾池の蓮は美味にしてよく病を醫すと古書に見ゆ。

大同村

本村は昔の高家(たけへ)郷である。海濱を角折濱といひ砥濱、銚子の中間に當り砂丘多く、西は北浦に臨み北は白鳥村に接してゐる。人口約五千六百、田三九六町歩、畑五六六町歩あり。字を津賀

波野村

本村は元宮前郷と稱され鹿島町の東方にある海濱の村落にして砂丘多し。人口二千二百餘、田八八町歩、畑一七二町歩

豊津村

「ねんねお守は何處へいつた鹿島の舟戸

「帯買ひに」とある舟戸は今の大船津である。根本寺は著名の寺にして、芭蕉の「寺に寝てまこと顔なる月見かな」又桃隣句に「額にて掃くや三笠の花塵」とある。本村は鹿島町の南に接し、西は北浦に臨む。北浦に神宮橋なる長橋架あり潮来への交通便利である。人口約千八百田一九八町歩、畑三七町歩ある。字を大船津(役場)、爪木に分つ。大船津の町の入口に鎌足公の屋敷跡といふのがある。

高松村

本村は古く高松濱と呼ばれし所である鹿島町の東南に横はる村にて、粟生には稍宏大なる城址あり未だ何人の居城たるや判然ならず。人口約四千三百、田四七五町歩、二七〇町歩、産業組合の活動見るべきものあり。農業の副産物に製蕨盛んにして漁業も亦旺盛である。西瓜の産地である。字を木瀧(役場)、下埜、谷原、佐田、鉢形、平井、粟生、國木、泉川、

長柄の十區に分つてゐる。

息栖村

本村は新和歌集に「鹿島潟沖洲の森のほととぎす舟をとめてぞ初音きゝつる」とある如く古くは沖洲と呼ばれし處。鹿島の攝社息栖明神の所在地として有名である。北浦に面し浪逆浦の東岸、北に高松村東に輕野村と接してゐる。人口約四千九百、田四八一町歩、畑三一町歩にして蕨の産が多い。産業組合、鹿南電氣株式會社等がある。

輕野村

村名の輕野は草木なき枯野の義即ち砂濱として云つたものといはる。神野池とて砂濱には珍らしき大なる池がある。地勢は平坦にして息栖村の南北に當り、西は北浦、東は大平洋に面し西瓜の産出多く、又副業に製蕨が盛んである。人口六

若松村

千三百、面積三方里、田七五六町歩、畑四百町歩、山林千七百餘町歩といふ大村で、産業組合の活動が盛んである。字を知手(役場)、高濱、石神、田畑、濟口芝崎、萩原、木崎、奥野谷、日川の十區に分つてゐる。名勝に苅野橋(カルヌノハシ)といふあり。萬葉集卷九に高橋連蟲麻呂の「鹿島郡苅野橋にて大伴郷に別るの歌」といふのが見えてゐる。

本村は元東矢田部村と共に元松浦郷と稱されし所にして村内砂丘多く常陸の砂山といはれ、最近の開拓に係り村内落花生、西瓜、南瓜の産出が多い。人口約三千九百餘、田三三〇町歩、畑四六五町歩を山林原野一五〇町歩あり、産物總額二五萬圓内外にして、内水産の三萬圓等もある。産業組合の旺盛な活動は村勢の將來に多大なる囑望を繋げられてゐる。鹿島灘及び大根根等の舟運の便よく、縣廳

へ二〇里七町、字は柳川新田、須田新田、太田新田の三區に分れてゐる。

矢田部村

本村は砂丘多く、海と川とを腹背とせる割合に密集せる部落である。若松村の南に隣接してゐる人口約三千六百餘、田三七五町歩、畑三〇〇町歩餘にして枇杷、葡萄、柿、桃、南瓜の産出が多い。縣廳へ約二里半、利根川の渡船を以て千葉縣香取郡豊里村に通じ舟運の便がよい。

林産の地 行方郡

本郡は常陸國の南部に位し、北は鹿島東茨城の二郡に接し、東は北浦及び外浪逆浦を以て鹿島郡と境し、南は北利根の流れを隔て、千葉縣香取郡の水郷に相對し、西は西浦及び霞ヶ浦を以て新治、稻

敷の二郡をのぞむ。人情醇朴にして勤儉の美風あり、一般に敬神崇祖の念篤く、國民精神總動員運動の如きも比較的良果を收めてゐる。

郡内は主として洪積層の臺地より、境

域に水を繞らすも内部は水利に乏しく、未だ耕されぬ土地が多いが、原野から出る林産や湖水から獲れる水産は少なくない。鹿島參宮鐵道線が新治郡から來り郡の北部を過ぎて鹿島郡に入るほかは鐵道の通ずるところがない。

小學校は二十五校を算し、尋常小學校七、尋常高等小學校十八校である。中等學校としては麻生中學校、潮來女子技藝學校の二を有するのみである。また郡内官衙には牛堀土木出張所、農産物検査出張所、蠶業取締支所、麻生警察署、大藏省預金部麻生出張所、麻生稅務署、麻生區裁判所、供託局出張所等がある。

郡内を分ちて次の三町十七ヶ村とし、人口は五萬八千餘に過ぎない。

町 麻生、潮來、玉造

麻生町

村 香澄、八代、津知、大生原、太田、大和、津澄、要、武田、秋津、立花、現原、玉川、行方、小高、手賀、延方

本町は古く香澄郷と稱し幕末の頃は新庄氏一萬石の陣屋であつた。霞ヶ浦に沿ひ浮島と指呼の間にあり郡南の重要都邑たり、曩には郡役所の所在地であつた。人口約四千五百、田二七三町歩、畑一八九町歩、山林四七六町歩にして、水産四萬餘圓、工産一萬圓餘一萬三千圓に上つてゐる。産業組合其他縣出張所等の官衙及び縣立麻生中學校がある。名勝に霞ヶ浦景觀には相見崎と共にその双絶と稱する天王崎の眺望がある。其他麻生氏城址霞ヶ丘、養神臺、香澄の里、霞ヶ浦八景等がある。人物に元鐵相内田信也氏、新莊直知子爵、實業家羽生兵四郎氏等の知名の士を出した。字は麻生(役場)粗毛、富田の二區に分れてゐる。

潮來町

本町は霞ヶ浦の南端で水路となる處その東岸にあり、古來水郷の歌舞郷として潮來節にあやめ踊りに有名であつたが今は娼家跡を絶つてゐる。人口約五千二百、田四三五町歩、畑一二〇町歩にして米産二〇萬圓に上る。女子技藝學校あり、醫院七、その他銀行會社、官廳出張所等あり、名勝霞ヶ浦は古來餘りにも詩に歌にとりたはれ、且つ有名で擧げて數ふるに堪へない。長勝寺は頼朝の創建に於ける古刹にして、その古鐘は國寶に指定されてゐる。縣廳へ一五里一二町。幕末の勤王學者宮本茶村の出た處である。玉造驛に縣道通じバスの便あり、霞ヶ浦、銚子、北浦へ舟運の便あり、字を潮來、大洲の二つに分ち、潮來に町役場を置く

玉造町

郡の北端に位置し西は霞ヶ浦に臨み、東は鐵道にて銚田に通じ水陸の交通開く昔は本村を會彌郷と呼んだ、後玉造重幹の居城にて國名こゝに起る。幕末の頃藩の郷校玉造館あり多くの人材を輩出した人口約三千、田三三三町歩、畑二二三町歩、山林三〇七町歩、産物總額約二〇萬圓内外藩の産出五萬圓内外に及ぶ。産業組合の活動顯著である。名勝に義烈兩公以來藩公愛撫の「高須孤松」あり根幹三又して枝葉蜿蜒匍匐せる老松である。天龍と稱する孝徳天皇時代の古跡といふ清泉あり。その他玉造城址、物見塚等の名勝がある。字を玉造町(役場)、一本松、搦目、物見塚に分つてゐる。縣廳へ九里鹿島參宮鐵道玉造驛あり。

香澄村

本村は麻生町の東南方に當り、西南は霞ヶ浦に面し、大田大生原八代の各村を繞らし、東北は丘陵にして東方に田園が

八代村

開けてゐる。人口約二千九百、田二〇〇町歩、畑一〇〇町歩、山林一六一町歩、劇場一、料理店八、工場三、神社五あり字を牛堀、清水、茂木、堀之内、永山に分つ。牛堀は村役場の在所にて、古來霞ヶ浦の咽喉を扼し横利根北利根の合流點に當り水の名所として有名な處である。古き詩に「水を汲んで山動くと疑ひ帆を揚げて岸行くと覺ふ」とあるはこの地の情景である。縣廳へ十四里一〇町、潮來麻生兩町に舟運の便がある。

本村は水郷の一たり、藤森天山の詩に「篷を推して前路を問へば、歌吹は潮來」とあるは此邊の情景である。潮來町と香澄村との間に位置す。人口約二千三百、田一九五町歩、畑一三三町歩あり米産約二十萬圓に上る。製綿、製織工場各一あり。バス、舟運の便よく、字は上戸(役場)島須に分れてゐる。

津知村

本村は潮來の東に隣接し延方村の曲松との間にある地域である。人口約千八百村民農を主としてゐるが、田一二五町歩畑六六町歩の小村にして縣廳へは十五里十九町舟運の便が良い。字は辻(役場)、築地に分る。

大田村

本村も亦日本武尊の足をとどめられたる地なりといふ故實がある。岡平の薬師堂の地は相廉(今の岡部落)の丘前(おかさき)宮の舊址なりといはる。人口約二千、田二〇五町歩、畑一一〇町歩、産業組合の發展充實見るべきものあり。字を矢幡(役場)、根小屋、石神に分ち、舟運の便よし。

大和村

本村に田里といふ處あり神功皇后三韓征伐の時古都比古なるもの三度彼地に渡り功を以て賜りし所といはる。又波都武三野といふが此は日本武尊東征の途弓矢の手入をせし所なりといはる。麻生町の東北にありて半島形をなす。東は北浦にして大田村の南に隣接してゐる。人口約四千四百、田四七九町歩、畑三二二

大生原村

本村は日本武尊の故實を存せる村であつて大日本地名辭書に村名幾千歳の故事を存すとあり大生は日本武尊の假宮の大炊の義といはる。延方村の北方に當り北浦に面し葦種の産出を以てひろく世に知られてゐる人口約二千百餘、田二〇〇町歩、畑一三〇町歩、字を釜石(役場)、水原、大生、大賀に分つてゐる。縣廳へ十五里、舟運の便が良く、また陸上の交通も悪くない。

津澄村

本村は要村と共に古くは藝都(ぎつ)郷と呼ばれた所、こゝも亦日本武尊にゆかりのある地である。大和村の東北、要村の東に位し、東方に北浦を臨む、人口約三千六百、田三六〇町歩、畑二三五町歩、産業組合、製綿工場、鐵工場、製材工場等あり。字を繁昌(役場)、吉川、山田、中根の四區に分ち、水運の便が良い

要村

本村は小高、大和、津澄、武田、牛賀玉川の諸村に圍繞された村落にして、人口約二千四百、田二〇〇町歩、畑四四五町歩にして、縣廳へ一〇里九町、陸路四

方に通じてゐる。字を小幡(役場)、南高岡、北高岡、行戸の四部落に分つてゐる

武田村

甲斐武田の族此處に住みしより村名起る、武田氏佐竹氏に亡ぼされし後仁賀保一萬石を以て此地に封ぜられ後佐竹氏に從ひ出羽に移る。要村の北方、北浦に面したる邑にして中央部より西部に互り山林が多いが地勢概ね平坦である。人口約三千六百、田三四〇町歩、畑四二五町歩、山林原野一千百町歩餘、總產物高三〇萬圓内外で内繭四萬圓がある。産業組合が大いに發達してゐる。名勝には大穴(往古寸津毗命の住せし處今尙奇異狀あり)神明城址がある。字は雨宿(役場)、小貫、次木、内宿、長野江、成田、三和に分つ。

本村は古くは當麻郷と呼び日本武尊此地を過ぎるとの記録あり。郡の東北隅にありて巴川を隔て鉢田町と相對す。人口約三千八百餘、田三四〇町歩、畑四九〇町歩あり、縣廳へ八里餘、巴川沿岸に舟運の便よく。字を野友(役場)、高田、串挽、米原、借宿、青柳等の六區に分つてゐる。

立花村

本村は東茨城郡橋村と共に昔立花郷と稱された。玉造町との間に梶無川あり日本武尊此の川を渡る折に舟の梶を折りし故實ありと云はる。郡の西北隅に位し、南に玉造町、東に現原村と接し西は霞ヶ浦に臨んでゐる。人口約二千九百、田二六六町歩、畑一七五町歩あり。字を八木蒔(役場)、濱、羽生、沖洲に分つ。

現原村

日本武尊此國を過ぎて現原の丘に幸すと風土記にあり。又平貞能常陸に至り重盛の骨を若梅村に埋むと大日本史にあり本村は北を東茨城と境し、立花村、秋津村、玉造町の間に位置する村落である。人口約二千百、田一五二町歩、畑三四五町歩、鉢田、小川の兩町よりバスの便あり。字を捻木(役場)、芹澤、若梅、谷島に分つてゐる。

玉川村

日本武尊此地槻野の清水に幸し手を洗ふ、此井を玉清井といふの故實あり、村名の由來なりと。本村は北に手賀村、南に行方村、東に栗村と隣接し、西は霞ヶ浦に臨む。人口約二千七百、田二三七町歩、畑一六一町歩あり。名勝西蓮寺は延暦元年最上人の創建になり桓武天皇の勅願寺たり、弘安十年慶辨阿闍梨の建立したといふ高さ三十三尺、周圍十尺赤銅を以て作り花崗岩を臺石となす規模壯大

秋津村

なり。元寇殲滅記念の相輪塔が境内に立ち國寶に指定されてゐる。字を井上(役場)出沼、藤井、荒宿の四區に分つてゐる。

行方村

本村は古への郡家にして中世八甲村といつた。孝徳帝の朝に行方郡を設けしとき此處に郡家を置き、當時郡の首邑たりし故今にその名を存してゐる。玉川、要小高三村の間に介在し西は霞ヶ浦に面す人口約二千四百、田二四五町歩、畑一五六町歩、産業組合あり、製蕨が盛んである。字は行方(役場)、船子、五町田、於下に分つてゐる、麻生町よりバスの便あり、縣廳へ十一里。

小高村

戰國時代小高氏邑主たるにより村名起る、村内に鯨岡あり上古鯨此にはひ來りて臥せりとの傳説あり。麻生町の北に隣

接し西は霞ヶ浦に面す。人口三千百餘、田二九四町歩、畑三二六町歩、玉造町及麻生町よりバスの便あり。字を小高(役場)、橋門、井貞、南、島並に分つ。

手賀村

本村は古へ提賀(てが)郷と稱し、足利時代手賀氏の據住たり。玉造町、玉川、要、武田各村の間に介在し西は霞ヶ浦に面せる村落である。人口約二千百、田二一町歩、畑二一四六町歩、山林二二二町歩、產物總額十五萬圓内外、公魚白魚の産が多い。麻生町よりバスの便あり、舟運の便もよく。

延方村

本村は郡の最南端にある半島形の村落であつて、北西に津和大生原の二村に接し三方霞ヶ浦に面してゐる。人口約四千五百、田七三六町歩、畑一〇九町歩に上

農産の地 稲敷郡

本郡は常陸國の南部にあたり北の西半は新治郡に接し、他の半分と東方は霞ヶ浦に面し、南は下利根の大江を以て千葉縣香取、印旛の二郡に境し、西は北相馬郡につゞく。

地勢平夷で、處々に沼澤があり、三十メートル以上の丘陵はない。

郡の西部を省線常磐線が貫通し、霞ヶ浦も水運に利用せられるから交通の便は良い。主な産物は米と麥である。人口は約十萬九千人をかぞへる。

本郡名は和名抄に出てゐる信太郡の郷

名で、古くは稻敷里など、歌にも詠まれたところである。明治二十九年、信太郡に河内郡を併せるに際し、改めて稻敷郡と稱した。而してこの時、河内郡の小野川村は泉波郡に、信太郡の東村及び中家村は新治郡に入つた。

龍ヶ崎中學校、江戸崎農學校、大成學舎等の中等學校のほか、小學校五十校をかぞへ、教育状態頗る良好といふべきである。

行政上二町三十二ヶ村に分ち、その町村名は次の如くである。

町 江戸崎、龍ヶ崎

村 君賀、沼里、奥野、朝日、君原、阿見、鳩崎、木原、舟島、安中、大宮、生板、源清田、長竿、柴崎、根本、長戸、八原、岡田、朝柴、牛久、荳崎、太田、高田、大須賀、伊崎、阿波、古渡、浮島、金江津、十餘島、本新島

江戸崎町

本町は戦國時代土岐氏に亞いで佐竹氏

の居城となり、領高四萬八千石と稱された處である。郡の中央に位する都邑にして、南は湖水に面し、西に沼里村、北に木原村、東に鳩崎村と隣接してゐる。人口約三千七百、田一九〇町歩、畑一八八町歩である。各縣出張所、銀行會社、産業組合、江戸崎農學校(縣立)等がある。不動院は江戸時代僧天海が中興した天臺宗の名刹として知らる。名勝に江戸崎八景、江戸城址、土岐治頼の墓等があり、神道流の名人諸岡逸羽の出た所である。土浦へバスの便あり、銚子よりは汽船の便がある。字を江戸崎(役場)、犬塚の三つに分つてゐる。

龍ヶ崎町

本町は慶長十一年奥羽伊達侯の陣屋が置かれ、江戸幕府より特恩の地二萬石を治めし處である。元郡役所の所在地として現に當郡文化の中心をなしてゐる。地名辭書に「谷原の低野の中なれど東傍に

獨基の岡あり、北方は丘陵連続して女化原に至るを以て形勢甚だ卑ならず、牛久沼用水は近く市街の南を流れ、小貝川新川利根川の諸水は田郊の間を回る」とある。人口約八千、田三七八町歩、畑一八〇町歩、各縣出張所、縣立龍ヶ崎中學校同女學校、銀行會社、工場、産業組合、警察署等の他、町施設完備してゐる。龍ヶ崎鐵道と常磐線の分岐點をなす。又附近各村へのバス網の中心をなしてゐる。縣廳へ十七里十五町縣道東西に走り東端に於いて江戸崎、銚子の二線に分る。

君賀村

本村名は君山の君と羽賀の賀をとりて村名となすと、昔の鎌倉街道にて繁盛せる驛たりしと傳へられてゐる。郡の中央に位し、周圍に江戸崎町、沼里奥野長戸根本大田の一町五村に隣接してゐる。人口約二千二百、田二六二町歩、畑一九〇町歩ありて、字を松山(役場)、上君山、

下君山、羽賀、村田に分つてゐる。産業組合の活動が旺んでゐる。

沼里村

本村は江戸崎町の西方に隣接し、君賀高田、奥野、君原、木原の各村に圍繞せられてゐる。人口千六百、田一七五町歩畑二二町歩である。字を時崎(役場)、蒲ヶ山、月出里、沼田、小羽賀に分つ。江戸崎町よりバスの便がある。月出里は(スダチ)と讀む難讀部落の雄である。

鳩崎村

本村は元は信太郷と呼ばれし處、郡の東部に位し、地稍高く概ね丘阜にして霞ヶ浦に面した肥沃の地である。人口千七百餘、田一六三町歩、畑一六四町歩、山林一八〇町歩あり、總産物高三十萬圓内外にして、茨城縣醬油酒醸造組合聯合會がある。名勝に信太太郎旗掛松の舊蹟

佐倉砦址等がある。字を佐倉(役場)、鳩崎、古渡の三つに分つ。

安中村

新千載集に「常陸なる小野の御牧の露草のうへしは駒のおくにぞありける」とある。小野の御牧は即ち此地である。本村は郡の東方の突角部にして三方水に面し北方を木原村と接してゐる。人口約二千八百、田二六〇町歩、畑二二〇町歩、山林一七五町歩あり。産業組合の活動旺盛にして、村内寺院實に十七寺に上る。名勝に陸平貝塚、辨天の秋月、芝浦の千島、不動堂、花見塚、ぶく／＼氷等がある。縣廳へ約十七里字大山に汽船發着所がある。字は土浦(役場)、外實に十六字に分れてゐる。

木原村

元の島津郷にして、上古廣野あり杉檜

處々に生じ、村名そこにより起るといはる。江戸崎町の北に接し、東は霞ヶ浦に面す。人口約四千六百餘、田四四八町歩畑四一八町歩にして産業組合が充實してゐる。名勝に楯縫神社(縣社)貝塚、木原城址、一の宮の大杉等がある。字を木原(役場)、大須賀津、茂呂、受領、宮地大谷、信太、興津、布佐等に分つてゐる

君原村

本村は朝日村の東方にあり、南は沼里西南に奥野、北は阿見、舟島、東は木原村に隣接してゐる。昔は子方郷と呼ばれた處である。人口約二千九百、田二九七町歩、畑四二一町歩あり。字を君島(役場)、石川、鳩、追原、上條、飯倉、大形の七區に分つ。名勝に君島原古戰場、上條城址、江戸崎監物の墓等がある。縣廳へ十五里二三町、土浦より汽船の便あり、土浦、江戸崎間のバスも通つて便を極めてゐる。

舟島村

本村は昔霞ヶ浦舟夫の群居せしより舟子の津と呼ばれた處、阿見村の東南方に接し、霞ヶ浦に面す。人口二千五百、田二四五町歩、畑二五五町歩にして産業組合の充實あり。縣廳へ約十五里、土浦、銚子、江戸崎等へバス及び汽船の便がある。字を島津(役場)、舟子、掛馬、竹來に分つ。名勝に縣社阿彌神社がある。

阿見村

本村は昔の阿彌郷にして、其名は阿彌神社に残されてゐる。霞ヶ浦海軍航空隊の所在地として知らる。敷地八十六萬坪我國最大のものといはる、白堊の巨大な建物が水に映じ殊に往年ツェツペリンを入れし大格納庫は一偉觀を呈し人目を聳たしむるものである。霞ヶ浦航空隊の所在地として知らる土浦とは電車を以て通

じ、舟島を南に朝日村を西に接して北は新治郡と境してゐる。人口約七千五百、田二七〇町歩、畑五一七町歩あり、産業組合が發達してゐる。常南電鐵の終點をなし、縣廳へ十三里二十六町。字を阿見(役場)、青宿、廻戸、大室、若栗、鈴木の六區に分つ。名勝は海軍航空隊の外、阿見原、柿置橋(書置)等がある。

朝日村

本村は昔高來郷と呼ばれた。郡の北方にありて、東は阿見、西は岡田、南は奥野の三村と隣り、北は新治郡と境してゐる。人口七千四百、田三三〇町歩、畑九三〇町歩に上る。産業組合、旭製絲工場等あり、亦小説家下村千秋の出た所である。字を實穀(役場)、荒川沖、荒川本郷沖新田、上長、小池、福田、吉原の八部落に分つ。常磐線荒川沖驛がある。村民は農を主業とし、桑苗馬鈴薯、甘藷の産が多い。

奥野村

本村は郡の中央に位し、八原、長戸、君賀、沼里、君原、朝日、岡田の七村と境を接してゐる。田三一二町歩、畑四一〇町歩、人口三千五百にして奥野農學校がある。字を久野(役場)、桂、井ノ岡、奥原、島田、正直、小坂に分つ。久野城址、赤井橋(片眼魚の傳説あり)の名勝がある。島田部落の石神は附近のはやり神にて病氣の全快する時は石にて男根を作り捧ぐといふ珍奇な風習がある。

岡田村

本村は牛久村の東方常磐線沿線の村落であつて、北は筑波郡と境してゐる。人口約四千四百、田二七二町歩、畑八〇三町歩にして、葡萄、桑苗、落花生の産出が多い。村立の農學校あり、名勝に明治天皇御野立所、國見入道主殿居城址、岡

見池等あり。字を柏田(役場)、猪子、東狸穴、東和田、中根、下根、岡見、上太田、結束等に分つてゐる。

莖崎村

本村は郡の西端に位し西方並に北方は筑波郡と境を接し、東は牛久沼に面す。人口約五千四百餘、田三四七町歩、畑七八〇町歩、山林八一〇町歩ある。名勝に高崎城址、護摩塚あり。字を小莖(役場)天寶喜、上岩崎、下岩崎、房内、君栗、菅間、大井、樋ノ澤、高崎、庄兵衛新田に分つてゐる。

牛久村

本村は戰國時代小田氏の居城ありし所にして、牛久沼の存在によつて有名である。人口約三千百、田二〇七町歩、畑二八一町歩、山林一三三町歩、産業組合、星製藥牛久工場がある。野獨藝蕃茄の産

八原村

本村は元の稻敷郷にして、八代羽原より村名が出てゐる。長戸村の西方、龍ヶ崎町の北方に位す。人口約三千、田三九五町歩、畑三六五町歩、山林八八〇町歩産業組合があり、栗の産出が多い。名勝に八代城址、泉城塚、貝原塚址、稻塚等あり。字を羽原(役場)、別所、貝原塚、泉、薄倉、八代の六區に分つてゐる。

長戸村

本村はもと稻敷郷と呼ばれた所である周圍に奥野八原大宮生板源清田根本君賀と接壤してゐる。人口約二千七百、田四三三町歩、畑一九九町歩、産業組合活潑なる動きあり名勝に半田城址がある。字を半田(役場)長峯、高作、塗戸、板橋、大塚の六區に分つてゐる。縣廳へ約十八里である。

馬柴村

出多く牛久葡萄の名も知られてゐる。名勝に牛久沼八景、牛久城址、義良新王の墓其の他諸塚がある。常磐線牛久驛あり字は牛久、城中、新地、田宮、遠山、庄兵衛新田に分れてゐる。役場は牛久に置かれてゐる。

本村は牛久沼の東岸にあり郡の西南隅に位す。人口約三千七百、田五二四町歩畑二九〇町歩、産業組合が充實してゐる名勝に女化原あり栗林下總守義長の出生に傳説ある三里四方餘の原にして中に三沼があり灌田の要をなす。その他、若柴城址、駒柴城址、新田義貞、貞氏の墓、國寶十六羅漢像を藏する金龍寺等がある字は若柴(役場)、佐貫、庄兵衛新田、稗柄、小通幸谷、南中島、入地、稻荷新田、小柴新田、駒馬、門倉新田の十一字に分れてゐる。村名は字駒馬と若柴より出たもの。

根本村

本村は柴崎村と共に古く朝夷郷と呼ばれた處、柴崎村の西に隣接し、北に君賀南は長竿村源清田村西に長戸村と境してゐる。北方に小野川あり。人口二千三百田三七五町歩、畑一〇六町歩、産業組合あり。名勝に神向寺城址、龍貝城址、岡田大明神等あり。字は上根本、下根本に分る。

柴崎村

本村は一帶の丘阜にして其の南端は殆んど新利根の上に臨み依つて柴崎の村名出ず。北に君賀村、東に太田村、南に金江津村、西に根本村長竿村と隣接す。人口三千八百、田六五〇町歩、畑二六〇町歩、山林九三町歩あり、産業組合が發達してゐる。簗の物産地である。名勝に竹内城址あり。字を柴崎(役場)、中山、角

崎、狸穴、成渡新田、伊佐津新田、伊佐高田、駒塚、桑山の四區に分る。津の七區に分つてゐる。

太田村

本村は昔の小野(おぬ)郷である。江戸崎町の南方、金江津、柴崎、君賀、高田、大須賀の諸村に圍繞され人口約二千二百、田四六三町歩、畑一二六町歩で産業組合が發達してゐる。名勝に小野の御牧、姫宮、東條城址、小野墓碑、介城等あり。字は下太田(役場)、寺内、小野、堀川に分れてゐる。

高田村

江戸崎町の南方湖水を挟んで江戸崎と相對し、南に太田、大須賀、東に阿波、古渡の諸村と隣接し東部に丘陵あり林樹に富む。人口約二千、田二八六町歩、畑一七一町歩、産業組合の活動がある。名勝に多くの貝塚がある。字は椎塚(役場)

大須賀村

本村は高田村の南方、阿波村の西南に位し貝塚は早くより人類學者の著目する處である。人口約三千、田四八三町歩、畑一七〇町歩、山林一四〇町歩あり産業組合が充實してゐる。名勝は貝塚の他に七塚、片葉葦、平須沼等あり。字を須田(役場)、幸田、脇川、中島、清水、町田東大沼、市崎に分つてゐる。

伊崎村

本村は古くは乗悟郷と呼ばれし所、郡の南部に位し、浮島の對岸に當り、霞ヶ浦に臨む。西は阿波村に接してゐる。人口約二千五百、田五〇八町歩、畑一三〇町歩、産業組合がある。縣廳へ約十九里半、河川湖沿に汽船の便あり。字は伊佐部(役場)、河波崎、下須田、釜井に分る

阿波村

本村は霞ヶ浦に臨み古く要津たりし所である。古渡高田大須賀伊崎の各村に圍繞さる。人口約三千、畑三六〇町歩、田二一六町歩にして産業組合の眞摯なる活動がある。名勝に神宮寺城址、比丘尼松田三塚、競馬場等あり。字は阿波(役場)神宮寺、四箇、南山來、須賀津、甘田等六區に分れてゐる。

浮島村

本島は曾つて景行天皇御東巡の道すがら御幸ありし處、山上に天皇の記念碑が建てられてゐる。景観佳く多くの詩人にもてはやされてゐる。人口約一千七百餘田二〇二町歩、畑一六〇町歩あり。名勝に景行天皇行幸碑、浮島城址、お伊勢の墓、雷神の棒、浮島の景観等がある。古渡村、麻生町より汽船の便がある。

生板村

本村は大宮村と共に郡の西南隅に位し利根川を挟んで千葉縣に臨んでゐる。人口約六三五町歩、畑二一八町歩にて、産業組合の活動旺盛にして、水陸共に交通便利である。字を生板(役場)、幸谷、鍋子新田、小林町歩、龍ヶ崎町歩、角崎町歩、大徳に分つてゐる。町歩といふは新田のことで、本村は新田を合して一村をなしたものである。

古渡村

本村は郡の東部突角の位置にあり、浮島と一葦帯水の間にある水郷である。人口約二千九百、田二七五町歩、畑二二二町歩あり産業組合の旺盛なる發展あり。名勝に古渡入江、藏前城址等がある。字を古渡(役場)、上馬渡、三吹、飯出、岡飯出、柏木古渡、柏木、下馬渡、堀之内羽生に分けてゐる。

大宮村

本村は郡の西南隅にありて、西北は龍ヶ崎町に隣接し西は北相馬郡と境をなす人口約三千二百、田五三〇町歩、畑二一町歩にして産業組合の充實せる處である。名勝に信太關あり、縣廳へ約十八里にて、字を大徳(役場)、宮淵、佐沼の三つに分けてゐる。宮本龜次郎氏の出身地である。

源清田村

本村は生板村とその成立を同じくし附近の新田を合して一村を成したものである。生板村の東方に當り利根川沿岸の村落である。人口約二千四百、田五〇二町歩、畑一〇三町歩、産業組合の充實せるあり。名勝に新橋沼、琴比羅沼がある。縣廳へ約二十里、龍ヶ崎へ自動車の便あり

り。東京銚子へ汽船の便がある。字は源清田(役場)、布鎌、平三郎、宮淵、猿島、羽子崎、古河林、手栗に分つてゐる。

長 竿 村

本村は利根川べりの水郷の地である。源清田村の東に隣接して、人口約一千八百、田三四五町歩、畑九三町歩、産業組合の眞摯な活動あり。名勝に厩沼外五沼がある。縣廳へ十八里二十三町、利根川に汽船の便あり銚子、佐原、東京に至る字は長竿(役場)、兵部新田、下町歩、庄布川に分つてゐる。

金 江 津 村

本村は元千葉縣所轄なりしが明治三十二年茨城縣に移された。(此の時十六島の大部分を千葉縣に移す)郡の南方利根川に作つた村落で川を隔て、千葉縣滑川村と相對してゐる。人口約四千百、田八

六四町歩、畑一四七町歩である。産業組合發達し、殊に本村小學校は曾つて優良學校に指定された教育村である。名勝に大浦沼、能場沼、開場沼がある。字は金江津(役場)、田川、片卷、下加納、平川十三間戸の六區に分れてゐる。

十 餘 島 村

本村は新島村と共に水郷をなし村名は所謂十六島なるが故である。郡の東南隅に近く利根川を隔て、千葉縣に臨む。南に金江津村、東に本新島あり。人口約三千三百、田七九三町歩、畑六七町歩にして米産實に三十萬圓を超す。産業組合の機能活潑である。名勝に二つ島、神崎の渦卷、ナンジャモンジャあり。字を曲淵(役場)、外十六區に分つ。

本 新 島 村

本村は郡の東南隅に位し對岸は千葉縣

林産農耕の 新 治 郡

常陸國の中部にあり、北は西茨城郡に東は東茨城郡に接壤し、南は稻敷郡につづき西は眞壁郡及び筑波郡と相境する。郡の西北には筑波山、加波山等が連互して郡界を限り、郡の大部分は洪積層の臺地で林産や農産に富む。鐵道は常磐線が郡を縦貫し、土浦よりは筑波鐵道線が分岐して水戸線に向ひ、常南電氣軌道線もまた土浦から起つて阿

見村に入る。而して鹿島參宮鐵道線は石岡より起つて行方郡に至る。土浦の附近に海軍の霞ヶ浦航空隊の飛行場がある。本郡は、ニイハルまたはニヒハリといふ。

石岡はもと府中と稱し、常陸國の國府のあつたところで、水戸の支藩たる松平氏二萬石の陣屋があつた。土浦は土屋氏九萬五千石の城下で、また志筑は本堂氏一萬百石の陣屋を置いたところである。郡名は上世より著はれた新治の名を襲ふが、往昔の新治郡は今の眞壁、西茨城兩郡の地にあたり、本郡は僅かにその一部であつた。人口は十四萬人弱である。

全郡を分ちて左の五町三十ヶ村とする

- 町 眞鍋、高濱、石岡、柿岡、土浦
- 村 上大津、下大津、美並、牛渡、佐賀安飾、志子庫、關川、三、玉川、田余、岡部、林、瓦會、懸瀨、葦穂、小幡、小櫻、志筑、新治、七會、都和、藤澤、斗利世、榮、九重、栗原、山ノ莊、東、中家

眞 鍋 町

本町は土浦町の町續きにして曾つて天狗騒動のとき田中愿藏の一隊に焼かれた處である。人口約五千五百、田二一八町歩、畑一八八町歩。縣立土浦中學校あり油漕所、製絲工場の他種々の工場がある土浦と共に將來の繁榮を期待さるゝ町である。字を眞鍋(役場)、木田余、殿里の三區に分つてゐる。

高 濱 町

「多賀波麻にきよする浪の沖つ浪寄すともよらじ子等にしよらば」などの古歌あり懸瀨川もよく歌に詠まれた所で昔は風光明眉の地として普ねく知られた地である。石岡町の南方に位し霞ヶ浦に臨み舟運便利な所である。人口約三千五百、田二八三町歩、畑二一九町歩、産業組合の充實せる所にして、酒類の醸造工場があ

石 岡 町

本町は昔の府中にして府中平村と稱した。徳川時代水戸家の一族松平播磨守二萬國の領地たりし處、明治五年石岡町と名付けた。人口約二萬、田五九二町歩、畑一、〇二二町歩あり、郡中土浦に亞ぐ郡邑として、女學校、農學校、警察署、各産業組合、銀行會社、工場等あり町施設體裁相當整然たるものあり。名勝に大國主命以下六柱を合祀し、大椽氏以來領主崇敬厚かつた縣社總社神社あり。その他國分寺址、國分尼寺址、府中城址、石岡外城址等がある。字は石岡、染谷、村上の三區に分つて、役場を石岡に置いてゐる。

……とある。

田余村

本村は古の田余郷にして附近に滑川あり。(底滑にして渡渉するに轉ぶによりこの川名ありと)高濱町の東に接し霞ヶ浦に臨む。人口約二千九百、田二〇五町歩、畑二五一町歩で産業組合あり特産物に柿の産出がある。字を上玉里(役場)、高崎、田木谷、要又に分つてゐる。

玉川村

本村は古への田余郷にして、桑原岳は日本武尊の足を留め給へる處、亦古墳多く史家に知られた所である。園部川の川口にあり川を隔て、東茨城郡小川町と相對し南は霞ヶ浦に面してゐる。人口約千六百、田一六五町歩、畑九五町歩、名勝に室町時代の特色に富む國寶指定の仁王門あり延暦年間僧最仙の創建といはれる

西蓮寺がある。字を下玉里(役場)、川中子の二つに分つ。バスの便あり舟運の便亦良し。

園部村

本村は古く山前郷と稱されし所、現にその名山崎として残る。石岡町の北方に位し、西は瓦會、林の二村に接し、東は西茨城郡と境してゐる。田二四〇町歩、畑六三〇町歩にして人口約三千四百、産業組合あり。字を山崎(役場)、眞家、東成井、宮ヶ崎、柴間等に分つ。

瓦會村

本村は柿岡町の東北方に隣り、西に葦穂村、東に西茨城郡岩間町と接す。人口約二千六百、田二六五町歩あり、名勝に雲照寺がある。字を瓦谷(役場)、宗治會小高、佐久、野田、部原の六區に分つてゐる。

林村

本村は古く拜師郷と呼ばる。拜師は林の義にして、此地古の片野城の址といはる。柿岡町の東、石岡町の西北に位置す人口約二千七百、田二七六町歩、畑三二二町歩あり。字を下林(役場)、上林、浦須、片岡、喜良壽里、根小屋に分つ。縣廳へ九里二七町、石岡、柿岡兩町よりバスの便あり。

戀瀬村

戀瀬川の上流にあたる爲この村名ありといはる。郡の北端に位し、西は眞壁郡東は西茨城郡に接してゐる。人口約三千六百餘、田二六一町歩、畑三二三町歩、名勝に板敷山大覺寺、加波山登山口がある。字を小見(役場)、大増、大塚、太田中戸の五區に分つ。大増の板敷山舊蹟は山伏辨圓が親鸞上人を待伏せて殺害せん

とせしを聖人の法話に頓悟して弓箭を捨て其弟子となつた眞宗に有名な逸話を生んだ所である。

葦穂村

本村名は葦山の北に足尾の峰あり、これより轉訛せしものといはる。郡の西部に位し、西は眞壁町、東は柿岡町、瓦會村、北戀瀬村、南に小幡村と隣接す。人口約三千五百、田三二四町歩、畑四六二町歩、産業組合あり。名勝に足尾山、峰寺山、根古谷城址がある、縣廳へ十二里二七町、眞壁、柿岡兩町よりバスの便あり字を上會(役場)、吉生、小屋、小倉、鯨岡、小山田、猪内に分つ。

小幡村

本村は小田氏の一族小幡氏の居所たり元大幡郷と稱し、小田氏の時代度々戦禍の巻となつた所である。郡の西方にあり

て、西は筑波町、北は小櫻柿岡葦穂の諸町村と隣接してゐる。筑波山女體峰の東麓である。人口約三千六百、田三〇〇町歩、畑二九一町歩あり。縣廳へ十一里半筑波町及柿岡町にバスの便あり。字を小幡(役場)、須釜、細谷、上青柳、下青柳加生野の六區に分つてゐる。

小櫻村

本村は古の大幡郷である。柿岡盆地の南部、石岡町の西方山間にある邑にして西は筑波郡と境を接してゐる。人口約三千百餘、田三〇八町歩、畑三二〇町歩あり。縣廳へ十里二十六町、柿岡よりバスの便がある。字は月岡(役場)、半田、川又、青田、弓弦、柴内、辻、葛蒲澤、小野越、佛庄寺の十區に分つてゐる。

志筑村

本村は近世本堂氏八千石の封邑たりし

處、舊名を師付(しづ) (滴、雫の意である)といはる。石岡町の西方にあり七會、明治、小櫻、林等の諸村に圍まれてゐる。人口約二千八百、田二五七町歩、畑三九二町歩、山林三二〇町歩、産業總額二千萬圓内外である。字を中志筑(役場)、下志筑、上志筑、五反田、大峰、横堀、栗田、高倉の八區に分けてゐる。

新治村

本村は古の荒張村にして、土田部落は土浦より府中に至る大道にて小字中根には長者屋敷跡あり。村は荒張川の左岸にあり、新治は荒張の轉訛せしもので、此の附近を元新治郷となし新治郡とせるは誤りといはる。高濱町の西方石岡町の東南に接す。人口約二千六百、田二五六町歩、畑三二七三町歩、山林三四〇町歩、産業組合あり。栗梨を産す。バスの便頗るよく縣廳へ約九里。字を西野寺(役場)東野寺、下土田、上土田、飯田、市川、

新治に分つてゐる。

七會村

本村は地勢南北に狭長にして新治村の西方にあり、西は都和村に接してゐる。人口約四千餘、田三一四町歩、畑五四二町歩あり、國道南北に貫通し柿岡、土浦兩町よりバスの便が良い。縣廳へ約十里字を中佐谷(役場)、下佐谷、上佐谷、雪入、山本、上稻吉の六區に分つてゐる。佐谷は大椽の一族佐谷七郎左衛門の地頭たりし處、稻吉は奥羽街道に當る。

都和村

本村は舊山莊の屬村である人口約三千田二二七町歩、畑三二五町歩、産業組合の活動見るべきものあり。眞鍋町の北方に位し、縣廳へ約十一里、國道縣道土浦町に通じてバスの便あり。字を常名(役場)、中貫、小山崎、今泉の四區に分つ

てゐる。

藤澤村

本村は郡の西方に位し土浦町の西北方にある、人口約三千七百餘、田二八三町歩畑三六五町歩産業組合の活動旺盛である。筑波鐵道常陸藤澤虫掛の二驛あり。區を藤澤(役場)、大畑、下坂田、上坂歩虫掛に分つ。櫻川の左岸に古城址あり、藤原藤房の謫居せる屋敷跡ともいはる。この外名勝に髮塔塚(藤房の遺髮塚)岩蛤、神宮寺(藤房僧となり隠遁せし所)等がある。

斗利出村

臨濟宗の大知識大光禪の開基せる法雲寺在る村として著名である。藤澤村の北方櫻川に沿ふた邑で人口約二千五百、田二二五町歩、畑二〇五町歩、縣道土浦町北條町に至りバスの便がある。字を高岡

(役場)、田土部、藤澤新田、澤邊、田宮に分つてゐる。

山ノ莊村

本村は中古の庄名を山莊と呼んだ。南に斗利出村、東に七會村、北に小櫻村と隣接し、丘陵を隔て、西筑波郡小田町と相對す。人口約二千四百、田二三〇町歩畑二二二町歩。字を大志戸(役場)、小野東城寺、小高、本郷、永井の六區に分つ

榮村

本村は昔の大村郷にして其名は現に部落名として残つてゐる。土浦町の西北方櫻川の西岸にある邑にして人口約四千餘田二六一町歩、畑二九六町歩あり。金田には日輪寺といふあり昔時の名刹たりし處。字を横町(役場)、上境、中根、土器屋、松塚、大、金田、古來、吉瀬の九區に分つてゐる。

九重村

本村は土浦町の西方にありて西は筑波郡に接し、栗原中家東の諸村と隣り、人口約四千、田二九六町歩、畑五〇三町歩にして村産業活潑にして優良村としての發展をなしつつある。字を上ノ室(役場)、上廣岡、下廣岡、大角豆、倉掛、妻木、柴崎、東岡、花室、岡村新田の十區に分けてゐる。縣廳へ約十三里半、土浦町よりバスの便あり。

栗原村

本村は古の筑波郡東原郷の城内にして櫻川の右岸にあり、郡の西端筑波郡に突入せる平地である。人口約二千二百、田一四五町歩、畑二五〇町歩、産業組合の眞摯なる活動あり。縣廳へ十二里二十七町、土浦町へ縣道を通じ、一三三町の距離字を栗原(役場)、上野、蓮沼の三區に分

つてゐる。

中家村

大和法隆寺の古菌の裡に「常陸國信太郡中家郷戸主大伴部羊布を調へて進納す天平勝義八年十月とあるは此中家村なり土浦の西に隣接し、西に九重村あり。人口約四千三百、田三四七町歩、畑二八三町歩あり。製絲工場三、産業組合あり。名勝に國寶藥師像を藏する常福寺、國寶銅鐘を藏する般若寺、天神塚(平國香の墓といふ)等あり。バスの便よく。字を上高津(役場)、中高津、下高津、小松穴塚、矢作、飯田、佐野子、粕毛に分つ。

三村

本村は古田藩郷(たご)と稱されし處古來筑波社領となつた處。高濱町の南方に當り霞ヶ浦に臨む。人口約二千五百、田二八四町歩、畑二六五町歩あり、縣廳

また林産に富む

筑波郡

本郡は小貝川の東岸に位する狭長な地で、北は眞壁郡、東は新治、稻敷の二郡

東村

往古筑波郡に屬し後信太郡となり。明治二十九年本郡に入つたものである。郡の最南端にありて東は土浦町に接し、南は稻敷郡、西は筑波郡と境す。人口約四千三百、田三八五町歩、畑二八三町歩、國道村を南北に置きバスの便あり。字を中(役場)、永國、小岩、大岩田、鳥山、右根、摩利山新田、中村西根、二戸などに分つ。

と相接し、南から西南へかけて猿島郡と境し、西は結城郡に連つてゐる。人口は八萬三千有餘をかぞへる。

主として洪積層の臺地から成り、小貝川の沿岸は沖積の平地である。郡の東北隅には筑波山がそびえ、櫻川がその麓を流れて新治郡に入る。郡の主要物産は農産であるが、林産も非常に多い。

筑波の名は早く景行天皇の朝、日本武尊の東夷御征伐の際にあらはれ、次で成務天皇の朝には國造が置かれたが、國郡制定の時には郡となつた。谷田部は明治の初めまで細川氏一萬六千三百石の城下であつたが、細川氏は明治四年下野茂木に移つた本郡の境界は文祿の檢地後、犬牙錯綜して居つたが、明治二十九年四月河内郡より一村を收め、新治郡より三村を收めて一村を與へ、北相馬郡より一村を編入してその境界を整理し、現區域となつた。

全郡を分ちて即ち次の三町二十四ヶ村とする。

町 谷田部、筑波、北條。

村 板橋、小田、小野川、小張、大穂、上郷、鹿島、葛城、吉沼、高道祖、田水、山、田井、作岡、長崎、久賀、谷井田、眞瀬、福岡、旭、豊、三島、鳥名、十和菅間。

谷田部町

谷田部は八部、夜門倍、夜多陪等にも依る。和名抄には河内國八部郷と見へてゐる。本町は郡の中央に位し、鐵道の便を缺くも道路四通八達して形勝の地點を占めてゐる。人口約五千餘、田三〇五町歩、畑四六七町歩あり。字を谷田部(役場)、羽成、東丸山、境松、境松、根崎、古館、飯田、中野、片山、上萱丸、下萱丸、花鳥新田の十四區に分けてゐる警察署、筑波農業實習學校、家政女學校等あり、縣廳へ十五里、名勝に細川玄蕃頭陳屋跡がある。矢田部城は元小田氏の屬城であつたが、近世肥後の細川忠興の

弟興元が一萬六千石を以て封ぜられたが明治維新に至るまで終に城主格に陞らずに終つた。附近町村とバスの便が良い。

筑波町

本町は筑波山双峯の麗姿と、藤田小四郎の天狗黨の義舉を以て普く天下に知られてゐる。筑波山の中腹に有り郡の最北端に位す。人口約三千八百、田二二〇町歩、畑二〇九町歩、産業組合、筑波觀測所、柿岡地磁觀測所等あり。古くは筑波根の峰より落るみな川によつて、知らるゝ景勝の筑波山は現在にはケーブルカーによつて登る様になつてゐる。元治元年三月、藤田東湖の三子小四郎の首唱により、水戸天狗黨の一隊田丸稻右衛門を首領となし勤王の義旗を擧げ、幕軍之を撃つて克つ能はず後、諸生黨との抗争等明治維新の大業に一助ともなつた由緒の處頂上の筑波神社には太刀その他の國寶がある。女體山は八七六米、男體山は之よ

り六米低い。

北條町

本町は昔の清水郷にして中世北條氏の此地に地頭たりしにより其の名あり。北に建久時代多氣義幹の築した北條城址がある。筑波山の南方にある一都邑にして人口約五千、田三〇〇町歩、畑一五七町歩、産業組合の發展せる處、警察署、製材工場等あり。北條尋常高等小學校は會つて、優良校として表彰されたことがある。文學博士市村瓊次郎氏を出した處である。筑波鐵道、常陸北條驛あり。縣廳へ十三里半、附近バス網の中心をなす。字を北條(役場)、泉、小泉、君島の四區に分つてゐる。名勝出葉城址は北に一基の獨立をなし丘頂二髻に分れ北頂百五十米、南頂百二十米ありと。

小張村

本村は戰國時代小田氏の旗下只越入道金久の居城ありし處、谷田部町の南方に隣接せる村落にして、人口約一千九百、田二五五町歩、畑一四九町歩、産業組合あり。名勝に小張城址あり。縣廳へ十六里二七町相馬町よりバスの便あり。字は小張(役場)、谷口、奉社、市野深、新戸小島新田、善助新田等に分つてゐる。

板橋村

本村は上世河内郡大山郷の内たりしが中世約中庄に屬したるものゝ如く、其後文祿の檢地に牛沼湖而悉くと共に此一圓の地を筑波郡に編入され。徳川時代は全村旗本の知行地であつた。谷田部町の南方に在り東は稻敷郡に境してゐる。人口約二千七百、田三〇一町歩、畑二九六町歩、山林六六〇町歩あり、蠶、豚等飼育が盛んである。名勝に國寶の板橋不動尊がある。谷田部、藤代驛にバスの便あり。字を板橋(役場)、高岡、南太田、狸穴、

新兵衛新田、武兵衛新田、大和田、勘兵衛新田、野堀神生に分つてゐる。

久賀村

本村は古くは河内郷にして、郡の最南端にあり東は稻敷郡、西方南方は北相馬郡に境して、北方に三島村と隣接す。人口約三千餘、田四四五町歩、畑一九二町歩あり。縣廳へ約十七里半、相馬町よりバスの便あり。字を濱田(役場)、足高、東栗山、城中、上萱場、下萱場、徳衛門新田、根新田、孫左衛門新田に分れてゐる。足高は源義朝時代阿太加といふ地名の記録あり岡見中務の城址がある。

三島村

本村は郡の南部、久賀谷井田板橋等の町村の間に介在し、南は川を隔て、北相馬郡と相對してゐる。人口約二千百、田三六八町歩、畑四一五町歩あり。縣廳へ

十七里、谷田部より縣道通じバスの便がある。字は下島(役場)、伊丹、神住新田、山王新田、福原、上島、中島、戸崎、戸茂の九部落に分る。

谷井田村

本村は彼の有名な奇傑として知らるゝ間宮林蔵の出土せし處である。三島村の西方に隣り、西方に豊村と接す。人口約千八百餘、田二六五町歩、畑一六〇町歩あり、相馬及谷田部町へ縣道通じてバスの便あり。字を谷井田(役場)、山谷、上平柳、中平柳下平柳に分つてゐる。

鹿島村

郡の西部に位し、長崎、十和、豊の各村に圍繞され、西は利根川に臨んでゐる。人口約二千五百、田三五七町歩、畑二二八町歩、縣廳へ十七里半を隔つてゐる。字は古川(役場)、東楡戸、西楡戸、西丸山、成瀬、加藤、宮戸、川崎、上小目、下小目の十部落に分れてゐる。

十和田村

本村は郡の眞幅郷にして、郡の西部にあり、北は福岡村、東小張村、南鹿島村、長生村と隣接し西に利根川を臨む。人口約二千七百である、縣廳へ十七里五町、田四三七町歩、畑二〇五町歩である。水浦道に接し、バスの便あり。字を上長沼(役場)、押砂、日川、田、眞木、下長沼寺畑、川又、細代、北袋、箕輪の十二部落に分つてゐる。

豊村

本村は小貝川左岸の低野にして、豊體(ぶたい)の名稱は詳でない。郡の南方に位し、鹿島小張三島谷井田の四村と隣接し西南利根川に臨む、人口約二千、田三〇四町歩、畑一四七町歩あり。産業

長崎村

本村は郡の西南端に位習して、結城、北相馬、筑波三郡の交叉點に當る處である。人口約九百の小村にして縣廳へ十八里二十四町、縣道海道へ通じ、バスの便がある。字を鬼長(役場)、川崎に分つ

福岡村

本村は天正十六年北條氏政の東征せるとき兵火の巷となつた處である。北に眞瀬村東に谷田部町、南に十和田村と隣接し、西は利根川に臨み、小貝川のおたり水涯壁立して丘をなす。人口約九百、田一四五町歩、畑一七〇町歩、産業組合

あり。完禁岡製氷澱粉工場がある。北條谷田部兩町へ自動車の便あり。字を福岡(役場)、臺、仁左衛門新田、南伊佐衛門新田、坂野新田に分る。

眞瀬村

本村は古の島名郷である。郡の西方に位し、利根川の東岸、東に島田村、北に上郷村、南に福岡村と隣接し多くは沼澤の地である。人口約三千四百、田四四四町歩、畑一九二町歩。縣廳へ十七里半、相馬町よりバスの便あり。字は眞瀬、高須田、高良田、老田瀬、新右衛門新田、鍋沼新田に分れてゐる。

旭村

〇町歩あり。縣廳へ十五里八町、北條町及谷田部町より縣道通じバスの便がある。字を島名(役場)、面野井、水堀、高田、鬼ヶ窪、下河原崎、上河原崎、中別府、下別府の九部落あり。

吉沼村

餘、田一八一町歩、畑四八七町歩、産業組合實行組合等がある。土浦より自動車の便あり。字を田中(役場)、水守、山木に分つ。

島名村

本村は昔の島名郷にして小貝川筑と波川の間にある島狀の部落である。郡の中央に位し、谷田部町の西北方に在り。人口約三千三百餘、田二四八町歩、畑三八

上郷村

本村は戰國時代小田氏の臣赤松則實の居た所で僅かに城址を存する。利根川の沿岸にあり、東は旭村北は吉沼村南は眞瀬村島名村に隣接してゐる。人口約五千

高道祖村

本村は往古は諸浦郷の地域に入つてゐたが中世田中庄へ入り、後更に下妻庄に入りたるものである。天狗黨筑波山に擧兵の際幕府を撃破した地として知られてゐる。人口約二千三百、田一二二町歩、

如一七六町歩、山林一三四町歩、總産額十七萬圓内外である。北條下妻兩町より縣道通じバスの便がある。

作岡村

本町は昔の水守郷にして、筑波山の西南方にあり、高道祖菅間水山吉沼の諸村に圍繞されてゐる。人口約二千九百餘田一六五町歩、畑三一九町歩あり、北條町及び下妻町よりバスの便あり。字を作谷(役場)、安食、寺貝、明石、高野原新田の五區に分つてゐる。

水山村

本村は昔の水守郷にして中世田中庄五百石と稱された庄田である。人口約二千二百餘、田一八五町歩、畑一九〇町歩、北條町よりバスの便あり、縣廳へ約十四里餘。字を田中(役場)、水守、山木の三區に分つてゐる。

菅間村

本村は昔渚蒲(すがま)郷と稱されし處、郡の西北方に位し東に筑波山西に眞壁郡あり。人口約二千二百、田二三一町歩、畑八二町歩あり、筑波驛まで約半里ある。字は中菅間(役場)、上菅間、洞下、池田磯部の五區に分つてゐる。

田井村

筑波山の直下にある邑にして、古人は此地を筑波根の裾輪の田居といつた。筑波町と北條町の中央に位し、東は新治郡に接してゐる。田二〇四町歩、畑一四〇町歩にして人口二千六百餘あり。産業組合の活動見るべきものあり。バスの便またよい。字を神郡(役場)、白井、大貫、杉木、小澤、漆所の六區に分つてゐる。

小田村

本村は小田城址、極樂寺址等あり、史家に取つて珍重の村落である。昔は相當賑ひたる處にして殊に氣骨の人太田三榮は戰國時代の眞の英雄として知らる。郡の東北端にあり、人口約四千七百、田四五三町歩、畑二二七町歩あり、産業組合各種實行組合の活動旺盛にして經濟更生模範町村として會つて指定村たりしこともある。筑波鐵道小田驛あり。字を小田(役場)、北太田、小和田山口、平澤、大形、下大島に分つ。

大穂村

本村は北條町の南に隣接し村内を櫻川が貫通してゐる。田二九〇町歩、畑六七五町歩、産業組合がある。縣廳へ十三里半、土浦へ縣道が通じバスの便がある。字を大曾根(役場)、玉取、若森、佐條崎

長高野に分つ。大曾根にある常福寺は二十四輩の十八番にして門徒の靈場として知らる。

葛城村

郡の中央に位し谷田部町に隣接した村落である。人口約二千五百、田一六〇町歩、畑二三五町歩あり、縣廳へ約十四里半、北條、谷田部より自動車の便あり。字は期間(役場)、東平塚、西平塚、下平塚、原、根崎、西大橋、西岡、島、山中新井、柳橋、大白碓、小白碓、平の十六區に分れてゐる。

小野川村

本村は郡の東南にある大村にして、人口約四千餘、田三〇三町歩、畑五八六町歩より高層氣象臺がある。字は館野(役場)、赤塚、梶田、下原、新牧田、稻岡北中島、市之臺、下横場、南中妻、榎戸

眞壁郡

農作適地の

今泉、上横場、手代木、小野崎、上原、松ノ木、西大沼、中内の二十部落に分る東は新治郡、南は稻敷郡、西に谷田部町と境してゐる。

常陸國の西端に位し北は栃木縣芳賀郡につゞき東は西茨城郡と境し南は筑波郡に連り、西は結城郡及び栃木縣下都賀郡と地を交へてゐる。

郡の東境には、花崗岩より成る筑波山加波山等の連山がそびえ、その西には洪積層の古地があり、その間を鬼怒川、小貝川、櫻川等が流れ、沿岸に沖積地をつくり、農作物の栽培に適し、産額が極めて多い。

鐵道水戸線は栃木縣小山町から來つて郡北部を横斷し、これを下館に於て交叉して眞岡線と常總鐵道線とが北と南とに

走り、なほ筑波鐵道線も郡の東部を通過する。

本郡はもと白壁郡と稱したのであつたが、光仁天皇の御諱なるため、これを避けて眞壁郡と改めたのである。眞壁城はもと眞壁郡家の所在にして、大棟長幹これに居り眞壁氏と稱した。子孫歴世これを承け、房幹に至り新治郡に移つた。その雨引觀音、眞壁の傳承寺、大寶、八幡神社等の名勝がある。

行政上全郡を分ちて四町二十七ヶ村とし、人口は十二萬四千餘人である。

- 町 下館、關本、下妻、眞壁、
- 村 新治、伊讚、鹿波ノ江、鳥羽、太田、小栗、大國、大、上妻、川西、河内、河間、樺穂、嘉田生崎、竹島、大寶、中、長嶺、村田、上野、黒子、谷貝、古里、五所、養蠶、雨引、紫尾

下館町

藤原秀郷が平將門を伐つ爲めに三館を建てた、即ち上館は桶口村、中館は中館

村（共に現在のの中村）下館は下館城である。中世水谷伊勢守勝俊此處に居り爾來一方の鎮城として近時に至り、明治時代より郡役所の所在地となつた處である。郡の西北部に當り、汽車東西南北に通じ交通の要點として、又物資の集散地として、此の地方の最も重要な市邑をなしてゐる。人口約一萬三千に及び各官衙出張所、工場、會社、商店、産業組合外各種組合の發達せし處にして、縣立商業學校がある。名勝に下館城址、伊佐城址あり、縣廳へ約十三里である。

關本町

本町は古代關所のありし處ともいはれ中世には土豪の割據した處である。郡の西端部にある市邑にして、川を隔て、結城郡と境してゐる。人口約五千五百、田三三三町歩、畑五二三町歩あり、産業組合各種組合發達し、梨、桑苗の産地とし

て知らる。名勝に岩谷古墳がある。常總鐵道關本驛、三馬驛あり、結城町、下妻町等へバスの便がある。なほ本町は、字を關本分中（役場）、關本中、關本上、關本下、關本、肥土、般玉、上野に分つ。

下妻町

本町は元多賀氏の居城たりし處、關ヶ原の役に西軍に與して所領を没せられ、後水戸家の祖頼房の湯沐邑となりしが井上氏三千右の領地となりしものである。幕軍が天狗黨に破れた處で、維新前下妻城廻、西當郷、南當郷、東當郷の一町四ヶ村であつたのを明治十四正下妻町となし明治二十二年更に無民戸地砂沼坂本大木の三新田を合併せしもので舊町村名は皆大字名に残つてゐる。人口約七千五百にして各官衙出張所、各種工場、會社等あり産業組合の發達せる處で、町總産額三十萬圓内外に達す。縣立下妻中學、實

科女學校等あり。名勝に五所神社、光明寺、普門寺等あり。交通は常總鐵道の下妻驛がある。バスの便大いに開く。字を下妻役場、砂沼新田、坂本新田、大木新田に分つてゐる。

眞壁町

源義家時代眞壁六郎なるもの奥州征伐のとき功あり代々此の地に住し雄を近郷に稱ふ郡名町名これによつて起るといはる。筑波山の北麓にある市邑にして、此邊炭草の産地として知られてゐる。人口約八千五百、田二八五町歩、畑三七〇町歩あり。官衙出張所、工場、商店等多く縣立眞壁農學校がある。産業組合が發達してゐる。名勝に八柱神社（塙世の聖天）天目山傳正寺、傳正寺温泉、光明寺等がある。縣廳へ十二里、バスの便頗る良し字を眞壁（役場）、飯塚、田、山尾、古城、龜熊塙世、伊佐とに分つてゐる。

竹島村

元の竹島郷である。常陸大塚の一門小栗氏の所領たり。今の川澄、横島の字名は豪族の氏號より出ず。下館町の東方に位し地勢概ね平坦である。人口約二千八百、田三五五町歩畑一〇町歩、産業組合、足袋工場等あり交通至便。大字を稻野邊（役場）、横島、川澄、小林直井、金丸、高島などの七つに分つてゐる。

中村

本村は伊達氏の祖常陸入道朝宗の住みし處にして附近に伊佐城址あり。河内村の西に隣り、栃木縣と境を接してゐる。人口約二千八百、田二七六町歩、畑一八一町歩、足袋工場、産業組合等あり。下館よりバスの便がある。村内大字は折本（役場）中館、谷部、樋口、口戸、林、石塔、柴山、筑瀬、泉に分つてゐる。

分つ。

伊讚村

東鑑に伊佐爲宗なる者の子孫南朝に忠勤をぬきんづ伊佐山はこれにより名ありと村名は伊佐山より起れるものならんといはる。郡の西端にあり、下館、結城兩町の中央に位置す。人口約五千八百、田五二五町歩、畑四四二町歩の大村にして縣立下館高女校あり、製綿工場がある。バスの便よく字を菅谷（役場）外十五に分つ。

養蠶村

小貝川の邊ゆえ此村名あり。下館町の東南方郡の中央部に位す。人口約三千百田三〇〇町歩、畑一七二町歩、足袋工場發達し、産業組合の活動盛んである。バスの便あり。字を蕨（役場）、成田、下中山、島、塚原、上川中子、川連、徳持、大塚、深見、茂田に分つ。

五所村

五所宮といふ祠あり、伊佐三十三郷の惣社といはる。下館町の西南に當り栃木縣と境す。人口約三千二百、田四一二町歩、田三四町歩。府廳へ十四里結城町よりバスの便あり。字を灰塚、五所宮（役場）、小塙、棹ヶ崎、山崎、森漆島、西山田、下江連、大谷、上手塚、子思議に

大田村

昔の沼田郷にして卑濕の地が多い。田約四七五町歩、田四九六町歩、人口約四千二百、常總鐵道の太田驛ありバスの便もよい。縣廳へ約十四里。字を西方（役場）、玉戸、一本松、二木成、野殿、下野殿、布川に分つ。

上妻村

本村は古く駒城と稱する城寨のあつた所である。下妻町の西北方に位し南は結城郡と境してゐる。鬼怒川の東岸に當り澤地が多い。人口約五千七百餘、田二七四町歩、畑七五五町歩、製綿工場、半燃絲工場等あり。關本、下妻兩町よりバスの便あり。字は黒駒(役場)、平手、尻手、大木、半谷、澁井、柴、赤須、桐ヶ瀬、前河原、長塚江に分つてゐる。

川西村

元結城郡の管内であつた、字久下田は天文年中結城民の宿將水谷彌九郎正村の築城せし處である。郡の西端にあり、東は上妻村に接す。人口約三千四百、田一八〇町歩、畑四三〇町歩、産業組合あり字を久下田(役場)、大渡戸、小屋、高崎坪井、野瓜、新井、袋、八丁、大里に分つ。

大串、平沼新田、北大寶、下木戸、福田新田に分つ。

騰波ノ江村

騰波江の址は附近數村の間にある卑濕の地にして、昔は鳥羽の淡海といつて江海をなしてゐた。本村は大寶池の東方に位する低地にして、人口約二千七百、田二九七町歩、畑一九一町歩、製絲工場、産業組合あり、名勝に本庄院がある。下館下妻よりバスの便あり。字を若柳(役場)、筑波島、下新田、數須、中新田、上新田、中右衛門新田に分つ。

河内村

本村は北畠准向の據りし有名な關城のある處にして、南朝の歴史に知らるゝ、延元三年關城の戦を以て顯る。今尙其城址を存してゐる。關本町の東南に位し、人口約三千餘、田二二六町歩、畑四五〇町歩あり。字を大塚(役場)、板橋、關館藤ヶ谷、花田、舟生に分つ。

大寶村

本村は室沼の南邊にあり、昔小山朝長此地に來り下妻郷と稱し北畠親房を關城に迎へ賊と戦ひ利非ずして死す。下妻町の東に隣接し沼畔の丘陵を占む。人口約三千四百、田三三八三町歩、畑二八五町歩名勝に縣社八幡神社、大寶城址あり下館下妻町よりバスの便あり。字を大寶(役場)、比毛、横根、坂井、平三戸、堀入

里子村

本村も騰波江の址である。河内村の東方にあり、東は川を隔て、鳥羽村に接す人口約三千六百、田三三〇町歩、畑二四一町歩、産業組合がある。名勝千妙寺は門未百餘を有する東國屈指の名刹として

知らる。常總鐵道黒子驛あり、北條、下館兩町より、バスの便がある。字は木戸(役場)、辻、梶田、中村新田、黒子、井上、西保末、稻荷新田に分つてゐる。

あり、縣廳へ約十四里二八町。字を吉間(役場)、吉田、内淀、鍋山、大林、下川中子、新井新田に分つ。

大村

町へ通じてゐる。

嘉田生崎村

本村名は嘉家佐和、西石田、飯田、野田、東榎生、下岡崎の中より拾ひて村名となす。大日本地名辭典には「愚陋の命名ならずや」とある。下館町の南方に位し、南北に長い村である。人口約三千二百餘、田三七五町歩、畑一三三町歩、足袋底工場あり。名勝に常陸大椋國香城址がある。字は西石田(役場)、外六部落あり。

鳥羽村

古の鳥羽の淡海の東北岸なりといはれ往古は此邊ならんといはる。筑波山下村田村の南に位す。人口約二千二百、田二二七町歩、畑二四九町歩、眞壁、下妻、下館各町へ約二里自動車の便がある。字は鷺島(役場)、築地、海老江、東保末、高津、式井に分つてゐる。

上野村

本村の字海老島は北條氏の攻伐の時小田佐竹結城の諸族の交戦した處である。筑波山下にあり東に紫尾村西に村田村南に上野と隣接し、人口約四千、田二一〇町歩、畑五三七町歩あり。下妻、眞壁へ縣道が通じ大島驛よりバスの便がある。字は海老ヶ島(役場)、中根、山王堂、松原、田宿、倉持、有田に分つてゐる。

村田村

本村は郡の中央に位し嘉田生崎村の東にあり、人口約三千二百餘、田三四四町歩、畑二四〇町歩、下館町よりバスの便

長讚村

古は騰波乃江の跡なりといはる、本村は、郡の南端筑波山下にあり、人口約三千二百餘、田二五七町歩、畑一四七町歩、名勝に承和寺の址あり。字は中上野(役場)、赤濱、福岡林田、東石田、寺上野、向上野に分つ。縣道が眞壁、下妻兩

本村の字押尾は上杉謙信と小田氏治の交戦の地にして安部晴明の事蹟ありと傳へられてゐる。眞壁町の西方にあり筑波山を眼前に見る。人口約三千二百、畑二一五町歩、畑三三五町歩、名勝に安部晴明宅址がある。字を宮後(役場)、宮山、押尾、猫島、上西郷谷、源法寺、柳に分

つてゐる。

古里村

本村は古の長貫郷にして結城氏の屬寨のありし處である。筑波山の北方にあり人口約三千九百、約二九六町歩、畑四九八町歩、産業組合あり、下館町眞壁町より縣道バスの便がある。

字は知行(役場)桑山、清水、大島、谷永島、下郷谷、細田、柳上星谷、八幡、下星谷等に分る。

谷貝村

本村は古里村と共に古の長貫郷にして眞壁町の西方に接する村落である。人口約二千五百餘、田一六五町歩、畑三二一町歩、縣道は眞壁、下館兩町に通じバスの便が良い。字を下谷貝(役場)、細芝、上谷貝、東谷貝、大塚新田の五區に分つてゐる。

紫尾村

本村は古く椎尾といひ椎尾山上の藥王院は天壽宗の名藍にして、同所には平國春の據つた椎尾城址がある。筑波山の西麓にあり眞壁町の南に連なる。人口約四千六百、田三一町歩、畑一九三町歩、産業組合あり。陶器繩の産地として知らる。字は椎尾(役場)、羽鳥、東山田、酒寄に分つ。

樺穂村

本村は古の眞壁郷の一部である。眞壁町の北方加波山下にあり人口約四千三百餘、田三〇五町歩、畑二八六町歩、筑波鐵道樺穂驛あり。又バスの便もよい。名勝加波山は海拔二千六百餘尺の筑波山脈の一支峯であつて自由黨時代暴動のあつた處である。天目山も亦風光に富み山中の十五鎧等によつて有名である。字は長

雨引村

本村は昔の大苑郷である。雨引山は加波山の連山にして郡の東北隅に當り西茨城郡新治郡の交會點をなす。人口約三千九百、田二七四町歩、畑二九四町歩、名勝に義家弦巻塚、矢ノ根塚、樂法寺等あり同寺の雨引觀音は國寶である。字を本木(役場)、羽田、阿部田、大曾根、東飯田に分つ。

大國村

村内に將門の墓ありといふ俗説あり。大國玉神社は一に鹿島大明神といふ。雨引村の西にあり北は西茨城郡と接してゐる。人口約三千四百、田二七〇町歩、畑四六三町歩、名勝に七井、寶塚、將門墓等あり。村内を水戸線が貫通してゐる。

新治村

本村は古の新治郷である、村内に新治井あり開國の名蹟である。下館町の東方にあつて竹島、古里、小栗、大國の諸村に圍繞されてゐる。人口約四千三百、田四九二町歩、畑四四九町歩、産業組合、足袋工場、玩具工場、等あり。字を門井(役場)、三郷、久地東樂、蓮沼、横塚、白川澄、井出、姥澤、古郡に分つてゐる

小栗村

本村は古の新治郷に屬す。郡の東北隅にあり北は栃木縣、東は西茨城郡に接す人口約二千三百、田三一六町歩、畑二三八町歩、産業組合、足袋工場等がある。名勝に小栗判官城址、北野天滿宮がある縣廳へ十一里半、下館町よりバスの便あ

織物旺盛の 結城郡

本郡は縣の西部に位し、下總國の北端にあり、北及び西北は栃木縣下都賀郡に接し、市より南は本縣の眞壁郡及び筑波郡に隣り、西は猿島郡と境する。

關東平野の北部にあたり、全郡地勢全く平坦にして、西邊は洪積層の臺地をなして飯沼川に至り、東部は鬼怒川や小貝川の沖積地にして水利もよく、良田も開け、地味肥沃なれば農産物の年産高は巨額にのぼり、また織物の産出も少くない。結城は江戸時の間水野氏十八萬石の城下の地であつた。本郡は明治二十九年四月、附近の豊田、岡田二郡を廢してこれを本郡に併せて成り、爾來區劃に變更はない。

鐵道は郡の北邊を省線の水戸線が走り

岡(役場)、上小幡、下小幡、白井、櫻井、原方に分る。

常磐線の取手驛と水戸線の下館驛をつらぬる私鐵常總鐵道は郡の東部を南北に通る。人口は十萬六千を算し、全郡を分ちて次の三町二十四ヶ村とする。

町 結城、石下、水海道。

村 飯沼、豊田、西豊田、豊加美、大花羽、豐岡、大形、大生、岡田、上山川、玉、宗道、中結城、總上、名崎、山川、五箇、蠶飼、江川、安靜、絹川、三妻、下結城、菅原。

結城町

縣の西端樞要の地點を占め、東は下館友部を経て水戸に達し、西は東北本線小山と結ばれる。面積一方里二二、戸數二千八百餘を有し、治承年中、結城朝光がここに築城して結城政所といひ、累代の居城とし、慶長六年十八代中納言秀康の時越前に移封し、一時代官を置かれたが元祿十六年水野勝長一萬八千石の封邑を賜はり子孫相繼いで近世に至つた。紬は

この地の産として名あり、なほ梨、干瓢の産出が多い。

石下町

下妻町と水海道町の中央に位する主邑にして、常総鐵道による鐵道の便と鬼怒川水運の便を占め、人口約五千五百をかぞへる。町の名は領主石毛次郎政重より起りしものならんといはれ、大房部落には二十四輩の一なる東弘寺がある。米、蕎、大麥、小麥を主産物とする。町内には農産物検査出張所、下妻區裁判所出張所、石下郵便局、常磐銀行支店、五十銀行支店、石下産業組合、郡織物同業組合商工會、農會、火災豫防組合等ありて町勢殷盛を呈し、神社寺院並に名勝舊蹟も多い。

水海道町

郡の最南端に位し、南は筑波郡、西南

方は北相馬郡を境し、縣下西南方の樞要な町である。常總鐵道水海道驛あり、岩井町及び取手町へ縣道通じてバスの便あり、また鬼怒川による水運の便もよい。平將門が偽内裏をつくりし時、當時大井の津と稱した當町を京の大津に倣へたといふ。戸數約千六百をかぞへ、主産物は米及び大小麥である。水海道城址、山田地藏尊の名勝あり、縣立の中學校、女學校のほか私立女學校二校を有し、銀行會社等も非常に多い。

絹川村

結城町の東南方に接し、絹川の一埠頭をなし、村名は絹川に沿ふ村の故に起つた。

川の名のこや絹を裂く秋の聲と古句にも詠まれ、情景想ふべきである。戸數五百八十餘、人口三千二百人へのほり、米及び大小麥の産が多い。村の東北部には縣道の貫通するあり、結城町及び

下妻町へバスが通つてゐる。縣廳へは十五里十七町。長命寺の古刹を有す。

江川村

郡の西端にありて栃木縣及び猿島郡と境を接し、干瓢、桑の産出多きを以て知られ、米、麥もまた尠くない。もとは茂呂村と稱した。戊辰の役には結城の官軍と東軍とがこの地で戦ひ、官軍敗退の歴史がある。戸數約八百をかぞへ、人口五千四百人である。結城町及び幸島村へ縣道通じてバスの便あり、縣廳へは十七里十七町にて達し得る。社寺頗る多く香取神社、三藏神社、市杵島神社、八坂神社、光明寺、西脇寺のほか二社七ヶ寺をかぞへる。

山川村

江川村の東に連り、眞壁郡と境を接する本村は、上山川村と共に往古山川五郎

の采邑たりしところで、村内結城寺は金剛峯寺とも稱し、白鳳年間の開基に係り當地在古くから開けてゐたことを證するに足る。戸數七百六十餘、人口四千八百をかぞへ、米、大小麥を主産物としてゐる。平將門の支城にて俗に納涼殿と稱したる綾戸城の城址をはじめ、和歌御前の墓、不動明王等の名勝あり、村に縣道通じ、結城及び下妻へバスの便がある。

上山川村

結城町の南方に接し、米麥のほか桑苗の産出多きを以て著名である。結城朝見の次子重光（山川五郎と稱す）の舊邑にして、村名はこれより起るといふ。結城驛まで自動車の便あり、また下妻、大寶を経て筑波町に至るバスが往復する。人口約三千を有し、名勝に馬場及び不動宿の碑あり、上古この地に石窟を造り忌部の上祖野人に稼業を教へたる碑なりと傳へる。また社寺には諏訪神社、香取神社

慈眼寺、東持寺、本命寺がある。

中結城村

山川村の南に接し、東は眞壁郡川西村と境を分つ。古の小鹽郷にて、毛野（鬼怒）川の舊河道にあたる。縣廳まで十八里十町の地に位し、幸島村及び下妻町へ縣道通じ、乗合自動車を通つてゐる。面積一方里〇六四、戸數六百八十餘、人口四千三百有餘をかぞへ、米及び大小麥を主産物とする。養蠶業も隆盛を呈し、養蠶實行組合は十八の多きをかぞへる。神社は八社、寺院には醫王寺、圓滿寺がある。

名崎村

下結城村と共に往古は餘戸郷に屬し、平將門の叛亂の巷となりしところにて、將門記に豊田郡岡田とあるは當地のこと

である。郡の西北部に位し、西は猿島郡に接し、東に中結城村あり、結城用水堀の西南にあつて飯沼の澤田に臨む村落である。戸數六百二十餘、人口約四千をかぞへ、米麥の産多きほか、製茶並に甘藷の栽培が盛んに行はれる。縣廳へ二十里二十三町、下館町、幸島村へ縣道通じバスの便がある。

安靜村

下結城、飯沼兩村の間にあり、西は猿島郡に接壤する。歡喜寺、弘徳寺、西福院、福聚寺、佛性寺、蓮寶寺等の諸刹あり、弘徳寺は二十四輩の第五番にあたり、寺は相馬太郎義清、即ち後の信樂房の開基にかゝる。米、小麥、大麥の産多く、戸數約七百八十、人口約四千九百をかぞへる。常總鐵道宗道驛及び東北本線古河驛に向つてそれ／＼縣道走り、交通の便は悪くない。

大形村

郡の中央に位し、安靜、飯沼、岡田、西豊田等の村々の間に介在し、平將門が興世王と議して、一州を取るも誅、八州を取るも誅、と放言したのはこの地にして、鎌庭はその古跡である。常總鐵道宗道驛及び沓掛村へは縣道が通じてゐる。別府、鎌庭、皆葉、村岡、五箇等の部落より成り、戸數約四百六十、人口二千八百をかぞへ、村内には勝善院、滿徳寺、無量院の寺院あり、また古墳が多い。

岡田村

石下町の西方に接し、鬼怒川を隔て、石下驛と相對する。沓掛村へは縣道通じバスの便もある。向石下、篠山、藏持ほか五大字より成り、戸數約四百五十、人口二千八百有餘をかぞへ、米麥の産が多い。村内には郷社桑原神社、願年寺、眞

福寺、法輪寺等の社寺あり、大字大房に二十四輩第九番の東弘寺がある。この寺は、國の太守豊田治親が親鸞聖人をこの地大高山に迎へて法弟となり、良信坊の名を賜りて開基したものである。なほ本村は土の詩人として有名な長塚節を生んだ村である。

大花羽村

郡の西南部に位し、石下町の南方にあり、歌舞伎劇に傳はる鬼怒川の累殺しの出来事は本村にありし事實にて、名勝累ヶ淵のほか、法藏寺内には與右衛門の妻累の墓がある。鬼怒川を隔て、常總鐵道三妻驛に近く、交通の便良好である戸數三百二十餘、人口千九百をかぞへ、主産物は米及び大小麥である。

菅原村

郡の西南部に位し、東に大花羽村、南

に豊岡村、北に飯沼村あり、西は猿島郡と接壤する。面積〇・五三八方里、戸數約五百五十、人口三千二百をかぞへ、米麥、繭の産額が多い。北朝の頃、高師冬の據りし飯沼城は本村内にあつたといはれ、この天神社は菅公を祀るといふ。元大生郷外六ヶ村の聯合村なりしが、明治二十二年元岡田郡花島を分離し村名を菅原村と改稱した。菅原天滿社鎮座するにより名づけたものである。

下結城村

郡の西部にありて西は猿島郡に接し、北に名崎村南に安靜村、東に西豊田村がある。古の餘戸郷にて、結城用水堀の西南にあたり、飯沼の澤田に臨んでゐる。戸數五百餘、人口三千餘に達し、主産物は米及び麥で、本村産業組合は成績極めて優秀である。下妻、古河、境の諸町には縣道が通ずる。また村内には五十銀行支店、長泉寺、下結城郵便局等がある。

豊岡村

郡の西南端に位し、南は猿島郡、南は北相馬郡に境し、東は水海道町に接し、地勢平坦である。二十四輩第一番横曾根報恩寺の所在地として廣く知られ、また村内弘經寺には豊臣秀吉の室天樹夫人の墓がある。戸數六百有餘、人口三千四百人弱。米、麥の産多く、古谷製綿工場を有し綿の移出も少くない。水海道町へは乗合自動車を通つてゐる。名勝には前記報恩寺、弘經寺のほか、鶴姫の墓、錦芳園、松花園等がある。

西豊田村

下妻町の西方に位し、下結城、安靜、大形、總上、上妻、川西、中結城の各村と隣接する。延元の頃、高師冬こゝに砦を築き、後、戰國時代に多賀谷重經これを領し、重經の子大二郎は伏見に於て秀

吉に調し、石田三成命によりて首服を加へ、その偏名を與へて三經といはせた。

慶長六年、重經罪有りて所領を沒せられ三經は越前に移つた。現在戸數約八百七十、人口五千二百にほり、米麥を以て主産物とする。幸島村及び下妻町へ縣道通じバスが通つてゐる。

總上村

下妻町の南方に接し、西方に鬼怒川が流れてゐる。上古の毛野川の廢道にあたり、遺蹟なほ尋ねべきもの多く、今糸繰川があつて大寶沼の水がこれに注いでゐる。戸數約三百八十、人口二千三百有餘を算し、米麥を以て主要産物とする。幸島村、下妻町へ縣道通じ、バスの便がある。

なほ村内には三月寺、滿願寺の佛堂のほか親鸞聖人の遺跡たる小島草庵舊蹟不動尊の名勝存し、村は小島、古澤、袋畑、

豊加美村

郡の東端に位し、東は筑波郡作岡村、北は眞壁郡下妻町、西方より南方に亘り總上、宗道、蠶飼の諸村に接し、地勢概して平坦である。一谷の合戦に平業盛を討取りし泥屋（一に土屋といふ）四郎五郎の兄弟はこの地の住人なりしといふ。戸數約四百二十、人口二千六百人にして米、麥、繭を主産物とし、農産物の首位を占むる米麥に對しては極力下沼農業倉庫に於て有利に共同販賣し、全村内の豊加美村産業組合は大正八年の設立にして組合事業の成績著るべきもの多く、該組合を中心とし、村役場、村農會と聯絡を保ち、經濟更生五ヶ年計畫の實行成績良好を極め、縣下に於ける模範更生村と呼ばれてゐる。

蠶飼村

郡の東端にありて東は筑波郡吉沼村につゞき、北は豊和美村に接し、西は宗道村、南は豊田村に連る。地勢平坦、往古の南向郷の地にして、戸數二百三十、人口千四百人弱の小村なるも、米の産額多く、大小麥また少なくない。北條町及び宗道村へは縣道通じて交通の便悪からず村は大園木、鯨の二大字より成り、村内に江連用水組合、華藏寺等がある。

宗道村

北は下妻町南は水海道町、東は北條町西は古河町に通ずる街道の交叉點に當り玉、總上、豊加美、蠶飼、石下の諸町村の間に介在し、地勢平坦、結城五里、土浦へ七里にして達するを得、一小村なるも郡の中央にあたるを以て曾て郡衙を置かれしことあり、今も結城郡自治會館、

縣土木出張所、縣農産物検査所出張所、宗道郵便局等の官衙がある。常總鐵道に沿ふて宗道驛あり、下妻、石下の兩町へはバスが往復してゐる。村内宗道神社は安倍宗任の首級を祀ると傳へ、村に宗任の首塚と稱するものがある。

玉村

往昔の岡田郷の一部にして、石下町の北に接し、鬼怒川はその西を流れる。地勢平坦、耕地は田百九十餘町歩、畑二百五十町歩を越え、米及び大小麥を以て主要物産とする。原宿、原、羽子、小保川若宮戸等の部落を合して成り、戸數四百有餘、人口二千七百餘人をかぞへ、玉村産業組合は近來頗る業績の良好を示しつつある。なほ村内には光明寺、當光寺等の古刹がある。

豊田村

小貝兩川の相迫るところにして田土卑濕數條の排水路を造つて耕畝を保持する。相野谷、平右衛門新田、小山戸、中山、十花、大崎ほか四大字より成り、戸數四百八十餘、人口三千餘をかぞへ、耕地は田二百八十町歩、畑二百七十六町歩にして、米及び大小麥の産出頗る多い。水海道町及び石下町へは縣道が通ずる。なほ村内には廣大寺、淨運寺、常德寺等の古刹がある。

飯沼村

安靜、大形、岡田、菅村の諸村に圍まれた農村で、西は猿島郡に境するこゝもまた附近村落の同様、平將門の亂に兵火にかゝりし地である。戸數約七百四十、人口四千六百をかぞへ、飯沼なる大澤を有し、田三百十二町歩、畑四百七十四町歩を越え、米麥を以て主要物産とする。飯沼の水中には雁島なる名勝がある。この島は平時はその影無く、たゞ初秋の頃

郡の東部に位し、東は筑波郡上郷村につゞき、南は三妻村に接し、西は石下町に隣り、北は蠶飼村と境を交へる。往昔平將軍貞盛の一族たる平政幹が石毛館に居を構へ、豊田氏の祖となり、これに因んで村名を附したのである。なほ平將門の出生地は豊田郷なりと傳へられてゐる戸數約四百、人口二千六百を算し、米麥のほかビール壘苞の産地として有名である。村内には豊田城址及び龍心寺の名勝がある。

五箇村

水海道の東北方に位し、東は筑波郡眞瀨村、北は三妻村、南は大生村に接し、地勢平坦である。

長川一帯村流を抱く、蘆白く楓紅に兩岸の秋、風物今の如くんば眞に畫くべし、棹歌穩に送る運租の舟

の句は本村の情景をうたつたものである

三妻村

水海道町の北方にして石下町の南方に位置し、鬼怒川に沿ふ村落である。往古は飯猪郷に含まれ、村の長さ二里餘に亘り、地勢極めて平坦である。石下、水海道の兩町へは縣道通じ、交通運輸の便悪からず、また常總鐵道に沿ふて三妻驛を置く。三坂、中妻の二大字より組成され戸數六百二十餘、人口二千五百餘人を算し耕地は田二百二十町歩、畑三百四十町歩に及び、主産物は、米、大小麥等である。村内には常磐銀行支店、三妻倉庫、靈仙寺等がある。

大生村

郡の南方水海道町の北に接し、鬼怒

猿島の産地

鴻雁飛來するに及んで自然に水上に浮出するものにて鴻雁去るに及べばその島また次第に沈み、恰も鴻雁の來宿に便するがために故らに生ずるが如きが様に、世に雁島と稱へ、俗に浮沈の島とも稱へる

下總國の北端にあり、北は栃木縣下都賀郡につゞき、東は結城郡及び北相馬郡と接し、南は千葉縣東葛飾郡と境し、西は利根川を以て埼玉縣北埼玉郡及び北葛飾郡に相對してゐる。

本郡は利根川の左岸の洪積層の臺地より成り、所々に沼澤あり、大山沼、釋迦沼、長井、戸沼、鶴戸沼、菅生沼等は就中大きいものである。

産物は農産物が主で、鐵道は省線東北本線が郡の西北端を通過するだけであるが、郡内到處ところ道路發達して自動車

を通じ、交通頗る至便である。

南部の鶴戸沼と菅生沼との間の石井の地は天慶年間平将門が偽宮を建てたところ、今岩井町がある。北部の古河は、足利時代の末鎌倉公方足利成氏がこれに據り、古河公方と稱したところである。本郡は明治の初め印旛郡の所管であつたが、同六年千葉縣となり、更に同八年茨城縣に編入され、同二十八年に西葛飾郡を併合して現區域となつた。

郡内は今次の三町二十二ヶ村に分れ、人口約十一萬五千人である。

町 古河、岩井、境

村 飯島、岡郷、生子菅、香取、勝鹿、

神大賞、幸島、長田、七重、七郷、中川

長須、赤掛、八俣、五霞、猿島、櫻井、

逆井山、弓馬田、靜、新郷、森戸

古河町

縣の西端に位し、栃木縣と埼玉縣の境界にある主邑にして、南は埼玉縣栗橋町

に隣り、北は栃木縣小山町に通じ、市街殷盛交通また便利である。面積〇・四四方里、戸數三千六百五十、人口一萬八千九百にのぼり、米、麥、楊子、うどの産出が多い。奥州街道の古驛にして、萬葉集に許我の渡とあり、城はもと足利成氏の築きたるものにて古河公方の稱あり、近世土井利勝の末孫封ぜられて八萬石の城下であつた。なほ古河を大衆的に有名ならしめたるは馬琴の八犬傳中の芳流閣上の大格闘である。學校官衙會社工場等頗る多く一々枚舉の繁に堪へない。

岩井町

郡最東の主邑にして、西に鶴戸沼、東に水路通じ、水海道町は其東方にある。常陸樺平貞盛が將門の軍と戦を交へしはこの附近一帯の地である。水海道町へ乗合自動車の便あり、また北は赤掛村、南は埼玉縣、北葛飾郡二川村へ縣道が走つてゐる。戸數約八百六十、人口四千六百

境町

郡の中央に位置し、利根川を挟んで千葉縣關宿町と相對し、猿島、靜、長田、五霞の諸村と接壤し町の近くに長井戸沼がある。利根川圖志によれば、「關宿の對岸結城のゆくてにして繁昌の處なり月々六載舟を江戸に出し以て行旅に便す」と出てゐる。戸數九百三十餘、人口四千六百を算し、米麥の産あり、町内には境郵便局、境稅務出張所、猿島郡自治會館縣土木出張所等のほか官衙、學校、會社工場等多く、利根川堤防の眺望は絶佳にして名所に加へられる。利根川に舟楫の

便あり、岩井、關宿、古河の諸町へはバスが通つてゐる。

新郷村

古河町の南に接し、利根川を隔て、南は埼玉縣栗橋に相對し北に勝鹿村及び香取村あり、沼澤多く、耕地は田二百二十餘町歩、畑四百二十五町歩に上り、米麥のほか白菜、里芋、甘藷、南瓜南産がある。鴻巣には御所沼あり古河御所の遺跡なりといふ。

河舟をこがのわたりの夕波に

さしてなかひの里やとはまし

と道與准後の回國雜記にある許我の渡は中田部落にある。また足利成氏の墓、古河桃林、光了寺等いづれも名勝として知られる。

勝鹿村

古河町の東南に接する農村にて、北は

栃木縣に境する。靜御前が奥州下向の際通過したところと傳へられ、享保の頃、古河の火藥庫ありて爆發し三萬千五百斤を焼失したといふ記録がある。廣袤東西一里十町、南北一里十町にして面積一・六六方里を有し、米、藫、麥、大豆、粟、蕎麥、甘藷、里芋、漬菜、南瓜、西瓜、馬鈴薯の産が多い。古河町及び境町へバスが通ずる。名勝に熊澤蕃山の墓、思案橋等世に知られる。

岡郷村

勝鹿、櫻井兩村の間にあり南は香取村につらなり、北は栃木縣と境する。小堤上大野、關戸、稻宮の四大字より成り、戸數五百六十有餘、人口三千七百五十人をかぞへ、耕地は田百五十五町歩、畑五百八十五町歩にして米及び大小麥を主産物とする。東北本線古河驛及び幸島村へ縣道通じ自動車の便がある。小堤部落は本鑑にも記されたるところにて、野木宮

合戦の時こゝも戦場の一部であつたと云ふ。

櫻井村

幸島、岡郷、八俣、靜等の村の間に在り、村内に長井戸沼あり、平將門が妻子を隠したといふ幸島郡蘆津江邊といふは長井戸沼のことなりと傳はる。下大野久野、柳橋、葛生、高野の諸部落より成り、戸數約六百四十、人口四千百餘をかぞへ、米麥を主産物とし、白菜の特産がある。東北本線古河驛へは二里にして達し得べく乗合自動車が往復してゐる。

香取村

古河町の東方にありて、南に五霞村、西に新郷村あり、北は勝鹿村に接し、東は靜村に連る。村内湖沼多く、地形半島形をなす水郷にて、村名は鎮守香取神社あるにより名付けられた。釋迦、水海、

前林、磯邊、駒羽根ほか二部落を合して成り、戸數約七百八十、人口四千七百餘人をかぞへ、米、麥、大根、うどを重要物産とする。東北本線古河驛及び境町へは乗合自動車の便あり、交通状態良好である。

五 霞 村

郡の西南端にあり、水路四境に通じて島をなし、西は埼玉縣栗橋町と相對し、東は千葉縣關宿町に境し、南は埼玉縣幸手町に連る。島内湖沼に富み、前を流るゝは權現堂川である。曾ては五箇村島とも呼んだところで、戰國時代、古河關宿等の戰塵を浴びた記録多い。小福田、元栗橋、川妻、小手指、新幸谷、大福田ほか七大字を合して成り、戸數約千四百四十人口約七千八百五十をかぞへ、米、麥、繭の産多く、産業組合、水利組合、耕地整理組合の活動賭るべきものが多い。

靜 村

郡西部の中央にあり、櫻井、長田、境五霞、香取の町村に包まれ、東に長井戸沼、西南に利根の水路ありて、村内水郷を成し、戸數五百餘、人口二千七百五十を算し、米及び大小麥の産が多い。塚崎横塚、志鳥、稻尾の四部落あり、境町及び古河町へはバスの便あり、地名辭書にはつ塚崎の北を横塚といふが、此に沼澤の岸邊に一丘あり、形状大塚に似たり、横塚塚崎の名も之等に因める者の如し云々と見えてゐる。村内には古墳多く香取院、般若院の古刹がある。

長 田 村

長井戸沼の東岸にあり、南は境町に接し、他は靜、八俣、逆井山、猿島の諸村と隣り合ふ本村は、もと芦津郷の一部にして

八 俣 村

満川の春水綠油の如し、楊柳風輕く暖影浮ぶ、閃々たる歸鴉聲已に遠し、青山低く亂橋の間にあり
とはこの地の景觀を寫したものである。境町へ一里、古河町へ四里、共にバスの便がある。産物は米麥を主とし、また製茶の業が盛んに行はれる。名勝に泉式部の植えたりと傳ふる匂櫻の老木がある。

長田村の北に隣り、西は長井戸沼に湖し、東は結城郡に接し、地勢平坦の本村は、古の八俣郷の地にて、結城街道を挟んで人家櫛比し、米麥のほか苗木の産地として有名である。東山田、谷貝、山田北山田、長左衛門新田等の部落より成り、戸數約七百十戸、人口四千五百餘人を算し、古河町及び境町へはバスが通じて交通便利である。村内に久昌院遍照寺等の古刹がある。

幸 島 村

結城街道の一驛次にして郡の西北隅にあり、東は下妻町、西は古河町、南北は境結城兩町へ縣道通じ、いづれもバスの便がある。大字諸川は村の中心地にして人家櫛比し、戊辰の後に大島圭介の軍勢と官軍の一隊との戦つたところである。古は古河公方成氏の麾下師河の城主粕禮信濃守の城地なりといふ、今、その城址が残つてゐる。村は諸川ほか九大字より成り、面積一方里三、人口七千百人をかぞへ、米、繭、麥、茶の産出が多い。

森 戸 村

西に猿島村、北に生子菅村あり、東は七里村とつゞき、南は利根川に臨み對岸は千葉縣關宿町に近い。伏木、一ノ谷、百戸、若林、新田戸、桐ヶ作の諸部落を合せて成り、戸數七百餘、人口四千五百を越え、産物としては米麥が最も多い。大字一の谷には二十四輩の一たる妙安寺あり、開基成然坊はもと藤原幸貫と稱し本州を支配し、後、親鸞に歸依して共に京都に上り、關東に歸つてからは弘教に身を委ねたといふ。縣道境町岩井線は村内を貫通する。

古の塔陀郷の地にして、生子、生子新田、菅谷の三部落より成り、村名は各部落名の一部を取つて付けたものである。猿島、森戸、七重、沓掛、逆井山の諸村によつて四周を繞らし、戸數五百九十、人口三千六百有餘にのぼり、耕地は田百五町歩、畑四百四十餘町歩を算し、米、大麥、小麥、煙草等を重要物産とする。岩井町及び境町へは共に縣道が通じてゐる。

猿 島 村

境町の東方に接する農村にして、地勢平坦耕地よく開け、田百六町歩、畑四百八十五町歩に上り、灌漑の便よく米麥の産頗る多く、また煙草、白菜の栽培が盛んである。大歩、山崎、内門、染谷ほか

生 子 菅 村

郡の東部に位し、古の八俣郷の一部にて、この邊一帶はもと百濟の歸化人が多かつたといふ。沓掛、生子菅、長須、八俣の諸村の間に介存し、北は結城町に接してゐる逆井と山の二部落より成り、縣道により常總線宗道驛並に境町へ通じてゐる。戸數約六百九十、人口四千二百餘をかぞへ、米、大麥、小麥、蓮根等を主要物産とする。

逆 井 山 村

七重村

鶴戸沼に沿ひ、森戸、長須、杵掛、生子菅諸村の間に介在し、地勢島山の如く耕地多く、田は百二十五町歩、畑は四百七十餘町歩に上る。往古の塔陀郷の一にて、大字富田はその殘名である。戸數六百二十、人口三千八百餘をかぞへ、米麥を以て主要物産とし、村民概ね質實勤勉である。縣道岩井町境線に沿ひ交通の便は悪くない。

杵掛村

東は飯菅川を隔て、結城郡飯沼村に對し、北は逆井山村、南は飯島村に隣接する。往古の塔陀郷の一にて、下妻街道に沿ひ、杵掛はその驛名であつた。日光山瀧尾別所の古銅經筒の識に「下總國杵掛庄、松本民部少輔宗善」云々とあり、庄名にも呼び松本氏はこの地の地頭であつ

たといふ。戸數七百三十餘、人口四千二百五十人をかぞへ、米麥の産多く、製茶また少なくない。天然記念物大樺、龍泉寺等の名勝がある。

弓馬田村

郡東部の中央に位し、長須、岩井、飯島、杵掛、七重の諸村に圍まれ、地勢平坦、米麥の栽培に適し産額頗る多い。戰國時代には多賀谷政經の領分にて弓馬の城山はその城址である。弓馬、馬田、幸田の舊三村を合せて弓馬田と稱し、弓馬はユダに讀み、古書には湯田にもつくる名勝に前記城山のほか、弓馬城址、兵庫屋敷、談議所、將門の遺跡等がある。縣道は杵掛村及び岩井町へ通するが交通は稍々不便である。

飯島村

郡の東部に位し、東は結城郡菅原村と

境を接し、南は岩井町に近く、飯沼の大澤を排水して近世村落をつくつたもので村内は沼澤が多い。幸田新田、大口新田ほか六大字より成り、戸數約四百、人口二千五百五十をかぞへ、耕地は田二百十餘町歩、畑百七十七町歩に及び、新興農村としての活氣ある村勢は益々將來の伸展を約束してゐる。米麥を以て主産物とする。縣道は杵掛村及び神大實村へ通ずる。

神大實村

郡の東南隅に位し、東は結城郡豐岡村に接し、北に飯島村、西に中川村がある。神田山、大口、猫實の三大字より村名を取り、古の飯沼の大澤にして近世排水して田圃となしたものである。米麥等十數萬圓の年産高あり、水海道、岩井兩町へ縣道通じ乗合自動車の便があり、村内には延命院（將門の遺跡）がある。因に戸數約六百、人口は三千三百餘人である。

七郷村

郡の東南隅に位し、南は利根川を挟んで千葉縣葛飾郡に對し、東は菅生沼を隔て、北相馬郡菅生村と境し、村内地勢平坦である。昔は石井郷に屬し、石井は平將門の偽都の跡なりと傳へられる。將門が平貞盛と最後の決戦をなせし島廣山は七郷村なりともいひ、守谷町なりともいひ一定しない。岩井町へ二里、縣道通じて交通至便、村内には村社八のほか觀行院、泉福寺、大安寺等の寺院六あり一本松の老樹は名勝として知られる。

中川村

七郷村の西につゞき、岩井町の南にあり、西は利根川に臨んで平野が多い古の石井郷にて、平將門に關する古蹟の一端ある。岩井町へ一里縣道通ずれどバスの便はない。小山城址、女夫松等の名勝あ

り、觀音寺、西光院、地藏寺のほか四社三ヶ寺を算し、主産物は米、麥、煙草等である。因に村内戸數約六百三十、人口約三千七百にのぼる。

長須村

鶴戸沼と利根川の間に横はる水郷にして、村内水路多く殆ど島洲に似てゐる。延喜式に下總國長洲馬牧とある地で、地理志料には「地勢東に鶴戸沼あり、西に市谷沼あり、南利根川を帯び、水草便あり、最も放牧に適す」と出てゐる。親鸞聖人の舊蹟たる阿彌陀寺を有し、岩井町へは一里にて達し得、利根川には舟楫の便がある。なほ重要物産として蒟蒻、米麥等が挙げられる。

農本位の北相馬郡

地形西より東南に長く、北東一帯は小川を以て結城郡、波郡及び稻敷郡と隣り、南より西は千葉縣印旛郡及び利根川を以て千葉縣葛飾郡に接し、西北は菅生沼を以て猿島郡と相對する。地勢は中央に第四紀古層の臺地あり、これを圍んで沖積層の地がある。鐵道は省線常磐線及び私鐵常總鐵道が通じ、道路またよく發達し、交通運輸の便良好である。交通の便良好なるため文化比較的よく進み、住民は概して教育に理解深く、また崇神敬祖の念に富み、男女青年團、在郷軍人分會、婦人會等の活躍見るべきものが多い。稻戸井村には二小學校あり、その他はいづれも一町村一小學校で、すべて高等科を併置し、設備優秀、教育成績また一般に良好である。中學校へ進むものも多い。郡内を次の四町二十ヶ村に分ち、人口約五萬一千人である。

町 守谷、取手、相馬、布川。

村 稻戸井、井野、六郷、大野、高野、大井澤、小文間、川原代、高井、高須、内守谷、文、小絹、寺原、山王、坂手、北文間、文間、東文間、菅生

なほこれらの町村は數多の大字より成り、多きは文村の如く十二字より、布川小文間、内守谷、坂手の各村は一村一字である。

守谷町

水海道町と取手町の間中に位する主邑にて常總鐵道の沿線にあたり、北は筑波郡に接してゐる。相馬氏累代の城地にて今その城址が残つてゐる。守谷、赤法花の二字より成り、廣袤東西一里二町、南北一里十四町に及び、戸數五百有餘、人口二千八百五十人をかぞへる。町内には縣農産物検査所出張所、龍ヶ崎區裁判出張所、守谷郵便局、常盤銀行支店等あり、米麥の産も多い。名勝としては西林寺、相馬古御所桔梗原等が廣く世に知らる。

取手町

郡の主要市邑にして、利根川に沿ひ、陸前濱街道の要衝たると同時に常盤線と常總鐵道の分岐點にあたり、交通上主要なる位置を占める。對岸に千葉縣我孫子町がある。昔、大鹿左衛門尉の居れる砦の跡にて、取手は即ち砦より轉じたものである。舊本陣には

さして行く棹のとりての渡守

思ふ方々とくつきにけり

との歌碑がある。曩に優良村の一として表彰され、産物は酢、奈良漬、米、麥、木綿等を主とする。廣袤東西十六町、南北十五町、面積〇・四八八方里にして、人口は四千四百有餘をかぞへる。

相馬町

牛久沼の南方にあたり、舊陸前濱街道藤代驛の地で、驛北の小貝川は國郡の堺

をなしてゐる。常盤線に沿ひて藤代驛を置き、南は取手に北は土浦に通じ、郡東南方の主邑をなし、街道また四通し、交通の便、頗る良好である。藤代、柗木、片町、宮和田、平野等の大字より成り、町内には相馬、藥代の二郵便局、常盤銀行支店、製綿工場、製板工場等あり、一部には農業も行はれ、古利に高藏寺、信樂寺、莊嚴寺がある。

布川町

郡の西南隅に近く、一條の水路を隔てて千葉縣木下町及び布佐町と相對し、一帶の丘山を後にし、前は長江を望んで街衢をつらね、人煙輻湊し、魚米の地とするに足る。縣道は龍ヶ崎町に通じバスの便あり、水運また良好である。戸數約四百四十、人口二千三百五十人のほり、縣農産物検査所出張所、布川郵便局、五十銀行支店等を有し、附近農村の物貨の集散地をなし、名勝としては來見寺、徳

滿寺の地藏市等が擧げられる。

菅生村

郡の西南端に位し、西は菅生沼を隔てて猿島郡七郷村と境を交へ、南に利根川を控へ、野州街道筋にもあたり、交通の利便に富む。菅生沼は享保年間飯沼の排水路をこゝに通じたものにて、末は利根川に通じてゐる。村は菅生、大塚戸の二大字より成り、戸數約六百二十、人口三千四百人をかぞへ、米及び麥を主産物とし、田百町歩餘、畑三百町歩の耕地を有する。一言主明神、正惠寺、無量寺等の名勝あり。一言主明神の大煙火は關東一の稱がある。

坂手村

守谷町西北一里半、郡の東北隅に位し北は水海道町に續き、西は猿島郡神大實村に接し、東に鬼怒川が流れてゐる。地

勢極めて平坦にして灌漑の利便に富み、田百二十町歩、畑二百町歩の耕地あり、米及び大小麥の産出が多い。戸數約三百二十、人口千九百餘を算し、村内には阿彌陀寺、願海寺、極樂寺、三福寺等の寺院があり、水海道町及び菅生村への交通至便である。

内守谷村

郡の西北隅に位し、北は水海道に接し南は菅生村につゞき、西は坂手村と隣り東は鬼怒川を越えて小絹村と相對する。水戸市まで十里餘、むしろ東京市に近く交通は守谷町及び猿島郡岩井町への道路完備して概ねこれによる。戸數二百六十餘、人口千五百餘をかぞへ、耕地は田百二十八町餘、畑百六十八町餘あり、産物は米、小麥、大麥を以て主なるものとしてゐる。なほ、小學校は七學級編成にて高等科を併置する。

小絹村

水海道町の南方にあたり、常總鐵道の沿線にして村内に小絹驛を置き、東は筑波郡長崎村、南は守谷町、西は鬼怒川に接し地勢全く平坦である。徳川殿の鋒先にては五十の城々唯一日にて落ぬる、とある五十城のうちには村内筒戸城も含まれ、この邊一帶往昔は沼澤であつたといふ。新宿 寺畑、細代ほか三大字より成り米麥の産多く、禪福寺の鉢靈の行事は著名である。

大井澤村

小絹村の南方にして守谷町の北方にあたり、舊大木、板戸井、立澤大山の四ヶ村を合して大井澤村と改めたもので、守谷町の西北一里餘に位し、鬼怒川は、大木と板戸井の間にて利根川へ入る。その交會の邊は、斥鹵沼澤相錯綜して三角

洲を生じ、水路も陸路も共に交通運輸の便良好である。戸数約四百、人口二千四百人弱をかぞへ、米を主要物産となし清龍寺、大圓寺、龍源寺の古刹がある。

大野村

郡の西南端に位し、西から南にかけて利根川が流れ、対岸は千葉縣東葛飾郡である。東は守谷町に連り、北は大井澤に隣り、村名は大柏、野木崎の二部落名より来り、村内地勢平坦、常總鐵道守谷驛を距ること一里、縣道は谷田部町に通じ交通至である。

高野村

守谷町の南に接し、南は利根の流れを越えて千葉縣と相對する。高野、鈴塚、乙子の三大字より成り、戸数約二百五十人口千五百の小村であるが、住民はよく農に従ひ、米及び大小麥の産出少なからず、

ず、一般には生活状態裕福である。村内海禪寺は平將門が高野山を模して先祖の墓をつくつたところで、この寺の新皇堂といふのは將門を祀り國玉明神といふとの記録が残つてゐる。

高井村

郡の中央に位し、東は筑波郡谷井田村に境し、西は守谷町に接し、地勢平坦である。下高井、上高井、同地、市ノ代、貝塚の舊村より成り、貝塚部落にはその名の如く貝塚あり、此邊海を去ること二十四里なるも、往古は利根を溯流する海水が丘陵の下まで浸りたるものであらうといはれる。

稲戸井村

高井村の南にあり、利根川を隔て、千葉縣東葛飾郡富勢村と相對し、水郷に富む。戸頭、米野井、野々井、稻等の舊四

ヶ村を合併して稲戸井村と稱したので、守谷町の東南にあたり、戸頭は渡船場として古くから知られた。戸数約四百、人口約二千四百を算し、米及び大小麥を主産物とする。桔梗ヶ原は平將門の愛妾桔梗御前が殺されたところと傳へ、今桔梗塚と稱する古い墳塚がある。

山王村

取手町の北方にあり、郡の北隅に位置する。北は筑波郡と境を接し、東に相馬町、南に寺原村、西に谷井村あり、山王ノ岡、和田、配松、神住、中内等の部落より成り、取手町へは一里餘、バスの便あり、また常總鐵道寺原驛へは僅かに二十町にて達し得る。

寺原村

取手町の北方に接し、取手町及び山王村へ縣道通じてバスの便あるほか、常總

鐵道に沿ひて寺原驛を置き交通至便を極める。寺田と桑原の二部落より成り、寺田には相馬八幡宮あり、天正年中、朱印地を附せられた古祠である。なほ名勝としてとげぬき地藏、寺田觀世音が著名である。地勢平坦、耕地は田二百二十町歩畑百町歩を有し、米を以て主要産物とする。

井野村

井野は蘭沼(イヌ)の義である。ここには鬼作左本多重次の宅址あり、本多重次及び重玄の墓も残つてゐる。位置は取手町の東に接し、地勢稍々高く井野臺がある。井野、長兵衛新田、青柳、小堀吉田等の部落を合して成り、戸数三百三十餘、人口千八百人をかぞへ、住民は殆ど農を以て生業となし、主産物は米及び大小麥である。常磐線取手驛にちかく、また村内を國道が貫通し、交通状態良好である。

小文間村

取手町より布川町に通ずる水路の北岸にあり南は利根川を隔て、千葉縣東葛飾郡湖北村相對する。舊記には小文間の東にて蠶飼川を渡るに戸田井の渡といひ景色いとよしとあり、一色氏の城址はこの渡に近く、その詰丸と覺しき地に今天神社がある。即ち第六天山にして、松樹繁茂し、天明年間、神道徳次郎、紫紐泰助などと稱する賊首が黨を結んで、こゝに往したことあり、今も第六天社の西にあたる一段低きところに賊の竈の跡がある。戸数約三百、人口千六百五十を算し、米を主産物とし、縣道取手布川線に沿ひ交通至便である。

六郷村

取手町と相馬町の間に位する地區にて陸前濱街道に沿ひ前記兩町の乗合自動車

が往復してゐる。地勢全く平坦にして水利の便あり、田四百三十餘町歩、畑百町歩の耕地を有し、米を筆頭に大小麥の産多く住民の多くは農耕の業に従つてゐる。村内寺院には久光寺、照谷寺、長福寺、佛性寺、來見寺等あり、敬神崇祖の念一般に篤く、小學校青年學校の成績よく、各種團體の活動また賭るべきものが多い

高須村

相馬町の南方、龍ヶ崎町の西方に位し、水路東を通じ、北文間、川原代、六郷、小文間諸村の間に介在する水郷の地である。藤代の東南一里、小文間の東北一里小貝川はこの里を繞り曲折して南に下り戸田井に至り利根川と合する。高須は高洲にて地勢を意味したものである。押切大留、高須、神浦の四大字より成り、戸数約三百、人口約千八百を算し、米麥の産多く、高須産業組合は業績の良好なるを以て夙に知られてゐる。

小原代村

牛久沼の東南に接し、西は筑波郡に續き、南は相馬に連る。遠藤川の堤は古の毛野川の址にて、常陸、下總兩國の舊境界線であつたらうといはれる。村名はその地勢により出来たものである。布川町への縣道は村内を貫き、乗合自動車が行復して交通状態は良好である。戸數約二百六十、人口千五百に近く、葱の産地として知られ、また米、小麦の産も多い。

北文間村

龍ヶ崎町と布川町との中央にあり、東は稲敷郡に接し、地勢平坦、往時は絹川は此邊にて香取浦の流江と相交つたといはれる。長沖、長沖新田、須藤堀、豊田北方、羽黒等の部落より成り、須藤は須渡のことにて、須渡は即ち洲處の義である。戸數約三百三十、人口千七百餘を有る。

し、米麥の産出多く村内には正願寺、如来寺の寺院あり、川原代村及び布川町へは縣道通じバスが往復してゐる。

文間村

郡の東南隅に偏し、布川、龍ヶ崎兩町の間に位し、文間臺の南面の聚落にして新利根川は會根と押付の間より起り、東流して稲敷郡に入る。上會根、早尾、大平、横須賀、羽根野ほか六大字より成り、戸數約三百、人口千七百餘にのぼり、田二百十町歩、畑百四十町歩の耕地あり灌漑の便に富み、米及び葱の産出が非常に多い。縣道龍ヶ崎布川線は村内を貫通しバスが往復する。なほ村には村社天神社が鎮座する。

東文間村

東文間、北文間兩村の間に介在し、東は稲敷郡につゞき、南は布川町に接壤す

る。往昔は附近八千石の田邑を合せて文間庄と稱し、文間臺の東端にして新利根川に臨み、その山丘上に文間明神あり、大澤長江を俯視し、千早の沃野鬱蒼たる風色を一望の中に收めるを得る。押戸、立木、大房、岡山の四大字より成り、龍ヶ崎立崎間の縣道ありてバスを通じ、産物は米及び麥を以て主なるものとす。

東文間村

郡の東西隅に位し、東は稲敷郡生板村及び大宮村に連り、南は利根川を隔て、千葉縣印旛郡布鎌村に相對し、文間の庄の一角にして水郷の地である。中谷、立崎、羽中、福本、加納新田、總新田、東奥山新田等の大字より組成し、戸數約三百七十、人口二千五百をかぞへ、立崎龍ヶ崎間の縣道に沿ひバスつ便がある。主要産物は米と麥で、産業組合による産業經濟の統制よく行はれ、應順寺、正福寺、無量寺、龍藏寺の寺院がある。

栃木縣勢

總説

位置・區劃

本縣は下野國一國を管し、東は茨城縣南は茨城、埼玉、群馬の三縣、西は群馬縣、北は福島縣に接壤する。現在三市八郡、即ち宇都宮、足利、栃木の三市と、河内、上都賀、芳賀、下都賀、鹽谷、那須、安蘇、足利の八郡に分割され、宇都市に縣廳を置く。面積は總計六、四三〇餘方呎、人口は百十五萬人で一方呎の人口密度は一七八人にあたり、全國平均密度に比して稍々大である。

地形

大略これを三つに區分し得る。即ち東部の八溝山脈地域、帝釋山脈、足尾山塊及び那須火山帯の複合山地々域並に東西兩山地に挟まれた中央部の那賀川、鬼怒川、思川、渡良瀬川等の諸川の流域より成る關東平野の地域がこれである。

東部の八溝山脈は、八溝山（一〇二二米）を最高とし、南北に延互し、茨城縣との境界をなし、たゞ中央部に於てのみ那珂川により東西に破られてゐる。

西部山地は北部の帝釋山脈、南部の高尾山塊と兩者の間を充す那須火山帯に屬する。那須山、高尾山、日光火山郡との地域である。帝釋山（二〇六〇米）を主峯とし、奥羽分水山脈南端部をなすもので、福島縣境に聳える。那須火山脈、奥羽分水山脈上に多くの火山を噴出せし

め、縣の北端に主峯那須岳（一九一七米）を噴起し、その西南に高原山（一七九五米）更にその西南に男體山（二四八四米）を起點とする白根、女峯、大眞名子、太郎等の日光火山群を噴出せしめ、中禪寺湖をその中に擁し、温泉またこの火山脈に沿ふて湧出し、那須、鹽原など最も有名である。

以上の東西兩山地に挟まれた中央平野は、一に鬼怒川那珂川地帯と稱せられ、上述の諸川の流域で關東平野の最も北方へ突入する部分で、その北部には那須野原がある。この地域は多く洪積臺地より成り、河川の近傍のみ狭長な沖積平野を見るのみであることは關東平野の一般的性質の現はれである。

氣候

降水量は西部山地に最も多く二〇〇〇耗以上（日光では二二〇〇耗）に達し、中央部平野地及び東南山地は一般に少く一四〇〇耗内外である。

氣温は關東の沿海地方に比すれば寒暑の差稍大で、大陸性氣候を帯びてゐる。西部山地は海拔高度大なるため夏季は甚だ冷涼で、那須鹽、原奥、日光の如きは東京人士の山地に於ける避暑地となつてゐる。一般に氣候は溫和であるといふことが出来る。

産 業

各種生産額の比は大略農産及び工産がそれぞれ四割三分の同比で、次は鑛産の六七分、他は林産、畜産、水産の順序である。

農産のうち米は年産約百數十萬石に上り、多少縣外に移出する状態である。麥類の産は九十萬石内外の大量で、大麥を第一とし、小麥これに次ぎ、大麥は府縣中第四位、小麥は第二位を占めてゐる。その栽培地は多く臺地上の畑であるが、水田の裏作としての栽培も、また少くない。次に産額の多いものは葉煙草で年額約七百萬圓内外に達し、價格の點のみ鹿

兒島縣に及ばないが、作附面積及び收穫高の點に於ては府縣第一位を占める。これに次ぐ重要な農産物は干瓢と大麻とで兩者ともこれまた府縣第一位である。

畜産では馬の飼育が稍々盛んで、西部山地の東北部には牧場が散在し、福島縣の牧場地帯の延長をなし、林業では山林面積は廣大であるが、生産額は少なくて那須地方の木炭は多量に東京へ輸出されてゐる。石材は宇都宮の西北に多量に産して大谷石として知られ、一特産である。鑛業方面では足尾鑛山があり主として銅を産し、その年産額約千三百萬圓に達し、小坂別子と共にわが國三大銅山といはれてゐる。また銀、金、蒼鉛等も産出し、これらの總生産額年約一千萬圓を突破してゐる。

工業は産額多く織物類がその主位である。縣の西南部たる足利市を中心とする地方は、關東山麓製機地帯の東北端を形成し、銘仙、富士絹、縮緬等の各種の絹織物を産して、海外へも輸出する状態である。

交 通

陸路には陸羽街道が茨城縣古河より來り、略々中央平野を縦貫し、小山、宇都宮、氏家、矢板等をつらねて福岡縣に入る。そこに隘路があつて奥羽との境界をなし、古くは白河の關が置かれた。その他に日光東街道、日光北街道、舊例幣使街道、水戸南街道、水戸北街道、等がある。これらの道路には大抵自動車の定期運輸が行はれ、特に宇都宮市を中心とする自動車網は著るしい。

鐵道は東北本線がほゞ陸羽街道と並行して南北に縦斷し、兩毛線は群馬縣より走りて足利、佐野、栃木を経て小山に達して東北本線と結び、こゝより更に東へ水戸線を出してゐる。宇都宮よりは日光線が出で、東照宮參詣者に便する。その他の省線では東南部に茨城縣下館より來る眞岡線があり、宇都宮の北方の寶積寺より岐れる鳥山線あり、更に西部には桐

生より來る足尾線がある。

私設鐵道及び電車では、東武鐵道の支線たる日光線、宇都宮線、佐野線が縣内の交通を著るしく便にする外、東京との時間上の距離を非常に短縮した。ほかに鹽原電車、下野電氣鐵道、東野鐵道等もある。

宇 都 宮 市

釣天井を以て有名な宇都宮市は縣の中央、平野の眞中にあるに拘らず、市全體が緩かな傾斜をなしてゐるのは、ちよつと變つた市街である。現に二荒神社は丘陵の上にあり、八幡山公園は、丘あり谷ある自然の地形を利用した公園で、公園としては珍らしく、また眺望にすぐれてゐる。宇都宮城は宇都宮宗圓の築城したところで、近くは戸田氏の持ち城であったが、戊辰の役に兵燹に罹つて廢城とな

つた。

本市は縣廳のあるところで、縣會議事堂、商品陳列館、第十四師團司令部、煙草專賣局、農事試驗場、下館製紙工場、日清製紙工場、日清製粉工場、神野木片織工場、宇都宮農林學校、商業學校、農業學校等がある。人口は約八萬を越えてゐる。

名産として最も代表的なものは、干瓢である。干瓢は扁蒲を加工して製造したもので、宇都宮を中心に、下都賀及び河内郡一帯に産出し、年額二百萬圓をあげてゐる。今を去る二百十餘年前、正徳二年、江州水口の城主、鳥居伊賀守平忠英が、封を下都賀郡壬生城に移された時、江州名産の瓢種を持ち來つて、壬生領に試作したのが、その嚆矢であり、扁蒲は干瓢のほか、茶盆、炭入、煙草盆、菓子器、火鉢、花挿、玩具等に加工されて、これまた當市の名産となつてゐる。

このほかに、片織の特産があり、米、麥、製麵、石材等の取引も盛んである。

足 利 市

本市は縣の西南部、足利郡の中心より稍々西南の地を占め、北方は日光連峯なる西崖嶺あり、東南部は一望數千里の關東平野につゞいてゐる。市中には清流渡良瀬川が貫流し、織物業の發達に資してゐる。また山紫水明の地にして關東に於ける京都の稱がある。人口四萬四千人。面積九方軒。廣袤は東西一里五町、南北一里三町である。

省線兩毛線は市の南を東西に走つて足

利驛を置く。渡良瀬川を隔て、南端部に東武鐵道が南西に通じ、これによつて東京まで僅かに一時間半である。市内及び市を中心とする近郊への定期乗合自動車あり、その中最も利用されるものは桐生佐野兩機業地を結ぶ足利桐生線及び足利佐野線である。

市内には足利警察署、工業試験場、織物検査所、商工省輸出絹織物検査所、その他の官公衙多數あり、學校には工業學校、中學校、高等女學校、盲學校のほか實科女學校等ありて教育の實績大に睹るべきものがある。また本市は往古足利學校を設立されしを以て名著はれ、同校現存の圖書は宋元明版の古珍書にして、中には支那に絶亡して本校に藏する等わが國文學の貴重なる遺蹟となつてゐる。その他名勝舊蹟としては鏝阿寺、足利公園白石山房、富永公園、兩巖山、長井寺などがある。

因に本市は上古時代は史實の徵すべきものなきも、人皇第二十九代欽明天皇の

御代に織物を造つて貢納せる記録あり、これ現時唯一の物産たる織物の起原である。次いで淳和天皇の天長年間、參議小野篁が足利學校を創立し、文學の淵源地として名聲、天下に噴々たるものがあつた。その後天喜二年藤姓足利氏城の地となつたが、末裔遂に源姓足利氏に歸し、更に上杉氏の管領時代を経て徳川の世となり明治維新に及んだのである。

栃木市

縣の名を取つて己が名とする栃木市は縣の南部下都賀郡のほと中央の地域を占め、明治十七年までは縣廳の所在地として繁榮したところである。西方是石山の丘陵を負ひ、東方は平野肥沃なる地にして中央小流に沿うて市街が發達する。

東北本線と兩毛線の交叉點に當り、また東武鐵道の日光と宇都宮行の分岐點に

して、縣道は四方に通じてバス網發達し交通の要衝をなしてゐる。

面積〇・九七七方里、人口約三萬を算し、大麻、石炭の集産地をなし、市内には麻穀懷爐灰の工場が多數存し、栃木の練灰と呼んで各地で賞讃を受けてゐる。

往古中古及び中世の事蹟は茫として尋ねべくもないが、足利氏の末に及び長沼氏の別葉皆川氏の所領となり、その友城を大字栃木城内に築いたが、天正年間、領主皆川廣昭しばく北條氏と兵を交へて、豊臣秀吉が關東征討の際、また戦塵の巷と化して城墟廢滅し、徳川天下を統一するに及び諸侯または麾下に分封し、爾來幾多の變遷を経て明治維新に及んだ明治四年十一月縣廳が置かれたが同十七年宇都宮に移つて今日に至り、昭和十二年市制施行して栃木町から栃木市となつた。栃木はもと十千本と記し、往古城内に神明祠あり、屋上に十箇の千木ありしに因りて名づけたといふ。

官公署、學校、會社等多數存在して殷

盛を極め、縣社神明宮、滿福寺、太平山神社等の古社名刹あり、太平山公園は幕末時代水戸勤王の士が籠りしことあり、地高燥にして樹木鬱立し、四季遊覽の適地である。また鍋山の石灰、錦着山、芝塚山、巴波川、栃木城址、戸田氏陣屋址、旗樹櫻、櫻ヶ岡、第二公園等の名勝がある。

米麥の産地 河内郡

位置と地勢 本郡は、北に鹽谷郡、東に芳賀郡を控え、南は下都賀郡につゞき西は上都賀郡と隣する。地勢は北部は日光火山脈の餘波が起伏してゐるが、南部は鬼怒川の西岸の沃野を占め、平坦で米麥の産が多い。郡の中央部に宇都宮市があり、鐵道は東北本線及び日光線が通じてゐる。

名勝 郡内名勝舊蹟の重なるものを擧

げると、上三川町の天狗の宿木及び食蟲植物群落をはじめとし、鬼怒橋、東根供養塔婆、藥師寺故址、梁の櫻、雀宮神社、大谷觀音、岩本の觀音、霧降瀧、羽黒山神社、長岡百穴等がある。

沿革 河内は和名抄に十郷に分ち、文武記には「慶雲四年三月、下毛野朝臣古麻呂、請改下毛野朝臣石代、爲下毛野川内朝臣許之」と載せ、氏郷にも呼ばれた日光山も昔は本郡の管轄であつた。南境高栗郷、田那驛等は都賀郡から本郡へ轉屬したものである。近世、貞享年中、河内郡高十萬六千石と稱した。或ひは中世の頃には眞壁郡の濫號ありといふもその眞疑の程は確かでない。宇都宮を抱いて他郡よりも早くから發達した地方であることは事實である。

區劃 行政上全部を分ちて一町二十ヶ村として、人口は十一萬五千餘人をかぞえる。

町 上三川
村 横川、平石、瑞穂野、本郷、吉田、

藥師寺、明治、雀宮、委川、城山、國本、富屋、大澤、豊岡、篠井、羽黒、絹島、古里、田原、豊郷

上三川町

本町は宇都宮市の南四野に在つて、東は鬼怒川を隔て、芳賀郡に境し、西は石橋町に接する。面積一・二二九方里、もと宇都宮黨なる横田、今泉二氏累代の城のあつたところ、明治二十六年七月町制を施行、桃の産地として知られてゐる。戸數一千餘戸、人口六千餘。

縣廳へ四里九町、石橋驛へ一里五町、石橋街道があり、眞岡町石橋町間のバスの便があり、縣道南北に通じ、北は宇都宮市に達する。上蒲生に役場を置き、上三川、下蒲生、三村、五分一、坂上、三本木などの部落に分れてゐる。

農産物として米、麥を主とし、養蠶の副業も旺んでゐる。郷社白鷺神社、正清寺、善應寺、長泉寺、普門寺等の社寺が

あり、天狗の宿木、片目の魚、上三川城址の名勝がある。

横川村

當村は宇都宮市の南に連なり、栃木平野の中央を占めて土地平坦、沃野であり田川、村の中央を貫流し、その流域に沿ふて水田開け、その他は畑地として麻、苧の栽培が旺んである。

面積一・四八餘方里、戸數約八百、人口五千四百餘。米、麥、繭を多く産する。縣廳へは二里十町、東北本線宇都宮驛へ二里、縣道並に鐵道南北に平行し、宇都宮雀宮驛間のバスが通じて、交通に便する。

屋敷に役場を置き、平松、下栗、猿山砂田、萱新田、東川田、上横田、東横田江會島等の大字があり、横川村信購買利組合の設けがある。

村社猿山神社、高龍神社、千手院、龍泉院の社寺がある。

平石村

本村は元の衣川郷に屬し平出、石井の二部落からその名をとつたものか。宇都市の東に接し、鬼怒川の諸流を以て芳賀郡に對してゐる。

沿岸は田畔となり、その他は坦々たる耕畑。石井に製糸場を起して以來、縣下斯業の面目を一新した。面積は一・八二餘方里、戸數約一千三百、人口七千餘を擁して米、麥、繭等を主産物とする。

官立宇都宮農林學校、縣立實業教員養成所の所在地として名高く、また外地酒造工場の設けもある。

宇都宮驛へ一里數町、縣道東西に通じ宇都宮市藤木町間にバスの往來があり、交通至便、縣廳へ一里三十町。

役場を下平出に置く。石井、上平出、小原新田、柳田、上越戸新田、峰の部落から成り、村社鷄峯神社の外に稻荷神社醫王寺、廣琳寺の社寺がある。

瑞穂野村

當村はもと刑部郷の内に屬し、村内は大宇下桑島、東刑部、西刑部、平塚、桑島新田、東木代等の諸部落から組織成つてゐる。

宇都宮市の東南に位し、東は鬼怒川の大河によつて芳賀郡に對峙し、南は東郷村、西は横川村、北は平石村に隣接する平坦なる栃木平野の一部を占め、東鬼怒川の沿岸は田圃開け、西方は一面畑地として耕されてゐる。

面積一・三六九方里、戸數約八百、人口五千餘をかぞへ米、麥を主産物となしてゐる。

役場を下桑島に置き、教育施設頗るよく、小學校の外に村立瑞穂野村圖書館の設けがある。村内には、村社高龍神社ありて、また廣く世に知られてゐる峰忍上人開基の眞言の檀林、金剛定寺も亦村内にある。

本都村

本村は宇都宮市より東南四里のところ位し、東は鬼怒川を挟んで眞岡町、芳賀郡の中村と相對してゐる。鬼怒川の流域は水利の便頗るよく、殆んどが耕地である。

面積一・一五六方里、戸數約一千、四千七百餘の人口を孕んでゐる。農を主業とし米、麥、繭の産がある。

西蓼沼に役場があり、上郷、東蓼沼、東汗、西汗、上文狭、西木代、磯岡の八大字に分れ、東北本線雀宮驛へ二里、バスの便がよく、石橋町へは二里半、縣廳へ四里とされてゐる。

村社高神社、滿福寺、滿願寺の社寺がある。

吉田村

當村はもとの酒部郷の一つで東元田、

上元田、下元田、別當河原、上川島、中川島、三王山、東根、上坪山、絹枝、花田、磯部の大字から成つてゐる。

地勢は郡の南端を占め、下都賀郡絹村と境を接する。鬼怒川の水利を受け、田川が中央を貫流して農耕が旺んでゐる。また村に吉田用水があつて、茨城縣結城郡に灌漑する。

戸數七百餘、人口四千二百餘、面積は〇・九七四方里、米、麥、繭を産し、吉田村信購買組合がある。東北本線小金井驛へ二里、自動車の便がある。

郷社八幡宮名高く、紅梅寺、東福寺などもある。なほ名勝として東根供養塔婆結城七郎朝光の守本尊とせらる百體の觀世音、源頼朝が祖先のために供養した記念碑がある。

薬師寺村

本村は郡の南部に在つて、上三川町の北に接し、面積一・〇七方里、戸數約八

百、人口四千八百を數へる農村で米、麥繭を主産物とする。

薬師寺に役場を置き、成田、町田、谷地賀、田中、仁良川、下文狭の七大字から成り、東北本線石橋驛へ一里十町、結城街道南北に通じて便よく、縣廳へは五里四町ある。

栃木縣種畜場の設けがあり、また薬師寺村信購買組合も設立されてゐる。村社八幡宮、同愛岩神社、長福寺、安國寺、滿福寺、妙光寺、龍興寺の社寺がある。

本村にある薬師寺故址は指定史蹟として名高く、その昔、聖武天皇の御建立にかゝるもので、有名な彼の僧道鏡がその別當であつた。

明治村

當村は宇都宮市の西南三里、上三川町の西に接してゐる。田中川が中央を流れる土地は概ね平坦、西方稍低く、沼澤地である。

面積一・一〇六方里、戸數六百八十餘、人口四千五百餘を有し、主として米と麥とを産する。東北本線石橋驛へ十三町、バスの便があり、大字大山、多功宿、梁川中子、上神主、下神主、石田、鞘堂新田の部落に分れてゐる。

村社星宮神社の外に村社五、無格社三、延命院、感應寺、見性寺、西念寺、淨光寺、寶光院等の社寺がある。

大字梁にある「梁の櫻」は、八島の八重一重、櫻の名木で、ここに三島神社が祀られてゐる。

雀宮村

「三十里松陰晚涼を趨ふ、輝聞鳴咽斜陽を送る、村姫自ら双眉を把て畫く、遙山と艶粧を鬪はすに似たり」と謳はれた本村も、今はその俤だにない。宇都宮市の正南二里のところにて、土地は概して低濕である。

戸數七百五十餘をかぞへ、人口約五千

一・〇八七方里の面積を有し、主として米と麥と藪とを産する。

交通は東北本線雀宮驛があり、宇都宮市石橋町へバスの便がある。下文町に役場があり、針ヶ谷、雀宮宿、上御田、下御田、中島、下横田、羽干田、東谷、藤原、御田長島の大字がある。

郷社雀宮神社世に知られ、永盛寺、西光寺、藥王院、慈眼寺の寺院がある。綾女塚古墳、牛塚古墳、笹塚などの名勝がある。

姿川村

當村は宇都宮市の西に接する、栃木平野の中心を占めて土地平坦、沃野が多い村は下砥上、西川田、兵庫塚、募田、鷲谷、下缺下、上缺下、上砥上、鶴田の大字から成つてゐる。

日光線鶴田驛、東武鐵道宇都宮線西川田驛があり、鶴田驛から宇都宮石橋驛を分岐する。宇都宮市、栃木市へバスの

便があり、縣廳へ一里二十町。

面積は一・六二九方里、戸數一千餘、その人口七千三百餘を數へる。米、麥、藪を主なる産物として、縣立宇都宮中學校の所在地。

姿川星宮神社、高照院、光音寺、東福寺、福知院、寛林寺などの社寺がある。

城山村

木村は宇都宮市の西北に接し、北方に古賀志山、多氣山の岳陵が連亘してゐる荒針、田下、田野、福岡、古賀志、飯田駒生の七部落から成つてゐる。

その面積は二・七〇九方里、戸數約二千、人口一萬一千五百餘をかぞへ、米、麥を産し、特産用に建築石材として大谷石がある。

騎兵第十八聯隊、輜重兵第十四大隊、村立城山村圖書館、城山村信販組合などがある。宇都宮驛へ一里半、鹿沼街道東西に通じ、宇都宮市へバスの便がある

また鶴田驛から大谷へ石材鐵道が通じてゐる。

村社高尾神社、同日吉神社、持寶寺、大谷寺、能滿寺の神社古刹がある。大谷觀音、大谷寺石窟佛、共に世に知られた名勝である。

國本村

宇都宮市の北に隣接する當村は、北西は山岳に圍まれてゐるが、他は概して平坦、地味豊沃な耕地である。面積二・〇二二方里、戸數は一千餘、人口八千餘、第十四師團師司令部、第十四師團軍法會議宇都宮衛戍病院、歩兵第五十聯隊、宇都宮衛戍拘禁所、栃木師範學校等の所在地で、常に殷賑を極めてゐる。

寶木に役場を置き、戸祭上組、野澤、新里、岩原の大字に分れ、宇都宮驛へ二里、バスの便がある。岩本の觀音、妙吉侍者の石塔など名勝として廣く世に知られてゐる。

村社今宮神社の外に無格社十二、觀喜院、自性院、光明寺、長林寺などの社寺がある。

富屋村

その昔、上州への間道だつた本村は、宇都宮市の北二里半に在り、東西の二方は丘陵を背にし、中央は平坦、土地肥沃にして耕地が開けてゐる。

面積一・一一四方里、戸數五百餘、人口三千餘、その多くは農に従事して米、麥の外に藪を産する。

徳次郎宿、下金井上金井、下横名、上横名、大網の諸部落があり、役場を徳次郎宿に置き、富屋村信販利組合の設けがある。

縣廳へ二里三十町、日光街道通じ、宇都宮市へバスの往復があつて、交通の便頗るよい。

村内にある智賀都神社は當地方によく知られた郷社、また、傳法寺の古刹等も

ある。

大澤村

明治戊辰の役に官軍と幕軍との戦つたところである當村は、大澤宿、猪倉、木私田島、山口、根室、水無、森友、薄井澤、大室、荊澤の十大字から成り、郡の西北に位置して、西は上都賀郡の今市町に、北は大谷川を隔て、豊岡村に對してゐる。土地概ね平坦、ところどころに臺地がある。

戸數約九百、人口五千餘、面積三・一九一方里を占め、米に麥に藪を主産物とする。

交通また至つて滑か、日光線下野大澤驛があり日光、今市、宇都宮へバス頻繁である。

村内には郷社高雷神社、村社瀧尾神社、宇同高雷神社等があり、寺院には泉福寺、來迫寺、龍藏寺などがあり、高雷神社は當地方によく知られてゐる。

豊岡村

本村も官軍と幕軍とが雌雄を争つた古戦場で、郡の西北端に位す。鹽谷郡と上都賀郡との間に介在して、南は大谷川を挟んで豊岡村に對峙する。鬼怒川の上流に當つてゐるので、北方は山岳重疊し、南方は反對に平坦地で農耕に適する土地である。

面積四・〇五方里、戸數八百餘戸、人口五千餘人、農家多く、米、麥、繭を産する。

大字大桑の外に町谷、大渡、轟、芹沼、同新田、倉ヶ崎新田、倉ヶ崎、川室新田、高柴新田、原宿、栗原、佐下部、小百などがある。

日光線今市驛へ一里半、日光街道は村を縦貫し、宇都宮市へのバスがあり、下野電鐵、大桑、中岩の二停留場がある。

村社高尾神社、同平田神社があり、眞光院、高聲寺、法藏寺、寶勝寺、寶傳院

がある。

篠井村

當村は宇都宮市の西北三里半のところ、に在つて、西北に寅巳山の岳陵を負ひ、山間は篠井の平地をなしてゐる。日光線今市驛へ三里三十餘町、日光街道は當村を縦貫して日光、宇都宮市へバスの便がある。

面積三・二二六方里、戸數一千餘、人口六千餘をかぞへて米、麥、繭、煙草を産する。大字篠井に影場があり、小林、石那田、下小池、上小池、飯山、澤又、喜多藏、杵掛、鹽野室、矢野口の部落に分れてゐる。

農産物検査所出張所の外に、篠井村南部信販利組合、同北部信販利組合などの團體機關が設けられてゐる。

村社阿蘇神社、同星宮神社、同瀧尾神社が村内にあり、寺院には東海寺の古刹がある。

羽黒村

本村は宇都宮市の西北三里半に位し、全村山岳地、僅かに東及び中央に平地を見るに過ぎない。

中里、鬼ノ内、金田、冬室、高松、關白、宮山田、今里、松田新田、上田の大字から成り、面積二・四三七方里、その戸數七百六十餘、人口約五千を擁して米、麥、繭を産する。

村立羽黒村圖書館、羽黒信販利組合の設けがあり、氏家驛へ二里、宇都宮驛より四里、自動車、電車の便があり、交通の便は頗るよい。

當村の名勝地羽黒山神社は郷社、稻倉魂神を祭神とし、遠く後冷泉天皇の康平年中の創建にかゝり、山上は老杉蒼鬱として十國平と稱するあたりは眺望特に廣い。また羽黒山神社と相並び村社關白山神社は土地高峻、高座山を相望んで眺望に富んでゐる。

絹島村

當村は郡の東北端に位し、氏家町に接し、鬼怒川の中流に臨み、曾て「浮樹吹煙遠くして無らんと欲す、平沙人散じて鳥相呼ぶ、千峰の落日金碧を凝らす、小李將軍着色の圖」と安積良齋を述懐せしめた地、面積一・四二三方里、戸數六百五十餘、人口四千二百餘人を占め、その殆んどが農を生業とし米、麥、繭を産する。

村立絹島村圖書館、村立絹島村青年團、上小倉支部附設圖書館の設けがあり、また絹島信販利組合を設けて産業方面の發展を期してゐる。

村社高靈神社、同龍神社、清泉寺、延壽寺の社寺がある。

古里村

本村は宇都宮市の東北二里、鬼怒川を

挟んで鹽谷郡阿久津村に對し、全村は栃

木平野の肥沃地を以つて鳴つてゐる。大

字白澤宿に役場を置き、中岡本、下岡本

岡本新田、長峰新田、下ヶ崎の六部落か

ら成り、東北本線岡本驛があり、陸羽街

道並に大田原街道があり、氏家町、宇都

宮市へはバスの便がある。

面積一・五二七方里、戸數八百餘、人

口五千餘を孕み、主として農に従事、米

繭、麥を産する。

村社星宮神社があり、明星院がある。

因に本村は源義經が奥州へ下る途中、

下橋養膳寺に止宿したといふことが、

「義經記」に見えてゐる。

田原村

當村は宇都宮市の北二里のところに位し、北に山岳を負ひ、西に鬼怒川の流域を臨み、地勢平坦、沃土をなしてゐる。

上田原、下田原、逆向、叶谷、立伏、相野澤新田、古田、室井、大塚新田等の部

落から成つてゐる。

面積一・五〇三方里、戸數五百五十餘

人口三千五百餘、米、麥、繭を主要産物

となしてゐる。

村立田原村尋常高等小學校附設御即位

記念圖書館、農産物検査所出張所が置か

れてゐる。

社寺に村社稻荷神社、同高靈神社、慶

雲寺、西方寺などがある。

豊郷村

本村は關郷、大曾、山本、長岡、海道新田、上川俣、下川俣、岩本、瓦谷、岩曾、竹林、横山、今泉新田の十三大字から成り、宇都宮市の北に在つて、西は岳陵連亘し、東は平坦にして田川の上流貫流し、沃野に富んでゐる。

面積一・六六八方里、戸數一千餘戸、人口六千餘人をかぞへて農を主なる生業となしてゐる。

市立宇都宮商業學校の所在地であり、

また豊郷村信購販組合、栃木縣酒造組合
聯合會の設けもある。

村社淺間神社、光性寺、萬松寺、寶蓮
寺などの社寺の外に、長岡百穴、八幡山
公園の名勝がある。

農耕の地

上都賀郡

位置・地勢 栃木縣の西部にあつて、
北は鹽谷郡に隣接し、東は河内郡につま
き、南は安蘇、下都賀の二郡と交り、西
は、群馬縣利根、勢多の兩郡に連つてゐ
る。

その大部分は山地で、西北一帯は日光
火山麓をなし、男體、女體、赤薙、大眞
名子、小眞名子等の諸岳がそびえ、上野
の國境には白根山が峙つてゐる。この山
麓の暗には庚申、地藏、二子、袈裟丸等
の諸山あり、その間に有名な足尾銅山が
ある。男體山の麓には中禪寺湖の堰塞湖

がある。その湖脚は、有名な華嚴瀧をな
し、末は大谷川となつて鬼怒川に入り、
渡良瀬川は足尾より出でて勢多郡に流入
し、その他滑川、大鹽川、粕尾川等があ
るが、いづれも利根川に注いでゐる。

名勝 郡の北部に日光町があり、別格
官幣社東照宮の建築はその名世界に著は
る。その他郡内には今市の報徳神社、足
尾の足尾銅山及び庚申山、菊澤の喜久澤
神社、南押原成就院の枝垂赤幣、加蘇村
の石裂の女夫杉、西大芹の古峰神社等の
名所舊蹟多く、これはいづれも人口に膾
炙するもので、省線日光線や東武電車の
便を藉りて清遊に杖を曳く者の数は年毎
に殖えてゐる。

區劃 郡内を分ちて、次の如く五町十
六村とし、こゝに十四萬數千人が住居し
てる。

町 今市、足尾、鹿沼、日光、栗野

村 菊澤、北大洞、北押原、南押原、西方
眞名子、滑洲、永野、粕尾、南摩、加蘇
東大芹、西大芹、板荷、小來川、落合

鹿沼町

郡の東北部に位し、關東平野の最北部
に在り、黒川大蘆川の二流灌溉する平坦
なる沃野の地である。戸數約四千五百、
人口二萬二千を有し、面積零方里六二五
で、産物は米、藁、麥を主とする。

東武鐵道新鹿沼驛あり、また縣道四方
に發達して交通の要衝をなし、鹿沼驛よ
りは古峰ヶ原神社行及び栃木栗野行の乗
合自動車が発着し、また宇都宮、小來川
上久我、粕尾、小山等へも便利である。
御殿山公園の櫛は、往古日光山一の鳥居
として植樹をなせしものにて、これによ
つて大永年間、壬生筑後守が鹿沼を領し
日光政所となし、この樹より以外を日光
山園垣の内と定めたと云ひ傳へる。なほ
町内には郵便局、警察署、財務出張所、
土木出張所、農産物検査所、稅務署、高
等女學校、農商學校、銀行支店、各種會
社工場等多數がある。

栗野町

本町は元弘年間平野將監範久が始めて
城を築いて以來、領主を代へること數回
慶長十七年正月二分して口栗野村、入栗
野村と稱し、幕府の代官所となつた。次
で寛永十年十一月西村の中央を割いて中
栗野村となし、旗本高山氏の知行所とな
つた。これに柏木村を合して栗野村と稱
したが、明治三十九年十一月町制を施行
して今日に至つてゐる。

町は東は南摩村、西は粕尾村、南は清
河村、北は西大芹村に接し、栗野川、町
の中央を貫流して流域に人家が開けてゐ
る。廣袤東西一里二十四町、南北三里二
十六町、面積三・〇〇〇方里を有し、戸
數八百三十餘、その人口四千三百餘を數
へる。米、麥、藁、大麻、葉煙草等を産
し、役場を口栗野に置き、町立小學校二
實業青年學校、産業組合あり、郷社賀蘇
山神社の外に村社三、無格社二九、寺院

三の社寺がある。

栗野城山公園は、平野將監の築いた城
跡を擴張、梅、櫻、躑躅の類を配植して
公園としたもので、山嶽の起伏傾斜を巧
みに利用し、開花時の所謂錦簇々花簇々
の光景を現出する。

今市町

明治戊辰の役に官軍土佐藩士と幕軍會
津兵と戦つた古戰場のある本町は、天文
年間結城城主三河守の所領だつたが、後
ち領主しばしば交替して阿部對馬守の領
となり、次で日光東照宮に附せられ、日
光神領と稱した。町制施行に當つて今
市郷、平ヶ崎村、千本木村、下ノ内村、
室瀬村、吉澤村、土澤村、瀬川村、瀬尾
村の一郷八ヶ村を合併して今市町と稱し
今日に及んでゐる。

廣袤東西一里五町、南北四里一六町、
面積四・〇〇〇方里で、戸數二千六百餘
人口約一萬三千五百人を占め、商業を首

位に工業、農業の順によつて生業となし
てゐる。

縣道左右に通じ、日光線今市驛、東武
鐵道日光線下今市驛があり、また下野電
氣鐵道あり、バスの往來頻繁で交通に便
する。

役場を大字今市に置き、縣立中學校、
町立實業女學校、町立青年學校、私立實
業學校があり、産業組合の外に會社數二
十餘、縣社一、郷社一、村社八、無格社
一〇、寺院八等をかぞへる。

縣社報徳二宮神社は尊徳翁絶焉の地に
してその遺骸の鎮まるところ、明治二十
七年の創立である。その他に古戰場、杉
並木、星顯山如來寺、追分地藏等の名所
舊蹟である。

日光町

唐の鑑真和尚の從弟勝道上人を以て日
光山の開祖と傳へ、徳川家康の靈をこの
地に鎮められてから、本町は政治的意味

に於て重要視されるに至つたもので、東は絹川に至り、南西は大芦、粟野、鹿沼押原の町村を境とし、北は栗山、湯西川及びこの高山を境とする。明治二十二年四月の町村制施行の當時久次良村、清瀧村、細尾村、竹野村、七里村、野口村、北和泉村、山窪村の八ヶ村を改稱して大字と稱し、これを合併して新に今の日光町を生んだのである。

面積一〇・八方里、戸數三千八百七十人口實に二萬一千四百五十餘の多きをかぞへ、工業を第一位に商業、農業その他によつて賑々たる町の發展、向上を招來してゐる。米、麥、繭の外に用材、薪炭材、木炭などを主として産する。

役場は大宇日光にあり、町立日光高等女學校、同實業補習學校、同青年訓練所私立幼稚園、産業組合、その他種々の官公衛、組合、銀行會社の設け多く、官國幣社二、村社一二、無格社三四、寺院二三、境外佛堂一〇、その他四があつて宛然靈地たるの名に背かない。

本町の名勝地は二荒山神社、東照宮、輪王寺、大猷廟、田母澤御用邸、殉死墓萩垣面、小倉山、赤薙山、女峯山、大眞名子山、男體山、太郎山、白根山、中ノ茶屋、深澤、葛浦ヶ濱、戰場ヶ原、湯元食瀧淵、大日野、白原瀧、霧降瀧、玉簾瀧、淑光瀧、羽黒瀧、雲龍瀧、女峯七瀧裏見瀧、布引瀧、慈觀瀧、般花瀧、方等瀧、阿含瀧、華嚴瀧、白雲瀧、龍頭瀧、湯瀧、明智平など頗る多い。

百餘を有して、面積一二里方〇五、勿論金、銀、銅、繭が主要産物である。足尾線足尾本山驛、間勝驛、足尾驛等があつて交通の便は悪くない。因に足尾銅山は、慶長十五年發見以來幕府の經營に屬し、明治十年古河鑛業會社の經營に移るや、率先して歐米の最新精銳器具を取入れ、業務盛大を極めるに至つた。また庚申山は奇岩怪石多く、近年探勝の客やうやく多きを加へてゐる。

足尾町

菊澤村

栃木縣の西北方に位し、庚申連山を以て群馬縣と境を接す。東北は日光火山群を負ひ、二つに水源を發したる渡良川は町を貫流し、この流域に沿ひ群馬縣に通ずる坦路と鐵道があり、その他は山岳重疊せる山地にして、日本一の銅山足尾本山があり、古河工業會社の手により採掘せられてより市井の發達を見た土地である。戸數約五千五百五十、人口二萬三千八

本村の中央は南北にわたつて丘陵があり、村は二分して西は黒川、滑川の二流巡つて富岡、下遠部、見野、玉田の各部落をつくり、東は氏子川北より南に流れ更に折れて東に向ひ、沿岸に氏子、千渡の部落がある。千渡山は栃窪、千渡の間を西に起つて東に走り、川に沿ふて平坦な耕地開け、丘陵には未開の原野が多い。その面積は一・六二五方里、戸數八百

餘、人口五千餘、農業を第一に工業、その他に従事し、米、麥、繭、大麻などを産する。

役場を大字谷地に置き、村立青年學校二、産業組合、農家組合等が設けられ、縣社一、村社七、無格社二一、寺院九がある。

縣社喜久澤神社は南朝の忠臣藤原藤房卿の靈を祀つたもの、木食上人十五體佛などの名勝がある。

北犬飼村

當村は昔は犬飼の莊と稱し、鎌倉時代の末頃から宇都宮氏の領に歸した。町村制實施に當つて北犬飼村と稱し、區域を上石川、茂呂、白桑田、深津、下石川、池の森の六大字に分け、役場を上石川に置いてある。

面積三・四三二八軒、戸數七百四十餘戸、人口五千七百餘人をかぞへ、その殆んどは農、僅かに商業に従事するものが

あり、米、麥、繭、大麻を産し、また薪炭材、竹材、木炭などを出してゐる。

村立青年學校、産業組合、村社二、無格社四、寺院五がある。

名所舊蹟としては和田塚、兒子沼、千綺笠、中城の古城址、茗市の楓、御城稻荷の大櫓などが擧げられる。

北押原村

鹿沼町の南に接し、東方は栃木縣の仲央平野に屬し、麻の栽培が行はれる。西方には低い丘陵が走り、中央には黒川が流れてゐる。戸數約七百七十、人口四千八百をかぞへ、面積一方里〇五四を占め産物は米二十餘萬圓、繭千數百萬圓、麥四萬圓を主とする。

村内には村社鹽山神社、同押原神社、圓明院、光明寺等の社寺あり、住民は概ね敬神崇祖の念に富み、思想穩健、國民精神總動員のごときも順調な成績を示す平和な村である。村井、上殿、鹽山、日

南押原村

光奈良部、下奈良部、奈佐原縦山等の大字より成り、東武鐵道縦山驛あり、村役場から日光線鹿沼驛へ一里、縣廳へ三里十八町、縣道南北に通じ、鹿沼驛及び壬生町行のバスもあつて、交通の便良好である。

北押原村の南につらなり、下都賀稻葉村と境を接する。中央に黒川あり、西方小倉川の流域は水田なるも、その他は概ね畑地である。戸數約九百四十、人口五千百有餘をかぞへ、面積一方里一七二を占め、米、繭、麥を主産物とする。村内には東武鐵道楡木驛あり、縣道南北に通じ、字楡木に於て分岐し、一は壬生町、一は栃木町に至る。鹿沼町、壬生町、栃木市の間にはバスが往復する。

成就院の枝垂赤幣は天然記念物に指定され、その他名勝に太郎坊、龜ノ子岩、鶴ヶ峯、冠塚、あがしで等あり、あがし

では百五十餘年前の發見にかゝり、方言ソネと稱し、普通イヌシデの枝垂性をあらはし、類例少き珍奇なるもので、昭和三年一月天然記念物に指定された。

西方村

當村は今、金崎、本城、元、金井、本郷の五大字から成つてゐるが、明治維新前はこの五大字に下都賀郡亦津村大字富岡を加へて西方の配と稱した。

面積三・八〇方里、戸數八百四十餘、人口五千二百をかぞへ、農を生業となすもの最多を占め、米、麥、繭、大麻を産し、役場を大字金崎に置いてゐる。

村立青年學校があり、産業組合の設けもあり、郷社一、無格社七、寺院六、境外佛堂七がある。

郷社近津神社は大己貴命、事代主命、武甕槌命の三柱を祭神とし、本郡三指定神社の一に數へられ、社域廣潤、樹木鬱蒼として尊嚴を極める。社前に樟の樹あり、周囲二丈七尺、高さ三丈五尺、屹然として巨岩の天に冲するが如く、郡内に於ける名木として名高い。

眞名子村

郡の南方に位し、下都賀郡と境域を接してゐる。四圍は大倉山、矢倉山の山岳にかこまれ、字眞名眞上附近は平坦にして、栃木の中央平野とつゞいてゐる。戸數約二百八十、人口千七百有餘を擁し、面積一方里〇八三に及び、米三萬圓、繭五千六百圓、麥一萬五千圓の産額あり、産業の開發、經濟狀態の向上は近年頓に見るべきものがある。殊に眞名子信購販組合の活動は特筆に價する。縣廳へ六里十八町あり、縣道通じ、北は粟野町、南は栃木市に至る。

村内には村社大宮神社、圓滿寺、洞雲寺等の社寺あり、眞名子小學校は高等科の併置ありて學級八にわかれ、各種施設の充實完備せること他に誇るに足り、校

中粕尾村、上粕尾村と稱したが、自治制施行と共に三村合併、賀蘇尾村と呼び、後ち今の名に改稱、今日に至つてゐる。

永野村

當町は古くは長野村と稱し、後ち上永野、下永野の二村に分れて安蘇郡に屬し佐野の庄と呼んだ。明治維新前は末倉丹後守の所領地となり、明治二十二年町村制實施に際して兩村合して今の永野村となつた。

面積二・〇〇方里、戸數四百餘、人口二千四百餘を算し、農を主なる生業として米、麥、繭、大麻を産する。また用材薪炭材、竹材、木炭等をも出してゐる。

役場は上永野にあり、公立青年訓練所公立農業補習學校の設けがあり、産業組合の設置も見る。その他村社二、無格社一七、寺院二がある。

百目鬼塚、釜ヶ淵の名勝がある。

粕尾村

本村はもと安蘇郡に屬して下粕尾村、

清洲村

粟野町の南方に隣接し、南は丘陵地にして眞名子村との境には大倉山がある。

北方粕尾川流域は沃野にして耕地よく開け、田二百九十餘町歩を有す。大字深程久野、北半田の三部落より成り、半田には東高野山彌勤院があり、勝道上人の開基にて、境内に弘法大師御影堂がある。なほ社寺としては村社小松神社、村社御靈神社、醫王寺、雲叟寺無量壽院等が擧げられる。

戸數五百餘、人口約三千を擁し、面積一方里二七一を占め、住民は殆ど農を以て生業となし、米十二萬圓、麥二萬圓、繭一萬二千圓の産額がある。役場所在地より東武鐵道樺山驛へ一里半、縣廳へ六里三町、栃木市と粟野町間の縣道が村内を貫き、毎日乗合自動車の往復がある。

地勢は四面山岳に圍まれ、東に足尾町西に清洲村、南に粟野町、北に永野がつづき、粕尾川中央を貫流して沿岸に耕野開け、縣道が走つてゐる。面積一七・八八五方里、戸數六百餘、人口約四千を占め、農業最も大を極め、米、麥、繭、大麻を生産する。

本村の役場を大字中粕尾に置き、村立青年學校二、産業組合、村社四、無格社一三、寺院に白性院、常樂寺、慈眼寺、東光寺がある。

館の古城址、大塚氏の古城址、録事尊などの名所舊蹟がある。

南摩村

本村は下南摩、油田、佐目、西澤、上南摩の五大字から成り、東西一里一四町南北二八町、面積一・九方里を占め、戸

數六百餘、人口三千七百、農を主業とするもの最も多く、米、麥、葉煙草、大麻を生産する。

役場は大字西澤にあり、保證責任南摩村信購販利組合の設けがある。

龍蓋山は大字上南摩にあり、南摩備前守綱善の築いた古城址がある。東に加蘇村、西に粟野町を眼下に望み、北は脈を石裂山に連ね、東西遙かに筑波山を眺望する。また西澤、下南摩、油田の三大字の接するところに城山と稱する往古の城址があり、今は、瀧尾神社と鏡石とがある。

加蘇村

本村は野尻、加園、下久我、上久我の舊四ヶ村から成り、廣袤東西一〇軒餘、南〇三軒餘、面積六方軒餘を有し、戸數約七百、人口約四十人をかぞへ、その大半は農を本業となして、次で林業及び工業その他に従事してゐる。

本村主たる産物としては、何といつても米、麥で、甘藷、馬鈴薯、葉煙草、大麻などがこれに次ぐものとして目を惹いてゐる。

小學校が三校、村立青年學校が二校、また縣社一、村社三、無格社一一、興源寺、普門寺、常眞寺の社寺などもある。

東大芦村

本村は東に角澤村、西に加蘇村、南に南摩村、北に板荷村に接壤して酒野谷、下日向、上日向、深岩、笹原田、下澤、引田の大字に分れ、役場を上日向に置く。廣袤東西一里、南北二里二十二町、戸數七百四十餘、人口四千六百餘、その殆んどは農を主業となし、米、麥、葉煙草、繭を産する。

村立實業青年學校あり、産業組合あり村社六、無格社二十一、寺院四の社寺がある。

大字酒野谷の東方山麓に千手觀音を安

置する。像は金塗、丹慶の傑作、毎年舊正月十八日に開扉する。深岩にある觀世音、引田にある磨墨ヶ淵共に有名。磨墨ヶ淵は源頼朝の愛馬として、また宇治川の先陣を争つた駿馬池月を出したところ、大蘆川の岩に激して常に深淵をなし、淵中に馬蹄の跡が顯然として存してゐる。

西大芦村

東大芦村の西北に續き、北は日光山麓の薬師、夕日の岳麓に至る。南方に横根山鳴蟲山の嶽岳あり、地勢高燥にして、大川は西方古峯ヶ原に源を發して東南に下り、その沿岸に聚落が散在する。戸數五百二十餘、人口約三千をかぞへ、東西三里二十町、南北二里二十三町、面積五方里一に及び、草久、下大久保、上大久保の三大字より成る。役場より日光線鹿沼驛へ四里、縣廳へ九里十三町、大蘆川に沿ふて縣道が走り、草久鹿沼町間に

板荷村

當村は古くは深谷村と稱し、二荒山神領だつたが、大永、弘治年間には鹿沼城主の所領となり、板荷村と呼ぶに至つた。村名の由來については、押原の郷と稱した頃、民貢租を納める金穀に代ふるに薪板荷を以てしたことから起つたといはれてゐる。

村は東は菊澤村に續き、西は小來川村に境し、南は東大芦村、北は落合村に接續し、その面積一・四三方里、戸數四百餘、人口二千五百餘人をかぞへる。大半

以上は農を生業とし、米、麥、繭、大麻等を産する。

役場は鍛冶谷にあり、産業組合、村立青年學校の設けがある。縣道村を走り、小來川貫流し、東武日光線に板荷驛があり、交通に便する。

大字竹ノ内に在る朝鮮人參植所跡は、村の舊蹟として今に名をとめてゐる。

小來川村

當村はその昔、小倉の里と稱し、數ヶ村聯合して小倉の莊と呼んだといひ傳へられ、次で黒川の郷と稱したが、藤原藤房卿が當地に至つて、この地の河流が小さく來るとして小來川と歌に詠んでから、小來川村と稱するやうになつたといはれる。

面積は二・七六方里、戸數三百七十餘戸、人口二千餘人を算し、農業に次で商業を營むの順で生業に就き、米と麥と繭と大麻を産する。

役場を字宮内に置き、村立農業青年學校、産業組合が設けられ、村社一、無格社三二、寺院一がある。

黒下に黒沼は神護景雲元年、勝道上人が當村通過の際、衣服の泥を洗つたところ、沼水が悉く黒水に變つたので、黒沼と稱するに至つたといふ。

落合村

當村は往古は日光二荒山神社領だつたが、日光東照宮の創建と同時に同領を興り、殊に文挾、板橋の兩驛は例幣使街道の要路にあたり、頗る繁昌を極めてゐたが、日光鐵道開通と共にこの街道を往來するもの漸次減少して、また昔日の俤なく、機業を營んだのも農工業に轉するに至つた。

當村は文挾、小倉、小代、長畑、明神板橋、手岡、岩崎の大字から成り、面積二・六五方里を有し、戸數九百三十戸、人口五千五百人、内七百戸は農を本業と

はバスの便がある。

昔からその大部分が日光神領なりしに、より明治元年日光縣の官轄となり、同七年引田村と合併、自治制施行の際現區域を以て一村を形成し今日に至つた。村内鎮座の古峯神社は日本武尊を祀り、火災除の神として名高く、參詣の者年々數萬人を下らない。

なし、米、麥、繭を産する。

役場を文挾に置き、農業補習學校、産業組合の設けあり、縣道今市町、鹿沼町に通じ、文挾驛があつて鐵路の便もよい。板橋城址、小倉城址、岩崎觀世音などに知られる。

葉煙草主産の

芳賀郡

位置・地勢 本郡は縣の東南端に位し北は那須郡及び鹽谷郡につき、東は茨城縣の東茨城郡及び西茨城郡に、南は西茨城郡及び眞壁郡に隣接し、西は本縣河内郡及び下都賀郡と境する。郡の東部、茨城縣境には八溝山脈に屬する諸峯がそびえ、その間の河は郡の東北隅を流れる那珂川に入るが、郡内の大部の水は西部の平地を灌漑して小貝川の上流をなす。名所・舊蹟・學校 郡内名所舊蹟には芳賀古城、眞岡公園、久下田の子育地藏

尊等をはじめ、四阿屋の櫻、眞岡八景、

蟠龍山芳全寺、城山稻荷、益子城址、姫石山、城山、花香月山、大日塚、宗光寺櫻町陣屋跡、専修寺、佛性寺、大平山、太子樺、その他があり、一日の清遊に杖を曳く者が多い。また郡内學校の主なるものは眞岡中學校、眞岡高等女學校、眞岡農學校、上野原農學校等で、小學校は四十六校をかぞへ、その半数は高等科の併置がある。

區劃 郡内葉煙草の産が多い。鐵道は省線眞岡線が茨城縣下館町より來つて茂木に至る。茂木は曾て細川氏一萬六千三百石の藩地であつたが、その後、常陸の谷田部に移り、明治四年廢藩の少し前に下野の舊地茂木に歸つた。

全郡を分ちて次の五町十五ヶ村とする
町 眞岡、茂木、益子、久下田、祖母井村
村 大内、中、長沼、物部、山前、田野七井、逆川、中川、小貝、須藤、市羽、南高根澤、水橋、清原
而して人口は約十二萬人である。

眞岡町

宇都宮市の東南五里にあり、五行川の

西岸に沿ひ、土地平坦、地味豊饒、農耕に適す。中央に市街を形成し、商業殷賑を極め、本郡の中心都邑をなす。また古來眞岡木綿の産地として名高く、製糸業が盛んである。戸數千八百三十、人口九千七百五十を有し、東西一里二十二町、南北一里三十町、面積一方里三とあり、町内には郵便局、警察署、財務出張所、土木區事務所、農産物検査出張所、その他の官衙多數存置し、圖書館、中學校、女學校、農學校等の教育機關備はり、更に各種産業團體がよく整備組織されてゐる。省線眞岡線眞岡驛ありて交通の便よく、縣道四通し、宇都宮、高田、祖母井田野、下館、益子などへはバスが通つてゐる。

名勝には、文治年間芳賀高親の築きし芳賀城址をはじめ、四阿屋の櫻、眞岡八

景、眞岡公園等がある。

久下田町

天文年中結城の被官水谷正村入道蟠龍がこの地を處有し、谷田貝に城を築きて久下田と號してから漸く繁榮せる町で、眞岡町の西南二里半に位置し、茨城縣と境を接し、面積零・八四七方里、東は五行川、西に鬼怒川の分流あり、土地低平にして水田五百六十町歩を有し、眞岡線久下田驛を中心に市街が展開する。眞岡町及び茨城縣下館町へはバスが通つて交通の便良好である。

町内には郵便局、巡查部長派出所、農産物検査出張所などの官衙のほか、銀行會社工場等あり、また社寺には村社八幡宮、同三ヶ月神社、全水寺、長榮寺、芳全寺がある。
殊に芳全寺は蟠龍山と號する古き名刹で、城山稻荷、子育地藏尊と共に廣く著聞する。

益子町

宇都宮紀清兩黨のうち紀權守正隆が當地に城を構へて子孫益子氏を稱し、頼朝の奥州征伐にも武功顯著なるものがあつた。町名はこれより出たといふ。眞岡町の東二里半、東は山岳に掩はれて地勢高燥西に平地あり、小貝川南下し、市街は南部方面に形成される。廣袤東西二里十八町。南北一里十八町、面積二方里四七あり、米、藪、麥を主産とし、眞岡線益子驛を有し、縣道四方に通じ、眞岡町、逆川及び七井村經由宇都宮へバスの便がある。

町内には郵便局、區裁判所、出張所町立陶器傳習所等あり、製陶は本町特産の隨一である。社寺には村社高龜神社、同綱神社、同鹿島神社、觀音寺、閑空院ほか七ヶ寺を有し、西明寺の山門は國寶に指定されてゐる。また益子城址は舊蹟として名高し。

茂木町

郡の東北部に位し、東南は茨城縣に、西北は須藤村及び中川村に堺し、東と北の二面は山脈蜿蜒し、月山、富士山の諸山が聳立し、西と南の二面は稍平々坦なりと雖も丘陵諸所に起伏するを見る。東西二里、南北一里十八町、面積二方里五〇八を有し、町内には郵便局、警察署、專賣局出張所、區裁判所出張所、その他の官衙と、農學校及び家政女學校等の教育機關備はり、郷社荒樞神社、ほか村社一、寺院七をかぞへる。

名勝には姫石山、城山、花香月山、桔梗城址、和久古城址大峯城址、七木七石のほか傳説にからむ哀歌のお島田などがあつる。
眞岡線終點茂木驛あり、本郡東部山間の要地にあたり烏山、河井、飯野、市塙へバスが通じ、交通頗る利便にして、交通、産業の中心地をなす。

祖母井町

往古、君島十郎嗣種の次男貞範は、祖母井右京亮といひ、また祖母井信濃守吉胤の本願に青龍寺あり、町名はこれより出づ。

郡の北偏に近く、眞岡町を距る四里七町、東部に緩丘岡があり、西部は平地にして五行川が南に流れてゐる。面積などは二方里一八五で、産物には米、麥、藪がある。
町内には郵便局、巡查部長派出所、區裁判所出張所の官衙、財團法人上野原農學寮の教育機關、銀行支店、工場、産業組合などがあり、社寺には郷社八雲神社、村社祖母井神社、延生寺、觀音寺、高宗寺、城興院、崇眞寺、東傳寺、來迎寺がある。
なほ役場から縣廳まで四里二十六町、宇都宮市、眞岡町、茂木町へバスの便がある。

大内村

眞岡町の北に接し、鬼怒川に臨み、村の中央を五行川が流れてゐる。廣袤東西二里十八町、南北一里十八町、面積二方里一九五にして平街なる關東平野の沃地にて、眞の産出が頗る多く、米、麥、藪の産も少なくない。村は飯貝、京泉、堀内ほか九大字より成り、

ふらの日も名にし負ふより立寄るな

箕輪の里のさみだれの頃

とは天文十四年聖護院准后の歌にして、箕輪の里は今の飯貝の地である。

村内社寺には村社、高麗神社、宗徳寺密藏院、無量壽寺等がある。眞岡線眞岡驛へ一里半、縣道南北に通じ、祖母井町及び眞岡驛へのバスが往復する。

中村

宇都宮藩の旗本に中村玄角入道なるも

のあり、また中村小太郎朝宗の古城址あり、村名中村は、これより起つたのである。村は眞岡町の西南に接し、鬼怒川の東岸に面し。東に五行川あり、土地一般に平行にして、果實、眞の産多く、米麥の産も尠なくない。面積一方里七六一を占める。

村内には村立圖書館、中村尋高校（二十一學級編成）の教育機關あり、男女青年團、在郷軍人分會等の成績は頗る良好である。社寺としては郷社八幡宮、覺善院莊嚴寺、遍照寺などあり、大日塚は舊蹟として有名である。因に村は中、若旅寺内、伊勢崎、茅堤、小橋、粕田、寺田上大沼、大沼、下大沼、加倉ほか四大字より成り、眞岡線寺内驛あり、役場より縣廳へ五里半、縣道東西に通じ、眞岡町及び石橋町へはバスが通つてゐる。

長沼村

本村は、淡路守宗政を始祖とする長沼

氏十二代の城主たりしところなるが故に

この村名あり、郡の南端に位し、茨城縣眞壁郡五所村と境を接し、西は鬼怒の清流にのぞんでゐる。面積一方里一二九あり、うち水田は百六十五町歩を占め、住民の大部分は農耕を以て生業とし、米麥、藪の産が多い。長沼村信販購組合は設立以來常に堅實なる歩みを續けて本村産業の開發、經濟の充實に寄與貢獻するところ頗る大なるものがある。

村内社寺には郷社八幡宮、禪定院、宗光寺等あり、宗光寺は天臺宗の古刹で、源頼朝の建立といはれ、慶長年間、僧天海上人がこれと再興した。下野國史の著者河野守弘氏は本村の出身である。役場より眞岡線久下田驛へ一里、縣廳へ七里十四町で達する。

物部村

郡の東南部に位し、東南は茨城縣小栗村及び河間村に、西は久下田町並に中村

に接し、北は山前村に境する。東南と東北の二方に山脈あり、この間に挟まれて村内は半盆地状態の平坦地で、水田千餘町歩、畑三百八十餘町歩の耕地が連る。廣袤東西二里十三町、南北二里五町、面積一方里五八二を占め、生産年總額は約九十萬圓の巨額に達する。

往古、親鸞聖人が關東流浪中、宮村草庵を營みて教化を施したる地にして、專修寺は高弟直佛房の開基に係り、伊勢一身田の高田派本山はその分派である。またこの地は小田原藩の分知たる因縁により二宮尊徳來りて殖産興業の功を竣ひしところ、その宅址は櫻町と稱し、報恩訓を刻したる一大石碑が、今も建つてゐる。

山前村

眞岡町の東方に接し、東は丘陵連互し小貝川及び五行川沿岸は低平にして水田千百七十餘町歩を有し、中央は稍々高燥

にして原野樹林がある。面積二方里〇一を占め、住民は概ね農を以て生業とし、勤勉實直の美風あり、米三十四萬圓、藪三千圓、麥六萬餘圓の年産額がある。

眞言宗日光山の開基勝道上人は本村の出身である。村内社寺には星宮神社、西念寺、瑞光寺、政成寺、能仁寺、佛性寺本誓寺、藥王院等あり、佛生寺は字南高岡にありて眞言宗の古刹といはれ、本尊藥師如來、脇士日光、月光兩菩薩及び十二神將像は、いづれも勝道上人の作である。村は小林、南高岡、島、東大島、須釜ほか九大字より成り、役場より縣廳へ六里十九町眞岡驛へ一里半、バスの便がある。

田野村

眞岡町の東方二里の地に位し、南は山岳を以て茨城縣と境する。東西南の三方に山嶺を負ひ、北方のみ開けて平地あり村内を小貝川が貫流する。面積一方里五

四六、水田四百餘町歩を有し、米、麥、藪を以て主要物産とし、村民は概ね生活状態裕福である。

關東古戦録には、常陸國田野城主羽石内藏介盛長が水谷蟠龍齋に攻亡されたる記事を載せ、これに徴するに、本村は往昔は常陸國に屬してゐたものゝ如くである。村は長堤、小泉、梅ヶ内、本沼、前澤ほか四大字より成り、社寺に郷社八幡宮、光明寺、成就寺、長谷寺、妙傳寺等あり、眞岡町へはバスの便あり、また益子町へは僅かに一里強にして達するを得る。

七井村

益子町の北に接する村で、東方に山岳を負ふて原野山林多く、西方に平地ありて小貝川が灌流する。明治維新前は三十三藩十三旗本一代官の支配を受けたが、明治に入りて日光縣に屬し、自治制施行の際七井、大澤、小宅、芦沼、北中、大

平の舊六ヶ村を併せて七井村と稱し、役場を七井に置いた。

廣袤東西二里、南北一里十七町、面積一方里四三あり、耕地は田四百七十餘町歩、畑四百餘町歩に上り、生産年總額は百餘萬圓の巨額に達する。村内には郵便局、農産物検査出張所、銀行等あり、眞岡線に沿ふて七井驛と市橋驛を置き、益子町及び宇都宮市へは共にバスの往復するありて交通至便を極める。なほ社寺には郷岡龜岡八幡宮、村社日枝神社、安善寺、觀音院、圓通寺があり、名勝大平山は四季の眺望極めて絶佳である。

逆川村

野州の水は皆南下するを常とせるに拘らず本村の水のみは北流する故に、逆川の名がある。郡の東部に位置して茨城縣西茨城郡と境を接し、全村山岳連互し、平地は極めて僅少である。面積三方里九一六、戸數約八百四十、人口五千有餘を

數へ、村民は一般に農業を主として副業に山林の業に従ふ。

小學校は逆川尋高校のほか、木幡、小貫、深澤の三尋常校あり、村立圖書館、青年學校も設置され一般に教育に對する理解深く、各校とも優秀な成績を示してゐる。社寺には村社日枝神社ほか神社五安養寺、慶應寺、慈眼寺、持寶院、大樂寺、法幢寺などあり、眞岡線益子驛へは二里半、バスの往復ありて交通の便悪からず、茨城縣笠間町へは四里、笠間茂木間自動車の便がある。

中川村

茂木町の東北に接し、東は茨城縣那珂郡と境する。四圍に山嶽連互し、地勢高峻なるを以て那珂川は溪流をなして西北より東南に下り、其沿岸に平地がある。茂木町より流れ來る逆川は本村東隅に於て那珂川に合流する。面積二方里六〇二戸數約一千、人口六千五百を算し、村

民の生業は概ね農にして水田二百三十町歩、畑地五百九十町歩の耕地あり、一部に商業を營む者もある。明治二十二年自治制施行に際し、河井後郷、山内、小深ほか五大字を合して中川村と稱してより變更なく今日に至り、村内には郵便局、産業組合のほか、村社國神社、金藏院、清音寺、長壽寺、能持寺、萬福寺等の社寺を有し、眞岡線の終點茂木驛へ一里餘、バスの便あり、また茨城縣に通ずる街道も村内を貫き、交通状態良好である。

須藤村

茂木町の西北に接し、那珂川の中流にのぞむ本村は、那須七騎の一なる千本須藤氏の故邑なるがゆゑに須藤の村名あり全村山嶽連互して地勢高燥を極め、平地少く原野山林が多い。戸數約八百五十戸人口四千五百をかぞへ、面積二方里〇八五ありて、水田は二百七十餘町歩を占め

る。住民は農山林業を以て生業となし、米十四萬圓、麥四萬圓餘の年産額を示してゐる。

村は千本、上菅又、下菅又、坂井、黒田、生井ほか七大字から成り、郵便局を有し、社寺には村社鹿島神社、同十二神社、昌泉寺、長安寺などあり、役場より縣廳へ七里半、烏山街道南北に通じ、烏山町茂木町間のバスが村内を走つてゐる。

小貝村

郡の北部に位し、東は須藤村、南は市羽村に接し、西は祖母井町、及び南高根澤村、北は那須郡向田、荒の二村と隣する。村内高山なきも丘陵の起伏連互するあり、その間に平地が存在する。しかし地勢一般に高燥なるため水田少く、苺、果實、薪炭、藪等を重要物産とするが、米麥の産また尠ならず、生産年總額は約六十萬圓に上る。

廣袤東西一里、南北二里にして面積二

方里〇五四を占め、役場より縣廳へ六里半、須藤村に出でそれよりバス便にて眞岡線茂木驛まで三里、また祖母井町へ二里、それより宇都宮市へバスが通じてゐる。杉山、田野邊、文谷、椎谷、刈生田ほか六大字より成り、村内には郵便取扱所、産業組合、神社一二、寺院五等がある。

市羽村

郡の中央に位し、眞岡町の東北三里の地にあり、東部及び南部の兩面は高望山伊許山ありて山岳丘陵の起伏多く、西部は稍々低くして原野山林が相連る。宇都宮君島の一族たる市庭那波(イチバナハ)の宗徒が康曆二年に戦死せること花營三代記にあり、市羽の名の由來以て推知するに足る。面積二方里〇五四あり、米、麥、藪を主産物とし、村内には郵便局、銀行支店、産業組合を有し、眞岡線七井驛へ一里半、茂木町及び宇都宮市へはバ

南高根澤村

郡の北部にあり、那須郡北高根澤村の南に接し、東は山岳を以て小貝村と堺し南は平地を以て祖母井町に、西は清原村につゞく。五行川は村内を南に下り、沿岸に九百四十餘町歩の水田が廣濶として連つてゐる。那須野の一部で元祿紀行常陸帯には、

秋深き那須野の原の高茅に

つまやこもれる雄鹿鳴くなり

の歌あり、高原の秋色を想ふに足る。

面積は一方里八八七あり、戸數八百三十餘、人口五千有餘をかぞへ、縣道東西に通じ、宇都宮市へはバスの便がある。なほ村内社寺には村社星宮神社、同安住

神社、天臺宗長命寺、眞言宗長命寺、般若寺等がある。

水橋村

本村は西水沼、東水沼、北長沼、打越西高橋、東高橋等の部落より成り、水沼の水と高橋の橋を取つて水橋村と名づけたもので、眞岡町の北方三里の地に位し西に緩丘岡あり、その他は大體に於て低平にして、五行川の支流が耕地を潤はしてゐる。面積一方里四九五、戸數約八百二十、人口五千有餘を擁し、村内には郵便取扱所、農産物検査出張所、産業組合等がある。

役場より縣廳まで四里、縣道東西に通じ、眞岡線七井驛及び宇都宮市へはバスが通つてゐる。また村内社には村社高橋神社、同星宮神社、慈照寺、常珍寺、淨林寺、天王寺などあり、名勝太子櫓は應永年間、水野鷹左衛門の遠祖が聖德太子百年祭記念として植付けたるものとい

清原村

郡の西北に位し、西は鬼怒川を以て河内郡平石村境とする。東西一里半、南北三里、面積二方里六五一を占め、住民は農を以て主業とし、米三十二萬圓、藪四千圓、麥八萬圓等の年産がある。役場より縣廳へ二里半、茂木街道東西に通じ、宇都宮市と茂木町間の乗合自動車は村内を走る。

昔、芳賀左兵衛尉清原高俊なる豪族あり、竹下の同慶寺はその本願にて、同寺の山號養徳山は高俊の法名であつた。村名清原は、この清原氏に因んだものである。明治二十二年竹下、道場宿、刈沼、板戸、滿美穴、野高谷、鉾山、上箱谷、水室の舊九ヶ村を合せて一村となし今日に至つた。現在村内には郵便局、産業組合のほか村社三島神社、大乘寺、寶泉寺、藥王寺の社寺あり、村勢日に日に隆盛を

加へてゐる。

農主業の下都賀郡

位置・地勢 縣の北部にあり、北は上都賀郡に、東は河内郡、芳賀郡及び茨城縣結城郡、眞壁郡に接し、南は茨城縣猿島郡、埼玉縣北埼玉郡、群馬縣邑樂郡の三縣と境し、西は安蘇郡に隣する。地勢西北部は山地に屬するが、大部分は關東平野の一部をなし、土地平坦、思川、永野川及びその支流がこれを灌漑し、縣内第一の肥沃の地をなす。

産業、交通 されば本郡は縣内第一の農産物の産地で就中米、麥の産が多い。鐵道は北東本線が舊奥州街道に沿つて郡の東部を縦斷し、小山に於てこれと交はつて兩毛線と水戸線とが連絡してゐる。なほこのほかに東武鐵道日光線の電車がこれと並行して、栃木市を経て日光

に向ひ、その宇都宮支線は栃木より岐れて宇都宮に至る。

沿革、區劃 本郡は初め都賀郡であつたのを、明治十年に武藏、上野兩國の間の國郡界を變更し、更に十三年五月にこれを二郡に分けて上都賀及び下都賀として二十二年三月には寒川郡に併合して今日に至り、昭和十二年、栃木町は獨立して栃木市となつた。人口二萬一千四百餘人を算し、行政上郡内を分ちて次の五町二十九ヶ村とする。

- 町 小山、壬生、間々田、藤岡、石橋
- 村 大宮、國府、稻葉、南大側、委、國分寺、桑、胡、大谷、生井、寒川、穗積
- 豊田、中、瑞穂、水代、部屋、赤麻、三鴨、岩舟、小野寺、富山、皆川、吹上、寺尾、赤津、家中、靜和、野木

壬生町

本町は往古は壬生表町であつたが、寛文年間二ヶ町に分れ、小山の庄と呼ん

だ。今、壬生、藤井の二大字から成り、面積一・七二方里、戸數一千五百餘、人口八千三百餘をかぞへ、役場を大字壬生に置く。

商業最も盛んにして、農業、工業の順に生業とし、米、麥、藪、大麻を産し、竹材を出してゐる。尋常小學校二、町立青年學校、産業組合二、會社六があり、また郷社一、村社一、無格社二、寺院五、境外佛堂三を數へる。

町の左右を黒川、小荒川流れて灌漑に便し、東武鐵道、東北本線石橋驛へのバスの往復もある。

壬生城址、慈覺大師堂、吾妻殿、愛宕塚、東塚、牛塚、一里塚、日本三體繩解地藏菩薩などの名所舊蹟に富んでゐる。

石橋町

石橋、下石橋、下大領、東前原、中大領、上大領の一郷五ヶ村が合併して今の石橋町を生み出したが、石橋はもと石

橋村と稱し、日光廟造營以來國道開通して漸く繁昌を呈し、石橋郷と改めて支配所を置かれたほどだつた。

面積〇・四五方里、その戸數八百餘、人口四千六百餘、商業に従事するもの最も多く、次は農業で米、麥、藪、葉煙草を生産する。

東北本線石橋驛あり、町立青年學校、産業組合、會社の設けがあり、村社六、無格社五、寺院一、境外佛堂三をかぞへ大字石橋に役場を置く。

大字石橋にある開運寺は、新義眞言宗智山派智積院末中本寺格にして石橋山阿彌陀佛と號して世に名高い。

小山町

本町は依藤太秀卿十世の孫政光從五位下が下野大椽となつて武州太田の社からこの地に居を構へるに至つて、漸く世に知られて來た。小山、稻葉郷、神鳥谷の大字に分れ、面積〇・九三方里、戸數二

千七百餘、人口一萬四千餘、役場を大字
小山に置き、商業頗る殷賑、農と工とが
伯仲の間にある。

主なる生産物としては米、麥、繭、木
炭、水産物、酒類をかぞへる。

東北本線、兩毛線が通じ、バスの往來
また極めて頻繁、思川町の西部を貫流す
る。町立實業學校、町立高等實踐女學校
産業組合一、會社八の設立を見、郷社一
村社二、無格社八、寺院一〇、境外佛堂
五、教會五がある。

名所舊蹟としては城山城址、郷社須賀
神社、明治天皇行在所等がある。

間々田町

往古の儘田宿の地にして、小山町の西
南に接し、西方に思川あり、土地一般に
低濕にして沼澤地が多い。耕地は田三百
六十町歩に餘り、肥沃且つ灌漑に富み、
また畑地の桑園に好適の地質なれば、農
蠶の業頗る盛んである。主産物には米十

七萬圓、繭二萬五千圓、麥六萬三千圓の
年産がある。

戸數千有餘、人口約六千をかぞへ、面
積一方里二三五を占め、町内には郵便局
農産物検査出張所、區裁判所出張所、
酒造工場、産業組合等を有し、蠶絲貿易
家として著名な書上順四郎氏は本町の出
身である。交通は、東北本線間々田驛を
有し、縣廳まで十里餘、陸羽街道が鐵道
に沿ふて走る。乗合自動車は大戦坊、古
河、部屋、栃木等に通じてゐる。なほ名
勝として安房神社、千駄塚、龍昌寺内の
建治三年の板碑等が知られる。

藤岡町

郡の西南部に位し、中央北部に赤麻沼
を抱き、西南は江戸川支流を以て埼玉縣
と境を接する。土地低平にして農業及び
織物業が盛んに行はれ、米、繭、麥の産
が多い。續奥の細道に、
菅笠の留りや馬の夏仕度

大宮村

栃木市の東に接し、土地平街なる耕作
地にして、畑は北に、水田は南に多い。
戸數六百九十、人口四千五百をかぞへ
面積零方里七三四を占め、大宮、今泉、
平柳、藤田、仲仕上、樋ノ口、高谷、久
保田、宮田の九大字より成る。
主産物としては米二十七萬圓、繭八萬

圓、麥四萬八千圓等の年産があり、大宮

村信販利組合は本村産業經濟の發展に
資するところ甚大なるものあり、その基
礎は確實、經營は堅實を旨としてゐる。

兩毛線栃木驛まで僅か一里にて達するを
得、バスの便がある。社寺には村社大宮
神社、同星宮神社、光永寺、如意輪寺、
普賢院等あり、小學校は大宮尋高校、大
宮尋常校の二校を有し、教育思想の普及
大に賭るべきものがある。なほ陸軍々醫
總監須藤理助氏は本村出身である。

國府村

栃木市の東北一里に位し、土地大體に
於て平坦である。東方には鬼怒川あり、
涸渇して砂礫層の肌あらはなるものがあ
る。水田は三百九十町歩、畑地はなほ多
く、地味肥沃なるを以て耕作頗る盛大で
ある。産物は米二十餘萬圓、繭二萬圓餘
麥八萬圓餘等を主なるものとす。
村は惣社、大塚、柳原、大光寺、田、

寄居、國府の諸字より成り、往古國府の
所在地なりしも、今はその址を尋ねるに
由なく、惣社神社にある室八島は、その
昔、親鸞上人が教化をなしたる地にて、
門徒の崇敬措かざるところである。近く
に親鸞池がある。社寺には縣社大神神社
ほか一〇、觀明寺、興永寺、顯照寺、西
光寺、勝光寺、道安寺がある。因に面積
は零方里九六一あり、栃木街道通じ、宇
都宮栃木縣のバスの便がある。

稲葉村

壬生町の西北に接し、鬼怒川の涸渇せ
る二流南に下り、土地は沖積層の豊沃な
る耕地にして平坦である。戸數九百二十
餘、人口五千八百を擁し、面積一方里一
七三、米、繭、麥の産が多い。東北本線
石橋驛へ三里、日光西街道に沿ひ、石橋
驛及び兩毛線栃木驛へはバスが通つてゐ
る。村内には郵便取扱所、産業組合、村
社高尾神社、圓宗寺、歡喜院等のほか村

社四がある。

心なき人に見せばや下野の
いなばの里の親だきの松
したいこし姫が心のまことなほ
常盤にのこす親だきの松
と歌に詠まれた名勝親抱の松は、松は枯
れてもその址は歌と共に残つてゐる。ま
た義経母衣掛松の舊蹟も村内にある。

南犬飼村

郡の東北端に位し、宇都宮市の西南約
二里半の地にあり、北は上都賀郡北犬飼
村、西は本郡稲葉村に境し、南は壬生町
につゞき、東は委川を以て委村に隣接す
る。面積一方里五七五、土地平坦、むし
る低濕にして耕地よく拓けてゐる。戸數
八百二十餘、人口五千五百を有し、米二
十二萬圓、繭三千圓、麥十萬餘圓の年産
がある。

村内には郵便取扱所、村社小林神社、
同四所神社、安昌寺、化城寺、上田寺、

小林寺、眞照寺、中泉寺、不動院、寶光院等があり、東武鐵道の國谷驛及び安塚驛を有し、栃木街道は南北に村を貫き、宇都宮市壬生町間のバスも走り、交通至便にして縣廳へは二里十八町の位置にある。因に村は北小林、安塚、國谷、助ヶ谷、中泉、上田の六大字より成る。

姿村

郡の東方に位し、宇都宮市の南方三里半に當る。西方に姿川ありて南大飼村との境界をなし、下古山、橋本、細谷、上臺、下長田、上古山の六大字より成り、面積一方里〇二八、土地低濕にして水田三百九十餘町歩を有し、東方は稍々高燥にして畑地が多い。戸數五百七十餘、人口三千九百をかぞへ、主に農蠶の業に従事し米二十二萬圓、繭一萬四千圓、麥八萬圓の年産がある。

國分寺村

本村は町村制の實施と共に小金井宿、川中子村、國分村、箕輪村、笹原新田村柴村の一宿五ヶ村の合併によつて生み出されたもので、役場を大字小金井に置いてある。面積は二〇・七六方杆、戸數總じて一千七十餘、その人口六千六百、農を第一に畜産、商業の順に生業となし、米、麥、繭、葉煙草、大麻を産するの外、鶏、牛乳等をも旺んに出してゐる。東北本線小金井驛あり、縣道また縦横に走つて交通に便する。國分寺村青年學校、産業組合、畜産組

桑村

小山宿より芋柄新田へ一里十町、と元祿の行裏抄にある如く、近世まで新田組と稱した地で郡の東方に位し、小山町の北に接してゐる。西は思川を以て豊田村と相對し、北は國分寺村につゞき、東は田川を挾んで絹村と境する。羽川、荒井鉢形、東山田、北飯田ほか八大字より成り、面積一方里九四一、土地低平にして地味膏腴、耕作に適し農作物の産が多い。役場より東北本線羽川驛へ半里、縣廳へ六里四町、國道南北に通じ、小金井驛小山町間のバスが往復して交通の便良好である。村内には郷社一、村社檀原神社ほか一、無格社九、金剛院、紫雲寺、萱

林寺、妙典寺、藥王寺等の社寺あり、琵琶塚古墳は指定史蹟地にして前方後圓墳で、後圓墳の頂上に熊野神社が鎮座する

絹村

郡の最東部にあり、東は鬼怒川本流を以て芳賀郡につゞき、北は河内郡に接し西は田川を挾んで本郡桑村に對し、南は茨城縣結城郡に接する。土地平坦の沃野にして耕地よく拓け、桑園また多い。戸數千五百、人口六千八百を有し、その大部分は農蠶業を營み、米二十二萬圓繭十三萬圓、麥四萬餘圓の年産がある。面積一方里一三七、中央に縣道あり、西方に結城街道あり、川島結城間のバスが通つてゐる。往昔、結城氏朝と足利義教の交戦の時、結城方の春平安王（足利持氏の子）が足利方に擒にせられしはこの邊である。なほ本村特産の結城紬は高雅なる風致と堅牢とを以て洽く世人に知られ、實用向の織物としての價値は夙に

大谷村

小山町の東に接し、東西三十町、南北三里弱の長延なる農村にして、面積一方里九五四あり、東西に二小流ありて灌溉の便よく、土地一般に低濕にして耕圃よく拓け、水田五百七十餘町歩を有す。産は米繭麥を主とし、村民は殆ど全部が農蠶の業を以て生計を樹てゐる。東北本線小山驛へは一里、縣廳まで十里強、交通状態良好である。天正十八年、武州忍の城主成田氏長が罪を得て、野州を浪々せる際、秀吉は氏長の娘の無双の容色なるを愛してこれを容れ、その娘の嘆訴により氏長は烏山にて三萬石を賜はつたといふ。今、村は雨ヶ谷、東野田、武井、南和泉、横倉、横倉新田ほか七大字より成り、村内社寺には村社血方神社ほか一、無格社二、櫻源寺、成就院、松岸寺、持福院、稱揚寺

野木村

往昔の奥州路の一驛にして、源範頼が志太義廣と激戦を交へたる地で、郡の最南部に位し、茨城縣古河町の北に接してゐる。東西約二里、南北一里半、面積一方里二三五あり、土地概ね平坦にして西方思川流域には桑園あり、耕圃よく拓け農産物の産多く、米十七萬圓、繭八萬圓麥十萬圓の年産額がある。東北本線間々田驛へは一里、縣廳へ十一里三十町、陸羽街道に沿ひ、小山町古河町間のバスが通つてゐる。村内には郵便取扱所、製糸工場、郷社野木神社、村社一〇、無格社一八、光明寺、淨明寺、法音寺、法得寺、滿願寺、滿福寺があり、滿福寺には足利成之の墓がある。また歌人にして法橋に叙せられたる猪苗代兼栽の墓も村内にある。村民の氣風醇厚である。

定評がある。

福壽院、西光寺などがある。

生井村

茨城縣古河町の北方一里半のところ
在り、西は藤岡町と共に赤麻沼を擁し、
東方に巴波川、思川の二流あり、面積零
方里七九にして土地低平である。産物
は米、麥、藪を主とし、南部に桑園が多
い。戸數六百二十餘、人口三千六百をか
ぞへ、村内には郵便局、信用組合、村社
六、無格社九、稱念寺、善福寺、大乘院
長慶寺等あり、往古網戸には網戸十郎朝
村なる者あり、寒川時光の兄にあたり、
今、その墓は名所の一に擧げられる。吾
妻鏡に「網戸郷を寒川尼に給はる」の文
見え、相當古くから發達した村である事
が分る。
現在生良、下生井、白鳥、網戸、楢木、
上生井等の大字より成り、野木尋高校は
訓育教授に各種施設の見るべきもの多く
兒童の出席率良好にて、他の範とするに
足るものがある。

寒川村

小山町の西南一里半のところ
東は小流を以て生井村につゞき、西は巴
波川を以て、部屋村及び水代村と相對す
る。
土地濕潤にして、水田良くひらけ、約
三百九十町に上る。耕地膏腴、米、麥、
藪等農産物の産出が多い。戸數は四百を
越え、人口二千四百有餘人、面積は零方
里四四五あり、東北本線間々田驛へ一里
半、栃木市と古河町間のバスが村内を通
り交通は至便である。
村は中里、鏡寒川、迫間田の三大字か
ら成る。小山朝光の母八田氏は頼朝の乳
母にて、後に寒川尼といひ、朝光の子時
光また寒川氏を稱した。村名は明治二十
二年までこの邊一帯を寒川郡と稱せしに
より名づけられた。郷社胸形神社、村社
四、無格社五、觀音寺、正福寺、龍樹寺
等の社寺を有す。

穂積村

元の生駒郷の地にして、東は思川を以
て小山町に對し、南は同川を挟んで間々
田町に境し、西は寒川村につゞき、北は
豊田村に接壤する。萩島、下國府塚、上
國府塚、上石塚、下石塚、大行寺、石ノ
上、鹽津、間中等の部落を合して成り、
面積零方里八四三、戸數約五百六十、人
口三千四百五十をかぞへ、栃木平野の平
坦なる沃地にして、水利の便よく、水田
耕地拓け、米、藪、麥等の農作が盛んで
ある。
東北本線小山驛へは、僅かに二十町、
縣廳へ十二里十町にて達するを得、和泉
街道は東西に通じ、小山驛へはバスの便
あり、交通状態良好である。
村内には星宮と稱する古き叢祠あり、
また社寺は村社九、無格社一六にて、觀
福寺、正泉院、等覺寺、無量寺等が擧げ
られる。

豊田村

本村は大本、小宅、小藥、黒本、島田
澁井、立木、荒川、松沼、卒島、今里、
上初田の十二大字から成つてゐるが、明
治維新前は名主組頭の制を以て統制され
てゐた。明治十八年十二ヶ村聯合して卒
島村外十一ヶ村と稱し、同二十二年町村
制發布に當つて聯合村合して豊田村と改
稱、現在に及んでゐる。
面積一・三八方里、戸數約一千百、人
口約七千を有して農を生業とし、米、麥
を産するの外、家禽の副業もさかんであ
る。役場を大字小藥に置き、青年學校、
産業組合も設けられてゐる。
名所舊蹟としては朝日松、小山政光の
碑、思川堤の眺望、稱念寺の古碑、古城
跡などが數へられてゐる。

中村

本村は現在、南小林、上泉、下泉、井
岡、小袋、下河原田、生駒、大川島、下
初田の九大字から成り、役場を南小林に
置く。
廣袤東西二・七三軒、南北四・〇〇軒
面積八・二二六方軒、戸數約六百、人口
三千五百餘を占め、農を主なる生業とな
し、米、麥、藪を産し、養鶏の副業も盛
大である。
中村青年學校を大字南小林に設け、産
業組合また優良な成績を見せてゐる。村
社八、無格社一、寺院二をかぞへる。
木賊原の螢火、「渦の螢」として著聞
し、現に天然記念物保存の假指定地にな
つてゐる。

瑞穂村

栃木市の南に接し、横堀、北武井、上
高島、牛久、藏井、土與、川連、上高島
眞弓等の大字より成り、土地平坦にして
巴波川の二支流が村内を灌溉し、耕圃拓
け、農作物の産多く、七百十五町歩の水
田からは米だけで二十七萬圓の年産があ
る。面積零方里七八八、戸數約七百九十
人口四千六百五十を有し、兩毛線栃木驛
へは僅かに一里にして達するを得、毎日
バスが往復し、縣道は南北に通じ、交通
の便極めて良好である。瑞穂村信購販組
合は經營堅實にして近來事業成績頗る良
好を加へてゐる。
徳川四代將軍の母お樂の方寶樹院殿は
五代將軍の寵姫お傳の方と共に高島部落
の産であり、また勤王家として知られる
川連虎一郎氏も本村の出身である。村内
には郷社諏訪神社、村社愛宕神社、牛來
寺、法王寺、法宣寺、寶藏寺等の社寺が
ある。

水代村

水田四百十餘町歩、畑地亦發達し、所々に樹林が農村らしい景觀を添へてゐる。米、藪、麥、清酒の産あり、信購販組合の活動は本村産業經濟の進展に資するところが多い。

村は西水代、西野田、榎本、伯仲、新の五大字から成り、吾妻鏡養和元年野木合戦の條にある水代六次の故郷として知られ、縣廳へ九里二十四町、東北本線小山驛へ二里半、兩毛線栃木驛へ二里餘、いづれもバスの便を有し、交通状態良好である。榎本城址は名蹟として聞え、社寺は村社八坂神社ほか六社、無格社二、圓明寺、延明寺、慈濟寺、聖天寺、總徳寺、長福寺、東明寺、報恩寺、妙性院等がある。

部屋村

茨城縣古河町の北方二里半の地にあり南西部は生井村と共に赤麻沼及びその附屬湖を擁して沼澤地帯をなし土地低濕で

北は稍々平坦にして、耕地よく拓けてゐる。部屋、緑川、新波、石川新田、帯刀新田、西前原、蛭沼、富吉、中根等の部落より成り、面積一方里一七四、米、藪を主産物とし、村内には郵便局、巡査部長派出所、生井村外三ヶ村用排水幹線改良事務所、區裁判所出張所、産業組合等の各種機關備はり、名勝赤麻沼を有し社寺には村社一〇、無格社二〇、感應寺圓城寺、持福寺、藥王寺、山王寺等がある。東北本線間々田驛へ二里數町、縣廳へ十一里十五町、縣道通じ、間々田驛と栃木市及び古河町間を往復するバスは村内を走つてゐる。源平盛衰記に、戸矢子七郎の名あり、その子を佐野基綱、阿曾沼弘綱とすとあり、部屋の村名はこの戸矢から轉じたものである。

赤麻村

延喜式に、下野國朱門馬牧とあるは本村の事で、古は牧場地であつたらしい。

朱門はアカマと訓じ、後、赤麻に轉じた。縣の南部に當り、栃木市を去ること南へ五里、藤岡町と隣接して赤麻沼を擁し、赤麻、大前の二大字を有し面積零方里七二三、洪積層の平行なる沃野にして耕畠多く、農耕盛んで、米五萬餘圓、藪五萬圓、麥六萬圓の年産があり、赤麻、大前の兩産業組合は年毎に事業量の増大を示し、成績また顯著である。

三鴨村

群雄割據時代に數度の戦火を浴び、田圃の過半は荒蕪に歸したを、徳川氏覇府を江戸に開くに及んで漸く荒蕪の地も回

復し、明治の聖世となり、市町村實施に際して伊村、都賀村、太田村、大田和村の四ヶ村を合併、三鴨村と改稱、舊四ヶ村を大字となして今日に至つてゐる。

面積は四三千方軒、戸數七百七十、人口約四千四百人を算し、概して農を主業となし、米、麥、藪等を産してゐる。亦林業に於ても相當の成績を見せてゐる。

役場を大字伊に置き、村立青年學校、産業組合、畜産組合が設立され、村社八寺院二を見る。

大字大田和にある三義山は安蘇郡との境界に孤立し、關東の大平原を一望に收むる絶頂の地として名高く、また柱神社境内にある太田櫻も有名である。

岩舟村

郡の西部に位し、佐野町の東方二里半にあたり、西北は三義山、岩舟山、鷺ノ巢山の岳陵連立し、東南は開け、平坦なる洪積層の肥沃なる土壤にして農作に適

し、田百八十町歩を有し、米九萬餘圓、藪八千圓、麥五萬圓等の年産がある。村は靜、疊岡、下津原、鷺ノ巢の四大字から成り、兩毛線岩舟驛あり、縣廳へ十一里餘、和泉街道東西に通じ、小山町佐野町及び栃木市へバスの便あり、交通状態良好である。

村内には郵便局、農産物検査出張所、區裁判所出張所、醬油及び酒造工場等あり、岩舟尋高校は十九學級編成にて體育訓育に見るべき點多く、また社寺には村社八寺のほか惠性院、高勝寺、高平寺、淨泉寺、淨蓮寺等あり、岩舟山頂の岩舟地藏堂には形狀船に似たる岩石あり名勝として著はる。

小野寺村

栃木市の西方二里半、郡の西端に位し安蘇郡堀米町及び沼田町と境を接し、東西北の三面は山岳丘陵に圍繞せられ、中央に平地あり、南方は開けて關東平野に

つゞく。古江、小野寺、三谷、上岡、下岡、新の大字を有し、往古の小野郷の地にして大慈寺あるが故に、小野寺と稱し、亦一遍上人の開基せる住林寺あり、上人の繪傳に「弘安二年の冬下野國小野寺といふ所にて俄に雨おびたたく降りければ尼法師袈裟衣などぬぐを見給ひて

降ればぬれ濡るれば乾く袖の上を雨とていとふ人ぞはかなき

云々」と見え、その他村内には郷社繪神社、吉祥院、成就院、清水寺、東光院、龍鏡寺等の社寺がある。面積一方里五六米、麥、藪の産あり、兩毛線岩舟驛へは二十町にて達するを得、佐野町へはバスが通つてゐる。

富山村

栃木市の西南一里の地にあり、西北は馬不入山、梟石山の丘陵に掩はれ、その他は大體平坦にして、耕圃よく開拓せら

れ農作が盛んで、米十六萬圓、麥五萬圓、繭一萬二千圓の年産がある、富田、西山田、下皆川の三大字より成り、面積零方里九五七、村内には郵便局、農産物検査所出張所、酒造工場、産業組合等ありまた村社五、無格社三、安養院、玉正寺、光盛寺、清水寺、寂光寺、大中寺、長樂寺、如意輪寺、報恩寺等の社寺あり、大中寺は西山田にありて、小山重長の創立せる禪刹である。奥の細道に

とあるは舊蹟富田氏の古城を弔ひし句といはれる。兩毛線太平下藩、東武鐵道新太平下驛を有し、藤岡街道通じ、栃木市及び藤岡町へはバスが走つてゐる。

静和村

當村は古くから都賀郡に屬し、本郡分裂して上下二郡となるに及んで下都賀郡に屬した。明治二十二年町村制實施と同時に松泉、三和、五十畑、静戸、曲ヶ島

を合併して静和村と稱した。面積三・九三平方米、戸數約六百、人口三千六百餘人、農を主業となしてゐる。従つて米、麥、繭、葉煙草などを産し、僅かに薪炭材、竹材を出してゐる。役場を大字和三に置き、村立青年學校産業組合の設けがあり、村社二、無格社四二、瀧水寺、東光寺の寺院がある。東武鐵道村の中央を縦貫し、兩毛線また村端を走りて、佐野街道、栃木街道、間々田街道、藤岡街道の便がある。

皆川村

往古皆川山城守の居城地たりしにより皆川の村名ありといはれ、城址は今城内山に残つてゐる。栃木市の西方一里半の地に位し、東西二里、南北最廣一里半、面積一方里七二七に及び、皆川城内、大皆川、新井、泉川、岩出、志鳥、小野口柏倉等の部落を有し南西、北の三方に丘陵を負ひ、中央及び東北部に平地あり、

吹上村

當村は古くは岩田の郷皆川の庄と稱して、皆川氏の領邑だつた。町村制施行に當つて吹上、細堀、木野地、川原田、野中、宮、千塚、大森、仲方、梓の十ヶ村合して吹上村と稱し、舊十ヶ村を大字と呼ぶに至つた。役場は大字吹上に置く。面積一・〇〇方里、戸數一千五十餘、人口六千四百餘、その三分の二餘は農に従事し、僅かに商、工の業者があるに過ぎない。當村の産物としては米、麥、繭

葉煙草、大麻、木炭などが數へられる。

村立青年學校、産業組合があり、村社五、無格社五、寺院六、境外佛堂二がある。

栃木市と寺尾村に至る鐵道があつて、交通の便を助けてゐる。

吹上城址、伊吹山善應寺、伊吹山の名所舊蹟を有し、伊吹艾の産地として知られてゐる。

寺尾村

郡の西北端に位し、北は上都賀郡永野村、西南は安蘇郡常盤村に境し、東は本郡吹上村及び赤津村と隣する。梅澤、鍋山、大久保、尻内、出流、星野等の部落より成り、面積二方里三五八、地勢高燥にして山嶽連互し、三峰山が村の中央に聳えてゐる。また永野川貫流しその沿岸には平地あり、水田は約二百三十町歩に上る。俗に出流澤と呼ばれ、山谷は著名なる古生層にして古來石炭の産地として

知られ、

炭がまに降りつむ雪と見ゆるかな

石灰をやく都賀のなべやま

の歌がある。石灰工場三、座敷等製造工場一を有し、米、麥、繭等の農産物もある。出流山千手院は、天平年間、勝道上人の創建と傳へ、千手觀音像を安置し、その他鐘乳洞、石灰洞等の名勝がある。

赤津村

栃木市の北微西一里餘のところにある西方は丘岡連互するも、東部は開けて關東平野と相續き、土地一般に平坦である富張、木村、原宿、白久保、大橋、深澤大柿等の大字より成り、面積一方里二三戸數約八百九十、人口五千三百をかぞへる。永野川の一小支流ありて耕圃開拓せられ、農耕盛んにして米十七萬圓、繭一萬五千圓、麥五萬圓の年産がある。

村内には郵便取扱所、産業組合、玉塔院、建幢寺、長福寺、龍興寺等あり、名

勝では出井山華嚴寺古跡、神樂岡、要害山の古戰場等が著名である。兩毛線栃木驛へ一里餘、縣廳へ八里、東武鐵道家中驛へ近距離にて、縣道栃木栗野線は村内を縦貫し、一日六回往復の乗合自動車の便がある。

家中村

本村現在の大字、即ち家中、合戰場、平川、新塚はもとそれ〴〵獨立した村であつたが、町村制の實施と共に合併し、家中村と改稱して今日に及んでゐる。面積一・〇〇方里、九百五十餘の戸數五千六百餘の人口をかぞへ、農を主たる生業となして従事、米、麥、繭、大麻を産し、家禽の副業によい成績を見せてゐる。

役場は大字合戰場にあり、村立青年學校、産業組合、村社四、無格社一四、寺院二、境外佛堂七がある。栃木市及び鹿沼町に通ずる縣道に沿ふ

て武東鐵道走り、家中驛を設けて交通に便してゐる。
平川城址、光明寺、新塚、合戦場などの舊蹟がある。

農を生業とする 鹽谷郡

位置、地勢 北は福島縣岩代國南會津郡に境し、東は本縣の那須郡に接し、南は芳賀、河内、上都賀の郡と三交はり、西は群馬縣利根郡に隣接する。郡のほぼ中央に高原火山群が峙ち、鬼怒川の谷と箒川との谷とを分ち、温泉の湧出が多い鹽原温泉郷は箒川の上流にあり、鬼怒川温泉は鬼怒川の谷に湧く。

交通 省線東北線は郡の南東部を縦断して那須野に向ひ、烏山線は寶積寺驛より南に延びて烏山町に至る。また矢板町より下野電氣軌道があつて、西に向つて郡を横断して、日光線の今市驛に至り、

更に途中より鬼怒川の谷谷を廻る。名所、舊蹟 鹽屋城址には

旅表うらぶれて行く鹽の屋に
如さびしき夕がイミかな

の古歌を残し、鞍掛の松、木幡、長峰公園、鹽原温泉、氏家城址等をはじめ、木連川代官跡、葛城古戦場、寺山觀音寺、回願橋、湯西川温泉、川俣温泉、鬼怒沼、鬼怒川温泉、川治温泉、天頂鑛山、佐貫石佛、玉田の三本杉等の名所舊蹟多く、殊に有名温泉の多いことは他府縣にまで知られ、都人士の來り浴する者年毎に多きを加へてゐる。

區劃 全郡を分ちて四町十二ヶ村とし、こゝに九萬二千人弱の人が住んでゐる。

町 矢板、氏家、喜連川、鹽原
村 泉、箒根、三依、栗山、藤原、船生、玉生、大宮、北高根澤、阿久津、熱田、片岡

矢板町

西北より東南にかけ高原火山脈に屬する山岳走り、中央部には荒川の上流が東南に流れて居り、東部及び北部は那須の高原平野の南端に當り、土地平坦にして東北本線並に陸羽街道通じ、沿線に市街が發達する。
面積二方里八三九、曾ては郡役所のあつたところで、今も町内には郵便局、警察署、土木區事務所、農産物検査所出張所、財務出張所、區裁判所出張所、專賣局煙草販賣所等の官衙をはじめ、町立圖書館、縣立矢板農學校、町立矢板實踐女學校の教育機關及び銀行支店、酒造會社製材所等あり、信用組合その他産業助成機關もよく發達する。
名勝には鞍掛の松、鹽谷城址、木幡神社、長峰公園等が、廣く世に知られてあり、東北本線矢板驛並に下野電氣軌道新矢板、幸岡、柄堀の三野を有し、船生、玉生、左久山、上伊佐野、鹽原、大田原小泉、關谷へは乗合自動車があり、交通の便頗るよい。

鹽原町

那須野の西方、箒川の溪谷に沿ひたる地にして、高原火山群の一部たる那須火山脈の山間にあり、温泉湧出し山靈秀絶翠峰四周を圍み、清流瀑布絶佳にして温泉郷として昔から名高い。町は面積六方里六七二、尾崎紅葉の金色夜叉には「鹽原の地形たる、鹽谷郡の南より群峰の間を分けて深く西北に入り綿々として箒川の流に折る片組の四里に岐れ、十一里に亘りて到る處巍巖の水を夾まざる無きは（中略）水有れば必ず橋あり、全溪にして三十橋。山あれば巖有り、巖あれば必ず瀑有り、全嶺にして七十瀑。地有れば必ず泉あり、泉あれば必ず熱あり、全町にして四十五湯。猶數ふれば十二勝、十六名所七不思議、誰か一々探り得べき。」と述べてゐる。旅館ホテル等約四十をかぞへ遊客の便至らざるなく、東北本線西那須野驛より六里餘、鹽原電車ありて交通至

便である。

藤原町

本町は南北に長く、東西に短く、鬼怒川その間を流れ、面積一二八方軒を占めてゐる。

本町はもと宇都宮領と日光神領とに分れてゐたが、後ち川治、高原、藤原、大原、瀧、小佐越、柄袋、高德の八ヶ村に外六ヶ村を加へて藤原村と稱し、次で六ヶ村と分離し、昭和十年五月五日町制を施行して藤原町と改稱、今日に至つた。

戸數一千餘、人口約六千、商業を首位に農、工の順生業となし、米、麥、蕎麥、木炭を産し、養鶏の副業旺んでゐる。役場を大字大原に置き、公立青年學校

産業組合二、會社四の設立を見、無格社七、清隆寺外三寺院がある。

川治温泉、濱子中島、鬼怒川温泉、清隆寺、小原公園、小原古戦場、小佐越吊橋の奇景など、名所舊蹟に富んでゐる。

氏家町

中世氏家郷としたところで、郡の西部に位し、鬼怒川の東岸にあり、土地概ね平坦にして、耕圃拓け、農産物の産が多い。市街は陸羽街道に沿ふて發達してゐる。

面積一方里六一九、東北本線氏家驛及び蒲須坂驛あり、縣廳までは四里二十四町、國道陸羽街道並に縣道大田原街道あり、乗合自動車は大宮、宇都宮、小川、馬頭等に通じ、交通至便である。

氏家城址は建久年間氏家公頼の修築にかゝるもの、釜ヶ淵は、家臣の謀反によりて勝山落城の際城主の姫二人が相抱いて身を投じたところと傳へ、その後この淵に紅白の鯉二尾住み、その一を取り去らんとせる漁師に後より「雪姫々々」と連呼するものあり、爾來この淵に網を投ずるものはないといふ。なほ町内には郵便局、草川用水幹線改良事務所、農産物

検査所出張所、氏家高等女學校、銀行支店、農具工場等がある。

喜連川町

もと狐川といひしを古河御所公方の生實國朝ここに移任してより、めでたき文字に改めて喜連川といつた。これより喜連川公方と稱し、江戸幕府は賓禮を以て遇し、足利氏五千石の領地として近世に至つた。氏家町の東方一里半の地に位し土地平坦にして地味礪確なれど内川貫流して耕圃よく拓け、内川の二支流の合するところに市街がある。

面積二方里三九九、生産總額四十四萬圓をかぞへ、町には郵便局、専賣局出張所、警察署、區裁判所出張所、穀物検査所、派出所、銀行支店、産業組合、喜連川煙草耕作信用組合等あり、名勝としては薬師山、鹽谷氏の城墟、喜連川代官跡、將軍道、葛城古戰場、葛城古城址、長者平、鷲宿古戰場、彌五郎坂等が廣く聞え

てゐる。交通は東北本線氏家驛へ二里、大田原街道通じ、烏山氏家間のバスが通じてゐる。

泉村

矢板町の西北に接し、東西四里、南北一里半の長延なる山村にして、面積五方里四九一、小泉、上大田、長井、立足ほか六大字より成り、西北隅高原山の峻嶺あり、地勢高燥にして山林原野多く、西方内川流域に平地があるのみである。米、麥、繭の産多く、郵便局、村立圖書館、産業組合を有し、東北本線矢板驛へ一里半、縣道南北に通じ、バスの利便がある。

天正年間、宇都宮廣綱と那須資晴とがこの地に戦ひたる記録あり、もと本村は鹽谷郡の中部にあり、泉村となつたのは昔時この地方を泉ノ郷と稱したためである。舊幕時代は宇都領、岡本領或は佐倉領と區々に分立した。寺山觀音寺の本尊

千手觀音は木像にして高さ三尺三寸八分鎌倉初期のものにして、國寶に指定されてゐる。

箒根村

矢板町の北方三里、鹽原山谷の入口にあたり、一里ばかりにして大網温泉がある。高原火山脈の東方斜面に位し、箒根の水源地をなし、地勢西方に山岳を負ふて山林原野多く、東方は平坦にして廣大なる那須野原に續き、關谷、遷野澤、墓沼、折戸、上横林ほか七大字より成り、面積五方里五四七、米、麥、繭等を主産物とする。

村内には郵便局、區裁判所出張所、産業組合等あり、小學校關谷尋高校のほか金澤、大貫、横林の各尋常校を有し、いづれも成績著るべきものが多い。鹽原の入口といはれる回顧橋は名勝の一にかぞへられる。また社寺には村社箒根社、同箒根神社、玉養寺、要金寺等がある。東

北本線西那須野驛へ三里、會津街道並に鹽原電車線あり、バスの便も頗る良好である。

三依村

縣の西北端に位し、福島縣との間に帝釋山脈連亘し、荒海岳、安ヶ森岳の峻峰が聳立する。村内山岳重疊し、地勢高峻鬼怒川の上流たる男鹿川の流域に僅少の平地あり、部落はここに聚つてゐる。戊辰戦役に於ける日光戦の際、その戦塵を浴びて兵火の巷となつたところで、村は中三依、上三依、芥澤、五十里、獨站澤横川の部落より成りて面積一〇方里三五五、米、繭、麥のほか、林産物の産出が多い。

中三依に村役場を置き、ここから縣廳まで十七里十町、會津の街道が南北に通じ、北は山王峠の峻嶺を越えて福島縣田島町に南は今市町につゞき、今市へは途中高原バスより、藤原より電車の便あり

東方は鹽原を経て東北本線西那須野に至るバスがある。

栗山村

郡の西端に位し、福島縣及び群馬縣との境界をなし、四圍山岳重疊し、鬼怒川上流の山間の地にして温泉あり、四時風景美に富み近時行樂の地として有名になつた。明治維新前は日光御神領で、面積二七方里六五九の大村である。

湯西川温泉は無色透明の硫黄泉で、皮膚病、痔疾、眠病に效あり、海拔千米の全くの深山幽谷にして避暑地として好適である。その他川俣温泉、八丁ノ湯、鬼怒沼等あり、湯澤噴泉塔は、炭酸石灰を含有する温泉が湧出の際、噴出口の周圍に沈澱堆積したもので、高さ七尺に達し學術上貴重の資料で、天然記念物に指定されてゐる。藤原までは電車、川治温泉までは自動車の便あり、日光湯本へは徒歩三里半で達しられる。

船生村

矢板町の西方四里の地に位し、北に高原火山の峻峰を負ひ南に傾斜して鬼怒川に臨んでゐる。地勢高燥なれども川に沿ふて平地がある。船生、佐貫の二大字より成り、面積三方里五五二にして村名は康暦時代、この地の豪族に舟尾氏ありしにより起つた。住民は主に農耕の業に従事し、米二十萬圓、繭四千圓、麥四萬圓餘の年産がある。

村内には郵便局、舟生村用水幹線改良事務所、區裁判所出張所、産業組合、村社岩戸別神社、觀音寺等があり、史蹟に指定されたる佐貫石佛は高さ六〇米に餘る石英粗面にて、鎌倉時代に線刻せる大日如來の坐像が、今もあさやかに残つてゐる。下野電鐵及び日光街道に沿ひ、今市、矢板へはバスが通り、交通の便が頗るよい。

玉生村

矢板町の西方一里半に位し、北方に峻嶺高原火山を望み、その南斜面の地にあたり、山林原野多く、荒川は南に貫流しその沿岸には平地ありて豊沃の耕地が拓けてゐる。玉生、飯岡、道下、原荻、目東房ほか七大字より成り、面積五方里四〇七、住民の多くは農を以て生業とし、米十七萬餘圓、藪三千圓、麥二萬圓の年産がある。

弘長年間、城主に玉生氏なるものあり村名はこれより起つた。郵便局、砂防工營所、産業組合等を村内に有し、村社等根神社、醫王寺、延性寺の社寺あり、下野電鐵に沿ふて玉生、蘆場の二驛を置き矢板町及び今市町へはバスが通つてゐる

大宮村

郡の西南方に在り鬼怒川を以て河内郡

羽黒村と相對し、東西兩部に丘陵あり、中央は平坦にして荒川灌漑し、九百三十町歩の水田及び畑地がある。大宮、肘内田所、上平、大久保、風見、風山田、泉上澤等の大字より成り、面積二方里三七一、米、麥、藪等を主産物とする。

觀應二年、駿州薩埵山の合戦に討死したものの、中に、大宮兵部丞平胤景の名あり、同人が本村出身の者なるにより、大宮氏に因んで村名とした。郵便局、産業組合、村社星宮神社、同大宮神社、持明院、常樂院、信樂寺、長福寺、寶福寺等村内にあり、大久保の横穴は古蹟として名高い。東北本線片岡驛へは二里、縣廳へは約七里である。

阿久津村

氏家町の南に接し、西は鬼怒川を挟んで河内郡古里村に、南は芳賀郡清原村に東は本郡北高根澤村に接し、地勢は中央稍々高燥にてその他は概ね平坦である。

寶積寺、上阿久津、中阿久津、大谷、石末の五大字より成り、面積一方里七七二米、麥、藪を主要物産とする。

安積良齋に絹川を下る記といふ名文ありて當地の情景を寫し、宇勝山は明治九年車駕親臨の下に大演習の行はれたところ、また寶積寺附近は明治四十三年頃に特別大演習のあつたところである。村内には郵便局、農産物検査出張所、銀行支店、産業組合等のほか、村社星宮神社定事坊、大聖寺、本行寺、蓮性院の社寺あり、東北本線寶積寺驛からは烏山線が分岐し、また國道陸羽街道にはバスが走り、交通至便である。

北高根澤村

郡の南端に位し、東は那須郡荒川村に南は芳賀郡南高根澤村に、西は本郡阿久津村に、北は熟田村に隣接し、東と北の二方には丘陵を負ひ、その他は大體平坦である。太田、中柏崎、下柏崎、上柏崎

龜梨ほか七大字より成り、面積二方里五七二にして米、麥、藪等の産多く、村内には郵便取扱所、煙草耕作組合がある。宇都宮氏の一族たる三河守泰貞が、高根澤氏と稱し古くはその領地であつた。烏山線仁井田驛へ二十町、東北本線寶積寺驛へ一里強、共にバスの便がある。なほ村内社寺には村社安住神社、同津島神社、光見寺、地藏寺、淨蓮寺、大安寺、本立院、妙福寺、妙顯寺、量山寺、徳明寺などがある。

熟田村

往古の新田郷を轉訛して熟田村と稱せるものにして、氏家町の東南一里半の地にあり、東方は鴻野山の山岳を負ひ、西方は平坦なる耕地をなし、水田千四百餘町歩が拓ける。狹間田、伏久、飯室、松山ほか七大字を合して成り、面積一方里六〇、戸數約八百六十、人口五千五百をかぞへ、米、麥、藪等を以て主産物とな

片岡村

元の片岡郷の地で矢板町の南に接し、地勢概ね高燥なれど、南方氏家町との境に荒川あり東方に内川ありてその沿岸に平地拓け、六百八十町歩の水田を有す。交通は東北本線片岡驛による。

岡、越畑、安澤、石關ほか五部落を合し、面積二方里一八九、米、麥、藪の産が多い。郵便局、信用組合を有し、寺院には大善寺、本經寺、明本寺、藥王寺等がある。名勝玉田の三本杉は、承元年間の植栽にかゝるもので、近衛帝の時妖狐

あり、國中に横行して人畜に害すること夥しく、爲めに帝は伊勢の農受大神宮に祈願して妖狐の棲家たる大槻樹を焼拂つたが、この時より豊受大神を遷座し、妖狐退治の功績者にして産業の開發者たる勝善親王の墳墓に植えたのがこの三本の杉である。

蠶糸の旺んな

那須郡

位置、地勢 縣の東北部に位し、北は福島縣の岩代國南會津郡と磐城國西白河郡につゞき、東は福島縣東白川郡及び茨城縣の久慈、那珂の兩郡に接し、南は本縣芳賀郡に連り、西は鹽谷郡と境する。郡の東境には八溝山脈があり、北境には那須火山がそびえ、その東麓は所謂那須野の曠野であつたが、近時その開墾が大いに進んだ。東と北の山嶽をのぞけば郡の大部は平野で、その水は南部に於て

集められ、常陸に入つて那珂川となる。

交通 産業は蠶絲業が發達し、また葉煙草の産も少なくない。奥州街道は郡の中央をほゞ南北に貫いて白河關に至り、省線東北本線はこの街道から五六軒離れて並行し、烏山線は東北本線より岐れ郡の南部の烏山に至る。また東野鐵道線は西那須野驛より分れて小川に至る。

沿革 本郡は往古は那須國と稱し、國造を置かれたことは、現存せる那須國造碑によつて分明である。幕末には郡に、黒羽大關氏一萬八千名、大田原大田原氏一萬千余名、烏山大久保氏三萬石の三藩があつた。

區畫 全郡を分ちて九町二十二ヶ村とし、人口は約十七萬五千人である。

- 町 大田原、馬頭、烏山、黒磯、黒羽、西那須野、川西、佐久山、蘆野
- 村 親園、野崎、上江川、下江川、荒川、向田、境、七合、武茂、大内、大山田、那珂、湯津上、須賀川、兩郷、伊王野、那須、鍋掛、金田、東那須野、狩野、高

大田原町

本町は那須七黨の一なる大田原氏の舊邑にして、子孫連綿本領を安堵し、舊幕時代には一萬一千石の城下であつた。那須野ヶ原の中心にあたり、土地平坦なる草原にして、蛇尾川は西北より東南に流す。北方に權現山の丘陵を負ひ、市街はその南麓に形成する。街道發達してバス四方に通じ、東野大鐵道田原驛あり東北線西那須野驛までは四軒六で達しられ、交通の要衝をなしてゐる。

面積〇方里七八五、大田原公園の名勝を有し、古くは郡役所の所在地にして、現時官衙には供託局出張所、營林署、專賣局出張所、稅務署、郵便局、警察署、財務出張所、土木區事務所、農産物検査出張所、區裁判所等あり、また中學校及び高等女學校を有し、郡家畜保險組合、郡農會等の事務所も置かれ、會社銀行多

く、郷社大田原神社のほか一社七ヶ寺の社寺がある。

佐久山町

近世、那須七騎の一なる福原氏三千五百石の舊邑にして、福原氏は那須興一の嫡流である。郡の南部、大田原町の南一里二十八町の地を占め、北は箒川に臨んで僅かの平地ありこゝに佐久山の市街が展開する。南方は高原山脈に屬する丘岡が連五して箒川に迫つてゐる。面積一方里五五一、戸數約七百、人口三千九百有餘を擁し、町内には郵便局、區裁判所出張所、銀行支店、酒造場、産業組合等あり、産物は米、麥、繭、清酒等を主なものとする。

名勝に福原城址及び佐久山記念公園あり、社寺には郷社八幡宮、村社溫泉神社、同犬上神社、永興寺、女性寺、金剛壽院、實相院、常敬寺、正淨寺、長宗寺などあり、住民は一般に思想穩健にして敬神崇

祖の觀念に及んでゐる。東北本線野崎驛及び矢板町へはバスを通じ、交通至便である。

烏山町

郡の南方、那珂川の中流に位し、西北より江川來りて町の西部を掠め荒川に入る。面積〇方里三二一、道地勢概して平坦にして、道路四方に延び、烏山線の終點烏山驛を置き、北は馬頭町、南は茂木町、東は茨城縣高部村に乘合自動車を通じ、本郡南部地方の中心地をなす。

戰國以來領主に幾多の變遷を経て、近世は大久保佐渡守常春三萬石の城下町として明治維新に至つた。和紙の産地として名高く、錦紗綾、繻子の産額も多く、水産物及び米、麥、繭等も少なくない。町内には郵便局、警察署、農産物検査出張所、區裁判所出張所、專賣局出張所等の官衙のほか、中學校、實踐女學校あり、銀行支店、醸造會社も存し、社寺に

馬頭町

古くは武茂郷といつたところで、この邊は古來砂金出づといはれ、中務郷親平の歌に

あふことは那須の淘汰金いつまでか
くだけて懸に沈みはつべき

とあり、郡の東南に位して那珂川の支流たる武茂川に跨り、全町山岳丘陵連亘し高島山、藥師岳の高峰あり原野山林多く武茂川沿岸には僅かながら平地があり、こゝに小市街をつくつてゐる。

面積三方里一七二、戸數約千五百四十人口約八千を有し、米、麥、繭を産し、町内には郵便局、煙草試驗場、區裁判所出張所、專賣局出張所、町立圖書館、銀行支店等のほか各種組合及び團體が組織され、社寺は郷社健武山神社、村社鷺子

川西町

山上神社ほか四、乾徳寺、慈願寺、馬頭院あり、武茂城址、馬頭觀音、馬頭院の技垂栗、御即位記念公園等は名勝として知られる。

古くは黒羽向町といつたところで、芭蕉の奥の細道には、

那須の黒はねと云所へ野越にかゝりて
直道をゆかんとす、遙に一村を見かけ
てゆくに雨降り日暮る。農夫の家に一夜をかりて明れば又野中を行く。

とあり、元祿時代のこの邊の光景が髣髴としてゐる。町は郡の中部に位し、黒羽町の西北に那珂川を以て堺する。土地高原地帯にして本町附近より所謂那須野ヶ原の廣漠たる原野が展開する。那珂川の支流數條は西北より東南へと本町を横切つてゐる。面積一方里三二一、米、麥、繭、を主産物とする。

郡中部の交通の要衝にあたり、縣道四

通八達し、各地へバスの便がある。また町内には白旗城址の古蹟及び村社湯泉神社ほか三、寺院西教寺ほか二がある。

黒羽町

那須七家の一なる大關氏の居城にして子孫連綿として近く明治維新に及んだ。幕府時代には、一萬八千石の藩城であつた。川西町と那珂川を挟んで相對し、東部に八溝山連峰の山岳を負ひ、地勢漸次西に傾斜する。面積三方里四五、戸數千二百二十餘、人口六千四百有餘をかぞへ町内には郵便局、農産物検査所出張所、町立圖書館、銀行支店などがあり、産物は米、麥、蕎麥を主とし、黒羽産業組合の活動は見るべき點が多い。

東野鐵道黒羽向驛へ近距離にして交通の便よく、村内には村社湯泉神社、同八雲神社、安養院、全秀寺、大雄寺、法善寺、密乘院、與樂寺等の社寺あり、雲岩寺は清閑掬すべき幽境として遠近に名高

く、一日の清遊に枝を曳くものが多い。

蘆野町

近世、奥羽官道の衝にあたり、那須七騎の一なる芦野氏三千石の陣屋のあつたところである。縣の東北隅に位し、東北本線黒田原驛を去ること一里半、東北は福島縣に境し、東南は伊王野村に、西北は那須村及び鍋樹村に接する。東南部は八溝山系に屬し小岳連互し且つ溪谷多く西北部は那須山系に屬して原野多く岳陵起伏する。

廣袤東西一里半、南北三里、面積二方里八八八を有し、水田三百五十六町歩、畑三百町歩の耕地あり、米、蕎麥、葉煙草の産出が多い。東北本線黒田原驛へ一里半、バスの便あり、南方黒羽町へもバスが走つてゐる。遊行柳の世に知られたる名所にて芭蕉の句にも

田一枚植ゑて立去る柳かな
とあり曲にもうたはれ、その他名勝には

城跡、觀喜天、高野槇御神木、瓢石、駒の石橋、初花清水等がある。

黒磯町

東北本線に沿ひ、那須野ヶ原の坦々たる砂礫層の平原にして、東北面に御富士山的美裾の岳陵を負ひ、その麓を那珂川が東南に流れてゐる。那須温泉の門戸にあたり、毎夏新那須御用邸への陛下を迎へ奉るところにして、驛前通は直角に左右に延びてゐる。

面積一方里七五七、戸數千二百五十餘人口六千六百有し、町内には郵便局、警察署、農産物検査所出張所、區裁判所出張所、専賣局出張所等の官衙並に町立實踐女學校、縣立中學校、銀行支店、各種團體組合などあり、また社寺には村社黒磯神社、同八坂神社、永都寺、等覺院などあり、産物は薪炭、米、麥、蕎麥を主なるものとする。東北本線黒磯驛の設けあり、こゝから乗合自動車により湯本、

板屋、川西、佐良土、大田原、白河の各地へ交通の便良好である。

西那須野町

那須野ヶ原は東西兩原に岐れて各五千町歩、古來狐狸の樓家に委し、荊棘徒らに繁つてゐたが、明治九年以來開墾に従事し、一大水路東西兩原を貫流するに至つて四方より移民集まり、人と畑とを増加して終に那須野村を生み、永田區に停車場を置き、町村制實施に當つて西那須野村と改稱、次で昭和七年四月一日西那須野町と改めて現在に及んでゐる。

面積二・七七六方里、戸數一千三百、人口六千五百餘、農を最とし、商工業を生業となしてゐる。主なる生産物に米、麥、蕎麥、木炭があり、副業としての養鶏もなか／＼旺んでゐる。

町立青年學校、産業組合の設けがあり無格社一、寺院三、境外佛堂七の社寺がある。

烏ヶ森公園、大宮の松、親王臺宮の松名木ナンジャモンジャなどの見るべきものがある。

親園村

大田原町の南に接し、東に蛇尾川、南に箒川あり、その中間に位する平坦なる那須原野の地にして、西方字親園及び吉澤附近は水田開けをるも、花園、宇田川荻野目附近は草原にして低き岳陵がつかなる。古くは橋諸兄の後裔にして、碓氷貞光の末孫なる左衛門太郎業秀の知行寺であつた。

面積一方里四五八にして、戸數六百六十、人口四千百をかぞへ、住民は殆ど農を以て生業となし、水田面積は九百六十六町歩に及んでゐる。而して米の年産十三萬圓に上る。村立圖書館、親園尋高校、宇田川尋常校の教育機關備はり、また村内には村社湯殿神社ほか村社七、成就院、藥王寺、養福院、長泉寺等の社寺

がある。佐久山町へ一里、それより東北本線野崎驛、及び矢板驛までバスの便がある。

野崎村

矢板町の東北方にあたり、箒川の中流に沿ふ農村にして、その沿岸に耕地あり北方は那須野ヶ原の廣原につらなる。

いづこに今日は宿らむ草深き
那須野の原のひぐらしの聲

泉園の歌の如く、廣茫たる原野の一部で、明治二十二年薄葉、平澤、豊田、成田、澤、下石上、上石上の舊七ヶ村を合併して野崎村と稱したもので、面積一方里六〇三、戸數七百二十餘、人口四千二百有餘をかぞへ、米、麥、蕎麥を主産物とし村内には郵便局、農産物検査所出張所縣立那須學園、産業組合などあり、社寺は村社温泉神社、西光院、高性寺、淨光院、全超寺ほか二社、五ヶ寺を有し、薄葉ヶ原古戰場、將軍塚、稻田城址の舊蹟

がある。東北本線野崎驛を村内に置き、日光街道の陸羽街道に沿ひ、大田原、矢板、佐久山の各町へはバスの便がある。

上江川村

佐久山町の南につき、村内丘陵蜿蜒互し、江川は西北より東南に下り、下江川村を経て那珂川に入る。平地は主に江川沿岸に連る。戸數六百八十餘、人口三千九百を擁し、面積は二方里四一五を占め住民は概ね農耕の業に従ひ、米二十餘萬圓、繭二萬三千圓、麥三萬三千圓等の年産がある。

社寺には温泉神社、賀茂神社、磐裂神社、氷川神社、穂積神社、照願寺、東輪寺、普濟寺、明星院などがある。村は下河戸、南和田、上河戸、穂積、金枝、鹿子畑の大字より成り役場から縣廳まで七里、鹽谷郡喜連川町へ一里半、それより東北本線氏家驛へバスの便あり、また佐久山町へ一里半、こゝから野崎驛へバス

が通ずる。

下江川村

烏山町の西北一里に位し、荒川、江川の二流が東南に向つて流れ、その流域に平地をつくつてゐる。宇藤田、葉木澤の北部は低き丘陵が連互する。もこの地に河合城あり、那須の出城にて、大永年間に城主河合出雲守安則が宇都宮勢と戦ひたる記録がある。明治二十二年町村制布かるゝや、熊田、月次、南大和久、藤田、三箇、上川井ほか二ヶ村を合併して新に下江川村を組織し、役場を熊田に置いた。

面積二方里七一七、戸數千二百六十餘人口六千八百餘を有し、村内には郵便取扱所、産業組合、郷社加茂神社、村社三箇神社、同愛宕神社、同日光神社、高林寺、西方寺、西光寺、松原寺ほか四ヶ寺あり、名勝に下川井城址がある。烏山町へバスが往復してゐる。

荒川村

近世、大田原氏の分家一千五百石の陣屋のあつたところで、向田村を隔て、東は烏山町に連り、南は芳賀郡小貝村、西は、山岳を以て鹽谷郡北高根澤村と境する。北方は丘陵連互して鴻野山が聳え南方は平地にして關東平野に附らなり、荒川は西北から來て村を東南へ貫流する。面積二方里五〇八、戸數千有餘、人口五千五百餘をかぞへ、水田約五百町歩を有し米、繭、麥等の農作物の産が多い。荒川村産業組合は内容充實して基礎固く産業經濟の諸方面に互つて寄與甚大である。

村内社寺には村社一四、安樂寺、東泉寺、普門寺、法康寺、芳朝寺などあり、村は大金、田野倉、小塙、高瀬、小河源ほか十二大字より成りて、烏山線に沿ひ大金驛が設置されて、交通の便が頗るよゝ。

向田村

本村明治維新前は大久保忠順の所有であつたが、維新と共に烏山藩の封内となり、明治十八年南野上村外五ヶ村戸長役場をつくり、自治制施行に際しこれを合併して向田村と稱し今日に至つた。烏山町の西南に接し、東は那珂川を以て境村に、南は芳賀郡須藤村及び小貝村に、西は荒川村に、北は下江川村に境する。地勢大體に於て平行にして、江川は北より下り、本村南部にて荒川に合し、東南に向ひ那珂川に入る。

廣袤東西三十三町、南北一里二十六町面積零方里九九六を有し、米、繭、葉煙草、麥等の産多く、年生産額は約三十萬圓にのぼる。村内には煙草耕作組合、養鶏組合、米穀受檢組合、産業組合などあり、名勝瀧千手觀音及龍門の瀧（烏山八景の一）は廣く郡外は勿論の事縣外迄知られる。

境村

境とは常陸との境の義にして、郡の東南部に位し、東は八溝山及び鷲ノ子連峰を以て茨城縣那珂郡と境し、南は芳賀郡中川村及び須藤村、西は那珂川を挟んで向田村並に烏山町と境を交ひ、北は武茂村につらなり、全村概ね高燥にして丘陵起伏する。

面積三方里二四七、戸數千餘、人口五千八百餘をかぞへ、水田百八十餘町歩を有し、米、麥、繭等の農産物多く、村民は一般に勤勉にして質實である。産業組合では創立以來引續き村産業經濟の改善につとめるところ頗る多い。社寺に郷社八幡宮、慶光院、實相院のほか村社六、寺院六がある。烏山町に近き關係上交通の便は悪くない。

七合村

本村は元水戸領にて武茂郷の一部であつた。明治四年、水戸縣を置かるゝやその所轄となり、同五年縣の制定ありしに

武茂村

社寺に村社屋宮神社ほか七社、照光寺正光寺、照明寺、長壽院、長泉寺、寶性院、養山寺などあり、村は中山、大桶、與野、瀧田、谷淺見、白久、谷田等の大字より成り、役場から縣廳まで九里三十町、烏山線烏山驛へ一里、バスの往復ありて交通状態頗る良好である。

より、従来水戸縣管轄なりしも國郡を異にするを以て宇都宮縣に引渡され、他村と同様數度の變遷を経て今日に至つた。郡の東南部にありて東北は馬頭町に接し南は山岳を以て境村及び七合村に連り、西は那珂川を隔て、那珂、七合の兩村に相對す。

東西一里七町、南北二里十八町にして面積一方里五五三あり、戸數約五百六十人口約三千二百を擁し、耕地は田百六十餘町、畑二百三十餘町歩にして、米、麥、葉煙草、繭等を重要物産とする。村内には村立圖書館、産業組合、村社諏訪神社ほか三社、松林寺等あり、烏山町へは二里、バスの便がある。

大内村

古の武茂郡の一部にして、馬頭町の東に連接し、茨城縣久慈郡依上村と境界を交へる。村内には阿武隈山脈の末脈が蜿蜒し、地勢概ね高燥である。武茂川上流

の支川二流は南北から來て村の中央で合體し、西に下り馬頭町にて本流に入る。面積二方里五四五にして戸數六百四十餘、人口約三千四百を算し、住民の多くは農耕の業に従事し、米、繭、麥等の産が多い。村内には郵便取扱所、産業組合村社戸禰神社、同温泉神社二、松慶寺などあり、村は大内、谷川、盛泉、大那地の四大字から成り、役場を大内に置く。大子街道は村内を貫き、西南一里半にて馬頭町に至り、東明神峠を経て茨城縣大子町に達し、この間バスの便がある。

大山田村

郡の東南方に位し、中央部には御亭山高倉山の連岳つらなり、その東麓を北方八溝山に源を發したる武茂川が流れ馬頭町に進んでゐる。全村山岳地帯にして平地は極く僅少である。

古くは宇都宮黨の一族大山田左京亮泰景がこの地より出で、今は大山田煙草の

特産地としてその名天下に知られ、また米、繭、麥の産も少なくない。村は大山田下郷、大山田上郷、小砂の三大字を合して成り、面積二方里六一五にして、戸數約七百、人口三千九百有餘をかぞへ、村内には村社示現神社、同篠尾神社、同上廻神社、觀音寺、惣徳寺等の名社古刹あり、役場から縣廳まで十二里十九町、馬頭町へ二里半、山村と雖も交通の便は悪くない。

那珂村

郡の南方に位して、那珂川西岸に沿ふ村で、北方湯津上村との境界に箒川が流れ、本村東北隅に於て、那珂川と合流する。沿川に平地ありて耕圃拓けたるも、西部は那須野の高原臺地をなし原野山林が多い。面積二方里四七二、主産物は米、繭である。

村内には郵便局、那珂村用水幹線改良事務所、農産物検査所出張所、村立圖書

館、銀行支店等あり、また那須城の舊址を有し、那須氏は平氏なるに與一宗隆ひとり源氏に屬し、壇ノ浦の扇の的に武名をあらはしたるは人口に膾炙するところである。那須與一族を祀る靈宮は今名勝として残りまた村内には延喜式の古社三和神社がある。村には東野鐵道の終點那須小川驛あり、馬頭町、烏山町、喜連川町、宇都宮市へはバスが通ずる。

湯津上村

延喜式に磐上とあるは本村のことにし、この地は夙に那須國造碑によつて世に知られてゐる。郡の中央部に位し、東は那珂川を挟んで黒羽町と相對し、南には箒川が流れ、以上兩河の流域には平地多く水田つらなるも、中央部は廣汎なる臺地を形成する。

面積二方里一二四、戸數は約一千に近く、人口五千七百を越え、米三十八萬圓、繭九千圓、麥五萬圓の年産がある。村内

には郵便取扱所、産業組合などがあり、法輪寺境内の西行櫻は、保延年間、西行大師この地を過ぎし時、
盛りには杯か若葉は今とてや
心ひかるゝ糸さくらかな
と賞した名木である。那須國造碑は文武天皇時代の所造といはれある。また待塚古墳も著名である。

須賀川村

郡の中央より稍々東部に位し、八溝山脈中の高戸山、花瓶山を以て茨城縣久慈郡佐原村と堺を接し、武茂川の水源地に於て、地勢稍々高燥である。面積四方里六三九、米、繭、麥の産多く、戸數は八百五十餘、人口は四千三百五をかぞへる

古くは佛國禪師が鎌倉からこゝに來て雲巖寺を開きしことあり、幕末には水戸浪士西上の途、當地を通過するなど歴史的事件も多く、村内には郵便局あり、また社寺には村社鹿島神社、同温泉神社、

洲崎神社、天満宮、雲巖寺、淨居寺、無養寺等がある。東野鏡道黒羽驛へ二里、バスの便あり、また高戸山峠を越えて茨城縣大子町に至る縣道あり、交通は至便である。

兩郷村

那須與一宗隆の兄に芋淵三郎幹隆なるものあり、當地の住人にして、今芋淵の名は部落名に残つてゐる。八溝山は常陸に於て知らるゝも、山背の大半は本村に屬するのである。即ち本村は黒羽町の北につゞき、東に八溝山の峻岳を控へ、西は那珂川の巨流にのぞみ、全村丘陵蜿蜒して平地に乏しく、米、繭、麥と共に煙草の名産地として知られる。

面積二方里八一三、戸數約五百九十、人口約四千を擁し、郷社温泉神社、村社熊野神社、ほか三社、玄壽院、源昌寺、光嚴寺、不動院、龍念寺等の社寺あり、那須城址は那須與一の祖先那須資家が天

治年中に創築し、天正十八年秀吉に没收された城である。交通は東野鐵道黒羽驛による。

伊王野村

那須七騎の一なる伊王野氏の舊邑にして、慶長年間、家康と上杉景勝との合戦が行はれたところで、東北本線黒田原驛の東南二里半に位し、八溝山の西麓にあり、那珂川の上流余世川及びその他の支流が屈折せる溪谷をつくり南に下つてゐる。その沿岸に平地あり小市街も形成するが、その他は概ね山林原野である。

面積四万五三〇一を占め、住民は殆ど農耕を以て生業とし、副業に山林業に従ふものがある。産物は米、藁、麥を主とする。村内社寺には村社温泉神社二、阿彌陀院、國雲寺、正慶寺、正福寺、専稱寺、長源寺、養福寺等あり、専稱寺の阿彌陀像は金銅の立像で、鎌倉時代の作品といはれる。なほ黒羽町へはバスの便が

ある。

那須村

郡の最北部に位し、那須野ヶ原の末端である。北は福島縣と境して那須火山系の茶臼山、南月山、三本槍の三火山が聳立し、その裾野を遠く東南に引き、山林原野の高原地帯をなす。那珂川上流は村内に數條の溪谷をつくつて南に流れる。

茶臼山は今現に噴煙を出し、温湯湧出し那須温泉の名天下に高い。那須温泉は即ち湯本、北、辨天、大丸、三斗小屋、高尾股、板屋の温泉郷の謂ひで古來那須七湯と呼んだが、近年、旭、新那須野等が新たに開け、特に那須御用邸を設けられたから面目を一新した。

面積一六方里六九三の大村で、戸數約二千を擁し、人口はおよそ一萬三千五百に近い。

東北本線黒田原驛あり、各地へバスが通じて交通の便は良好である。

鍋掛村

黒磯町の東につらなり、東北は那須山系に屬する高原にして丘陵連互し、中央の那珂川を堺として西南半分は茫漠たる那須野ヶ原の原野につゞき厚狀の草原狀を呈する。有名なる源實朝の

武夫の矢なみつくろふ小手の上に
あられたばしる那須の條原

の歌はこの邊の景を詠んだものとの事である。

明治二十二年自治制施行に際し金田村より分離し那須村の一部を合せて鍋掛村と稱し今日に至つた。面積は二方里〇八一、戸數約四百八十、人口三千有餘をかぞへ、村内には芭蕉翁杜鵑の句碑、弘法水の名跡あり、なほこの附近は水戸天狗黨が西上の途次、通過したところでもある。

黒磯町大田原町間の乗合自動車は村内を走り、交通至便である。

金田村

西那須野町の東方二里に位し、大田原町に隣接する農村で、廣袤東西二里、南北三里半、面積三方里八三七の廣茫たる那須野ヶ原の草原地帯にして、西方に稻荷山、權現山がありて平原上に頭を擡げてゐる。産物は米、藁、麥を主とし、三者の年産額六十餘萬圓にのぼる。村内には酒造工場、産業組合などあり、村理事當局の熱心なる誘掖により村民は一致團結の美風に富み近來頗る村勢の發展を來してゐる。郷社那須神社ほか村社一〇社實相院、成就院、專壽院、不退寺、妙徳寺などの社寺を有し、金丸八幡は一に那須八幡と稱し、當地の鎮守である。黒羽町、大田原町、西那須野町へはそれ〴〵バスの便がある。

東那須野と稱するも實は那須野ヶ原の中央に在りて黒磯町の南につらなり、東南方に稻荷山、權現山の丘陵起り、那珂川と箒川に圍まれた紡錘形區域にして會て兩河の氾濫に會し、厚く砂礫に掩はれて荒涼たる原野と化したることあるも明治初年、開墾事業を起してより絶えざる人間の努力により、全地域をも開拓せられ、面目大いに改まつた。面積二方里二六六、東小屋、山中新田、三本木、沼野田和、木會畑中ほか十八部落から成り住民は殆ど大部分が農を以て主業とし、米、藁を主要産物とする。

村内には郵便局、波立學校、村立圖書館、産業組合などあり、神社は村社東那須野神社ほか一〇社、寺院は金乘院ほか二ヶ寺をかぞへる。東北本線及び陸羽街道に沿ひ、村内に東那須野驛を置く。

高林村

の主唱により開拓せられたる土地で、三島部落は三島氏の功を永久に記念するために命名されたのである。西那須野町の北につらなり、茫々たる原野展開し、箒川の支流と蛇尾川とがあるが、一は深峽の底を流れ、一は涸渴、灌漑の便なく近時用水により耕作地が開拓されつゝある。面積一方里五七五、米、藁、麥を主産物とする農村にして、製糸の業も行はれる。三島、石林、南郷屋、東郷屋、西富屋ほか六部落より成り、東北本線西那須野驛へ半里、バスと電車の便があり、また陸羽街道と會津街道とは村内で十字に交叉する。縣社乃木神社、村社九社、圓光寺、慶乘院、宗源寺等の社寺がある。

東那須野村

明治十七年頃、時の縣知事三島通庸氏

狩野村

本村は明治維新當時の古戦場地にして郡の西北部の廣大なる山地原野の地域を占める。即ち面積一六方里二七四で、西北は那須火山系に屬する大倉山、男鹿岳

の峻峰連互して福島縣との境界をなし、東南部は那須野ヶ原の北端にあたり曠茫たる原野が展開する。北方山中に源を發したる那珂川はこの草原を貫通するが、河床深狭のため灌漑の便はない。住民は農業を主とし、米、麥、蕎麥等を主産物とする。

村内には郵便局二、高林砂防工務所、産業組合等がある。板室温泉、大日如來木の股地藏の名所を有し、那珂川水源地帯また勝景を以て近時その名が頗る高くなつた。東北本線東那須野驛へは三里弱にて達し、バスの便がある。

機農二分された 安蘇郡

位置・地勢 縣内に於て足利に次ぐ機業地たる本郡は、東に下都賀郡を控へ、北は上都賀郡及び群馬縣の勢多、山田二郡につゞき、南は群馬縣邑樂郡に接續す

る。郡の北半は山岳多く、南半は河流が多く平野が連なつてゐる。

交通・産業 地勢上山岳地帯と平野地帯とに二分される關係上、交通も、産業も同じ郡内でありながら劃然と二分されてしまつた。即ち南方は交通の便頗る良好にして、葛生、田沼、犬伏、佐野、堀米等郡内五ヶ町は悉く南半に位置を占め兩毛線が東西に通じ、これと交叉して東武鐵道が南北に走つてゐる。また縣道も各地に通じていづれもバスの往來あり、交通状態は頗る良好である。然るに北半はこれと全く正反對にて、鐵道なく、縣道もなく、交通不便といはざるを得ない。産業も南方は機業が盛んで商取引も多いが、漸次北上するに従つて農村となり、更に山村となり、産物も自ら異つて來る。

名勝・舊蹟 郡内名所舊蹟の主なるものを列擧すれば、關東水車の元祖たる大橋水車、佐野公園等を筆頭に、佐野城址引地山聖觀世音、彦狹島王御陵、彦根藩

陣屋跡、唐澤山神社、越名沼、界公園、常盤村公園、水宮山神社、佐原の峡谷、その他がある。

行政上次の五町十ヶ村に分つ。人口は約八萬九千二百人である。

町 佐野、犬伏、堀米、田沼、葛生
村 植野、界、三好、水室、菅野、野上、飛駒、新合、赤見、旗川

佐野町

本町は郡の南方に位し、足利市と栃木市の中間に位し、交通の要地に當つてゐる。古の天命宿にして、慶長七年松本佐野城を廢し、天命に新城を起してより専ら佐野町を以て稱することとなつた。近世、堀田氏一萬六千石の城下となり大政維新に至つた。土地概ね平坦にして、佐野川(秋山川)は町の西方を流れてゐる。古來綿織物の産地として名高く、織物年産一千萬圓、綿縮がその首位を占めてゐる。また米麥の産も尠なくない。

面積零方里二七三、戸數三千五百餘、人口一萬七千二百を擁し、町内には郵便局、警察署、土木區事務所、蠶業取締所支所、農産物検査出張所、縣立佐野診療所、區裁判所出張所、專賣局煙草販賣所等あり、銀行會社工場等も多く、縣立の中學校、女學校及び町立商業學校もある。また名所には佐野公園、佐野城址、大橋水車等がある。

犬伏町

佐野町の東方に在り、北部と東部には丘陵連互し、南方は平坦にして堺沼と越名沼を抱いてゐる。慶長五年七月二十二日、眞田安房守昌幸がこの宿にて石田三成の書狀を得てその長男伊豆守信幸と別れ父子義絶の盃を取交したることが諸書に見えてゐる。

面積一一方里一三あり、耕畠は地味豊沃にして農作が頗る盛んである。主産物は米、麥、蕎麥である。犬伏尋高校は二十

一學級編成、また御大典記念事業として設立された町立圖書館あり、その他養鶏購販利組合、犬伏町産業組合がある。名勝に引地山聖觀世音を有し、社寺は村社鷲宮神社、光徳寺、西蓮寺、昌福寺、眞乘院、泉應院ほか三ヶ寺をかぞへる。佐野町と街巷接續する故交通の便は良好にして、兩毛線佐野驛へは毎日バスの往復がある。

堀米町

佐野町の北に續き、元佐野庄堀籠郷といつたところで、明治二十二年、町村制施行により隣村奈良淵と合併し今日に至つた。土地平坦にして、東武鐵道堀米驛あり、また葛生街道が南北に通じ、交通の便頗る良好である。

面積零方里三〇三、戸數約六百四十、人口三千四百をかぞへ、米、麥、蕎麥の産多く、町内には郵便局、縣立農事試験場堀米原種園のほか、堀米町産業組合、

製織工場などあり、産業は頗る活氣を呈する。名勝としては豊城入彦尊を奉葬せる彦狹島王の陵、堀米宮内左衛門尉源有元宅地跡、彦根藩陣屋跡、天皇寺址、西蓮寺址、寶龍寺址等知られ、社寺に郷社八幡宮、小牽神社、雀宮神社、一向寺、正龍院、眞光院、天應寺、妙顯寺を有し殊に天應寺は古刹として聞える。

田沼町

佐野町の北方二里に在り、北部は丘陵を負ひ、東方に秋山川の涸渴せる砂礫層あり、南部は拓けて關東平野の沃野に相連る。古くは佐野氏の領地にして杉本城址はその遺跡である。明治二十二年、町村制實施に際し田沼、栃木、多田、山城戸奈良、小見、吉永、新吉永の二町六ヶ村を合併して田沼町と稱し今日に至つた。面積一一方里四九四、町内には郵便局、巡查部長派出所、農産物検査出張所、區裁判所出張所、專賣局出張所、田沼裁縫

實踐女學校等のほか銀行支店、織物工場、漆器工場、製材などがある。東武鐵道の沿線にあたり、田沼、吉水、多田の三驛あり、葛生町佐野町間の縣道が通じバスの便がある。名勝では別格官幣社唐澤山神社が最も知られ、附近はまた松茸の名所である。

葛生町

田沼町の北に接し、四圍に山岳重疊し中央に秋山川の涸川存し平地あり耕地となる。地名につき關八州古戦録には「佐野の家臣に津布久駿河守あり恐らくは久津布の倒置にして葛生の在名を唱へしならん、而も唐澤老談記に津布久の外に葛生縫殿助の名あれば相混じ難し」とある。東武鐵道葛生驛を有し、葛生街道南北に通じ、佐野町へはバスが通つてゐる。面積一里四七一、石炭、寒水石、米、麥等の産が多い。銀行支店會社工場等多く、殊に石灰は本町の特産である。

名勝木磨石は廣く人口に膾炙し、寺院には安養院、一音院、觀照院、願成寺、玉藏院、正明寺、善勝寺、善増寺、南光寺、萬福寺、蓮乘院等の古刹名刹がある。

植野村

昔の意部郷にして、郡の最南部にあり群馬縣邑樂郡と境を接してゐる。しかも北は佐野町につき、關東平野の平坦なる沃野を占め、中央を秋山川が灌流し東南方には低濕の地がある。東武鐵道の田島、佐野兩驛を有し交通は至便である。面積零方里九六六、製織業頗る盛んにして年産は相當巨額に上る。米、麥、繭等の農産物も尠なくない。産業組合は二あり、いづれも成績良好である。村内には社寺多く、村社神明宮、同赤城神社、光永寺、嚴淨寺、秀泉寺、慈眼寺、成就院、自性院、大聖院、大聖寺、東光寺、普門院、法雲庵、寬光寺、無量院等十指に餘る。

界村

郡の南部に位し、東は下都賀郡三鴨村に接し、南は渡良瀬川を隔て、群馬縣邑樂郡西谷田村及び同郡大島村に接し、北は本郡大伏町に面してゐる。地形は東西に狭く十町、南北に長く一里六町、面積零方里四九二あり、東北に越名沼を擁し土地概ね低濕である。

此地古くは官道にして、佐野氏が北條氏と雄略を争ひし時は、常にこゝが戰場となつた。生産年總額三十數萬圓を突破し、農産と工産が各四割餘を占める。村内には郵便取扱所、界村外三ヶ村排水幹線改良事務所、醬油醸造工場、信用組合等あり、越名沼名及び界公園は名勝として知られ社寺は村社藤田神社ほか村社三、金藏院ほか寺院三をかぞへる。兩毛線佐野驛へ一里半、バスの便あり、交通状態良好である。

三好村

田沼町の西北に隣接し、西に三床山の山岳を負ひ、東方に丘陵走り、中央に野上川の溪流あれど涸渇して礫礫なる土地をなす。

古く當地に佐野國親四世の孫、舟越六郎増綱なるものあり、舟越の名は今部落名として残つてゐる。明治二十二年町村制實施に際し、戸室、岩崎、船越の三村を合併して三好村と改稱したもので、東武鐵道田沼驛へは一里、交通の便は悪くない。

面積零方里九三九、米、麥、繭の産あり、戸數約五百五十、人口約三千をかぞへる。村内社寺には村社上宮神社、同鞍掛神社、八幡神社、熊野神社、三騎神社、西光院、水月院、千手院、長慶寺、洞雲寺、東光寺、寶光院、寶幢院、蓮乘院等あり、村民は一般に勤勉質實、敬神の念に富む。

常盤村

郡の東北端にありて秋山川に沿ひ、四圍に山岳丘陵連互し、原野山林多く、中央秋山川沿岸に平地がある。葛生町及び佐野町へはバスの便あり、東武鐵道葛生驛まで僅か一里半で達しられる。面積一里七二一、村内には郵便取扱所、村立圖書館、産業組合等あり、社寺に村社常盤神社、開藏院、金藏院、最勝院、秀林寺、城龍寺、惣持寺、寶性院、明光寺、來迎寺等がある。

嵯峨天皇の御宇、空海上人諸國行脚の當時、當地通過の際、二本杉ありしを、その一本を立木のまゝ削りて一夜に地藏を彫刻したと傳へられる古蹟地藏彫刻の杉あり、また常盤村公園の名勝を有す。

氷室村

郡の北方に位し、上都賀郡と境を接す

野上村

るところにあり、幅一里、長さ五里の長延なる山村にして秋山川の水源地をなしてゐる。村内山岳重疊し、平地は僅少である。大字水木、柿平、秋山の三部落から成り、水木に役場を置き、役場から東武鐵道葛生驛へ四里、縣廳へ十五里八町、葛生町及び佐野町へバスの便がある。面積二方里七四七、戸數約四百五十、人口約二千五百をかぞへ、米、麥、繭等のほか林産物がある。氷室山神社、圓城寺、玉雲寺、慶藏寺、長泉寺、東溪院、普門寺、寶藏寺、龍藏院等の社寺あり、小學校は氷室第一、第二の二校を有し、共に高等科を設置する。

氷室村の西南につゞく長延なる山村にして、北隅に根本山の峻嶺が聳え、中央に野上川が流れ、その附近に平地あり、部落も散在する。大字白岩、長谷場、御神樂、作原の四大字を以て成り、白岩に

役場を置く。役場から東武鐵道佐野線沼田驛へ三里餘、縣廳へ約十五里、野上川に沿ふて縣道が走り、田沼町及び佐野町へバスの便がある。

面積三万里三八九、戸數四百七十餘、人口二千六百をかぞへ、水田は百餘町歩に過ぎず、米、麥、繭の農産物のほか林野物産も多い。佐原の峽谷蓬萊は景勝地として知られ、なほ村内には村社大鳥籠守神社、同宇都宮神社、西光寺、慈眼寺眞如院、崇禪、寶藏院寺、萬樹院、龍樹院の社寺がある。

飛 駒 村

郡の西方にありて群馬縣と桐生川を以て境し、村内は高山峻岳連互して山林多く、中央に僅かながら平地あり、桑樹の栽培に好適し、養蠶業が盛んである。また米麥の産も少なくない。古は彦間と書し、戰國時代には佐野修理亮宗綱の居城があつた。役場から縣廳まで十五里二十

七町、佐野町へは乗合自動車の便がある。面積四万里三六七、戸數六百三十餘、人口三千五百を擁し、村内には郵便局、産業組合等あり、小學校は二校にて、うち一校は高等科を併置する。社寺には根本山神社、永壽寺、大光寺、長昌寺、碧雲寺等がある。山村なる故か、民情質朴にして實直の風あり、一般に勤勉である。

新 合 村

昔の麻績郷の地にして、附近に麻栽培をなす者多きが故にこの郷名があつたといはれる。佐野町の西北三里半に位し、根本山の支脈をなす連山が相重疊する山村僻落の地にして山林多く耕圃は少い。面積は二万里二一あり、戸數約八百二十、人口四千三百餘をかぞへる。

村は閑馬、下彦間、梅園、山形の四大字より成り、役場は閑馬に置く。村内を縣道通じ田沼町及び佐野町へバスが通つてゐる。産物は米、繭、麥の他林産物が

ある。郵便取扱所、村立圖書館、新合尋常高等、第一尋常、第二尋常の各小學校産業組合等を有し、社寺は郷社示現神社安養寺、高林寺、西光寺、松岳寺、正光寺、神宮院、大光寺、遍照寺、報恩寺がある。

赤 見 村

本村もまた古の麻績郷の人で、佐野町の西北一里餘に位し、土地大體に高燥にして西方に山岳を負ひ、中央に平地あり旗川は村内を南に流れてゐる。赤見、出流原、寺久原、石塚の四大字より成り、足利北街道に沿ひ、足利市、田沼町、佐野町間のバスは街道を往復する。

面積一万里四五二、戸數千四百五十、人口七千七百五十餘を算し、米、麥、繭石灰、織物等の産多く、村内には郵便局あり、各種工場も多數存在する。名勝磯山辨天は庶民の普く知るところ、社寺には村社熊野神社、同沼鉾神社、醫王寺、

吉祥院、淵龍寺、西光院、崇雲寺、崇見寺、超願寺、南方寺、満願寺、本願寺等がある。

旗 川 村

昔、佐野氏の番城の置かれたところで佐野町の西に連り、旗川の扇形の地にあたり、地味礫礫なれど耕圃よく拓け、水田は三百餘町歩にのぼる。並木、免鳥小中の三大字より成りて並木に役場を置き、役場から兩毛線佐野驛へ一里、縣廳へ十二里二十四町、交通の便は悪くない。面積零方里三八あり、戸數六百二十餘人口三千五百弱を算し、米、繭、麥等の産出頗る多い。産業組合は堅實なる基礎の下に業績頗る顯著なるものがある。村社人丸神社は名社として知られ、その他寺院には安樂寺、淨蓮寺、宗光院、徳藏寺、普門寺、龍眞寺等があげられる。旗川尋高校は十二學級編成にして各種施設よく整ひ、郷土の實情に即したる勞作教

育を實施し、兒童の學業成績また良好である。

織物の地 足 利 郡

位置・地勢 足利市を擁して有名な機業地である本郡は縣の西南隅を占め、北及び東は安蘇郡につゞき、西は群馬縣山田郡に境し、南は同縣邑樂郡につらなる。東西約一二軒、南北約二〇軒、人口七萬三千二百餘人を有する。

交通 本郡は俗に西郡と呼ばれ、地圖の上で見ると、丁度スペインに喰付いてゐるポルトガルのやうである。兩毛鐵道は郡内を横斷し、東は小山、西は桐生への便を開いてゐる。また東武鐵道は郡の南から本郡に入り西北走して足利市に至り、ここから四十五度の急角を以て西南方に抜け、群馬縣太田町に走つてゐる。その他足利市を中心に縣道は四通八達

状態にあり、バスが通ひ、車馬の往來頻繁にして交通至便であるが、たゞ北境に近いところは山地なるため南半ほどには交通機關に恵まれない。

名所舊蹟 名所舊蹟として擧ぐべきもの多數あるが、その主なるものを示すと先づ小俣町の鶏足寺、小俣城址、小俣板碑等あり、次で富田村の石樽瀧、北郷村の行道山及び榊崎八幡宮、三重村の毘沙門堂、筑波村の小曾根城址及び國衙遺跡山邊村の縣社八幡宮等が廣く人口に膾炙してゐる。

行政上次の如く三町十三ヶ村に區劃される。

町 葉鹿、小俣、御厨
村 毛野、吾妻、北郷、名草、三重、山前、三和、菱、栗田、久野、筑波、山邊、高田

葉 鹿 町

足利市の西北二里の地に位し、渡良瀬

川の中流に臨み、その沿岸は平坦なるも北方は丘陵をなしてゐる。元の土師郷の地で、小俣町へはバスが通じ、交通状態良好である。

面積零方里二九八、戸數五百五十餘、人口三千有餘を擁し、水田百五十町歩にして米、藪、麥の産額多く、織物も頗る隆盛を極め、織物工場多數をかぞへる。また商業も殷盛呈してゐる。町内には郵便局、葉鹿實科女學校、葉鹿尋常高等小學校（十三學級編成）等あり、産業助成機關としては葉鹿信購販組合が最も活動し成績良好である。神社は村社一、無格社二をかぞへ、寺院には光泰寺、千藏院、東光寺、無量院などがある。理事當局の絶へざる努力と、住民の融和協力とによりて町勢は日に／＼發展の一路を邁つてゐる。

小俣町

足利市の西北方二里半に位し、渡良瀬

川の左岸に沿ふ町で、北方には根本山の支脈が連亘し、土地高燥にして山林が多い。古くは葉鹿村と聯合してゐたが、明治二十六年分村獨立し、大正十二年一月町制を施行したもので、街衢は葉鹿町につゞいてゐる。太平記に小俣宮内少輔とあるはこの地の産なりといひ、小俣には澁川相模守義勝の居城があつた。また鶴足山麓の鶴足寺、小俣板碑、澁川城址、チコの墓など名所舊蹟が多い。

面積一方里一一二、機業地として知られ、織物工場は會社組織のものだけで十六をかぞへる。町は兩毛線に沿ひて小俣驛あり、足利街道も通じ、桐生足利間のバスは町内を走つてゐる。社寺は村社熊野神社、恵性院、鶴足寺、長福院、天照寺、不動院等で、天理教會、キリスト教會もある。

御厨町

足利市の東南一里の地にあり、西南は

小流を以て群馬縣山田郡矢場川村と境し土地概ね平坦である。福居、島田、上澁垂、高富ノ内の四大字より成り、昔は伊勢神領にして御厨なりしによりこの地名あり、なほ御厨貢進のため撚糸を工風し一名産となつたとの記録がある。

面積零方里三七六。足利の機業地を控えて織物の産多く、明治紡績の如き大工場がある。町内には郵便局、巡察部長派出所、農産物検査所出張所、區裁判所出張所があり、産業組合三を有す。また神社は村社八、無格社一にして、寺院に覺性院、覺本寺、地藏院、勝光寺、東光寺寶福寺、龍泉寺、龍善寺がある。東武鐵道福居驛を有して交通の便は良好である

毛野村

足利市の東方に接し、渡良瀬川の左岸に沿ふ機業地で、東西北の三方は丘陵に掩はれ、中央及び南方は平野にして耕地桑地となる。元の大窪郷の地にして、舊

日光例幣使街道にあたり、明治二十二年大久保村外六ヶ村役場と山川村外五ヶ村役場を合併して毛野村となつたもので、面積零方里八八六、東西三十五町、南北三十町の地域を有し、耕地は田二百五十町歩、畑三百十餘町歩である。産物は米、藪、織物、麥等を主に總額百七十萬圓に上る。郷社天満宮、村社八、無格社五の神社を有し、寺院には觀音寺、高庵寺、淨光院、正善寺、清雲寺、長林寺ほか六ヶ寺がある。足利街道村内を走り、足利市及び佐野町へバスの便がある。

富田村

足利市の東方二里半に位し、北方に大山の小岳あり、南は旗川にのぞみ、土地概ね平坦である。駒場、迫間、奥戸、西塚、稻岡、多田木、寺岡の部落より成り、面積零方里六三二を有す。大字寺岡には佐野氏の宗家ありて家康に關する遺物を藏すること頗る多い、ここは家康が

會津征伐の途中、小山にて石田三成の舉兵を聞き、後事を唐澤城主佐野昌綱に托して西歸したところで、遺物はその因縁に因るといふ。兩毛線富田驛あり、足利街道東西に通じ、足利市佐野町間のバスが村内を通つてゐる。

村内には郵便局、區裁判所出張所、酒造工場等あり、本村西場山の麓にある石尊瀧は避暑の好適地である。社寺は村社春日神社、同三柱神社、無格社五、醫王寺、觀音寺、正慶寺、常慶寺ほか五ヶ寺がある。

吾妻村

佐野町の西南に接し、渡良瀬川の左岸に沿ふ村落で、支流旗川も村内を流れてゐる。村上、上羽田、下羽田、高橋の四部落より成り、面積零方里四七五、土地平坦なる沖積層の土壤にして、水田三百三十餘町歩を有し、蠶桑地また多い。主産物は米、麥、藪等で、吾妻村信購販組

北郷村

足利市の北にたらなり、北方には根本山の支脈連亘し、山林多く耕圃は少く、僅かに中央及び南方に些少の平地があるのみである。面積二方里九四六、戸數約千二百五十、人口六千七百を算し、村名北郷は、足利市の北方の村里との義である。利保、營田、江川、田島、樺崎ほか二部落より成り、村内を足利北街道が走り、足利市及び田沼町へはバスの便がある。

村内には郵便局、信用組合などあり、米、麥、藪の産が多い。大字月谷にある行道山は山高千二百尺、岐嶮たる羊腸の小徑、磊々たる岩塊、眺望頗る秀麗なる山にて、山頂に淨因寺なる古刹がある。また樺崎八幡宮には足利義賢の墓があり、その他社寺には村社示現神社ほか七社、無格社三八、吉祥院、光明寺ほか寺院十二ヶ寺がある。

名草村

足利市の北方二里半の地にあり、往古の五百部郷の地にして、明治二十二年、町村制施行以來區域名稱に變更なく今日に至つた。面積二方里九四六、全村山岳連互し、山林多くして平地少なく、水田は僅かに百二十五町歩餘である。米、藪を主産物とし、村民は概して勤勞を愛するの美風あり、純朴にして質實である。縣道南北に通じ、兩毛線足利驛へ五軒、バスの便がある。

村内には臥龍院、觀音寺、慈徳寺、清源寺、長安寺、寶禪寺の寺院あり、名草村信購販組合をはじめ各種組合團體組織せられ、名草尋高校は十一學級編成にして青年學校を併置し校外教育に於て良好な成績を示してゐる。

三重村

本村は元阪西村と稱し、今福、五十部大岩、山下、大前の五ヶ村より成りしが明治二十六年六月今福、五十部、大岩の三ヶ村が阪西村から分離して三重村と稱し今日に至つた。足利市の西方に連り、渡良瀬川の中流にのぞみ、その沿岸に平地ありて耕地となるも、北方に山嶽を負ひ丘岡重疊する。兩毛線足利驛へ一里、同山前驛へ半里、共にバスの便がある。面積零方里四七四、米、藪、麥等を主要物産とし、また織物が盛んで、機業地三重村の名は縣下に普く、工場も多數ある。大字大岩には毘沙門堂あり、天平十

山前村

昔の土師郷の一部で、足利市の西北一里の地に位し、渡良瀬川の中流に面しその沿岸には約百八十町歩の水田及び畑地があり、北方には丘陵が連互する。山下大前の二大字より成り、兩毛線山前驛を有し、村内を足利街道通じ、桐生足利間のバスが通ひて、交通頗る便利である。面積零方里四五七、機業頗る隆盛を極め、また米、麥、藪等の農産物も少なくない。村内社寺には郷社大原神社、村社二、無格社一、光明寺、自性寺、地福院常泉院、長松寺、明隆寺などがある。山前尋高校は十四學級編成で青年學校を併置して、村民は一般に頗る教育に理解が深い。

三和村

古くは鎌倉鶴岡八幡宮の神領たりし地にして、足利市の西北一里半に位し、村内には根本山の支脈たる連山高陵が連互し、土地概ね高燥にして山林多く、中央部に耕地あり、面積一方里八八七のうち水田は僅かに百八十餘町歩に過ぎない。産物は織物を以て第一とし、米、麥、藪等の農産物これに次ぐ。産業組合は粟谷、三和村の二を有し、共に内容充實して經營堅實を極め、業績優秀である。社寺は村社三、無格社五、喜福寺、正蓮寺、定泉寺、長徳寺、養源寺等で、小學校は三和、松田の二校を有し前者は高等を併置し學級十四に分れる。なほ役場は大字松田にあり、足利市へはバスが通ひ、交通至便である。

菱村

郡の西方に位置し、桐生川を以て群馬縣桐生市に相對する機業地にして、地勢根本山脈の連山連互するを以て概ね高燥である。黒川、上菱の二大字より成り、役場は黒川に置き、村内に兩毛線黒川驛ありて交通の便頗る良好である。面積一方里四二二にして、戸數約六百五十、人口三千六百有餘をかぞへ、織物米、藪、麥等を重要物産とし、副業に林産業に従ふ者がある。水田は僅かに七十町歩である。菱信用購買組合は、設立以來常に組合員の福利増進を慮つて、産業資金の圓滑なる融通、消費の合理化を圖つて成績大いに見るべきものがある。なほ社寺は村社宇都宮神社、泉龍寺ほか十社二ヶ寺をかぞへる。

梁田村

本村は中世の御厨領内にして梁田氏の居住せるところである。またこの地は日光例幣使街道にもあたり、梁田、御厨、

久野村

久野、山邊の舊四ヶ村はもと梁田郡と稱してゐたのを、明治二十九年足利郡に合し今日に至つたのである。足利市の東南一里に位し、渡良瀬川の南岸に沿ひ、土地平坦にして地味豊饒、且つ足利市に接近するを以て機業が頗る隆盛である。足利驛、館林驛へ縣道通じ、共にバスの便利にして達しられる。面積零方里三〇五、村内には村立圖書館、梁田尋高校、信用組合等のほか、社寺として郷社御厨神社、村社鹿島神社ほか五社、圓成院、高澤寺ほか五ヶ寺がある。久保田、野田、瑞穂野の三大字より成り、久保田の久と、野田及び瑞穂野の野を取つて村名としたもので、足利市の東南三里の地に位置し、渡良瀬川の南岸にのぞみ、南は群馬縣邑樂郡多田良村と境

を接する。關東平野と相連りて土地平行地味豊饒にして、農工業隆盛を極め、織物を筆頭に、米、麥、繭の産出が多い。兩毛線富田驛、東武鐵道館林驛に近く、縣道足利館林線は村内を貫通しバスが往復してゐる。

面積零方里四〇一にして戸數五百三十餘、人口約三千人を擁し、村内神社は村社五、無格社四にして、寺院に壽徳寺、崇聖寺、寶藏寺、本源寺、滿福寺、滿寶寺がある。

筑波村

郡の南端に位し、小流を以て群馬縣邑樂郡中野村と境する。東西一里十二町、南北二十三町、面積零方里四四一あり、土地概ね低平にして地味豊かである。紡績工業盛んにして織物の産多く、生産年總額は約三十萬圓にのぼる。明治維新前は二藩十六旗本の領に分轄されてゐたところで、小會根、羽刈、高松、高富ノ内

の四大字より成り小會根に役場を置く。

小會根城址は創設年月及び領主は不明だが城廓の大なること驚くべきものありまた往時この地に國衙があり、國造本紀に難波高津御世に毛野を分ちて二國とすとあり、その遺跡は今に傳はる。また名勝矢の根石がある。社寺は村社神明神社同神明宮。同御厨神社、同八幡宮及び寺院六ヶ寺である。

山邊村

もと田部郷といつたところで、田邊の名は古文書にも見える。明治二十二年八幡、堀込、借宿、朝倉、田中の舊五ヶ村を以て山邊村と稱した。足利市の南に接し、西は小流を以て群馬縣山田郡矢場川村と境し、面積零方里四四六、土地概ね平坦にして耕圃拓け、地味豊沃にして農作に適する。織物の中心地足利市を控へて機業隆盛を呈し、織物、米、麥、繭を主要物産とする。東武鐵道野州山邊驛

岩菅の橋

日光の町のつきるところは即ち大谷川中禪寺湖から華嚴の瀧となつて落ちて流れて來る大谷川である。藍碧の色目さめるやうな溪流、繪をそのまゝの朱塗の木橋、一層黒い大きな杉の林、こゝの感じは何時、誰が見てもわるくはない。古歌にいふ「岩菅の橋」はこれである。

市

川越市

埼玉縣立川越工業學校

縣立川越工業學校は縣下のみならず、全國實業學校中の優秀校、また庭球界にその名を轟はれる強剛校にして、幾多新進技術家を輩出し、好評噴々たるものがある。

校長

高松今男

氏は明治二十年五月十五日和歌山市に生る和歌山師範學校を卒へて、東京高等工業學校に進出し、大正五年優良の成績を以て卒業す。直に熊本工業學校に職を奉じて實業教育界に入り、或はまた廣島縣福山市なる工業試験場技師となり、轉じて埼玉縣入間郡技師に任

部

じ、川越工業試験場技師に任じ、昭和十二年同場長に榮進、六年現校長を兼任して地方商工技師たり、高等官三等待遇を賜はり從五位勳六等に敘せらる。大阪第三十七聯隊に於て兵役を卒へた。九年陸軍特別大演習に付き高崎市に於て賜饌の榮を賜はる。また産業功勞者として宮城拜觀を差許された。夫人は淑徳の譽高く長男本男君は川越中學修學中、秀才を以て稱さる。なほ一男二女があり、一家頗る圓滿である。

熊谷市熊谷

埼玉縣立熊谷高等女學校

本校は明治四十三年一月二十八日の創設に係り、四十四年四月二十五日開校せ

らる。埼玉縣師範教諭志村伴次郎氏初代校長に任じ、林鉀藏氏、高柳悦三郎氏、谷伊八氏、梶尾亮靜氏相次いで校長となり、栗岡龜治氏昭和十一年就任して現在に及んでゐる。明治四十五年教育勅語謄本奉戴、昭和六年 兩陛下の御眞影を奉拜受、記念綬を下賜さる。修業年限五箇年にして、生徒定員八百人、校地一萬五八百八十餘坪、職員は三十七人、生徒七百八十餘人、商家、農家の子女が大多數を占め、卒業者は二千七百六十人を算してゐる。入學率は七三・九八%、出席歩合は九八・六三%、校長の銳意經營するに苦心あり、職員熱心協和して之を輔く評噴々たるものあり、同窓會さくら會の經營に係れる専攻部あり、女藝一式及び修身、公民教育、國語、珠算を教授す、また夏季及び臨時の講習會を開き國家の中堅女性を養成す、正に優良學校として推稱さるゝ所以である。

川越市志茂町

二等局 川越郵便局

當局は明治五年郵便取扱所として開設せられ、年を逐ひて長足の發展を遂げし來り、十八年には三等郵便局に昇格して通信全般を取扱ひ、遂に大正十一年六月二等郵便局に昇格した。所管区域内には高澤局、新田局、驛前局、古谷局の四無集配局及び公衆電話四、郵便切手端書收入印紙賣捌所七〇、郵便函四六を管理し本局内の私書函は二四箇ある。浦和の一等局での二等局として、川口、大宮、熊谷の三局と共に縣下通信機關の要衝に任じてゐる。田部井松三郎氏は第六代局長として現任し、よく部下を愛護扶掖し、統制指導して顯著なる成績を效してゐる

局長 田部井松三郎

田部井家は群馬縣邑樂郡館林町在渡瀬村の名門にして、素封家として嶄然頭角を現はしてゐる。山來上州の地は任侠の風に富む。田

部井家も亦た義侠に任じ義理を重んじ、貧困窮迫を助けて徳を施すこと枚擧に遑あらず、松三郎氏は明治十九年十一月一日生、東都に學びて四十一年通信省に技手として奉職、東京市内外の現場に勤務して久しきに亙り、遂に通信書記に拔擢され、昭和十一年川口郵便局長に榮進した。商工都市として躍進中なる當市の通信事務を執掌し效績著大なるものがあり從七位勳八等に叙せられてゐる。資性は剛毅果斷にして明敏の手腕を揮ひ典型的の能吏である。スポーツ及び釣魚の趣味が深い。長男は日本大學専門部に修學中にして、その將來は多囀の秀才青年である。一家は圓滿を極め和樂の聲が堂に溢れてゐる。

川越市

市會議員 市消防組頭

清水友右衛門

川越市の重鎮縣會議員清水友右衛門氏は先代友右衛門氏の長男として明治十八年十二月六日呱呱の聲を上げた。幼にし



商工會 議員(大正十四年より現在迄連續) 消防組頭 (昭和八年より) 市會議員(昭和六年より二期) 市會副議長(昭和六年) 縣會議員(昭和十二年) 信用組合長、市會同志會々長、都市計劃地方委員、土地賃貸價格調査委員、浦和地方裁判所調停委員、所得稅調査委員等に執掌、多大の貢獻をなしてゐる。實業界方面に於いては、武州倉庫取

締役その他重役をなし、地方自治に産業に實業界に東奔西走し眞に寧日なき努力を傾注して、市民の間に澎湃たる瞻仰を呼んでゐる。温容豪放の風格と眞摯なる態度は眞に川越市の代表的偉材たり、民政黨に屬すると雖も市政の運用上に於ては、是々非々純正なる立場を持し、未だその道理を逸脱せず、齡を加ふ毎に愈々人格圓熟温容なる仁徳を加へ比肩なき信望を博しつゝある。昭和九年消防盡力の功によつて一等功勞賞を受け、同十年組頭として表彰旗を贈られ、同十三年紀元の佳節に知事より金杯を受けた。

川越市連雀町

川越市會議長

久米原修丈



川越市會に於ける名議長として讚仰、その名を謳は

れつゝある師は、明治二十六年二月十日甲府市工町瑞泉寺住職單丈師の次男として、偉大なる名將機山公(武田信玄)の郷土に産湯を浴び、加ふるに嚴父が教化によつて、幼少時既に群童に異彩を放つてゐた。後ち東京に出て芝中學卒業後、直ちに宗教大學(大正大學の前身)に進み、業卒るや川越市蓮馨寺に招請されて執事に就任、その間東京龍寶寺、福島縣滿福寺住職を歴任、滿福寺二十年來紛争の山林所有權問題を有利に解決して檀徒の聲望を増し、昭和二年普選實施直後の川越市會改選に際し、從來指導せる青年僧より推舉されて當選、爾來連續當選すること三期、早くも市會に重きをなして議長の榮冠を獲得、市會を統制しつゝ今日に至つてゐる。他方昭和四年蓮馨寺住職を拜命、滿福寺をも兼務住職した。同五年淨土宗埼玉縣布教團副團長を三期目就任、同十一年同縣區選出宗教會議員に舉げられ、また川越佛敎團を創立して以來、その主腦者として活躍奔走これ努め

孤峯山 蓮馨寺

當山は今より約四百年前の天文年中、川越城主大道寺駿河守政繁公母堂蓮馨尼の篤請により、感譽上人が創建したもので、宗派は淨土宗、阿彌陀如來を本尊となしてゐる。天正十八年豊臣秀吉の特別の庇護をうけ、同十九年徳川家康より、御朱印を賜はり、檀林に列し、明治二年二月勅願所の繪旨を賜はつたほどの由緒の深いものである。堂宇伽藍莊嚴を極め、三千坪の境内樹木鬱蒼たるものであつたが、同二十六年三月、當市未曾有の大火に、不幸にして焼失の災厄に遭ひ、僅かに鐘樓堂並に水舎を残したのみだつた。現在の堂宇はその後に出來たもので、本寺は東京芝増上寺、末寺は十三ヶ寺あり、毎月八日吞龍上人の祭がある。檀家百五十戸、加藤鍋吉、犬竹忠三、畑尾源太郎の諸氏檀家總代として現任中である。

熊谷市

熊谷市議會議長
熊谷市議會議長
洞上病院院長

洞上仁濟



氏は大分縣中津市の人、大正十三年醫師西田貞吉氏

外五氏及び實業家の水野辰五郎氏等と共に合資組織にて熊谷脳病院を熊谷市熊谷に創立す。敷地面積は二千六百餘坪、建坪三百五十餘坪、收容患者定員は百二名精神病院規則によつて施設を完備し、院長洞上仁濟氏、副院長廣瀬克巳氏、顧問醫學博士池田隆德氏等職員三十名を以て忠實熱誠、深切丁寧に事務に盡瘁し、成績甚だ優秀にして好評噴々たるものがある。氏はまた洞上病院を經營し極めて盛業中である。市政界に功勞多大にして市會議長の要職にあり、氏は謙讓にして温

和、敦厚を極め、病院經營に成功し、仁

風徳化洽く絶大なる信望を博して、遠近より悉く敬仰歎慕せられ、素封家として巨富を擁し、能く施して惜しまず、公事に散じて能く協賛の誠を效す。特に市政界の長老を以て遇さる。家庭も亦た圓滿にして春風駘蕩、和樂の聲が門に溢れてゐる。

熊谷市本町一丁目

市議會議員
商工會副會長

小此木眞三郎



小此木家は土地屈指の舊家であり且つ素封家として

知られた山緒ある家柄である。先代氏は町政などを一手に切盛りした自治體の功勞者であつた。當主は家業たる製茶に精進、現在は關東有数の茶舗を以て鳴つてゐる。曾て埼玉縣鮮滿旅行視察團の一員

として派遣された人、土地に於ける信望

極めて厚きものがあり、現に市議會議員として市政に與りつゝあるの外、昭和十二年十一月商工會副會長に推舉され、また茶業組合長をも兼務してそれ／＼奔走盡瘁してゐる、その功また甚大なるものがある。資性温厚にして明朗、しかも謹嚴な人、公職に携はるの外、常に實業界に活躍、幾多會社の監査役、重役に關與、その羽振りの甚だ鮮かさを見せてゐる。

熊谷市

市議會議員
成徳院住職

大沼光濟



智山派大學出のインテリ、新進氣鋭の宗道家であ

り、同時にまた政治家として著聞する。侃々諤々たる辯はないが、一度意を決すれば萬死敢て辭せぬの奮闘家で、且には

熊谷市政のために盡力し、夕には本寺の復興へと意を注ぐ、眞に目まぐるしい活動を續けてゐる。氏はなか／＼の交際家知名の士の往復頻繁である。氏がこれまで市のために盡瘁せる功勞は偉大なるものがあり、その健在はまた市の健在でもあり、その將來を刮目期待されてゐる。

熊谷市

市農會會長 代島義三

代島家は創始以來十八代相傳へ來れる舊家にして、代々農を以て業とす。氏は明治八年一月二日生、家業に精勵し率先して養兎業を營み、その普及獎勵に努力す。久しきに亙り村長、助役を勤めて效績大、今や市農會會長に任じ、縣農會評議員及び農産物組合長、信用組合理事等を兼ねてゐる。農村の家庭工業及び農業の新經營法の研究に努力してゐる。ゆう子夫人は貞淑にして温良、長男靖氏は中等教員免許狀を享有す。なほほかに二子がある。

浦和市

愛國青年
社長

佐々木數雄



氏は明治四十三年二月四日に生る東京政治學校を卒業し、今や東京雄辯大學講師、大亞細亞會理事、政治學會の常任幹事及び社團法人青年教團組織部並に宣傳部委員として活躍し、夙に國情を憂ひ、祖國理想化を新使命として、昭和六年愛國青年社を創立し、事務所を東京市芝區新橋二丁目一四二番地に置き、昭和維新、新日本建設を目標とし、新聞雜誌に寄稿し或はパンフレットを發行し、熱血逆る勁文雄筆を躍らし、更に各所の講演會に長廣の舌を揮ひ、同志の糾合と目的達成に努力し、日夜東奔西走してゐる。非常時日本匡救策、非常日本は何處へ行く、理想日本建

熊谷市柿沼

龍昌寺
住職

阿部秀尊

寡黙實行、悠揚として迫らず、しかもよく困苦缺乏に堪え得る典型的の人として檀徒内外に令名を博してゐる師は、曾ては村役場書記を勤めたことがあり、豊かなならざる寺運の復興に汲々乎として心を馳せながらも、子女の教養に怠りなくあらゆる苦難を嘗め盡して専門學校を卒業してゐる。夫人アキ子さん亦、常に夫君の胸中を洞察して共に協力よくその思ふところを效さしめてゐるが、内助の功や決して尠なしとしない。

北足立郡

大宮町

大宮工業學校

電話三四一番

大正十四年七月二十九日文部省告示を以て設立を認可され、同年八月二十一日元鐵道省工作局長正四位勳三等工學博士高洲清二氏が校長に就任以來實習を教員本位となす本校は、亦精神教育として毎月一日同町氷川神社に職員並に全校生徒參拜を實行す。昭和三年三月十四日學則一部變更せられ同年十一月十日には校旗を制定し推戴式を舉行、更に昭和十年四月五日現在の場所へ新校舎を建築、八月九日校舎新築落成式を挙げ、同年九月二十八日本校教諭高橋良吉氏が校長兼教諭

に任命され、尙本校の甲種に昇格なりしは昭和十二年三月にて現在職員は十三名である。高橋良吉氏の下に在つて全職員一致共同、生徒の教育の爲につとめてゐる。亦本校は五ヶ年制度にて在學生徒數五百名、夜間部は四ヶ年制度、二百名の生徒が通つてゐる。卒業生徒數六百名に及び、東京、大阪の各市に在つて一流會社、工場に就職、頗る良好な成績を擧げてゐる。

草加町

草加町長 野口訓三
縣會議員

當草加町の偉大なる功勞者として、缺くべからざる人物として尊敬の的となり衆望を一身に集めてゐる氏は明治十八年

五月三十日の岳降にて自治方面に卓拔な手腕を有し、清廉にして潔白な人格の持主、青年時より自治、公共の事に關與し大正八年當町助役に推輓を受け、それと同時に郡會議員に當選、郡制廢止に至る迄活躍貢獻し、大正十年には遂に町長に就任、歴任する事數期、現在尙もその重任に在りて町勢の圓滿なる發展と、町民の福祉増進の爲に献身的努力をなし、その間、昭和六年及び昭和十一年の二期に互りて縣會議員に推され、堂々の論、諤諤の陣を張りて郷黨の爲に萬丈の氣を吐き、絢爛にして犀利錚々乎たる名聲を博した。因に當草加町の歴史を見るに、寛永七年の頃迄、江戸千住宿より奥羽に向ふ街道は頗る不便を極め、松戸宿を迂迴して越ヶ谷に出でたるが、幕府大英斷を以て近在の農民に一戸當り三畝歩、千五百石を下附し中間宿を設けしが、之が當町の前身にして、而も農民の寄合世帯にて、傳馬人足町なれば、區劃、地番等なきため繁雜極りなく、後明治維新を迎え

聯合役場が草加役場に改正され明治、大正を経て昭和に至りしも、誰一人理事者として之が手の下し様もなかつた。町長に就任せる氏は之が改正に意を用ひて幾度か計畫に計畫を重ねし後、昭和五年五月一日を期して全國稀なる全町地番改正の大問題を遂行したのである。

草加町高砂町

町會議員 野島彦右衛門

米穀肥料商を家業とする當家は、累代彦右衛門を襲名せる家柄にて當町創立當初よりの舊家、その家に先代翁介氏の男に明治十八年二月二日生を享けし氏は幼名彦太郎と稱せし資性温厚篤實なる人格者である。大正十五年六月彦右衛門を襲名し家を繼ぎ現在に至つてゐるが、その家業に精勵すると共に夙に自治、公共の事に意を用ひ、區長制施行以來これに任じ、區民の福祉増進の爲に執掌、消防組頭としては大正十三年より昭和八年迄歴任、現在は町會議員、學務委員各三期目

に在りて尙も盡瘁、亦産業組合創立當初よりの監事でもあり、農會、商工會、耕地整理組合各評議員を兼ねて自治の圓滿なる運行、産業の發達の爲に努力貢獻をなしてゐる。更に米穀肥料商組合設立の爲、今奔走中にて、その多年に互る各方面への献身的努力に衆望自ら集まり町民感謝の的となつてゐる。家に山脇高女出身の長女縫子さん、次女久子さんの二令嬢あり、縫子さんは慶應大學出身の俊才にして、明治生命代理店を引受け、業界一方の雄たるに愧ぢざる成績を擧げつゝ、ある岡野隆三氏を迎え、既に妙子さん、弘子さん、啓子さんの三女がある。

大石村畔吉

元縣會議員 故新藤慶之助
勳七等

資性清廉潔白にして高雅な人格の持主たる故新藤慶之助氏は嘉永五年六月二十八日の岳降にて自治、産業の發展の爲に盡瘁する事多年、明治十一年に畔吉戸長として努力、引續き明治十七年には小泉



後の護りに奔走し内治の功に依り勳七等に叙され、木

杯一組を賜り、同三十九年に日本赤十字社よりも木杯一組を贈られた。尙同年郡農會副代表に推され、その永年に互りて盡瘁せる功勞枚擧の遠なく、殊に平方より大石に通ずる堤は氏の努力に依りて成るもの、之に依り當地地方民の利便如何に宜しきか今更言を俟たない。その甚大な功勞と高潔なる人格と相俟つて衆望自

ら翁然と集まり村民の仰慕のまゝとなつたが、惜しくも大正七年四月二十五日長逝された。その男に生を享けし當主慶三郎氏も亦、圓滿なる人格の持主にて、尊父の衣鉢を襲ぎ青年時より村勢の發展と繁榮に執掌精進し、村會議員二期を歴任されし事があり、當村には缺くべからざる人物としての一舉一動は期待を以て囑目されてゐる。

笹目村

元村長 奥住安五郎

元治元年八月二十二日先代惣右衛門氏の男に生を享け、今七十四歳の高齡にて尙嬰鑠たる氏は資性極めて圓滿、清廉潔白なる人格の持主にして高崎十五聯隊の明治十八年兵、日清戰役に際して横須賀要塞防備に就き、平和克復後は専ら家業たる農に精進しつゝ、その傍ら自治公共の事に竭し、村會議員より助役、村長に就任し、村民の爲に粉骨碎身の勞を執つて村政の基礎を鞏固にし、その永年に互

りて盡瘁せる效績に依り自治功勞者として表彰を受け、御大典には記念章として木杯を賜つた。その功は高潔なる人格と相俟つて衆望を集め、今や村の元老として尊敬の的となつてゐる。

草加町松江町

町會議員 山田丑五郎



大阪窯業株式會社 草加工場には三百人程の従業員居

るも大正五年、工場設立以來の勤績者は實に氏一人にして、生れは明治二十二年十月七日、資性柔和圓滿にして思慮深き人物である。町會議員に推轡を受くる事に二期、兼ねて草加納稅組合長としても貢獻するところ頗る多く、三ヶ年の完納に依り表彰を受けし事あり、亦同社内の出征軍人遺家族後援會會計にも推され

その多年に互る盡瘁は人格と相俟つて衆望の的となつてゐる。因に當家は當町二軒家の舊家、山田廣藏家より分れたる家柄にして、家に三男一女あり、長男初太郎氏は赤羽工兵聯隊の昭和四年兵にして昨年應召されしが、目下歸休、父君と共に同社に勤務してゐる。

草加町松江町

町會議員 小山直藏

明治二十六年四月七日埼玉縣北葛飾郡彦成村に先代半兵衛氏の三男に生を享けし氏は資性極めて濃厚而して廉直なる人格の持主、大正六年より大阪窯業株式會社草加工場機械部に入りて以來寢食を忘れて刻苦精勵、今や職長として上下の衆望を一身に集めつゝあるが、今期、同社にして町會議員に選出され、一身を挺して活躍貢獻をなしてゐる。氏は亦、同社内組織されたる出征軍人遺家族後援會には幹事に擧げられ、東奔西走銃後の護り

に盡してゐる。家庭は頗る圓滿、令閨ふよ子さんとの間に長男博氏及び四男四女がある。

草加町西町

町會議員 平田長右衛門

當家先代利助氏は、新黒茄子の種子に就て多年研究、遂に今日の盛況を見るに至らしめたほどの、熱心な農事の研究家で、農耕の上に印した功勞も、尠なくない。氏はその男、明治十四年十一月十六日の出生、尊父の衣鉢を襲ぎ、種子配給に意を注いでゐるが、現に帝國農會、農林省等の勸奨により各地の農會は勿論、遠くは滿洲方面にまで率先してこれが配給に腐心してゐる。尙氏はこれが研究と家業たる農に淬勵の傍ら自治公共の事に竭し、町會議員、産業組合理事、區長、その他の重任に在りて盡瘁、曾ては農會副會長たりし事あり、現にその總代である。尙令閨氏との間に三男子あり、長男長左衛門氏は世界大戰に際して世田ヶ谷

自動車隊に屬し浦鹽に出征し、つひに輝かしき軍功を樹て勳七等に叙されし勇士である。

草加町東町

町會議員 石井善兵衛

産業組合創立以來の監事及び町會議員學務委員を兼ねて自治、産業の爲に減私奉公の念を以て献身的活躍をなしてゐる氏は明治十六年十月六日、終生を町會議員として町政の爲に努力したる先考善兵衛氏の男に生を享けた、資性穩健にして圓滿なる人格の持主、氏は亦「戦の手や守る銃後をしつかり」とこの非常時局に際し右の句をもにす程、俳句に造詣深き斯界の識見家でもある。號を「風音」と稱し、曾て新田村關根焦風氏に師事し愈々その熟するに至りて東京四谷小島健岳の門に入り益々研究を積み、斯界一方の雄と稱されるに至つた。「とうとうと水泡運ぶ春の川」之は最近の傑作の一であるが、之を以て見ても氏の如何に造詣

深きか、亦人格の圓滿なるか、町政の上如何なる態度を以て處してゐるか、窺ひ知る事が出来る。

草加町高砂町

町會議員 高橋莊爾



會て當町助役を十五ヶ年の永きに互りて勤

勢の圓滿なる發展の爲に盡瘁せる氏は明治二十年三月十五日先代莊平氏の男に生を享けし頭腦明晰、俊敏の氣性に富む人物にして助役の他に青年團長、衛生組長の重任を兼ねて活躍、亦町會議員としては實に十有七ヶ年の永きに互つて關與努力、現在もその任に在り、産業組合理事の重責を兼任し、献身的な活躍をなしてゐる。その永年に互る町政、産業への寄與貢獻するところ甚大なるものあり、當

町發展の功勞者として衆望を高め、亦草加青物市場、草加蔬菜株式會社を合併して業務の發展に努め、愈々その大を成し更に昭和十年には債券店を開業、業界一方の雄たるに愧ぢざるものがある。長男莊平氏は錦城商業出身にて目下東京市役所に勤務してゐる。因に當家は平氏の後裔高橋入道是清の出にして、徳川時代には草加町十六人組の一に數へられ、當町に土着後既に四百有餘年を閱する名門の家柄、而して十一代莊右衛門氏は町長として多年盡瘁せる當町開拓の功勞者にて縣會議員としてもその功多く、遂に縣會副議長と成りて令名を嗣し、先代莊平氏はその男、早稻田専門學校出身の頭腦明晰なる才人であつたが、當主莊爾氏を残して惜しくも早逝された。

大石村沖ノ上

農家組合長
養蠶組合長

中村本之進

農事研究家として聞える氏は明治二十五年十月十八日の出生にて日露戦役に出

征し、各地に赫々たる武勳を樹て名譽の戦死を遂げて勳八等に叙されし先考信太郎氏の養嗣子曾て消防小頭、在郷軍人分會評議員、衛生委員等は勿論の事、農家總代、沖ノ上茶園改良組合長として永年各方面に活躍貢献をなし、現在尙も農家組合長、養蠶組合長、貸賃價格調査委員の重任に在りて産業發展の爲に一身を挺



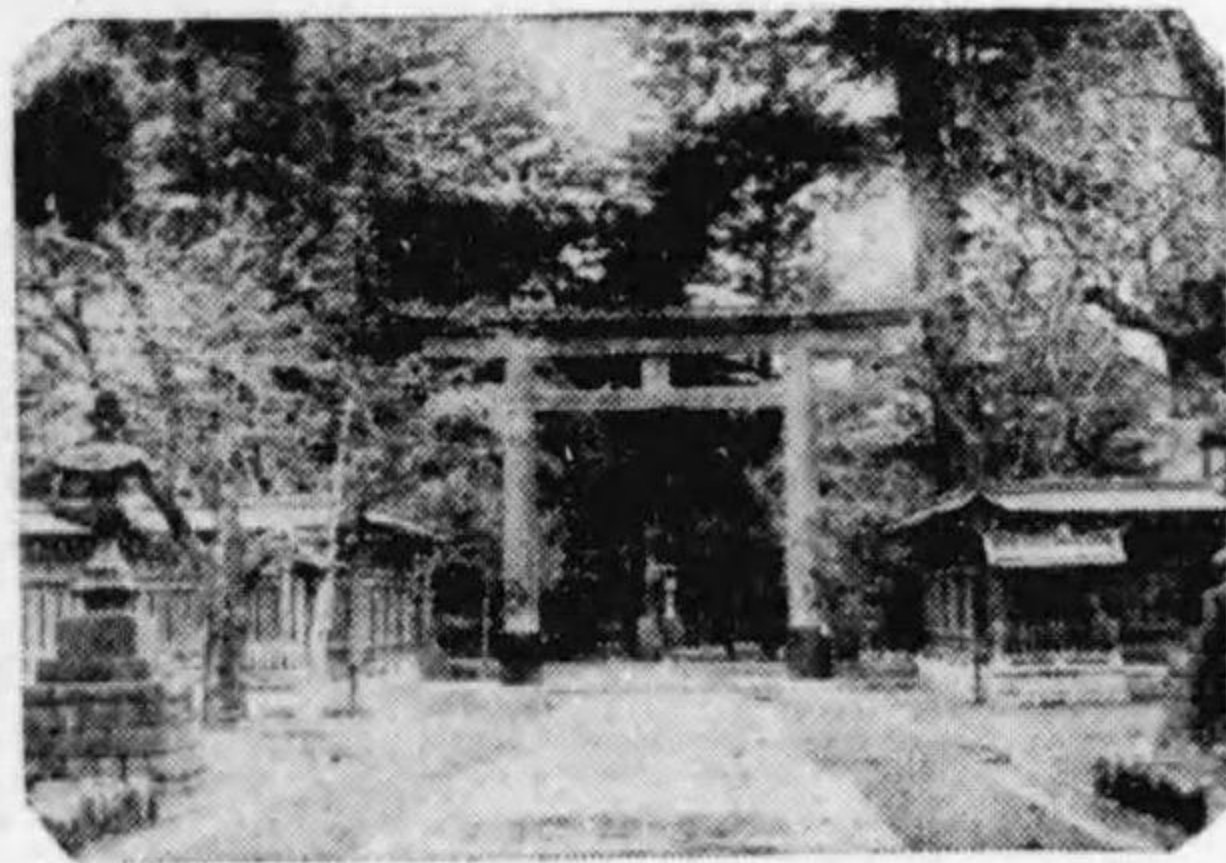
して粉骨碎身の勞を執つてゐるが、氏の卓拔な手腕を

反映して當農家組合の成績頗る優良、創設は大正六年にして肥料、農具、農産種子の協同購入及び農産物の協同販賣を目的となし、勸農會として設立され、昭和二年農事組合に、同六年農家組合に組織を變更し現在に至りしもの、組合員數三十六名にて部門は統制部、教化部、農事部、畜産部、經濟部に分れ、品評會、堆

大宮町

官幣大社 氷川神社

武藏國第一の大社と稱さる當社はその由緒頗る深くして、今を去る二千有餘年人皇五代孝昭天皇の御宇、須佐之男命、大己貴命、稻田姫命の三柱を奉齋し、創立せられたる延喜式内名神大社にて、歴代朝廷の御崇敬篤く、亦代々武將の尊崇も實に高く篤い。因に當社の鎮座する大宮の地は祭政一致の古、武藏國造の専ら祭祀を奉じつゝ國政を執れる所にして、その國造奉崇の代より當國精神文化の中心地なり。明治の聖代に至り、畏くも明治大帝、新に都を古の江戸、東京に奠し給ふや明治元年十月二十八日當地に行幸當社に御親拜あらせられ、王政復古の勅書を賜ひ、勅祭の社と定め給ひ、爾來例



祭毎に勅使御發遣あらせらる。實に明治以降に於て勅祭の御制定を遊ばされたのは、當社を以て嚆矢とする。更に明治四年五月、官幣大社に列格せられ、畏も明治天皇御幸をたまふ事三度

文七年三月阿部豊後守忠狀をして造營せしめた。尋ぎて明治十三年工を起し、十五年九月に遷宮執行、然る所昭和十一年國費御造營の儀治定せられ、同十二年工を始め、同年三月十六日假殿遷座祭執行を見るに至つた。毎年八月一日例大祭日にて、皇室に於ては勅使を御差遣の上、古樂「東遊」を御奉納遊ばし給ひ、當日は早朝より御祭儀御終了に至る迄、一般の参拜を禁止、御祭儀は萬物音もなき中に執行、眞に神々しき極みである。現宮司は從五位有賀忠義氏、氏は現埼玉縣神職會副會長にてその盡瘁するところが頗る多く、而して資性濃厚篤實高潔なる人格の持主である。禰宜は額賀大興氏、先代大直氏の男にて、有賀氏を輔佐し貢獻するところ甚大である。

草加町神明町

松壽山 東福寺

日行幸御親拜遊ばされた。社殿の往古に於ける營繕等詳かならざるも、治承四年源頼朝土肥實平を奉行として社殿を改造更に文祿五年徳川氏伊奈備前守忠次を奉行に命じ全社殿を造營せしめ、次いで寛

慶長年間賢宥法師の開山に係り、北條氏の後裔大川圖書を開基とする當山は新

義眞言宗智山派に屬し不動明王を御本尊とする。北足立郡安行村密藏院の末寺にして、一町歩餘に亙る境内地には正面十四間、奥行九間の本堂の外に、庫裡、書院、不動堂在り、不動堂は第十七世原田照倫師の建立になる。毎月二十八日不動尊の緣日にて、現住職は第二十世秋山照仲師、師は千葉縣香取町の出、久しく成田山に在りて函館成田山別院主任を十五ヶ年の永きに及んで勤務、大正十二年當山住職となり、震災に際しては堂宇の改築修復に盡瘁し、亦成田山一千年祭宣傳部長、成田山一千年祭奉議會議事、北足立南部支所評議員、教化事業聯盟理事、社會教育委員等の重任にも在り、その貢獻するところ頗る多大なものがある。

入間郡

越生町

越生町役場

越生町は郡の西北部に在つて、北に比企郡明覺、龜井、今宿の三村、東に川角村、南に毛呂、山根の二村、西に梅園村を控へ、川越市よりする街道と、飯能町より來る街道とが大字上野の東南部にて落ち合ひ、町の中央部を北へと走つてゐる。東西二十町、南北一里餘、上野、如意、西和田、大谷、成瀬、鹿下、古池、黒岩、越生の九大字に分れ役場を大字黒岩に置く。本町はもと越生郷の一部、大字越生は古くは今市とも稱し、越生郷の中心地をなし、相州より上州に通ずる街路に當り、その樞要なる一宿驛として名

を謳はれたものだつた。明治廿二年町村制施行に際して町制を布き、初代町長森村雄三郎氏より相次ぐこと十三代、昭和四年三月鈴木和三郎氏十四代町長に就任同十二年六月、三度推薦、全町民の期待に副ふべく、活動をつゞけてゐる。

町長

氏は先代和吉氏の長男として明治十八年七月一日、土地の

素封家たる今の家に生れ、郷校を卒へるや若冠にして町會議員に選ばれ、次で收入役、助役、軍人分會長を歴任、今日に至つたもので、郡町村會副會長を兼ね、名町長の譽れ高く、温厚なる好紳士である。また現助役に池畑正雄氏、收入役に野口勝藏氏あり、共に町長を輔けて明朝

なる町政の完璧へと力進してゐる。なほ町會議員十八名、學務委員四名、方面委員十名あつて、町自治に參與してゐる。

學校及び各種團體

越生小學校の外に公民學校、青年訓練所、圖書館があり、また青年團、消防組、衛生組合、商工會、農會共愛振興會、農家組合、納稅組合、國有林保護組合、養蠶實行組合などがあり、越生警察署、越生郵便局、川越區裁判所越生出張所、秩父營林署擔當區官舎の官衙公署と、社寺に指定社五社、その他の寺院がある。

高萩村高萩

郵便局長

犬竹喜男

當家は土地屈指の舊家にして先々代權次郎氏は、多年聯合戸長として村治の上に太く貢獻せる人、又當局の開設も氏によつて爲されたものである。各公職に歴任し、功績あり明治四十年正八位勳八等に叙せられた。先代源平氏も二代局長と



氏は川越中學を卒へ早稻田大學文科に學んだ秀才、先

代源平氏に望まれて當家の養子となり、三代目局長に就任したのである。趣味として俳句、洋樂、庭球をなし資性明朗瀟灑矜愜の情に篤い紳士である。義弟哲也氏は川越中學を卒へて局主任として精勵二男英雄君は川越工業に四男達雄君は松山中學に在學中にして家庭は母堂イタ子さん、尙子夫人、長男巖君外三男あり、常に團樂を極めてゐる。

高萩郵便局

當局は明治七年犬竹權次郎氏の創局によるものにして、往時日光街道の要津として繁榮した當村も、時代の波と共に一農村へと變形し來つたが、近年全村一致の復興活潑なる發展を見つゝある。本局又本村の村勢と軌を一にし近年漸時事務繁盛を來しつゝある。區域は高萩村、霞ヶ關村、駒川村にして、現在電話架設十五本を算してゐる。

坂戸町

長溪山永源寺



高尾の碑

曹洞宗關東三利の一にして、梅園村の龍穩寺の末寺である。本尊は釋迦牟尼佛開山は龍穩寺第十四世大鐘良賀禪師、開基は島田永源利秀である。永源氏は清和天皇の後胤にして利秀長男島田次兵衛尉重次は徳川家康に仕へ大阪之役の功に依り當坂戸村を賜はり父利秀を招いた。爾來坂戸に居住して徳川家に仕へ、出雲守丹波守、越中守等が出た。名妓高尾を中に仙臺侯と争つた島田權三郎（重三郎と俗稱）及び高尾の墓あり、過去帳に權三郎内室とある。慶長十八年台徳院殿のお墨附を、寛永十三年御朱印地二十四石餘を賜はる。境内は五町歩に上り老杉古松蒼鬱たる靈域である。伽藍は天正十八年の創建なるもその後荒廢に歸し、文化十年第二十世默室良禪師七堂伽藍を再興、弘化三年炎上、庫裡は嘉永六年、本堂は明治十八年復興して現在に至る。鎮守の金毘羅殿は總樺造創立年代は相當に古

きものである。寺寶には羅漢畫像十六幅、漢土聖人三幅對、開基深翁永源畫像一幅、島田一玄筆紺紙金泥妙法蓮華經八卷、島田次兵衛尉重次銅板墓誌一面、高尾遺愛の鏡及び茶碗等を藏してゐる。釋尊降誕會は五月八日に行ひ參拜の善男善女數十萬に上り、祈禱札を頒付す。養蠶、道中安全等の靈驗がある。大施餓鬼を九月一日に行ひ、關東大震災罹災の施主二千餘人に上り、當日は盛況を呈す。檀家三百戸、總代は福島八郎兵衛氏外三氏。

浦和市縣廳前

浦和女子洋裁學校

「人格と技術の併進教育をモットーとし、新時代に順應せる婦徳の涵養に努むる」といふ教育を眼目に、昭和十一年四月浦和女子高等洋裁學院の名の下に生れ、同年七月監督官廳の認可を得て浦和女子洋裁學校と改稱、現在に及んでゐる。本校は佛教主義に依る人格教育、最新式裁斷法の教授、卒業後の就職斡旋等を特色とする。また實業部を設けて、一般市民に婦人子供服を實費販賣してゐる。現校長は小松原賢譽氏、學徳技術のすぐれたる人格者で、東京市方面委員、東京市救護委員、小松原兒童藝術學園長、日本佛教教育研究所長、西福寺兒童學園主事、東京童話教育聯盟理事長、昭和社教化部長等を兼ねて盡瘁してゐる。

住職

師は第三十世の現住
明治二十九年八月二十
九日秩父郡大河原に生



副會長、社會教育委員、自強會地方部長及び宗務所役員等を兼務し盡瘁功勞顯著

熊谷市

熊谷市長 新井良作

氏は今、多分に將來性を有する熊谷市長として熱心執掌しつゝあるが、抑も本市は昭和八年四月一日市制を施行して今日に至つたまだ生々しいものではあるが中山道、市の中央を縦貫し、縣道また縦横に貫通するの外、信越線をはじめ本市を起點とする秩父鐵道、秩父羽生線並に當驛を中心とする乗合自動車路線十數線を有し、宛然放射線狀の如く四通八達し殊に時餘にして大東京市に達することを以て、商工業の發達驚くべきものがあり、縣下西北部に於ける樞要都市として、眞に文化の中心をなしてゐる。諸官衙立ち並び、名所舊蹟に富んで觀光の客常に絶ゆる時がない。本市主要物産として生糸、製粉、製麥、製麵、染色、製菓酒、醬油、箆筒、セメント製品等が數へられるが、製菓中の五家寶は遠く海外にまで輸出されてゐる。

大里郡

寄居町

寄居町役場

當町はもと秩父岩田庄天神山の城主白鳥七郎丹治行房の所領であつた。弘治年間には藤田郷花園の城主藤田右衛門佐小野康邦が領した。北條氏政の弟氏邦は康邦の養子となり後に北條安房守氏邦と改め鉢形城に居つた。天正十八年六月豊臣秀吉之を亡ぼし、その後徳川氏の所領に歸した。昔時は茅刈庄藤田郷花園里と稱し、寄居、藤田、末野の三大字から成り大里郡の西部に在つて荒川の左岸に沿ひ秩父郡の關門である。明治二十二年町村制施行により寄居町役場が開設された。町内には商家と農家とが多い。農産は水

稻、大麥、小麥、甘藷、馬鈴薯が多く、近年は製紙原料の黃蜀葵(たも)を多く産す。春蠶、夏秋蠶の繭額は二萬圓乃至四萬圓に上る。畜産は牛乳、鶏卵、鶏が多く、水産では鮎が主なるもので、昭和十二年夏には宮内省へ献納した。砂利の採取額は二萬圓。工業では生絲、絹織物

和酒が主要である。小學校は尋常科十二學級、教員十三人、兒童六百七十四人、高等科二學級、教員二人、兒童百人、出席率は良好である。町立の公民學校、實修女學校、青年學校、圖書館がある。警察署、郵便局、熊谷裁判所出張所があり銀行、會社、工場も多く、消防組、農會産業組合、商工會、保勝會等それ〴〵活動して成績を擧げてゐる。町勢の前途ま

ことに洋々たるものがある。また花園城址、藤田康邦夫妻、北條氏邦夫妻の墓、國分寺瓦焼場址、末野古窯址、鐘撞堂山羅漢山、寅ヶ岡城塞古址、雀宮、寄居公園の象ヶ鼻、同玉淀、玉垂の楓等の史蹟名勝がある。

町長

清水滋



氏は縣立熊谷中學校を卒業し、進んで早稻田大學に入り法科を卒業した人格者にして、町會議員に當選二期に互り、昭和十二年六月推されて町長の要職に就いた。識見高邁にして遠大なる抱負あり、助役の大澤鶴吉氏、收入役の高橋重太郎氏は共に練達堪能の士、事務に通曉し手腕は明敏、相協力して町長を輔佐し、全力を擧げて盡瘁しつゝあり、町民は悉く多大の信頼と敬慕を寄せ、町會等の支持

鞏固にて、施政は圓滿適確、着々成績を高揚しつゝある。

寄居町末野

助居町大澤鶴吉



當家の祖先是鉢形北條の一族大澤兵庫に出づ、鉢形

家滅亡後土着して代々九郎右衛門を襲名した近郷切つての名門である。祖父九郎衛門氏は書家として聞え平賀源内と親交のあつた人、先代九郎衛門氏は早くより江戸淺草花川戸に木炭問屋を開業、上野東叡山の御用商人を勤め、廻船問屋をも營み秩父産木炭を搬出して頗る盛業であつたが、彰義隊の上野戦争以來家運傾き當主鶴吉氏をして辛苦を嘗むるの餘儀なからしめた。氏は明治六年四月十五日の生にして若き頃より克く齊家修身に勉め

その剛毅不抜寡黙果斷の精神と温容高潔の風格とは町内信望の高きを加へつゝある。當町役場生活四十年に及ぶ、助役たること六期に達し、方面委員、少年救護委員、寄居町外八ヶ村方面委員會議長、埼玉縣方面事業聯盟理事、町農會副會長等に現任し功績實に多大なるものあり町治の生辭典的存在であり殊に方面事業に於ける淬勵功勞は顯著なるものあり町内の讃仰澎湃たるものあり。明治卅七八年の役に行政事務功勞者として表彰され銀杯を賜つた。明治三十九年大正天皇いまだ東宮にあらせられる頃荒川鮎漁の御供としての光榮に浴し金一封を下賜された名譽を擔つてゐる。

長井村

長井村役場

本村は郡の東北部に位置した地味や、肥沃の地で、用水並に排水の便頗るよく稲作に最も適してゐる。田三一二町、畑二五四町を有し米、麥、養蠶を主とし、

最近に至つて大和芋、馬鈴薯の栽培、養鶏、養豚の業漸く普及發達して、今後明朗なる村としての一途に邁進してゐる。

村長

内田善一

明朗なる近代的政治家肌の敏腕家として名望高き氏は、熊谷中學

校を経て早稻田大學法科を卒業せる俊英である。曾ては縣廳地方課に勤めしことあり、その後全村民の懇望によりて村長に就任、自治のため蘊蓄を傾けて努力し就任後日尙淺きに拘らず、事績大いに揚り、助役、収入役、吏員のコンビも全く申分なく宛ら一家庭の如くである。なほ本村は昭和十二年經濟更生指定村に擧げらるゝや、村當局は直ちに計畫の目標を舉村一致各種團體相互の連絡を緊密にし計畫實行に邁進し、その實績を顯著ならしめ、村民の福利増進を圖ること、愛郷の實を擧げ、共存同榮の理想郷を建設することに措いて、着々その實績を示し、村勢の向上發達日に顯著なるものがある。

秦村葛和田

秦村長根岸英

當根岸家の始祖は遠く、相承くること連綿十八代、代々農を傳へた舊家にして先代故仙一郎氏までは累代名主を勤めた家柄であり、本村の素封家としても知らる。氏は先代の長男として明治十八年生れ若くして既に齊家修身に勉め天性高潔眞摯温容にして村政に關與し曩に永く助役その他に擧げられて村財制の確立村勢の發揚に歴代村長を補佐して功勞あり現在村長に推輓されて愈々村治産業の各般の樞機に執掌し村民の期待に合致し翕然たる聲望を呼んでゐる。

本村概況

當村は郡の東端に位し利根川を隔て、群馬縣赤岩と相對する。土地平坦

氣候温和、地味肥沃である明治初期まで此地は揖便江戸に通じて葛和田驛と稱され、一要素として相當の殷賑を見たが、明治二十年頃の日鐵開通以來、俄然村勢

すくみ、驛としての昔の俤は失はれた。

總耕地面積は三五四・四町歩、戸數五百六十三戸、風俗は素朴質素敦厚である。本村は地域河川に臨める爲め例年多大の被害を受く、縣下第一の水害地といはれこれが打開更生の爲めには、村民協和一致の力に俟つて六十馬力揚水、百五十馬力排水装置を施し、昭和九年設立の村産業組合の完全な統制と村民の眞摯な熱意は昔日の悲境を日に月に克服し、既に昭和六年度よりの開田一五九町歩に及び畑六十四町歩、桑園百三十町歩にして米、麥、養蠶等の多角農業の合理的運営と、農家經濟の更生打開に益々邁進しつゝある眞に生氣ある、伸展の村勢を示す村である。殊に本村治水營作は他村の以て範とするに足る。

深谷町

町會議員安部彦平

安部家は海產物商を營める豪商にして祖父以來代々彦平を襲名し、代を重ねる

に従つて愈々巨富を致し、勢威頗る盛なる老舗である。當主彦平氏は明治十四年

二月十二日生、先代の養子となる。慶應義塾理財科卒業、昭和八年家督相續、町會議員に當選二期現任中、土木委員を兼ね。また深谷商工會長に任じ、東京深谷間直通電話開設、關東大震災救援物資供給、熊谷陸軍飛行學校設置運動の成功、殊に埼玉縣立商業學校創立に一萬五千圓寄附更に學級増加、施設充實改善の努力は尋常一様の事に非ず、同校第一の功勞者として内外の等しく感謝して措かざる所、今後の雄飛は刮目して期待すべきである。



奈良村中奈良

村會議員小島新一

小島家の創始は元祿以前であるが年代

は詳でない。代々農業に従ひ現在に至る

嚴父故徳次郎氏は區長代理、筆生等を経て村會議員に當選、消防組役員に就任し多年功勞大であつた。新一氏はその長男明治九年九月十日生、村會議員に當選二期に及び、現に消防組小頭に三十餘年勤績、功に依り功勞章を授けらる。養蠶實行組合に大正五年以來勤績、奈良神社氏



子總代に 明治四十 二年以來 勤績、ま た穀物檢 査委員を

勤め、絶大なる信望を博してゐる。令弟 錦一郎氏は騎兵准尉、日露戦役に出征の 勇士、中野區役所に勤め、青年學校指導 員を兼ね、次弟氏また近衛騎兵伍長であ る。新一氏の長男治司氏は熊谷農學校を 卒業し蠶業講習所を出で、蠶業試験場浦 和支所に奉職、退職後家業に勵精してゐ る。次男次氏は青山師範を卒業し、東京

の淀橋第一小學校に十餘年勤績す。

長井村 村會議員 新井武一



新井家 はその創 始は甚だ 古く、相 傳へて八 代を重ね

村内隨一の舊家である。代々相次いで篤 農の士を輩出し、精勤力行、代を重ねる に従つて益々家産を増大し、今や縣下有 數の資産を擁せる素封家である。武一氏 亦た屈指の精農家にして、その多角的農 業經營の研究は斯界の推稱して措かざる 所である。また村政、産業等の公共の事 に奉ずること頗る篤く、名士、識者と交 遊すること甚だ廣きに互り、博學にして 多識、また多趣味にして多藝、往くとし て可ならざるものがない。その抱負は遠 大で一家の見を有し、その研究と實施と

は専門家の壘を摩してゐる。而も雄辯に して言語明快小心慎重にして大膽果斷、 事に處して明敏、物を斷じて適正、衆望 自ら集まつて遂に村會議員の要職に推舉 された。まことに適材にして適任、今後 の雄飛は刮目して待つべきである。一家 は常に春風駘蕩として和樂の聲が門に溢 れてゐる。

岡部村岡 村會議員 大野治作



當家は 大野源治 郎家より 亡父治三 郎氏が分 家創立し

たもので農を以て家業とす。嚴父治三郎 氏は信仰に篤くして、檀家總代を奉仕し 諸事に通曉し、慎重謹嚴にして功勞多大 であつた。治作氏はその長男として明治 十五年六月十九日に生れ、區長を勤績五

箇年、消防組頭一箇年、學務委員一期を 歴任して功勞あり、村會議員に當選して 五期に及んで現任中。なほ氏子總代、檀 家總代、養蠶實行組合長、水利組合會議 員及び方面委員等を兼務し、周旋斡旋、



令息恒次 氏 奔走盡 瘁、甚 だ貢獻 多大で ある。

一聯隊にて兵役に服し、日露戦役に出征 して功に依り勳八等を賜はつた。資性頗 る濃厚にして情誼に富み信望を博して絶 大なものがある。今後の活躍は期して待 つべきである。長男恒次氏は支那事變に 出征し上海方面に従軍中の勇士である。 なほ一男一女あり、令孫五人を數へて、 和氣霽々、常に春風駘蕩の裡に歡喜親愛 の聲は門に溢れ、家門の繁榮益々隆々た るものがあり、四近の羨むところ大、そ の徳に浴せんとしてゐる。

藤澤村折ノ口 村會議員 向井次郎作



向井家 の創始は 年代不詳 ながら甚 だ古く、 元祿以後

の記録を現存してゐる。領主小栗家に仕 へた郷士の家で、代々農を業とし、醫師 を業とした人もあつた。亡父兵五郎氏は 養蠶業に盡力し改良の功勞が多かつたが 昭和五年、七十二歳の高齡で長逝した。 次郎作氏はその男、明治十五年十月生、 日露戦役に出征し功に依り勳八等を賜は つた。消防組取締、區長を歴任して、村 會議員に現任中で、また納稅組組長及び 養蠶實行組合長、農家總代、檀家總代を 兼ねて貢獻中である。夫人は亦た内助の 功あり、長男元三氏は家業に勵みなほ二 男四女がある。

奈良村 村會議員 門倉彌一郎



治二十 二年十 二月十 二日生 養蠶實

門倉家は元祿十年の創始以來、連綿と して相傳はれる舊家にて、苗字帯刀御免 の名門である。祖父は夙に公共の事に奉 じて熱誠を極め、社寺のため周旋奔走し て功勞あり、彌一郎氏は隅作氏の長男に して明 行組合長、衛生組合長、農事組合副組合 長等に歴任し、村會議員に擧げらる。重 厚にして剛毅、廉直にして熱心なる人格 者、書畫、插花、煙草等に趣味が深い。 母堂與志刀自は七十七歳にて益々健勝、 養子壽郎氏は加須郵便局工務課に勤務し 精勵恪勤者として賞讃せられ、今後以最 も多くの望みを囑せられてゐる。

岡部村普濟寺

村會議員 今井百太郎



今井家は代々開拓的奮闘家を輩出してゐる

蔵氏は篤農家として奮闘し農事改良の上...

藤澤村人見

村會議員 清水保三



清水家は代々大和國に住し後ち京師に移つた。貞觀

十七年伊豫守直房は令旨を奉じて東國に...

奈良村二ツ戸 村會議員 須藤啓之



須藤家は山緒正しき家柄である。啓之氏は

年十二月二十二日生。東京府立師範及び...

岡部村

村會議員 茂木親六



茂木家は創始以來五代を重ねた繁榮の家である。祖

父故九十郎氏は永年に亙りて収入役を勤...

奈良村

村會議員 富岡武七



富岡家は上州小泉城主の子孫と傳へられて五六代前

より農を業としてゐる。武七氏は故權左衛門氏の長男、明治九年三月十五日生、

四十四年蠶絲組合の設立に盡力し組合長に就任して現在に至る。大日本蠶絲會、縣及び郡各農會等の表彰を受けた。村會に當選四期に勤続し、役場新築を始め、治水、開墾などに功勞甚大である。現に農會役員、氏子檀家各總代を兼ねて盡瘁中、長男武之丞氏は蠶絲組合役員に任じ養鶏、養豚を經營し、次男氏は陸軍々醫學校藥劑官を勤務してゐる。

岡部村岡部

村會議員 小暮廣十郎



小暮家の創始は年代詳でないが、先祖の一人が關ヶ

原の戦に出陣して使用したる記念の茶碗鐵砲、刀、槍等を重代の家寶とし、村内外に於ける名門として敬仰せらる。家部の藩士として代々忠勤を勵んできた。

嚴父故伊勢次郎氏は竹馬の友にして刎頸の交を結んだ盟友澁澤榮一氏と共に青雲の志を抱いて上京し、氏は大義に殉じて彰義隊に加盟して上野に戦ひ、大島圭介に從つて五稜廓に血戦したる高節の義士である。廣十郎氏はその男として慶應元年十一月十二日に生れ、區長、消防組頭農會評議員等を歴任し、現に村會議員、學務委員等の要職に在つて貢獻甚大なるものあり、人格は玲瓏圓滿で徳望高く、一村の長老として推服されてゐる。長男明治氏は家業に勵んで精農家の譽高く、次男昇氏は埼玉縣立商業學校を卒業して遷信省に奉職中、支那事變に應召して上海方面に奮戦しつゝあり、盡忠報國の勇士として稱讃されてゐる。一家一門益々隆昌を極め、家庭は和樂福安にして常に春風が薫じてゐる。



同家鎮護の建立であつたと傳へらる。祖父金十郎氏は領主神谷勝次郎の事件に坐したといふ。家業に精勵して篤農を稱せられ、明治三十八年七十一歳を以て永逝した。園次氏は故萬次郎氏の長男、明治二十六年十一月十一日生、早く嚴父を喪ひ祖父の

撫養を受けた。巨富を擁して十萬圓長者と稱さる。近衛歩兵第四聯隊出身の上等兵、村會議員に當選一期間在任す。資性頗る明朗快活にして情誼に篤く、眞言宗を奉じて信仰に熱心、三男五女あり、長男恭二氏は父君を助けて家業に精勵す、一家極めて圓滿にて春風常に薫つてゐる。

藤澤村大谷

前村會議員 新井園次

新井家は由來久しき舊家で、實業師は

岡部村宿根

村會議員 野口勘七郎

當野口家は記録焼失して詳細は判然せ

ざるも當地方屈指の舊家として傳はる家系である。當家は一時中絶してゐたが今より四代前現在の久保久平氏の家より四代以前に分家の後再興したものである。氏は明治十四年十二月故定次郎氏の男として呱呱の聲を擧げ、若くして既に村治産業に思念する處あり、又萬事に明るく濃厚篤實にして而も眞摯熱意の風格は村民多大の讃仰を受け、曩に消防組頭たり現に村會議員たるの外水利組合長、穀物受檢組合長(創立以來格勵して現任中)等に歴任して大いに功績あり。因に家庭は令弟清四郎氏夫妻共に在り家業に従ひ稀れに見る圓滿な家庭をなす。

藤澤村上野臺

前村會議員 今井辰太郎

今井家の先祖歴代の墓標には、正應年間建立の碑銘を有するものがあるので、當家の創始は更に遼遠の昔にあると推定される。初代七郎左衛門以來代々崇祖敬神の念篤く、氏神八幡神社への奉仕は殊



に懇切鄭重を極めた。辰太郎氏は兵太郎氏の男にして安政三年生、八十三歳の高齡にして矍鑠壯者を凌ぐ。氏は地方の開發は道路の完成に在りとし、深谷柏合間道路を獨力完成して、縣道深谷寄居線の原基を開通し、村會議員在任中には柏合折ノ口間道路を開通する等、殊に土木上の功勞は偉大にして、村内の敬仰讃美を博してゐる。また桐畑を造つて植樹二千本に達し子孫のために遠大の計を備へてゐる。三男二女各々有爲貞淑の人である。

奈良村

若守義孝

駒澤大學教授 集福寺住職 當山は萬頂山と號して曹洞宗に屬す。本尊は釋迦如來である。本堂、庫裡、書院、鐘樓、佛殿、衆寮、表門等、型の如

く七堂伽藍備はり輪奐頗る盛大である。境内の面積は、三千九百七十九坪、田、畑、山林等合計二十町歩、春、夏の候大般若祈禱を修し、開山忌、大施我鬼の法要がある。檀家は二百七十戸を算し、總代は吉田茂氏外七人が奉仕して熱誠を極めてゐる。現住職は若守義孝師である。世界大戰以前に獨逸に留學して宗教哲學を専攻し、業績成つて歸朝して母校なる駒澤大學の教授に任ぜられてゐる。讀書研究が唯一の趣味である。人格は崇高にして溫和、品位威風備はり然も情味湧出して津々たるものがある。學は東西を貫き古今を兼ね、徳風一世を掩ふの概があつて、渴仰歸依するもの遠近に互つて甚だ多數である。學僧にして高德、正に名智識と仰ぐべきである。

岡部村普濟寺

元助役 柿澤範作

柿澤家は文治年間より以前に創始せられ、始祖半左衛門尉以來十一代を重ね

數百年間連綿相傳へて繁學を極めてゐる



ぜられてゐた名門である。嚴父故半左衛門氏は



人夫子リク

頗る多大であつた。大正十一年に七十九



氏一恭男長

作氏はその男にして、明治三十八年以來

七箇年間に互り助役に任じた。區長に任

ずること八箇年、盡瘁すること甚だ熱誠を極め功勞顯著である。郷黨はことごとくその徳風を仰ぎ感謝讃嘆を深くしてゐる。クリ子夫人は、貞淑を以て誦はれ内助の功に富み、二男二女がある。長男恭一氏は三十四歳、學を好んで志を立て、法政大學經濟學科に入つて螢雪の功を積み遂に優秀の成績を以て卒業した現に東京市淺草區内にて獨立し、玩具商を自營して良好の業績を挙げ、新進の實業家として前途甚だ好望である。

奈良村北奈良新田

消防組小頭
水利組合委員

柿沼市次郎



柿沼家は農を業とす。亡父林藏氏は村治功勞者である。殊に明治四十四年以來大里用水の爲

に没頭専念し、工事の指導監督、紛議の解決等に盡瘁して功あり、大正三年惜しくも長逝した。市次郎氏はその長男、明治二十年一月生、嚴父の遺志を體して水利組合委員に任じ、また青年團支部會計係、村會議員二期當選を経て、區長、農事組合長、養蠶實行組合幹事、及び消防組小頭八箇年勤続して現任中。寺院改築に盡力し、釋迦像及び永代基金を寄進し共同桑園を創設その指導に當る等、郷黨の悉く恩謝稱讃する所である。三男三女あり、長男氏は家業に精勵しつゝ青年團支部長に現任してゐる。

岡部村宿根

元消防組部長
家

野口敏三郎

野口家は年代は不詳ではあるが、その創始は非常に古く、再興以來でも八代を重ねてゐる。初代より太治右衛門を襲名して三代に至る。三代目太治右衛門氏は特に傑出せる偉材にして、名主を勤め、農事改良の功勞は多大なるものがある。

七代目新三郎氏は村長、在郷軍人分會長村會議員を歴任し、水利事業に多額の寄附をなす等功勞顯著であつた。今に至るも遺徳を追慕するものが絶えない。嚴父故新三郎氏は陸軍歩兵伍長、日清日露の



々人の家口野

兩役に従軍して、勳功赫々たるものあり勳七等を賜はつた勇士である。當主敏三郎氏はその男として明治四十年二月に生る。資性濃厚にして人情に篤く、人格は圓滿にして明朗、家業を勵精し、また公

共の事に奉ずること熱誠を極め、消防組部長として盡瘁して功勞尠からざるものがあつた。母堂刀自は益々健勝で、三弟一妹がある。夫人は夙に淑徳の譽高く、長男榮松君は小學校に修業中で多囀の寧馨兒である。なほ三女があつて、一家は常に圓滿和樂で春風を絶たない。當家は野口一門の總本家にして分家が七軒ありそれ〴〵繁榮してゐる名門である。

奈良村北奈良新田

青年團長

福田稔夫



翁郎五久

福田家は創始以來七代に至れる舊家で

ある。祖父久五郎氏は明治二十一年より教育界に入り、太田校十五年、長井校校長に二十三年等四十餘年奉職、文部省、縣及び郡等より表彰さるゝこと數回、三



九日生、十二月十日、昭和八年

十四年より大正七年まで大里郡教育會幹事に在任し、七十三歳の高齡、縣下の長老である。稔夫氏は故弘氏の長男、明治四年教員檢定に合格、川柳校等に奉職、家事都合にて退き家業に勵み、また青年團長に在任、福神漬製造及び多角的な農業經營に努力中で、今後大いに囑望されてゐる。令弟は訓導現任中で令名を誦はれてゐる。

大寄村高畑

青年團長

眞下文雄

眞下家は創始以來八代を重ねた舊家である。代々農を以て家業としてゐる。文雄氏は大正二年六月二十日生、美作氏の次男である。農業に精勵する傍ら劍道修

業に努力して、遂に二段の榮位を獲得した。業餘の閑時を以て後進に剣道を教授して、指導誘掖に盡瘁すること鄭重にして熱誠を極め、郷黨の等しく稱讃して措かざる所である。



今や青年團長の要職に在り
適材適任

である。養蠶實行組合長、椎茸出荷組合第八部組合長に任じ、奔走盡力、著々として貢献しつゝある。令弟令妹十二人の大世帯で家庭頗る圓滿である。

奈良村

山下善四郎

山下家は創始以來六代を重ね、農を業とす。明治初年より區長を勤め來れる精農家である。昭和九年率先首唱者となつて納稅組合を組織し、成績を向上してゐる。また二宮尊徳先生の遺訓を體し報徳

精神の實行を唱道し、時間勵行を普及徹底してゐる。道路改修等に奉仕努力し表彰された。養蠶實行組合前副組合長を経て、農事組合長、納稅組合長、水利組合員に舉げられ



貢献してゐる。政友系の特志家として勢力を有し、今後の活躍を期待さる。長男八郎氏は近衛歩兵出身にて秩父セメント會社平澤組會計係に奉職してゐる。

寄居町

藤崎惣兵衛

當家は關東屈指の酒造業者として、その名著はれその醸造に係る銘酒虎之巻は醇良他に比倫少く、左黨の愛飲措かざる。ところ、販路は關東一圓は勿論のこと東北六縣並に東京方面にも進出し、殊に近年に於ける飛躍發展は顯著なるものあり

縣下業界の代表とまで稱されてゐる。氏は江州の人、商機を見るに敏にして業務に熱心、商盛日に旺んる亦宜なる故である。支配人吉田氏は、氏の最も信賴する長期勤続の功勞者で、その仁徳は「虎之巻」の芳醇さを象徴するがやうである



元銀行支店長 船田義逸
船田家中興の祖は新田家の重臣船田長

門守政經にして、爾後は上郷、即ち今の日向に定住して、現在に至つた。當郡内多數の素封家である。曾祖父伊兵衛氏は諱は忠良、通稱は總五郎、文、武兩道の奥儀を究め、特に柔術は山田貞六、深江傳右衛門の門に起倒流を修めて、出藍の譽高く世人呼んで「小天狗」といつた。



役場の戸長以來引きつゞき 秦村初代の村長として殊に

資性は剛毅にして圓轉滑達、小兵ながら豪勇無雙、また風流雅懷の造詣が深く、旅日記等今に傳へて面目躍如たるものがある。質素儉約を率先勵行し、『伊兵衛どんおごり』の語今に傳へられて後世を戒めてゐる。祖父伊兵衛氏はまた先代の嗜氣性を受けて、寛潤勇壯にして都雅の嗜が深かつた。先代三千雄氏は、聯合戸長

だ。熊谷中學校を卒業し、山口高等商業學校に入つて之を卒業してから、熊谷銀行支店長を経て、武州銀行支店長に任じ營々精勵して大いに好績を挙げた。が惜しくも病の爲に勇退して閑地に逍遙してゐる。特に家門に流るゝ傳統的愛郷心旺盛にして、凡そ郷土に關する事は之が援助誘掖を惜しまず、必ず之をして大成せしむること比々として然り、令夫人亦た淑徳を誦はれ、國防婦人會副會長に任ず夫妻共によく郷黨を敬愛して温情を施して限りなく、徳望甚だ高大である。

岡部村宿根新田

清水保之助

清水家は源家新田氏の流れを汲む明暦年間前よりの舊家で、十代近くの家柄である。その祖治郎右衛門氏が岡部六彌太氏の舊跡を後世人に傳ふべく一堂を建立したが、それが今の正應寺となつて遺つてゐる。先代清次郎氏は篤農家、今、八十四歳の長壽を保つてなかゝの元氣で

ある。當主はその男、明治十四年八月二十七日の出生、消防部長同小頭などを歴任、今、區長代理、氏子總代を兼ねて盡瘁してゐるが、資性温厚篤實、敬神の念篤き人格者である。夫人との間に三男三女の子福者。長男富重氏は三十七歳、近衛歩兵第四聯隊伍長勤務上等兵、岡部小學校訓導を勤め、將來に大なる期待をかけられてゐるが、日支事變の起るや勇躍應召、教鞭を銃劍にかへて華々しく奮戦してゐる。

藤澤村大臺

平井儀作



平井家は永正年間藤井權六義徳家より分家し群馬縣

平井村に住して平井姓を稱す。上杉氏の臣として現地に來住し歸農して十箇村の

總代を勤めた。初代太郎左衛門讓邦より相傳へて十八代當主に至れる名門、令兄浦吉氏は久吉氏長男、日露戦役に従ひて名譽の戦死を遂げた。儀作氏は久吉氏二男にして家督を相續す。宇都宮聯隊出身の歩兵一等兵、令弟友次郎氏も同隊出身にて兄弟三人勇士揃の名譽が高い。母堂健在にして六男七女あり、長男義久氏は大阪市にて商業を営み、次男基義氏は現役兵で支那事變に出征す。三男守氏も甲種合格した武勇の譽重なれる名門である

寄居町 藤田

宗像神社
元校長

藤田 郁太郎



藤田家は遠く敏達天皇の第七皇子春日皇子の御子妹

より小野朝臣の末裔にして、二十代の後小野政行は男衾郡藤田郷に住して藤田五

郎と稱し武藏七黨の一なる猪俣黨の勇將となり、爾來連綿今日に至つた。先々代藤田學氏より神官となり、先代善作氏は縣神職會大里郡支會長たりしほか、町農會長、養蠶組合長、寄居繭糸會社長等に任じて自治産業方面にも功勞多く表彰を受けてゐる。當主は明治十六年三月二十日の出生、同三十七年三月埼玉縣師範を卒業して以來小學校教育に盡瘁、後鉢形尋常高等小學校長に榮進、大正九年三月教育界を辭すると共に實業界に入り、昭和六年父君の後を襲ふて寄居町大字藤田鎮座宗像神社々掌となり、同七年縣神職會大里郡熊谷市聯合會支會理事となつて現在に至つてゐる。

藤澤村 上野臺

舊 家 戸谷慶次郎

當家は寛永十二年八郎左衛門より九代目に當る此處草分けの舊家である。當屋敷内にある南天の老木は徳川三代將軍家光の時代に植えられた名木である。氏は

明治六年八月故今井亥之吉氏の男に生れ請はれて當家に養子となりし人、當家の祖父八郎次氏は曾つて氏子總代として、八幡神社の移轉に際しては殊に功勞の大なるものあり、氏も亦氏子總代たるの他消防小頭衛生組長として活動、現に區長として部落の融和發展に盡瘁し、村内の信望極めて厚いものがある。長男友治氏(四十二歳)も消防小頭を経て現に農事實行組合長、衛生委員として貢献し岳父の衣鉢を襲いでゐる。父子並びて村治上に活動し而も篤實温厚の人格は羨望的である。

秦村 日向

永井神社
神職

島田 禎二

島田家は九百年來の舊家、代々永井神社の神職として今日に至つたもの、氏は明治三十二年三月十六日の出生、縣立熊谷中學校を卒へて東京國學院大學に學び業終るや九州の中學校に教鞭を執りつゝ、あつたが、日支事變の突發と共に出動、



戦線に活躍してゐる。柔道二段、性謹嚴、讀書を愛し

家に一男二女がある。

永井 神社



利根川堀を掘りて水を落し

往古、當地に大蛇ありて村民を悩ますこと大なりしが、大五郎道平なるもの、

つたといふ。

深谷町北横町

西運寺

島田 大梁

當寺は寂定山弘通院西運寺と稱し、阿彌陀如來を本尊となす。淨土宗に屬し本山は増上寺、本寺は常陸國飯沼檀林弘經寺である。境内面積六百餘坪、檀家二百五十餘戸にして、本堂は明治十九年二月の竣工になる。寺寶としては、宗祖法然上人御眞筆名號、金紫金泥阿彌陀如來狩野一信筆寒山拾得、唐銅鑄造、阿彌陀如來立像一軀、呼梵鐘、鐵製縣佛十一面觀音等がかぞへられる。現任職大梁師は稀れに見る人格豊滿にして、町民の間に徳望厚き善智識である。深谷町佛教會長となしてゐる。

幡羅村

全久院

春日全明

全久院は幡羅村屈指の有名なる禪刹に

して、由緒深遠、一村の歸依まことに篤いものがある。境内は老杉古檜、鬱蒼として繁茂し、林泉の美巧緻豪宕を極め、幽邃にして明媚、閑寂にして暢達、堂塔伽藍は、輪奐の美盛にして、莊嚴豪華、まことに崇佛頂來の一道場たるに値してゐる。檀家多數を算して、總代は適材の人格者を網羅し、尊信奉仕するところ懇篤また熱誠である。現任の住職はその學識は古今にわたり、東西を併せ、宗乘、餘乘の典籍を涉獵し、研鑽學究は深奥博大、しかも人格は嵩高にして圓滿、資性は謹嚴にして寛容、特に情誼は厚篤、仁俠謙讓を發揮する。特に新井石禪老師の信任甚深であつて宗門の内外に於ける功勞顯著である。遠近より來つて才學を仰ぎ徳化に歸依すること頗る篤いものがある。令夫人亦た聰明淑和、貞柔の徳聲が高く内助の功甚だ多きに居る。令息は大に學んで國語漢文科の中等教員免許狀を文部省より授けらる。蓋し螢雪の功大成し學才こゝに煥發せるものである。今

後の活躍は期して待つべきである。

用土村

蓮光寺 住職 齋藤真宏

蓮光寺は用土村唯一の寺院であつて、頗る林泉の美に富み雅趣掬すべき幽邃明媚の靈域である。檀家は全村に亘つて極めて多數を算し、總代の奉仕も熱誠である。現任の住職齋藤真宏師は修行成就し宗乘餘乘に涉つて研鑽學究、宏汎深奥にして真に博識多才、慈悲忍辱の人格は圓滿無碍にして、入りては名僧智識の大導師、出でては學徳秀でたる奉公盡誠の士である。愛犬の飼育と造園、花卉の趣味が甚だ深い。夫人亦た仁慈の志深く内助の功に富む。一家常に和樂し、法城いよいよ安穩にして、法燈益々煌々たるものがある。徳化洽く、遠近に歸依するものが多い。

深谷町

國受院 住職 田島智耀

當寺は明治四十二年現住職田島智耀師の建立せしもの、境内面積三反五畝、日蓮宗に屬し、法弟子六名あり、檀徒總代は瀧澤常吉氏外三氏で智耀師は秩父郡の出身、人格は温厚篤實にして寡黙實踐且つ清廉の風格は村民の間に典型的宗教家としての聲望益々重きを加へてゐる。縣より日蓮宗埼玉縣參事の辭令を受け、又本山より進講師の稱號を受けてゐる。裕福なる寺であり、參詣者踵を接し殊に行事等の時は非常な盛賑を極める。宗教的人生觀の確立こそ人格完成の正道であると抱負する師の今後に於ける宗教的活動こそ期して俟つべきものがあらう。因に夫人は才色兼備の矜愍の情にあつき人である。

妻沼町

聖天山歡喜院

電話妻沼一六番

當院は準別格本山たる名刹で、妻沼聖天と稱し古來四民の信仰歸依するもの多

八基村下手計

瑠璃山妙光寺

遍照



師仁良本坂職住

院とも稱し眞言宗にて、本尊は藥師如來、開基は福島但馬守、開山は榮忠

長井村

福源山長昌寺



師雪香杉小職住

抑々當山は上古天台宗たりし當時より

大田村

能満山定禪院能護寺

古義眞言宗にして、中本山能満山安禪場と稱し、高野山無量壽院の直末、開山は行基菩薩、天正十五年一月二十八日聖武天皇勅願所として創建、平城天皇大同四年弘法大師再興し、中興開山は良珍上人。末寺は十九箇寺ある。本堂、庫裡二棟、鐘樓等備はり、本尊講正月十三日、祖師講三月二十一日最も盛大に行はる。檀家百五十戸。

住職

石橋知光



師は中興以來第四十五代目、明治十五年二月十日生、妻沼町歡喜院英良上人に師事、本山加行の傍ら中學林、高等中學林

阿闍梨、太田村能護寺が本山である。天保年間一山炎上して記録類一切を喪失した。境内は三町三段歩、天海僧正の山縁が深い寺で、弘法大師の筆蹟を寶藏す。檀家は二百戸、總代は杉山國吉氏外六名が奉仕し、現住職に坂本良仁師を仰いでゐる。

三尻村三ヶ尻

福源山幸安寺

當寺は藥師如來を本尊とし、文龜二年に創立されたる名刹にして、開基は名門小笠原氏である。本尊の御靈驗は殊のほかあらたかなれば、古來庶民の信仰あつく、三ヶ尻幸安寺の名は遠近に聞えてゐる。本寺は幡羅村國濟寺である。現住職細見祖英師は典型的な宗教家にて、七歳の小僧時代から當寺に修業を積み、爾來四十有餘年、寺運の興隆に盡力貢獻多し、數々の建造物を完成せる功績は、實に甚大なるものあり、また檀信徒間の聲望も噴々として播ぎない。

福神に因縁深く、第二世碩勝和尚は世に有名なる實盛聖天を奉安し、中興の祖瑞年碩甫和尚は、常陸國蠶影尊天を勸請した。その後江戸表松平大坂頭奥方より辨財天並に大黒天の奉納あり、靈驗著しくその加護恩恵を蒙るもの枚擧に遑がない。以上を當山の四寶尊と稱し、一度來拜する者は必ず願望成就は勿論、小兒百日咳夜啼疳虫封等に至るまで驚天動地の靈驗が與へられる。寺籍は曹洞宗。座主小杉香雪師は宜道とも稱し、檀信徒の信望あつき善智識で、由緒深き當寺運隆昌へと力進してゐる。

を経て哲學館大學を卒業、大正十三年の

入山、權大僧都に任じ、宗會議員、方面委員を兼務し、盡瘁貢獻すること顯著、學徳一世に高き名僧にて、遠近歸依すること頗る篤い。

幡羅村國濟寺

國濟寺

當寺は臨濟宗京都南禪寺末の古刹にして常興山と號し、本尊は佛祖釋迦如來である。開山は俊翁令山と稱し、應永十五年三月に入寂せる當時の名僧である。境内廣く、古木鬱蒼の氣に充ち大樹の亭々として空に聳ゆる景は、正に一幅の佛畫を見るが如き美と虔との交錯である。靈域清淨を極めて赴くものをして自ら襟を正さしめ本堂、庫裡等の堂塔伽藍は語らずして沿革の古きを忍ばしめる。住職横田禪海師は眞に大寺の山主たるに相應しき威風堂々たる人で、且つ丁寧殷勤、一面磊落な性質の持主でもある。讀書に興味深くして智は古今東西に通じ、殊に佛敎に關する智識は、その究極に達してゐ

る。また旅行を好み、寫眞術に長じ、各地を跋渉しての作品は夥しい數に上る。令聞は内助の功多き賢夫人である。

大寄村内ヶ島

密嚴山永光寺

畏くも 後醍醐天皇を開基となし、丁惠和尚を開山とする當寺は、釋迦如來を本尊に安置する天台宗の古刹にして、元は群馬縣世良田長樂寺末なりしも、明治九年離末して、京都延曆寺末となつた。境内に莊嚴なる閻魔堂があり、内には日本一體と稱する閻魔大王の立像を安置する。古記録によれば、一名掌中閻魔として天下に名高く、往昔、人皇八十八代高倉院の御宇、攝州清澄寺慈心房尊惠が夢の中に閻魔法王の立像を掌中に授かれりと傳へ、それに感じ閻魔廳に到り庭前の松を貰ひ受け自身彫刻せしものをこの地に安置し今日に至つたといふ。なほ寺内には弘法大師の作に成る不動尊がある。檀徒總代は塚越安太氏、高田憲三郎氏ほ

か二名。現住職永島貞純師は大正大學を昭和六年の卒業にして、十三歳の若年を以て得度、前住職永島考照師の養子となつた人である。

新會村新戒

的龍山東雲寺

當山は曹洞宗に屬して本尊は釋迦如來



仁王門

である。開基は新開荒次郎、開山は一牛雲道大和尚にして、新開荒次郎が源頼朝

の臣である事に依りても、その創建は鎌倉時代初期の事に係はれるものと推察せられる。全山炎上三回の災厄ありて、古記録を失つたのは、惜しみてもなほ餘がある。當寺は實に新開家の祈願所であつ



本堂

た。近隣に大林寺がある。新開荒次郎内室の開基である。爾來、兩寺の檀家は全く同一にて、男子は東雲寺に、女子は大林寺にて佛事を行はれて、今に至るもなほ變らない。兩寺の間には新開家の舊

邸址が遺されてゐる。東雲寺には開基の墳墓がある。當寺の中興第十世吳山濁水大和尚は特に優れた傑僧であつて、旱天に雨乞の儀を修して奇瑞を現し、また當寺にゐながらにして遠く隔りたる石川縣大乘寺の火災を豫知して警告したことなど、今に至るも傳稱せられてゐる。鐘樓門は大正十二年及び昭和六年の震災に依りて被害多大であつたが、七年修復改築して威容を整備した。九年には庫裡の新築も竣成し、樓門内外の花崗岩の鋪石二十六間及び本堂内の青銅燈籠等は、石川鶴堂氏並に令息の寄進、須彌壇は荒木常四郎氏、同辰雄氏の寄進にかゝる。その他法器佛具悉く備はり、莊嚴豪華を極めてゐる。

住職 毛利俊雄

師は内外遠近の歸依が頗る厚く、亦學徳一世に秀でたる高僧である。檀家は新戒一圓、二百二十戸を算し總代は荒木常四郎氏、福島峰七氏、萩原新三郎氏、石川武平氏、力丸群義氏、福

島儀作氏等が熱誠に奉仕貢獻してゐる。



なほ師は寺運の隆昌に懸命の努力をなすと共に、他面に

中瀬村

長勢山吉祥寺

當寺は阿彌陀如來を本尊となし天台宗に屬し比叡山延曆寺の末寺である。室町時代文明年間の創始にかゝり、開山は禪爾和尚である。現在の中瀬村は往古長勢村と稱し山號はこれより出づ。承應元年に火災に會ひ堂宇悉く烏有に歸し、其の後享保年間に再び火災にかゝり古い記録その他一切を灰燼に歸した、ために當時の古い沿革由緒の詳細は今に至りて知るに由ないが、幸ひ寺主の阿彌陀如來の本尊一體は之を傳へてゐる。現在の本堂を

他の堂宇は大正十三年改築されたもので堂境内に觀音堂がある。當寺の年始受けて稱する行事は一月一日の早朝全村の者が參集する變つたものとして知られてゐる。檀家は中瀬一圓四百戸内外である。現住職三崎良泉師は大正七年上野圓受院より來り三十五代目住職となつた知能該博の善智識である。濃厚圓滿の人格は村内の信望が厚い。現檀家總代は石川政四郎、川田竹雄、石川喜次松諸氏が在任して太く盡瘁されてゐる。

八基村横瀬

心王山自心院華藏寺

胎藏界大日如來を本尊に安置し、新義眞言宗豊山派に屬する當寺は、澁澤子爵家の菩提寺にして弘道上人を開山とし、根古屋の城主從五位下新田藏人太夫義包を開基とする。されば新田家累代の菩提寺として隆昌を極めた。義包公は當寺に武運長久の祈願を籠めて靈驗あらたかなりしといふ。境内にある大日堂は、横瀬

家の先祖を祀り、また由良國繁の墓がある。聖天堂は元聖天にありたるものを延享三年に當寺内に移したと傳へられる。群馬縣新田郡世良田村惣持寺を本寺とする。澁澤榮一子、縣知事等の參詣をうけしことあり、新田義包の墳墓、澁澤子の記念手植松は八基の名勝に數へられる。檀徒總代は高橋要藏氏、原田芳太郎氏、本田善四郎氏の三名。現住職菅間隆弘師は當山第三十六代目にして、法燈を承けて五十有四年、徳望四隣に普し。

岡部村岡部

玉鳳山千手寺源勝院

曹洞宗にして本尊は千手觀音、行基菩薩に係る。本寺は藤澤村昌福寺、末寺は普濟寺等四ヶ寺ある。安部彌市郎信勝の開基、草創年代詳かではないが、慶長四年領主安部彌市郎信勝が、亡父大藏之眞追福の爲、昌福寺第八世前寶賢達和尚を中興開山とした。安部家の菩提寺として代々尊信が頗る篤かつた。岡部彌太郎

の幼時に生母が乳の祈願をかけて靈驗あり、乳房觀音と稱して女人の歸依渴仰が熱烈である。千手觀音像及び、安部家寄進の兼定作銘刀一振等の寺寶は斯界の權威者が悉く推稱して措かざる重寶貴什である。明治十一年九月二日、明治天皇が東北御巡幸の砌、御休息遊ばされた所である。また實業界近來の英傑と仰がれた故澁澤榮一子爵も參拜して尊信する所が篤かつた。

住職

師は、宗界及び各方面の公職、名譽職をも兼ね、功勞甚だ



四ノ宮方宗 師は、宗界及び各方面の公職、名譽職をも兼ね、功勞甚だ多大學徳一世に秀でたる高僧であるなほ檀家は岡部村深谷町及び附近一圓に互つて、總代は久保奥次郎氏外二十二人が熱心に奉仕してゐる。

武川村瀬山

根本山光明院正福寺

當寺は元祿年間以前の開基に係り、重盛和尚を開山とし、本郡本郷村弘光寺末にして新義眞言宗豊山派の名刹である。本尊には阿彌陀如來を安置する。境内面積三百坪。寺内に慶長十九年大坂冬之陣に討死せし瀬山將監の墓あり、安政二年入佛供養せりといふ。檀徒總代は清水新五郎氏、清水彌平氏、横瀬治氏の三名。現住職小久保隆順師は明治二十年の岳降にして當山第十七世、十三歳の時佛門に入り、豊山大學に修業せし大智である。現時方面委員を囑され、社會事業方面に功勞甚だ多い。長男隆呼君、次男隆福君は共に熊谷中學校在學中。なほ師が兼務する三ヶ尻村龍泉寺は不動明王を本尊とし、心海法印の開山に成る古刹にして、天保年間、渡邊華山先生滞在せることあり、その筆に成る訪瓶録及び書畫數點を所藏する。

男衾村

不動寺

降魔の劍を持つて立つ不動明王を本尊に安置する當寺は、男衾村切つての資産ある寺院で、眞言宗智山派に屬し、白菜僧都を中興の開山とする古刹である。境内五段七畝五歩堂宇嚴として祖靈を祀るに相應しく、檀徒約二百戸をかぞへ、總代は石澤福雄氏ほか九名が任じ、末寺に比企郡長里村勝福寺及び秩父郡三澤村常樂寺を有す。住職中山亮榮師は、雪の新湯の産、濃厚にして慇懃、人に接しては苟も禮儀作法を崩さず、あらゆる點から見て完成せる人格の持主といふべきであらう。愛犬を有し、また讀書に趣味深く宗教方面専門の研究は一方の權威とまで稱され、常には讀經三昧に過し、少量の晚酌を唯一の楽しみとする眞に清淨な佛徒としての日常を送つてゐる。ふく夫人は電療士の免狀を有し、家内は和氣霽々たるものである。

本畠村畠山

白田山滿福寺

當山は針ヶ谷弘光寺の末寺にして、新義眞言宗豊山派に屬し、畠山重忠の開基に係る。舊幕時代には小本寺にして、本尊は不動明王、脇立は矜加羅、制多迦の二童子である。鳥羽天皇の御宇、弘誓房深海法印の創建以來久しく廢絶したが、畠山重忠之を再興し、傍に觀音閣を建立して、重忠等身の千手觀音を本尊とす。世に白田山觀世院と稱へる。元久二年堂宇改築され、開基重忠の靈牌を安置してから今に傳へてゐる。慶安元年御朱印地十石三斗餘を賜はつた。昔時は塔頭二院末寺二箇寺があつた。重忠遺愛の茶釜等を寶藏す。境内は五千七百七十七坪、檀家三百餘戸、日露戰役戦利品の砲彈四箇を陸軍大臣より寄進された。現住は清水光惠師、方面委員を十年勤續し、信望甚だ大なるものがあり、檀徒内外のひとしく敬仰するところである。

秩父郡

秩父町

秩父農林學校

本校は明治三十三年秩父郡立乙種農學校として設立認可され、同三十六年甲種に變更、大正八年郡立農林學校と改稱し同十年現名稱に改めた。至誠一貫、協同親和、規律節制、勤務努力を教育の根本方針となし、在學生徒二百五十人、校有地五千九百餘坪、演習林十五萬八千坪を有し、實習用地として水田千餘坪、竹林三百坪、畑五千五百坪をかぞへる。成績縣下に範たるものあり、昭和三年十一月には長くも、閑院宮殿下の御成りを忝ふした。また出身名士中には尾田村長富田氏、浦山村長齋藤氏、芦ヶ久保村長町

田氏などがある。

校長 小林善藏



氏は島根縣の人、縣立大社中學校を卒へて東大農學部教授養成所に學び、大正十一年卒業と共に長野縣更級農學校に奉職、昭和四年縣立杉戸實業學校教頭に轉任、在任七ケ年中、種々の業績を遺してゐるが、殘に過般開催の世界教育會議委員の視察校となり、また畏も、賀陽宮殿下の御巡校あらせられたを始め、視察團一ケ年一千五百人を下らぬといふ天下に

氏は島根縣の人、縣立大社中學校を卒へて東大農學部教授養成所に學び、大正十一年卒業と共に長野縣更級農學校に奉職、昭和四年縣立杉戸實業學校教頭に轉任、在任七ケ年中、種々の業績を遺してゐるが、殘に過般開催の世界教育會議委員の視察校となり、また畏も、賀陽宮殿下の御巡校あらせられたを始め、視察團一ケ年一千五百人を下らぬといふ天下に

秩父町 大宮

秩父高等女學校

本校は明治四十年修業年限二ケ年の大宮町立裁縫女學校として設立され、大正七年秩父實科高等女學校と改稱、昭和四年三月組織を更へて修業年限四ケ年に延長、翌五年縣營となし、現校名に改めた

電話秩父六〇六番

三澤村

三澤尋常高等小學校

同六年現在の花ノ木新校舎に移轉、同校舎は縣下稀なる廣壯華麗の大建築にしてその環境は自然美に彩られ、雄大なる秩父の風光を取入れ、言ふべからざる美觀を呈してゐる。現在生徒三百五十人、これを七學級に編成、職員熱心指導に立てば、生徒また自奮勵精してゐる。

校長 石井 潔

氏は千葉縣の産、石井善基氏の三男として明治二十三年八月に生れ、大正四年廣島高師卒業の秀才、岡山縣津山中學校を振出しに熊本第一師範、千葉中學、同縣師範を経て大正十年佐倉高女校長となり、市原中學、松戸高女、粕壁中學各校長を経て、昭和九年本校長に榮轉した。趣味はスポーツ百般何でもござれであり(野球だけは好まず)柔道二段、スキー並に庭球は殊に得意とするところ、園藝もなか／＼鮮かである。令夫人登喜恵子さんは木更津高女出身の賢夫人、間に二男四女あり、春風駘蕩、和かなる家庭である。

秩父町

秩父町 役場



町 役 場

年聯合團代表として滿洲國移民視察をなせしことあり、附設の青年學校長を兼ねてゐる。

按ずるに本町が古く大宮郷と稱したは本郡總鎮守なる秩父神社の鎮座せるに因

本校は明治七年二月の創立に係り、歴代校長には根本昌三、村岡義雄、黒澤五百平、古川正行、關根仁造、倉林榮二、井深多十郎、林田五市、田島泰助、朝比奈脩造、夫内英直、雨宮鍋次の諸氏が就任していづれも特色ある教育を施して郡下の優良校たる今日をあらしめた。卒業者累計尋常科千八百名、高等科五百六十名に上り、現在児童は五百名弱、これを十三名の職員が訓育指導し、就學歩合九%六〇、出席歩合九八%四七にて共に良好、三澤診療所、託兒所等の特殊施設を持つてゐる。

校長 雨宮鍋次

現在校長は從七位勳八等の功勞者、明治二十一年八月の出生、同四十二年埼玉縣師範を卒業し、秩父校を最初に、白鳥校に二十年勤續して校長に榮進、昭和七年本校に轉じた。大日本青

るであらうか。明治二十二年町村制施行に當つて大宮郷を大宮町と改め、大正五

年の一月一日秩父町と改稱、今日に至つてゐる。小學校、圖書館、縣立秩父農林高女學校があり、官公署に秩父裁判所、同警察署、同稅務署、同營林署、專賣局秩父出張所、縣立秩父染織指導所、縣蚕業取締所秩父支所、縣種畜場秩父分場、縣造林事務所、秩父町公益質屋、秩父郵便局その他があり、郡内第一の都邑である。農産物をはじめ畜産、工業、水産物等を出し、本町一ヶ年の歳出入は約二十七萬圓をかぞへてゐる。大宮町に役場を置き、町長一、助役二、収入役一、書記二十餘、その他書記補、技手等によつて町自治の處理に熱心與つてゐる。

町長

松本由太郎

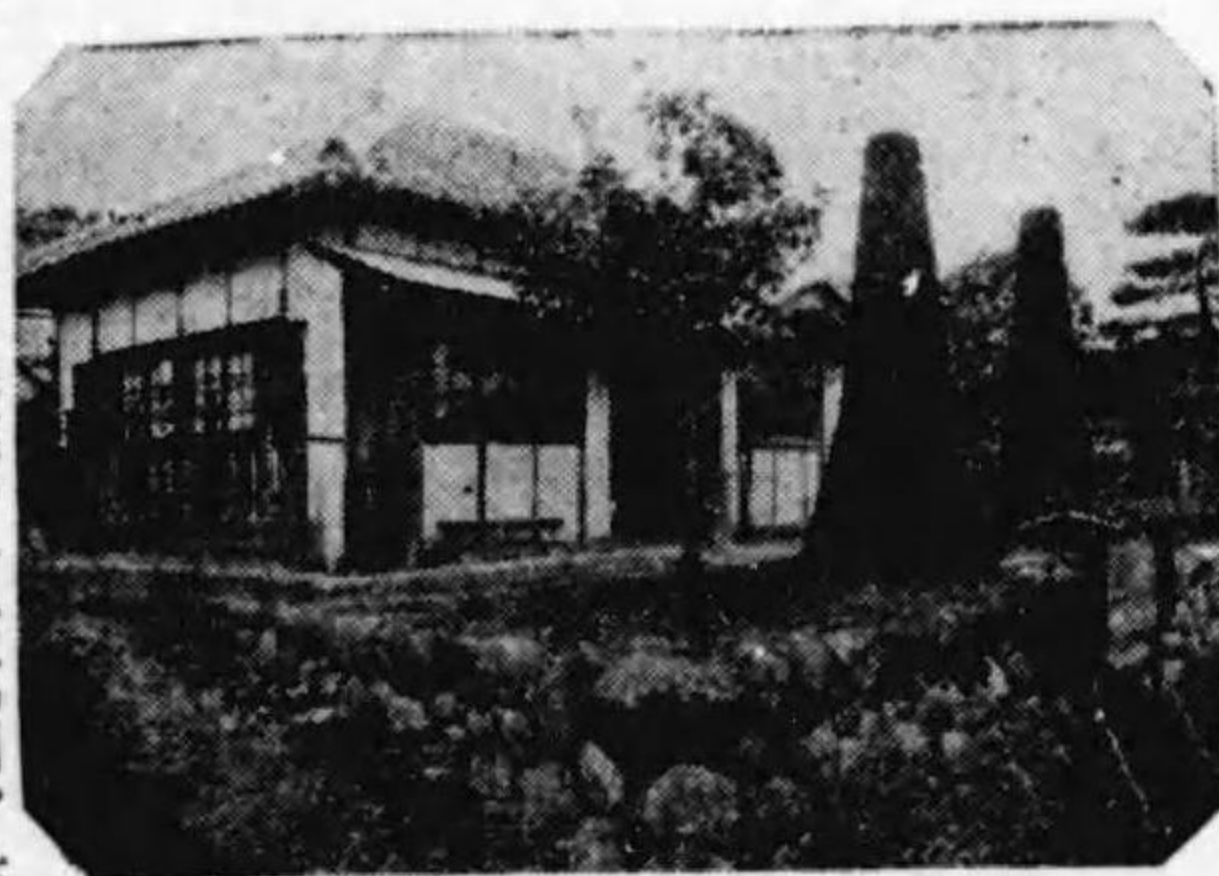
本町切つての名望家たる氏は、幼にして群童に勝れて頭腦明敏と謳はれ、私塾に通つて國漢文を履修せるほか正規の學業を修めざるも、學は東西に通じ、智は古今に亘り、多事多端なる秩父町長としての統制振りは萬人の等しく感嘆尊敬するところであり、現

時秩父郡行政事務會々長を兼任する。町長就任當時は常に辭職願を懷中にし、己が抱負經綸の行はれざる時はいつでも辭する覺悟を以て町治にあたつた。されば就任以來の業績實に顯著なるものあり、剛毅堅實の名町長といはれて來た。助役は井上市太郎氏及び關根伸曹氏、収入役は高野照三氏なほ消防組頭阿佐美壽郎氏秩父町信用組合長淺見宇一氏、青年團長及び女子青年團長淺見鶴藏氏、國幣小社秩父神社々司藺田稻太郎氏、町會議員に齋藤清作氏外二十九名がある。町は東西十五町南北三十六町、面積〇・六七方里あり、秩父盆地を睥睨する武甲山麓の北西にあつて、秩父地方の首邑をなしてゐる。

吉田町吉田

吉田町役場

本町は昭和三年十一月十日の御大典記念に町政を布いたもので、初代村長齋藤謙二氏より續いて同平兵衛、井上誠一郎



町役場

肥土伊與吉、大森市三郎、引間卯太八氏等、銳意して村自治に關與し、現町長に及んでゐる。生産價格は工業の約十九萬

圓を首位に、農業の十七萬圓、林産の約三萬圓、畜産の一萬圓、その他をかぞへてゐる。

吉田町長

高田直三

當家は代々農を業とせる舊家にして、氏は先代百松氏の長子として生を享けた。郷校卒業後は家業に精勵

すると共に公共事業に關與し、公益に盡すところ甚大にして、町會議員たること三期に及び、昭和十三年二月には町會滿場一致を以て町長に選任以て今日に至り當地方切つての名町長と謳はれ、利劍の如く、冴えた手腕を揮つて町自治に貢獻多く、普く人望をあつめてゐる。現時町助役は缺員にて、収入役には新井捨次郎氏が推され、氏と名コンビをなして町勢の發展、自治の圓滿なる發達に力を致し殊に教育方面に於ては業績大いに見えるべきもあり、教育の普及と共に國民精神總動員の實を擧げ、一君萬民、皇室中心主義の思想は駭々乎として町民の間に波及してゐる。

小鹿野町

小鹿野町役場

本町は郡の西北にあつて、東南は赤平川を隔て、長若、大田の兩村及び吉田町の一部に續する盆地である。主要物産は木炭、木材、繭、織物などで、當地方の

集散地をなし木炭の八萬餘俵、養蠶の三十餘萬圓、木材の八萬餘圓の産額を見せ住民は半商半農である。町は平和郷、人心特に素朴、會て納稅未納者を出したことがないので有名である。

町長

逸見顯一



本町屈指の有力者と稱される氏は、明治三十九年収入役拜命以來

助役を経て、村長たる今日に至るまで、役場生活三十餘年の長きに及び、本町自治の生引的存在とまで云はれてゐる。嚴父又平氏も

収入役、助役、町會議員などの要職に就きし自治功勞者で、氏はその長男として明治十四年に生まれ、日露戰役には戰功により勳八等を受けた。現時町長のほか町農會長、町會議員を兼ね、また曾ては縣會議員に選ばれて縣政界に活躍せしこ

ともあり、高德にして高潔、地方稀に見る偉材である。

樋口村

樋口村役場

本村は大里郡寄居町及び兒玉郡に隣接する農山村にして地勢上平坦部と山間部とに二分され、主要物産には用材、木炭繭等あり、畜産は近年頗る隆盛に赴きつつある。曩に經濟更生村に指定され、村長を先頭に一致協力、舉村皆明朗樋口村建設に邁進しつゝあり、爲に青年層の思想健全なることは言を俟たない。

村長

宮澤良吾

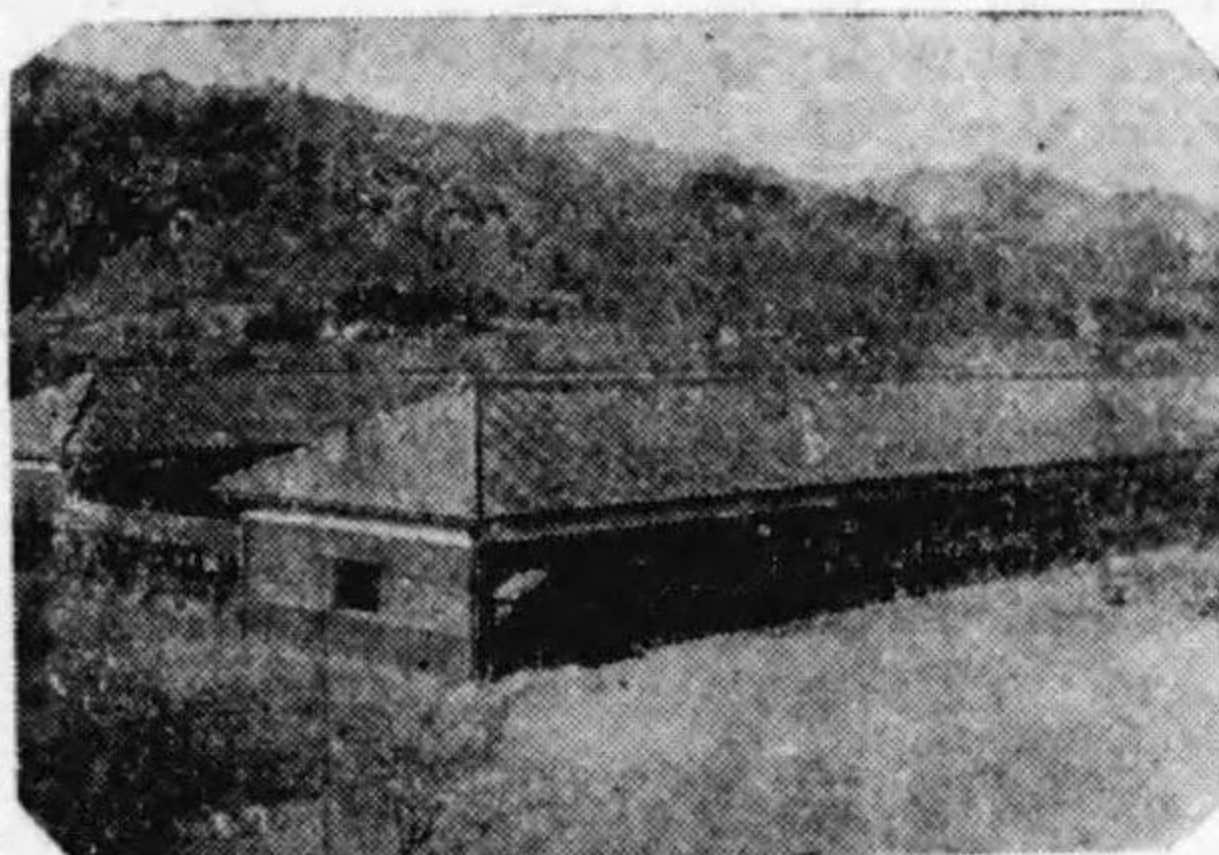
當家は當地有數の舊家である。氏は幼少より頭腦明敏資性英邁の聞え高く、若年にして村民と共に農事改良に努力し、幾多辛酸を嘗めて本村農業經營上に多大の貢獻を致せる産業功勞者である。村會議員に選ばれること五回、現時村長たるほか郡農會長としての重きをなし、また信用組長及び農會長を兼

任する。性温厚篤實村長在任二十有餘年
功績赫々たるものあり、本村を代表する
功勞者にして名村長の名を擅にしてゐる

尾田 蔣村

尾田蔣村役場

本村は往古の伊古田、堀切、品澤の三
村を、明治二十二年町村制施行と共に併



村 役 場

合尾田蔣村と改稱して現在に至つたもの
で、養蠶、鶏卵、野菜、用材、薪炭等を

産し、特に米、麥に至つては郡下代表的
の産地として知られてゐる。名利圓福寺
あり、舊家名門の内田家がある。本村の
村是として

- 一、國體觀念ヲ明徴ニシ敬神崇祖ノ念ヲ
高揚スルコト
- 二、質實剛健ノ精神ヲ旺盛ニシ向上進取ノ
氣風ヲ作興スルコト
- 三、公共精神ノ涵養ニ努メ一圓融合生々發
展ノ村風ヲ馴致スルコト
- 四、愛職勤勞ノ美風ヲ助長シ治産興業ノ實
ヲ舉揚スルコト
- 五、教育教化ノ振興ヲ圖リ道徳ト經濟トノ
一元化ヲ企圖スルコト

村 長

宮田龜市 氏は明治二十二年七
月を以て先代敬太郎氏
の長男として現地に生

を享けた先代は區長村長に歴任、また他
界さるゝまで村會議員として自治に竭さ
れし功勞者である。氏は秩父農林學校の
第三回卒業生、役場書記たること多年昭
和四年村會議員に當選、二期目を現任中

にして、同十二年十月内田氏について村
長となり、その間、消防組頭、村農會長
をつとめ、父に劣らざる村治功勞者であ
る。長男重男氏は秩父農林學校卒業後兵
役に服し、除隊と共に滿洲國營林署に入
り引續き勤務中である。國體觀念の明徴
と敬神崇祖精神の高揚とは本村に於て最
も力を致すところで、また質實剛健の精
神を旺盛にし、向上進取の氣風を作興し
公共精神の涵養に努め、愛職勤勞の美風
が大いに助長されてゐる。

上 吉 田 村

上吉田村役場

國稅完納村として表彰を受けし當上吉
田村は、郡下第一の活氣のある村である
村内に一度足を入るれば、到る處清新澄
刺たる氣魄を感ずることが出来る。本村
をしてかゝる優良村たらしめるには、役
場當局 議員、各種團體などの和親協調
が大いに與つて力あり、殊に村長町田秀
作氏、助役石間戸勝平氏、收入役加藤衛

一氏等の功績は没すべからざるものがあ
る。なほ本村は用材、木炭、繭等を物産
の主なるものとし、人物も多士濟々の觀
がある。

村 長

町田氏は明治十九年
の出生、本村屈指の素
封家にて、温厚なる反

面剛毅果斷のところあり、曾ては村會議
員に任じ、昭和六年より村長として今日
に至り、異數の手腕ある自治功勞者と稱
され、往年の政争の村も今は協心戮力愛
郷心強烈なる郷土となし、明朗な農山村
として更生せしめたる村幹である。

三 田 川 村

三田川村役場

本村は總戸數六百餘の農山村で、その
七割五分は農に従事してゐる。耕地は水
田一四町七反、畑三三二町、その大半は
傾斜地をなし、外に山林二四八六町五反
を有する。従つて養蠶を主とし、穀作園
藝を配する經營組織であるから、米、麥

等の産額は全村需要の三分の二を充たす
程度に達し得ない。併し近時農事の改善
と奥山に發見せる金鑛脈等によつて、一
村發展の礎石をなすであらうと言はれて
ゐる。加ふるに蒟蒻の栽培、養兔組合を
組織してこれが獎勵に盡力するといふま
す、當村發展の黎明は近きつゝあるわ
けで、洵に慶祝すべきことである。

村 長

氏は本郡兩神村の出
後ち黒澤家先代新作氏
の懇望を容れて同家を

繼いたもので、同家は舊農家であり素封
家でもある。日露戰爭當時、黒木第一軍
に従軍して功あり、勳八等に敘せられた
夙に村治に關與、一村の興望を負ふて村
長に就任、温厚篤實なる名村長として稱
へられてゐる。なほ氏は壯年の頃、東京
市に在つて合資組織によるタクシー業を
營み業漸く緒に就かうとした時、大正十
二年の大震災に遭遇し、ために一時中斷
したが、長男芳治氏これを引き繼いで、
現に本郷區駒込に於て營業しつゝあるが

氏は質實穩健、模範運轉手として警視廳
から表彰されたる將來ある青年人材であ
る。因に村長を輔けつゝある助役近藤五
十次氏、勳八等の收入役富山時政氏があ
り、一村鞅掌の名コンビとしてその強力
さを見せてゐる。

大 瀧 村

大瀧村役場

本村は國有地一萬九千六百餘町歩、民
有地一萬七千三百餘町に分れ、民有地の
うち半分は原地にして田は僅かに一段歩
畑地が二百六十五町歩他は山林である。
生産は一世帯當り五百五十圓平均となり
一人當りでは百十二圓平均、林産の四十
六萬六千圓を筆頭に、工産五萬三千圓、
農産一萬三千圓がそれに次ぐ。

村 長

自治に多年の經驗を
有し手腕卓抜にして識
見豊富、且つ徳望の村

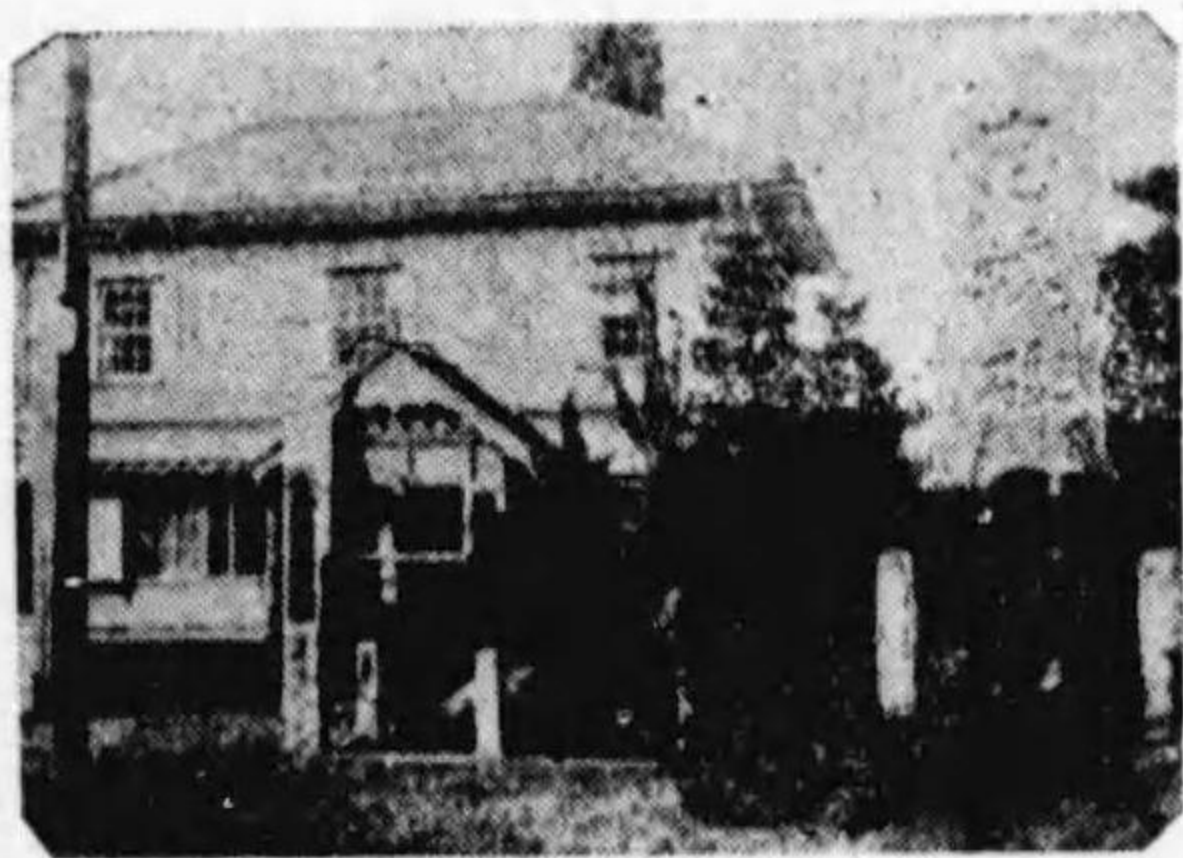
磯田正助 たる氏は、村民の信望極めて厚く、多年
に亘り本村自治のため寄與貢獻せる功績

は一々枚擧の繁に堪へざるほどである。村長たるほか村農會長、村會議員等を兼ね、言へば必ず行ひ、行へば必ず成功せざれば止めざる氣慨力量の士である。なほ助役は吉田廣太郎氏、収入役は磯田芳太郎氏、消防組頭吉田唯三郎氏、産業組合長山中宗治氏、村會議員は上石喜平氏大村與一氏、山口信彦氏ほか十四名。

中川村

中川村役場

わが中川村は郡の南部に位置して東は浦山、影森の二村に、北は久那村及び長若村に、西は白川、大瀧の兩村に、そして南は東京府西多摩郡氷川村に接続し、その面積三一・三方軒、久那、上田野、日野、小野原の四大字に分れて役場を大字上田野に置く。戸數六百餘戸あるが、今これを職業別から見ると、農業三百八十戸、林業二十七戸、商工六十六戸、その他百三十戸、その九割を山林に占有せられ、従つて村内自治を果し得ず、他よ



村役場

り食糧品の移入を餘儀なくされてゐる。耕地の少ないところから養蠶を主體とし林産これに次ぎ、主要物産として特筆大



興隆を計り功績顯著なるものがあつた。昭和十一年十

書すべきものはないが、農山村經濟更生指定村としての大々的基礎の下に實行に着手、效を奏してゐる。村是は二宮尊徳翁の報徳精神による。村長 山野忠吉

當山野家は村内切つての素封家にして、氏は先代勘太郎氏の長男

として呱呱の聲をあげた。郷校卒業後、尊父を扶けて農業に従事し、篤農家の聞え高かつた。その後村會議員に選ばれること二回、次で助役に任じて在任一期半前村長笠原松三郎氏を助けて當中川村の

浦山村

浦山村役場

當浦山村は村民の過半数が山林の業によつて立ち、木炭年産七萬俵、繭年收四千圓及び用材を主産物とし、昭和十二年度經濟更生指定村にして、齋藤村長を先頭に計畫の實行に邁進して成績よく、縣道の開通により産業上に及ぼせる影響も大きく、全村民餘裕ある生活をする平和郷である。

村長

齋藤順三郎

氏は先代利吉氏の長男、縣立秩父農林學校卒業後、父業を

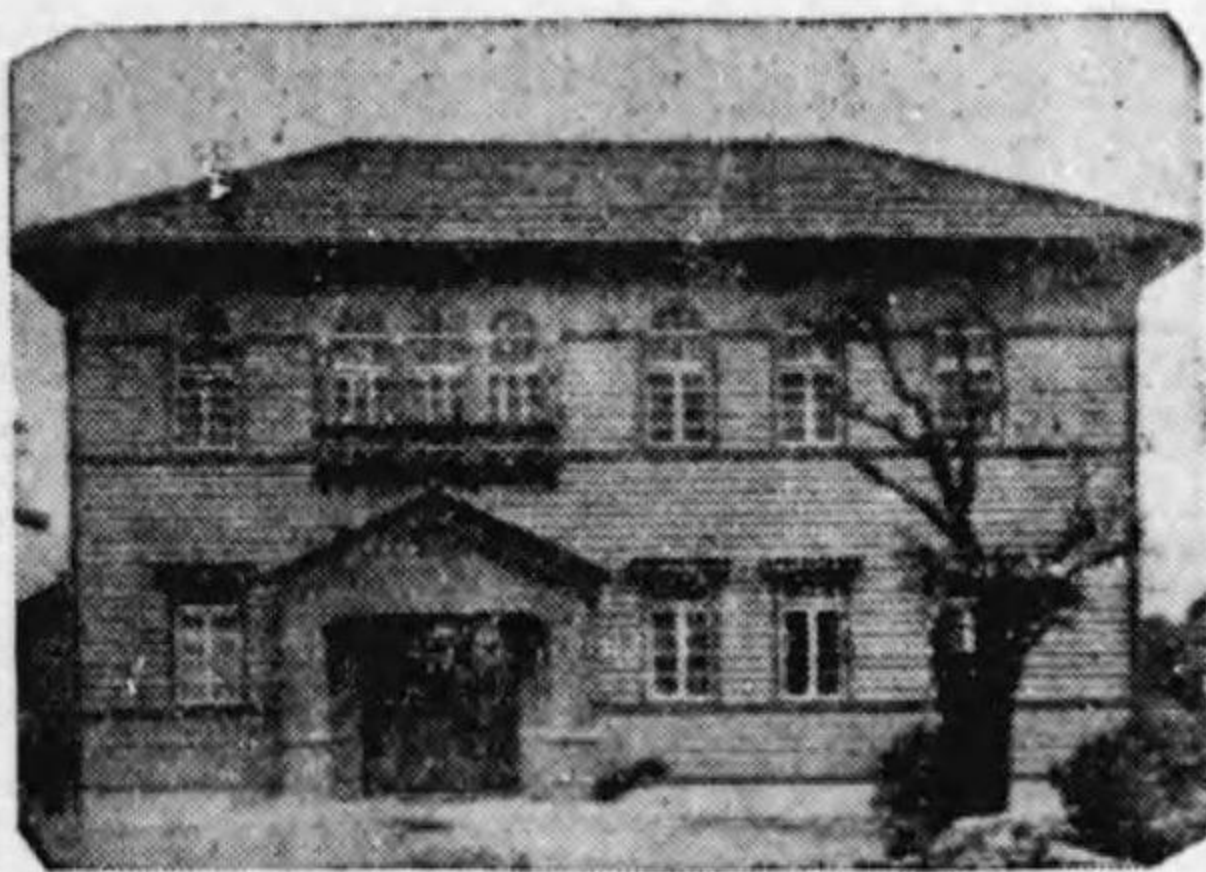
扶けつゝ村會議員をつとめ、その後各方面の公名譽職に推され、現時消防組部長村會議員三期目及び村長二期目の任にありて村自治に功績多く、圓滿なる好紳士として村民の輿望を負ふてゐる。助役淺見武雄氏及び収入役淺見豐藏氏は共に村會議員二期目を兼任し村長と共に浦山村の名トリオと稱され、村勢の伸張に寄與

するところ甚大である。

影森村

影森村役場

本村は秩父町の西南に位し、地勢概ね平田で、有名な秩父セメントの開鑿地で



村役場

ある。また日本電氣工業影森工場の所在地でもある。山林は八百餘町歩を有するも、一の水田なく、従つて米、麥等は他より移入して補つてゐる。産業物産は重

村長

黒澤秀

工業及び薪炭、養蠶などで、しかもその旺盛なること、郡下にあつては秩父町に次ぐと稱せられてゐる。

當黒澤家は當地方有数の舊家名門として知られ、氏は先代道太郎

氏の長男にして明治二十五年の岳降である。大正元年東京獨逸協會學校中學を卒業し、歸郷するや若冠二十六歳にして村會議員に當選し、以來重選五期二十有餘年昭和三年には舉村一致村長に推され、現にその三期目に任じ、その間、部落有林五百餘町歩の整理完成、役場廳舎の新築、小學校舎の増築など幾多の難事業を遂行し、村長の外消防組頭、農會長、郡町村長會評議員、埼玉社出荷組合長を兼任する。尙氏は學生時代柔道選手であつた。令閨スミさんは元縣會議員元秩父町長故新井市三郎氏の女、長男三千男君は日本醫大在學中である。因に當村の助役は新井菅次氏で、収入役は久米美智雄氏である。

日野澤村下日野澤

日野澤村信用販賣組合

當組合は大正十三年の設立認可に係り翌十四年より事業を開始した。組織は保證責任、組合員二百五十餘人を擁し、出資總額九千七百圓、村一圓を區域とし、最近の事業狀況は、貸付總額四萬九千餘圓、貯金三萬七千圓、購買一萬圓、販賣七百圓といふ數字を示してゐる。役員は理事七人、監事五人、事務員一名。

組合長 山本包一郎



氏は設立發起功勞者にして、曾ては村會議員、郡會議員に選ばれ、大正九年には村長にも推されし手腕ある人格者である。日露戰爭に従軍勳八等瑞寶章を授與されてゐる。生れは明治十七年一

月五日。尊父銀次郎氏は收入役、助役、村會議員たりし自治功勞者、氏はその長男である。令閨能野さんとの間には長男武氏、二男禮二氏あり、三人の令嬢は共に他に嫁してゐる。

中川村上田野

中川村信用販賣組合

當組合は座繰生糸共同販賣を有利にするために、明治四十二年、群馬縣碓氷村所屬の有限責任信用販賣組合碓氷村西組として設立され、大正七年四月、聯合會埼玉社の設置と共にこれに轉屬、同一年七月組織を變更して現名稱の保證責任組合となつた。組合員四百三十五人、出資五萬餘圓、最近の事業概況を見るに貸付總額七萬九千餘圓、貯金五萬九千餘圓、購買三萬七千圓、販賣五萬二千圓、利用料四千餘圓の成績を示してゐる。

組合長 新井又四郎

氏は先考宗平氏の長男として明治十四年十一月二十七日の

岳降、夙に軍役に服し、日露戰爭に出征工兵一等計手に任じ、勳七等に叙された組合には設立以來の功勞者にして曩に産組中央會縣支會の表彰を受けた。村會議員三期をつとめ、現時方面委員、埼玉社理事、縣製糸組合理事、その他の要職を兼任する。

秩父農村販賣組合

電話秩父六一三番

當組合は昭和十年四月の設立に係り、農林及び縣農務課より補助金數千圓を寄せられ、組合員は六百二十二名をかぞへる。往時は組合長の個人的事業だつたものが、漸次社會の認むるところとなつて今日の盛況を見るに至つたのである。

組合長 豐田槌藏

氏は長若村の人、明治二十四年九月を以て生れ、宇都宮師團に入營後憲兵を志願し、宇都宮、日光、東京京都各憲兵隊を歴勤、憲兵曹長に任じ、

大正十一年岡山憲兵隊勤務を最後に退官し、この間日本全國、支那、臺灣、露國



にて織物業を經營し、昭和二年當地に來り、薄荷栽培、蒟蒻製造、糸瓜栽培など農村工業化に意を用ひ、組合發展に資するところ甚だ大である。

皆野町上原

皆野郵便局

當局は明治三十六年十二月の開局に係り、當初は内外爲替事務のみを取扱ひ、その後大正九年に内國電信、同十一年に集配事務、同十五年に電話交換事務、等々通信各事業を漸次取扱ふに至り、現今皆野、原谷、三澤の町村を區域とし、一ヶ年郵便取扱數四十六萬三千に及んでゐる。

事務員七名、集配手七名を有す。初代局長は金子文之助氏。現局長は勳八等一和田義光氏にして、氏は明治二十五年一月の出生、熊谷中學校を卒業し、大正六年二十五歳にて村會議員に當選して重任數期、區長、所得稅調査員、町商工會長等を歴任、現時町會議員を兼務する。尊父壽作氏は藥種商を營み多年村會議員をつとめた功勞者である。

國神村金崎

國神郵便局

當局は明治十九年八月大淵郵便局と稱して開局、同四十五年六月現名稱に改められたもので、國神、日野澤、金澤、大田の四ヶ村を區域とし、初めは郵便集配のみを取扱つたが、明治二十五年内國爲替、同三十二年外國爲替、同四十二年内外電信、大正五年簡易保險、同十四年公衆電話、翌十五年郵便年金と、順次通信各事業の全般を取扱ふに至り、遞信大臣より表彰を受けること二十七回、現在十六名

の従業員を擁して、内國電信七千二百餘航空郵便三百五十、簡易保險二千四百件三十三萬五千圓の事業成績を見せてゐる

局長 黑澤喜作

氏は明治十三年六月の出生にて、故岩太郎氏の長男明治三十四年



に埼玉師範を卒業し、同十四年まで教職に在り、同年六月當局長となり、功により正六位勳七等を授けられた。

皆野町

金子徳左衛門

智徳卓越せる指導者として町民の信望あつき氏は、明治六年、先代徳左衛門氏の長男として生を享けた。京地に於て漢學を修め、歸省後現地に運輸業を創始し今日の丸通金徳運送店の基礎を築いた。

二十八歳にして村會議員に當選、爾來村町議たること九期三十有餘年、村長二期をつとめ、その間郡會議員、同議長としてその敏腕を揮ひ、政友會の地方重鎮であつた。



また消防組頭にも任じた。道路改修橋梁架設

學校増築、役場廳舎の建築等は皆氏の努力によつて完成せるものにて、皆野町隆盛の礎石を固めた殊勲者である。一時あらゆる公名譽職を辭して優游自適の境地に身を置いたが、昭和十一年全町民の輿望を擔つて町長の椅子に就き、多年の經驗を基に、理想郷皆野町の建設に進んでゐる。

小鹿野町

小鹿野町助役 石川壽三郎

氏は小鹿原卯造氏の二男として明治九

年四月に誕生、後ち石川儀三郎氏の養子となつた。實父は酒造業を営みし努力成功の人。養父石川家は今より五代前當所に來り農を經營せるものにて初代歌右衛門氏、二代新三郎氏、三代より五代たる養父までは儀三郎を襲名した。氏は日露



戰爭當時第三軍に屬して出征、足部に名譽の貫通銃創

を受け、功により特務曹長に任じ勲七等青色桐葉章を授與された。凱旋後、軍人分會創設に奔走し、初代分會長となつて在任十三ヶ年、また大正三年より八年まで消防組頭をつとめ、町會議員六期、家屋税調査員、土地賃賃價格調停委員、國勢調査員等に歴任、現時町助役四期目をつとめ、氏子總代、寺院總代に擧げられてゐる。令閨くにさんとの間には長男理三郎氏のほか二男二女がある。

芦ヶ久保村

村長 町田憲治

氏は當地の舊家先代町田學吉氏の長男として明治二十八年八月に生を享け、秩父農林學校卒業後、宇都宮第六十六聯隊に入營伍長に昇進して除隊、在營中尊父に他界され除隊歸郷と共に家業を嗣ぎ、傍ら在郷軍人分會長、消防組頭を歴任、昭和五年村長に推舉され、現時村農會長を兼ねる。有名なる正丸峠の縣道開通には私財を投じて完成せしめ、その苦心努力は吾人の崇敬措く能はざるところ、當地方開發の恩人にして一大偉材、功勞者といふべきである。夫人は前村長村越千代吉氏の令妹、長男博義氏は秩父農林學校在學中の俊英である。因に當芦ヶ久保村は全村殆ど山林にして田畑少く、木炭(年産三萬俵)を主産物とし、食料品は他より移入の状態なるも、近來養畜業隆盛となり殊に羊の飼育に異彩を放つてゐる。助役は赤岩喜三郎氏、収入役は町田

一正氏である。

高篠村

高篠村長 新井源亮

支那事變は長期膺懲の第二段階に入り、銃後の國民は益々盡忠報國の誠を致しつつあるの時、身を自治の要職に置くものは、自治報國のため懸命の努力を捧ぐる一大決意が肝要であるが、氏は夙に身を以てその實を示し、縣下町村長中の模範とすべき人材と評されてゐる。明治二十九年十二月二十五日を以て生を享け、大正八年早稻田大學經濟學科を卒業、地方有数の知識人として自治に關與し、昭和六年助役に就任、引續き村長に推されて今日に至り、濃厚篤實の性格と卓越せる見識とは村民の信望をあつめて餘りあり産業組合長にも推され、村會議員、學務委員、村農會長を兼ね、自治人の師表ともいふべき材幹である。趣味は狩獵。義父繼助氏は高篠小學校長、村會議員五期學務委員等をつとめた本村有数の偉材で

ある。

原谷村

原谷村長 堀口寛一郎



典型的武士精神の持主にして日本武人の模範たる氏

は明治二十年十一月の岳降である。熊谷中學校を経て明治四十四年に海軍機關學校を卒業更に海軍工機學校に入つて大正五年優等の成績で卒業し、同七年には海軍大尉、同十二年海軍少佐に陞進、軍事技術の實際的權威と稱され、この間海軍砲科學校教官、横須賀鎮守府附等を歴勤從六位勲六等に叙され、大正十三年退官した。その後は村會議員に當選、再三郷黨の誇りと謳はれ、現在は秩父郡聯合軍人分會長たるほか、麻布聯隊區司令部評

三澤村 小根

三澤村長 福田唯一

自治はいふまでもなく隣保團結の舊慣を基礎としこれを擴張せるものにして、その根本は共存共榮の思想である。氏は本村自治界の大功勞者、資性篤實にして英邁、識見卓抜にして深遠、手腕また衆に長じ、眞に一村の長たるべく悉皆資格を具備し、加ふるに自治精神の顯揚に努めし逸材である。明治二十七年十月一日先考已三郎氏の長男に生れ、夙く助役に任じ、また村會議員に當選、隣保團結の美風を敷衍して村勢の進展に資するところ多く、後、村長に選任今日に至り、村農會長、産業組合長、衛生組合長、その

明治十六年十月の岳降、日露戦争の時は乃木將軍の下に屬して參戰し、華々しき戰功により勳八等白色桐葉章を授與された。その後家業の傍ら村會議員に任じられた助役をつとめしことあり、現時村長の椅子にあるほか村農會長、衛生組會長、經濟更生委員長、産業組合監事等の重責を帯び、優良村日野澤の建設に全力を注いでゐる。家庭には令閨さわさんのほか



長男萬之助氏、同夫人さきさん、令孫三人がある。因に當日野澤村は郡の北部に位し、東西に細長い村で、四面は山嶺を以て圍繞せられ、僅かに中央部日野澤川の流域に平地があるのみで、部落は概ねこの沿岸に散在する。今、當村長を輔佐するに助役に岡田金作氏、収入役に高橋玉壽郎氏等あつて、銳意してゐる。

長 若 村
功七等
今 井 爲 吉



氏は本郡久那村保泉橋平氏次男として明治十三年九月に生れ、長じて當今井家の養子となつた。先代今井藤吉氏は村會議員、區長を多年勤めたる自治功勞者で氏もまた早く明治四十三年頃より村會議員に當選盡力し、昭和四年に推されて村長に就任今日に至る。日露戦争には閑院宮殿下の部下として參戰し、勳七等功七級に叙され、騎兵伍長に任ぜられた勇士で、平和回復後は在郷軍人分會長に推されて郷軍のため貢獻甚だ多かつた。温厚にして謹嚴なる武人氣質の人で、村長就任以來は専ら村民利福の増進と村勢の發展、國民精神の作興につとめ、曩には稅務署長より完

納優良村として表彰を受けるに到らしめ昭和十二年經濟更生村に指定されるや生活改善、農村土木事業の遂行、農業經營改善、産業組合擴充等幾多の業績を挙げてゐる。

長 若 村
概 況

當村は秩父町と小鹿野町との中央に位置する山農村であり、また質朴なる經濟更生村である。特筆大書すべき主要物産はないが、あらゆる方面にわたつての産物がある。まづ養蠶、木炭用材があり、養兔、養牛、養豚等の組合を組織し、家畜及び畜産の獎勵をなしてゐる。なほ當村が藪の出荷組合を組織し中間の搾取を防いでゐることは注目すべきである。

兩 神 村

兩神村長 千島 英雄

當家は始祖以來六百年を経る舊家にあり、同家所領の小塚の上に板碑の供養塔あり、その碑文により始祖が足利義尙時

代の人なることが知られる。先代藤三郎氏は村會議員五期、區長、學務委員等に就かれて村治に貢獻多く、また青淵と號し俳句の名人であつた。氏はその嫡男、



明治二十二年三月の出生、夙に社會自治の事に竭し、

白川村 中野 新井 勅 次

當家は鉢形城主の後裔にして、代々名主をつとめたる本村の舊家名門である。氏は本村深田綾吉氏の次男として明治二十年六月に生を享け、後、新井久三郎氏の養子となつた。明治四十年以來千葉縣

習志野騎兵聯隊に勤務し騎兵軍曹にまで昇進したが、大正二年養家の請ひにより歸郷した。養父は多年村會議員をつとめ實父も區長、世話役等に推されて郷黨の聲望あつく、氏もまた昭和三年三月村會議員とな



前村長の後を承けて村長の椅子に就き今日に至り、その間在郷軍人分會長、消防組部長を歴任、現時村農會長及び養蠶實行組合聯合會長を兼務する。因に助役は二宮裕司氏、収入役は山中悦太郎氏にして、養蠶業中心の白川村の向上に三者一體となりて協力してゐる。

白川村 概 況

本村は山農村、養蠶を主業となし、村産及び一般勞働等によつて食糧品その他を補給してゐる。なほ交通

は不便で従つて文化甚だ後れ勝であつたが、秩父鐵道の布設と共に漸次發展興隆を見せてゐる。

秩 父 町

衆議院議員
秩父工業組合
理事 長 坂本 宗 太 郎

和製ムツソリーの稱ある氏は、秩父暴動事件のありし明治十七年の出生、順天中學を経て東京高工卒業後、絹織物工業に専念し、秩父機業界の指導者として三十有餘年、終始一貫斯業の發展興隆に盡瘁せる稀有の偉材で先年財界不況の影響を受けて秩父織物界浮沈興亡の危機に遭遇せる時、快刀亂麻を斷つが如き鮮かな手腕を見せ、業界に生新の氣を呼戻した人、昭和十二年業界を代表し九千數百の票を獲得して衆議院に當選、嚴正中立を標榜して國會に獅子吼し、彈力ある熱意と豪快なる資性、加ふるに燃ゆるが如き奉公の念とは、常に百萬の味方を有する所以である。現在株式會社三共自動車

社長、秩父會館社長、秩父工業組合理事長、その他公私事業の長として且つ全日本機業界の代表的逸材としてその令名を謳はれてゐる。長男善一氏は帝大出身の秀才の聞え高き新人である。

秩父町道生

縣會議員
信川組合長
前秩父町長

淺見宇市

電話四六〇番



明治の御代、明けて日未だ淺き明治五年十月一日、

秩父郡原谷村に呱呱の聲を挙げし氏は、既に幼時より智慮業に勝れ、俊才と稱され、秩父高等小學校卒業せるも學究の念止み難く、郡立秩父中學に進み、同校三年修業すると共に、次で縣立師範學校に入學、優秀なる成績を以て卒業、それと

共に大宮小學校訓導に奉職し、以來同校校長より秩父實科高等女學校長にと榮轉し、大正十年十一月退職する迄、實に二十有六年の永きに亙りて育英界の爲に努力貢献をなした。退職後は専ら自治産業方面に意を注ぎ、秩父町信用組合創立せられるや、その組合長の重責に町内有力者に推されて就任、爾來寢食を忘れて業績發展の爲に奔走活躍、遂に縣下屈指の組合たらしめ、その内容は堅實強固にして縣の代表組合として誇るべきものがあ

る。次で昭和四年町長に推舉され、同十年十二月退職に至る迄、町民の福祉増進の爲に一身を挺して執掌、その寄與貢獻するところ尠からず、昭和十一年一月非常時縣會の改選に當りては高點を以て榮冠を獲得、縣會議員中の白眉と稱讃を浴び、今、縣政の爲に堂々の論、諤々の陣を張つて活躍中、兼ねて郡教育會々長、郡産業組合分會長、その他の要職に在りその多年に亙る自治、産業、教育に盡力せる功勞實に偉大なるものあり、表彰數

知れず、文部省よりは奏任待遇を受けてゐる。氏こそ秩父町の誇と言ふも決して過言ではない。

秩父町宮地

町會議員
元村長
勳八等

齋藤清作



秩父町會の氣鋭中に元小學校長齋藤清作氏の存在を

見る。氏は同郡尾田村三ツ橋新治氏次男として明治十八年二月十九日に呱呱の聲を挙げた。幼にして俊敏、明治四十年師範學校卒業後、原谷村に奉職大正二年村長となり昭和八年四月退職迄前後二十有餘年間育英訓陶に渾身の力をこめて第一並に敬神崇祖の念を啓發するを以て第一義となすその眞摯な教育行は縣知事より表彰する所となつた。昨年四月推されて

町會議員となり、その他郡教育會評議員町農會總代、檀徒總代、生滿處理實行委員長を歴任し、自治産業に貢献する處からず。資性極めて至公至平の人格者にして、教育者稀有の材幹である。趣味としては菊花を好み、秩父菊花會の重鎮である。

皆野町親鼻

町會議員
從七位
勳八等

門平文作

謹嚴篤實、名教育家と謳はれた氏は、明治十六年十月十日の出生にして、同三十七年に埼玉縣師範學校を卒業、同年直に兒玉郡藤田小學校に奉職し、次で秩父郡國神、同皆野、南埼玉郡潮止各小學校に歴勤、大正二年潮止校長に任じ、同年兒玉郡視學に榮轉、更に同郡書記に任ぜられ第一課長を拜命した。東西古今の智識を有し、資性英邁濃厚、齊輩の氣受けよく、上長の信望厚く、後、秩父郡書記、同社會教育主事を経て縣社會教育主

事となり、大正十五年には從七位に叙され勳八等を賜り、一時職を去つて閑地にいたが、昭和二年再度教育界に入り、秩父大宮小學校長、次で縣立秩父高女校教育事務囑託となり校長兼任、昭和七年退職した。現在は皆野町々會議員、學務委員を兼ね令名赫々たるものがある。

小鹿野町

町會議員
信用組合長

加藤芳三郎

小鹿野町會の大御所たる氏は元治元年九月加藤新平氏の二男として呱呱の聲をあげた。其祖は天明年間より當地に於ける代表的蠶種業者であつた。代々名主をつとめ、祖父金四郎氏、嚴父新平氏は共に自治産業の大功勞者にして、豪商大森喜右衛門氏は氏の叔父に當る。祖父は江戸四谷に祖業煙草販賣業を繼承したが絹布の需要旺んるを見て自ら陸奥伊達地方に赴き、苦心研究の結果當地に蠶種製造業を創め、本郡に於ける蠶種業の嚆矢をなした。その功績は燦々たる光芒を

芦ヶ久保村

村會議員

町田清作



町田家は應永年間に一家を創立せる當村第一の舊家で、幕政當時は名主を勤めた家柄である

先代龜作氏は家業に熱心すると共に耕地總代人を勤め、大正七年惜しまれつゝ五十二歳を以て歿せられた。當主は明治十八年六月二日、同村町田八郎氏の二男に生れ、廿五歳の頃、同家の後を繼いだ。

横須賀重砲隊に現役を卒へた一等兵で、
區長を三期、消防小頭、産業組合役員三期、
學務委員等を歴任、既にその功をた
たへられてゐる。現在は氏子總代、養蠶
實行組合長等に在るの外、大正十四年來
引續き村會議員に當選、村會一方の雄と
して重きを措かれてゐる。會て同地縣道
正丸峠の改修に際しては國庫負擔三分の
二に成功せるは、一に氏が運動の資であ
ると、今も村民から感謝されてゐる。ま
た産業組合設立當時の氏の功も尠少な
ものではなかつた。性温厚にして篤實、夫
人との間に五男一女があり、長男久雄君
は家業を手傳つてゐる。

三 澤 村

村會議員 學務委員

關根代思郎

代々名主をつとめられる當家は、本村
有数の舊家にして、氏を以て十二代目と
する。家業は農。先代新三郎氏は三澤村
三代目助役となり、引續き五代目村長に
選任、また村會議員、學務委員をつとめ

自治界の大功勞者と稱されるほか、水車
業をも經營し、本村切つての材幹と稱さ
れる。氏はその男にして明治二十一年五
月五日の出生、資性温厚篤實、人に接す
るに懇篤を旨とし、宇都宮歩兵聯隊に入
營勤務して上等兵に任じ、除隊後は家業
に精勵して家産を増大すると共に、社會
公共のことに盡率努力し、村會議員たる
こと三期、現にその要職にあるほか學務
委員、産業組合理事、社寺總代を兼ね、
信望特にあつく、村内民政黨系の人材と
して重きをなす。家庭には母堂美婦さん
令閨まささん、養女貞子嬢あり至極圓滿
である。

白鳥村岩田

村會議員 養蠶業功勞者

野村藤作

氏は明治十六年十一月野村寅藏氏を父
として出生、十七八歳頃より蠶種製造に
興味を持ち、明治大學法科卒業後一時無
盡業を經營して業績大いに學がりしが、
蠶絲業者よりの懇望黙し難く、無盡業を

廢し専ら養蠶技術員として今日に至り、
養蠶指導及び改良に努力貢獻するところ
多く、郡内切つての功勞者と謳はれてゐ
る。大正九年には「養蠶法」の著書を出
し、經濟養蠶法の研究を發表して一般養
蠶家に無代配付これが宣傳に努め、又蠶
に縣養蠶指導協會副會長となり、現に秩
父郡支會長として活躍し、更に秩父郡養
蠶組合議員及び郡養蠶技術員會長をつと
め、村としては村會議員、村衛生組合長
を兼ね、村養蠶聯合指導者の任にあり、
蠶絲平面機は氏の研究改良せしもの、中
の最大なものにて全國業者間に知られて
ゐる。しん夫人との間に三男一女あり、
家庭に於て實地に養蠶及び農業を經營、
體験による指導たるは氏の特色である。

野上村本野上

村會議員 學務委員

野口 覺

隣保團結心の刷新に向つて本村自治に
革新的機運を齎らせる氏は、消防組部長
同小頭等を多年つとめて消防組秩父聯合

會より表彰せられたる消防功勞者でもあ
る。先代保十郎氏は區長に推されて永年
部落のために貢獻裨益せる恩人、氏はそ
の長男として明治二十二年三月二十四日
に呱呱の聲をあげた。長じて保十郎氏の
代に創始せる飲食店及び下宿業を經營、
傍ら野上村の發展に竭し、現に村會議員
二期目をつとめるほか、學務委員、區長
經濟更生委員等を兼任、村自治行政に獻
策努力するところ多く、殊に自治精神の
鼓吹、團結心の強調に努め、令名赫々た
るものがある。資性温厚篤實。家庭には
夫人ますさんのほか長女けい嬢、二女た
け子嬢、三女よし子嬢、長男安男氏、二
男正男氏、五女しげ子嬢あり、二女は東
京和洋女子専門學校在學中である。

大田村品澤

村會議員 正七位 勳七等

中田 關藏

村民の師表と仰がれ、温厚なる人格者
と謳はれる氏は、明治十七年十一月一日
先考倉次郎氏の男に生れ、夙に埼玉師範

學校を優等で卒業し、爾來約三十ヶ年間
各地小學校に訓導又は校長として第二の
國民の育成に努め、その功により高等官
六等待遇を受け、正七位勳七等に敘され
た。氏の教へ子中に奏任官待遇の小學校
長が六人もあり、秩父郡下屈指の教育功
勞者である。退職後は、在任中に植樹し
置きたる果樹を友とし農事にいそしみつ
つあり、兼ねて衆望を負ふて村會議員及
び學務委員の要職をつとめ、教育家的赤
誠と眞摯なる態度を以て自治界に寄與貢
獻してゐる。長男氏は秩父農林學校在學
中、長女英子さんは秩父高女を経て、目
下静岡藥學校に勉學中であり、他に四人
の愛嬢を有し、夫人婦みさんは淑徳の譽
れ高き賢婦人である。

尾田蒔村寺尾

村會議員

八木友吉

當家は鉢形北條氏の重臣八木信濃守の
後裔にして、先々代まで鍛冶屋を業とし
先代直吉氏よりこれを廢し、農を業とし

た。氏は先代の男、明治十四年十一月を
以て生れ、夙に消防組に關與貢獻せるほ
か、國勢調査員、養蠶實行組合役員、經
濟更生委員、信用組合監事、畜産組合代
議員、國防協會役員、氏子總代等を歴任
現時村會議員に任じ活躍しつゝある。一
水と號し俳句に巧みである。長男長一郎
氏は分家して農業及び新聞取次を經營、
次男圓次郎氏は東京市に於て自動車業を
營む。令甥村田實氏は支那事變に出征、
上海戦線に護國の華と散つた勇士である

長若村柿之久保

村會議員 前村長

倉澤善作

三面六臂の活動家たる氏は、一面温厚
君子人の如き人である。抑々倉津家は本
村切つての舊家にして氏は二十五代目に
當る。自治界に寄與盡瘁する二十有七年
收入役、村長を歴任、道路を開き、消防
組を改組し、柿栽培及び蒟蒻栽培を積極
的に奨勵するなど、功績顯著にして一々
枚舉に遑がない。表彰を受くること多く

地方自治界の大元老、且つ政友會の重鎮日露戦争の際は従軍出征、勳功多き勇士でもある。夫人は内助の功多き淑徳の人令息は野上小学校長に任じ奏任官待遇を受ける名教育家である。

三田川村栗尾

村會議員 松田晋九郎



當家は寛文年間以前より舊家に於て代々農を業として

せるも三代前治左衛門氏、二代前治三郎氏は江戸に出て生絲販賣をなした。先代伊三郎氏は農耕に従事、傍ら収入役、村會議員、消防組頭等をつとめて村自治に功勞多く、大正十一年三月六十歳を一期に不歸の客となつた。氏はその男にして明治十年二月の出生、消防組小頭、區長養蠶實行組合長を経て、現時衛生組合委

員、方面委員、村會議員二期目を兼ね、



令孫太隆息氏

村内屈指の人望家である。二男二女及び

令孫四名あり、長男隆太郎氏は消防組小頭を現任中。

中川村 諸

村會議員 諸



恒平

當家の

の開基なるを以て、尠くとも三百五十年以上の舊家なることは確かである。初め諸姓を名乗り、中世淺見姓を稱し、明治維新當時より再び諸氏を名乗つたもので



令孫松平氏

昭和八年十二月、七十五歳で逝去

された。氏はその男にして明治十五年一月の出生、昭和二年より同四年まで學務委員をなし、同年より同七年まで村會議員、同十二年村會議員に再選今日に至り區長を兼任する。夫人カルさんとの間に二男二女あり、長男平雄氏は今東京に於て電氣商を經營し、次男松平氏は三十二歳、滿洲大連市を我がもの顔に縦横に活躍馳驅してゐる。

久那村

村會議員 大森茂重郎



當家は土地の舊家たる大森家から分家したもので、先

代和十郎氏は夙に弓道の名手として鳴らした人、六十歳にして長逝した。當主茂重郎氏は明治三十二年九月二十三日、同郡中川村三上米助氏二男に生れ二十三歳の時大森家四代目の後繼者として當家に入つた。第十六師團第六十六聯隊に入營上等兵に進んで除隊、後ちシベリア事變で出動、功に依つて勳八等に叙せられた歸來農事の改良家として、養鶏組合創立提案者として、今日久那村發展の隠れたる功勞者となつてゐる。鶏四百羽、兎三十羽を飼ひ、衆に率先して家畜飼育を奨励し、また果樹栽培については那の

指導地擔任者として盡瘁してゐる。會ては在郷軍人分會幹事として活躍するところあつたが、現在は村會議員たるの外に

消防小頭、農會總代、農事實行組合長、養蠶實行組合長、椎茸栽培組合長、郡農村組合委員を兼ねてそれゝ活動、業績を高めてゐる。夫人との間に三男四女の子福者である。

秩父町

町會議員 若林龜之助



秩父町の新人會の新人偉材中に同町驛前に製材工場を經營

しつゝある氏を見逃すことは出来ない。氏は明治三十二年四月二十一日、先代萬作氏の三男に生れ、早く東京深川に在つて製材業を見習ひ、大正八年朝鮮七十四聯隊に入營、日獨戰に参加して勳八等に

敘せられた勇士である。同十一年二月十一日紀元の佳節を卜して製材業を創始し

爾來懸命の努力を傾倒して素地を葦うし終に今日の大を成すに至つた成功立志傳中の一人者、人格高潔、町内の信望極めて厚く、昭和八年四月町會議員に當選、續いて二期目の町會議員として現任、白紙公平無私、他に率先して町治のために奔走盡力しつゝあるが、氏に對する輿望は更に深大を加へてゐる。氏はまた秩父商工會商議員、縣工場懇話會評議員その他大小の職にも關與、内外共に多忙を極めてゐる。父君萬作氏當年七十五歳、雙鑠壯者を凌ぐものがある。當主の趣味は弓道。夫人キイ子さんは同郡横瀬村の舊家若林増吉氏の三女に生れ、よく夫君を助けてその功を成さしめ、今、間に二男二女がある。

小鹿野町

村會議員 中田忠一郎

當家は十數代前より農を以て業とする

舊家にして代々産業興隆に意を用ひ、令名遠近に顯はれた。先代右金次氏は埼玉社役員並に區長をつとめし材幹なるも、大正十二年七月不歸の客となつた。氏はその長男、明治十九年三月の岳降にして長じて旭川騎兵聯隊に入營、在役中成績良好なるにより伍長勤務上等兵となり除隊した。その後現地に於て質商を經營、傍ら自治公共の事に竭し、國勢調査員、消防組部長二十餘年、檀徒總代多年をつとめ、現時町會議員として町自治界に異彩を放つほか衛生組合委員、養蠶組合副組合長等を兼ね、功勞顯著なるものがある。着實温厚にして慈心に富み、消防功勞者としては、數回表彰の榮に浴してゐる。令閨ツヤさんは白川村の人、氏との間に長男芳太郎氏ほか二男四女あり、家庭圓滿幸福を極める。

芦ヶ久保村赤谷

村會議員 赤岩善美

赤岩家は相當古い歴史を有する家柄で

あるが、その創立年代等を詳かに知ることは出来ない。三代前の祖善太郎氏は當村分村當時、一村發展のために貢献した人、また先代善作氏は消防組頭を十年、村會議員を二期、産業組合理事、寺院總代等に推舉され、特に道路開發の功を稱へられ、昭和四年五十八歳を以て長逝、ひどく惜まれた人であつた。當主善美氏は明治二十九年一月二十六日、その男に生れ、夙に父君の衣鉢を襲ふて村治方面に進出擡頭、産業組合理事、檀家總代を勤め、また同地方正丸峠道路委員として活躍大に努むるところあり、昭和四年來引續き村會議員に當選、同村自治功勞者として稱讃されつゝある温良篤實の人格者、夫人との間に三男二女がある。

白鳥村金尾

村會議員 田島百太郎

夙に自治公共の事に參與して淬勵の誠を效し、自治公同の實を擧げつゝある氏は、先考七五郎氏の長男として明治十五



年八月八日生を享けた。抑々も當家は代農を業として地方に名聲ありし舊家に於て、先考は區長及び社寺總代をつとめし人。氏も早く區長に推され、また消防組部長、衛生組合理事、社寺總代等を歴任し、村會議員に選ばれた。現にその要職にあり、二回、

野上村中野上

村會議員 林朝喜知

氏は先考廣吉氏の長男、明治二十八年二月の誕生である。廣吉氏は収入役をはじめ村會議員、學務委員等村政に盡瘁し

四ヶ年に及び、自治功勞者として金五十圓を下賜されたる材幹である。氏は早くより商業に従事し、昭和二年歸郷と同時に日用品雜貨販賣業を創め、隆盛日に加へて今日に至り、村内の信望あつく、先年區長をつとめ、村會議員に選ばれ現在二期目たるほか學務委員を兼ね、本村中堅の人物として今後を期待されてゐる。家庭には母堂ゆきさん、夫人しげさん、長男茂氏あり、和氣霽々至極圓滿幸福である。

大田村大田

村會議員 富田善作

自治制五十周年記念の輝く式典に於て畏くも下し賜はりし勅語の中に「私を去り公に奉し規制に恪遵して益々自治の根柢を培ひ」と御諭しあらせられた。誠に誠私奉公こそは自治の眞髓であり、わが富田善作氏はその體現者である。大正三年以來消防組に關係し、部長を経て現時組頭をつとめ、秩父消防聯合會より勤績

表彰及び一二等功勞賞を授與され、また村會議員二期目、區長、産業統計調査員、學務委員、社會教育委員、結核豫防委員等村内各種要職に就き、至誠奉公の一念に燃えて公共の福祉増進に努力されてゐる。先考種吉氏も亦村會議員三期、消防組頭、區長等に任せし自治功勞者にして、氏はその長男、明治二十五年三月の誕生、令閨茂さんとの間には長男富義氏二男康男氏ほか二男一女がある。

尾田村寺尾

村會議員 關根鐵五郎

關根家は古き家柄、累代農を本業となし、耕鋤方面には人知れぬ努力をなしてゐる。先代喜藏氏は、家業の傍ら區長代理に推されて部落の平和と發展とに貢献した人だつた。鐵五郎氏はその長男、明治十六年七月二十九日の出生、よく父業を守り、産を興すと共に村内公共のことに興り、疾くより衆望をかけられ、現に三期目の村會議員として村治に精進しつ

つあると共に、産業組合評議員、製品組合監事等をも兼ねて盡力、その功を效してゐる。曾ては區長代理、國勢調査委員、統計調査員、消防部長、同小頭などに擧げられ、殊に消防事業に身を捧ぐることに十七年間の永きに及び、その功績また數ふべからざるものがある。曹洞宗の信仰家で温厚篤實の士、夫人はつ子さんとの間に長男喜作氏あり、外に男子五人に女子一人、令孫二人がある。

三田川村飯田

村會議員 播磨義男



淡、快活なる人望家たる氏は、その父に日清日露の兩戦役に出征、勳八等功七級に叙し、村に在つては消防小頭、區長、産業組合長等を勤めて功のあつた愛太郎氏を

戴き、義男氏は今、村内に於ける代表的中堅人物として三期目の村會議員に消防組頭を兼ねて奔走、寧日なしの活動を續けてゐる。令弟覺氏は日支事變の爲に應



令弟 川飛行隊守備隊に勤務してゐる。

因に當家は鎌倉時代より土着せし家柄で代々八幡神社の總代を世襲して來た。両親健在、二男二女がある。

秩父町野坂

町會議員 新井國太郎

明治三十七年、歩兵十五聯隊に入營するや、直ちに日露の戦役に勇躍出征し、常に第一線に立ちて各地に於て活躍、遂に燦と輝く武功を樹立し勳八等に叙されたる氏は先考馬之助氏の長男にて、出生は明治十六年十二月二十八日、資性極め

て柔和圓滿、而して情にもろく、徳義に厚い温厚な人格の持主である。尊父の衣鉢を襲ぎて家業たる農に精勵するとともに、青年時より自治、公共の事に意を用ひ、養蠶實行組合長、區長、消防部長、農會總代等の重責を勤め、奔走活躍して

ゐたが、遂に昭和十二年四月町會議員に推輓を受け、今、寢食を忘れて町政の圓滿なる運



町勢の發展の爲に努力盡瘁をなして

ゐる。その多年に亙りて自治に産業にと各方面に盡力貢献する成績、一々枚擧の繁にたへず、表彰受けし數も、尠なくない。因に當家は當地方切つての舊家にして三百年の家系を傳へ、亦代々佛教に極めて信仰の厚い家柄でもある。現在の家族は七人にて、長男治郎君は近衛歩兵一聯隊に入營中、次男六三郎君が家に在り

て父君を助け、家業に従事し、三男君は未だ幼にして小學校に通學してゐる。尙二女あるも他に嫁してゐる。

小鹿野町

町會議員 小鹿原政之助

郷土振興のため減私奉公の赤誠に生きる氏は、小鹿原國太郎氏二男として明治二十五年十一月に岳降、始祖は十數代前に遡り、累代農耕を本業とせる舊家である。氏は明治四十二年習志野騎兵聯隊に入り、除隊歸郷後軍人分會班長として多年活躍、青年層に信望特に厚く、昭和八年町會議員に高點を以て當選、眞摯なる言論と抱負とは町民の深く長敬するところとなり、同十二年再選今日に至り、直情剛毅なる氏の活躍は益々期待するところ多く、他に區長代理、養蠶實行組合理事を兼ね、郷土更生に努力し、公共公益に盡せる功績は尠なくない。家庭には母堂そう刀自健在の外、ちよう夫人との間に秀男氏及び房子嬢の一男一女あり、共

に學業にいそしみ、家内常に明朝春風颯蕩として和樂堂に滿つるの感がある。

芦ヶ久保村

村會議員 木崎金七



氏は東京府下成木村木崎善吉氏の二男、明治二十一年

年六月二日を以て呱呱の聲をあげ、同四十五年分家して當芦ヶ久保村に來住、農耕の業に従ふ傍ら木材業を兼營し、家運の隆昌日に日に累なり遂に今日の盛況を呈するに至つた。資性快活敏捷、庶民の信望あつく、令名噴々として近郷に普く先年推されて産業組合監事となり、また村會議員に當選二回、いづれも現任するが、名利を求めず、表面に立つことを悦ばず、常に蔭に居て村治村政に盡し、産組問題の解決、學校舎新築、正丸峠道路

開通等に對し村長及び助役を扶けて多大の私財と時日を費して解決完成に盡力したことは最も顯著なる功績の一にして、村民の忘れ得ざるものである。家庭には長男和男君及び四人の愛娘がある。

野上村藤谷淵

村會議員 旅館兼父館主

栃原峯吉

電話野上一〇番



名勝地の中堅として

す氏は、先考藤左衛門氏の長男にして、明治元年六月十五日を以て現在地に生を享けた。大正十二年長壽に料理旅館秩父館を開業して一異彩を放ち、都人士の行樂地たる日本二十五勝の一に錦上更に花を添へた感がある。同旅館は三層樓の近代的設備を有し、多數窈窕の従業婦のサ

ビスと顧客本位の經營振りは、忽ち好評を生み、同業中一頭地を抜いて繁昌してゐる。また氏は消防組頭たることあり現時村會議員中の最長老として五期目の任にあるほか、設立當初よりの産業組合理事、金銭債務調停委員等を兼ね、公事に竭すところも多い。家庭には妻くまさん及び長男榮一氏あり和氣堂に滿つる。長女は東京市本所區小學校長新井忠文氏に嫁し、慶應大學法科卒業の愛孫がある

大田村

村會議員 武島操

當武島家は、今より四代前、本村切つての舊家名門たる武島家より分家せるものにして氏の實父伊之吉氏は日露戦役に出征、二〇三高地の激戦に名譽の戦死を遂げた愛國の權化である。氏はその男にして明治三十八年二月十五日の誕生、長じて先代の養子となつたもので、養父伊三郎氏は村會議員、消防組部長等に推され、村自治に偉大なる功勞をなせる材幹

である。氏は温厚なる人格者との定評あり、消防組小頭、同部長、村農會總代、農事實行組合長、區長等を早くより歴任して養父に劣らぬ功績を積み、現時村會議員をつとめてゐる。氏は特に愛國心深く、赤十字社に三百圓、國防献金三百圓を寄附せるほか、小學校舎新築の際も率先私財を投じ、その他各種公共事業に對する寄附及び功勞は氏の右に出づるものなしといはれる。家庭には養母並に長男正徳君ほか三男二女がある。

大田村上品澤

方面委員
元村會議員

多比羅清藏



家は鉢形北條氏の家臣として威望並び行はれたものだが、榮枯盛衰は世のならば、天文年間中鉢形城取なくも落城、家

大田村
信用組合理事
前村長

富田忠七

中支離滅裂、當家また流浪、永祿十三年今の地に落ち延びて歸農、土地の名家、舊家として現在に及んでゐる。氏は明治三十四年二月十九日、先代源作氏の長男に生れ、父祖の業を繼いで精勵衆望を負ふて村會議員に選ばれて盡力、貢獻するところあつたが、現在方面委員として社會事業に努力を効してゐる。また青年學校柔道部の囑託をも兼ねてゐる。家には當年九十三歳の祖父淺吉翁、嚴父源作氏健在、夫人フサさんとの間に四男一女の五子がある。

べての名、公職に推されて積みあげた業績は、一々枚舉するの邊なしで、一村の長老として重きをなすつゝある決して故なしではない。當家開祖は詳かではないが、代を累ねる九代目、當村最古の名門家とたゞへられ、曾祖父周輔氏は夙に寺小屋を開いて育英界に貢獻し、父君貞作氏は戸長役場當時、役場筆生を振り出しに消防組頭、區長等に歴任、功を數へられてゐる。當主忠七氏は御大典に際し、煙草事業の功勞者として大藏省より、また消防の功によつて縣消防協會からそれぞれ表彰を受けてゐる。家庭にはとわさん、養嗣子龜次郎氏、二女しげるさん外二女がある。

久那村

村會議員
學務委員

笠原春吉

氏は明治十一年、先代利助氏の男として十代位の舊家たる今の家に生れ、十八歳の頃より村治に參與、今も村會議員として町會に重きをなすばかりでなく、本

村の長老自治の功勞者として瞻仰されてゐる。曾て産業組合創立當時には極力運動、これを實現し、その監事に擧げられ消防部長としての十七年間の功績も大であり、現に學務委員を兼ねて教育方面にも努力してゐる。養にはまた養蠶實行組合長としての功も遺されてゐる。なほ長男金太郎氏は父業を助けて勵精大に勤めつゝあるの傍ら消防組に推され、その小頭を以て盡瘁一層の人望を博してゐる。外に二男子に五人の令孫がある。



功も遺されてゐる。なほ長男金太郎氏は父業を助けて勵精大に勤めつゝあるの傍ら消防組に推され、その小頭を以て盡瘁一層の

三田川村三山

村會議員

宮原富藏

快活明朗、近代的人士たるわが宮原富藏氏は先考國作氏の男にして明治二十六年六月の誕生である。夙に消防組小頭、

氏子總代、區長、養蠶組合長等を歴任、また村會議員に當選二回、現にその職に在り、本村中堅有力人物として重きをなしてゐる。盆栽、養狸を趣味とする。五男五女を有し、長男博太郎氏は秩父農林學校を出て目下日本窒素株式會社秩父工業所に勤務中なほ先考國作氏は永らく部落總代をつとめしほ



男五女を有し、長男博太郎氏は秩父農林學校を出て目下日本窒素株式會社秩父工業所に勤務中なほ先考國作氏は永らく部落總代をつとめしほ



大谷人吉さん

られ、他面養蠶事業の先覺者として産業發展史上その名を没すべからざる存在である。夫人ギンさんは貞淑な人、常に夫君を扶けて剩すところなき功勞者。



秩父町大宮
町會議員
學務委員
松本仙三郎

電話二五一番

は勿論で、その代表的偉材者中に秩父の名門家松本仙三郎氏のあることは、洵に欣快とすべきである。先代逸八氏は本郡三田川村の名主近藤家に生れて松本家に入婿したもの、農業に蠶種製造業を經營し、斯界に専念努力したばかりでなく、村會議員その他の公職等に推されて功勞の高かつた人である。當主仙三郎氏は明治四十年六月四日その男に生れ、縣立中學校を経て東京高等工業學校へ進んだが父君の健康とかく勝れざるところから、斷然學業をすて、歸郷、父業を助けると

共に勤儉大に努め、家計漸く餘裕を生むに至つた。氏は幼より植栽のことを好み長ずるに従つて植林に興味を有するやうになり、終に蠶種業を廢して一意植林に與り森林組合を創設してその組合長に擧げられ、山林業者の指導的立場に在つて致々營々造林の隆盛に傾注してゐる。二十五歳の時町會議員に當選して以來、連續その選に當り、三十六ヶ年後の今も現任中であり、町會の西園寺公として目されるもの、また故なしではない。その間廣川原をはじめ兩神、武甲等の施業森林組合を起し同時に初代組合長に任じ、また縣森林組合聯合會を設立してその理事に推選され、縣地方森林會議員、郡神社氏子崇敬者總代會長、金錢債務調停委員、郡蠶種業同業組合を設立してその組合長等を兼ねてゐるが、會では郡會議員を二期、信用組合監査役などとも數知れぬ業績を讃へられ、本町の長老として重きをなしてゐる。資性公私共に至誠、清廉潔白且つ剛毅果斷、老境の片鱗も見せ

ずして更に秩父土地會社の常務取締役に任じ、日夜の別なく活動してゐる。長男忠太郎氏は明大、北大を卒へて今、父業を助け、次男達次郎氏は京都帝大の出身、東京市社會課に勤務し、三男常三氏は東京帝大出身、八十五銀行に在勤、四男豊吉君は京都帝大法科在學の秀才である。

小鹿野町

町會議員 小池兼藏



秩父民 政黨派の 中堅たる 氏は、尾 田村古 峰定藏氏

の二男にして明治二十二年十一月の誕生大正五年先代小池道三氏の養子となつた旅行、狩獵に興味を有し、小鹿野木材株式會社創立者、縣木炭同業組合長として令名は夙に縣下に響き、また秩父郡製材同業組合副長の要職に推され、斯界に寄

與貢獻少なからざるものがある。會では秩父織物同業組合検査員たること約六年木炭組合參與、同評議員、郡會議員、消防組小頭五年をつとめ、消防功勞者として表彰されし事もあり、現時町會議員二期目の任にありて町治に參與献策してゐる。令聞はなさんは養父の愛娘にして明治二十八年生れ、氏との間に長女きく子さんほか一女あり、共に才媛の開え高く家庭は和氣に充ち溢れてゐる。

野上村藤谷淵

村會議員 井深清高

自治も憲政も、畢竟輿論政治であり、輿論の健否が自治の振否を決することは言ふまでもない。氏は輿論の上に立つて本村自治界をリードする人、その思想の堅實にして抱負の絶大なる、且つ信念に強くして識見の豊かなる、地方人材中稀に見る存在であり、輿論を基礎とするが故に衆庶の絶大なる支持と信任とをあつめてゐる。抑々井深家は代々農を業とす

る舊家にして、先代和藏氏は村會議員三期をつとめたる自治功勞者、氏はその長男として明治二十三年十月二十三日に生をこの世に享け、資性濃厚篤實を譲られ早く家業に携る傍ら村治に關與し、現時村會議員二期目のほか消防組小頭を兼任し、功勞顯著なるものがある。夫人ユキノさんとの間に長女加津子さんあり、養婿鏡夫氏は秩父警察署勤務の警官、令孫まさ子さんを有す。なほ實弟祐三氏は縣警察部勤務の警部である。

大田村

村會議員 富田嘉貞



當家は 應永年間 よりの舊 家にして 約六百年 の村内第

一の長い歴史を有し、代々名主をつとめた名門である。先々代治作氏は國神村收

入役及び國神郵便局初代局長をなせし偉材、先代鐘三郎氏は永く村會議員その他公名譽職に在りし自治界の先達である。氏はその男として明治二十一年十二月出生、近衛野砲兵聯隊に勤務除隊後、家業に精勵しつゝ、自治公共事業に關與し、軍人分會副會長、消防組部長たること多年現時村會議員を初め、農事實行組合長、養蠶實行組合長、學務委員、方面委員等を兼ね、本村屈指の自治功勞者と稱される。家庭には長男貞二氏ほか三男一女がある。なほ令兄仁作氏は消防組小頭、同部長、同組頭、村會議員、方面委員等を努めた功勞者、現時東京に出て活動中。

三田川村坂本

村會議員 山口善太郎

當家は代々農を業とせる舊家にして、嚴父宇三郎氏は家業の傍ら區長、衛生組合長等に推されて部落の秩序と繁榮とに功勞ありしが、昭和十二年四月、八十三歳を一期に幽明境を異にした。氏はその



二男として明治二十一年一月に呱呱をあげ、長じて分家獨立し、大正元年以來雜貨を經營して今日の隆盛を見るに至つた。しかも消防

組小頭、衛生組合長、國勢調査員等を歴任、現時方面委員、村會議員二期を兼ね坂本部落第一の自治功勞者と稱される。長男能治氏は家業に従事、他に二男泰三君、三男紀雄君がある。



(泰三君と紀雄君)

久那村

村會議員
信用組合
専務理事

石渡精一

當家は久那村草分の舊家石渡家の一門にして代々農耕に従事し、氏は明治三十九年十一月三十日先代權右衛門氏の男に生れ、長じて第一師團管下歩兵聯隊に入營、伍長に昇進して除隊した。資性快活敏捷にして頭腦明晰、本村産業組合設立の主張發起人にして今日の發達を致せる第一の功勞者であり、現に専務理事たるほか、在郷軍人分會長、村會議員、經濟更生委員を兼ね、自治に産業に教化に本村のあらゆる方面に甚大なる功勞あり、將來の久那村を背負つて立つべき人と一般村民より矚目せられ居る人材にして、令名噴々として遠近に高く、本村發展の大恩人との定評がある。家庭には嚴父權左衛門氏悠々自適の日を送り、夫人つや子さんは淑徳の譽れ高くして内助の功多く、二男二女を有し、長男達三君は目下在學中。

秩父町

町會議員
學務委員

松本歡九郎



老へたるを重視し、若輩を輕視した舊弊のた舊弊のまた一掃されなかつた當時、三十二歳の若さを以て町會議員に當選、爾來二十有餘年間連續、六期現任中の氏は井上重一郎、松本仙三郎の兩氏と共に町會に於ける大御所を以て目されてゐる。その性清廉潔白、剛毅果斷、美辭麗句の八方美人主義を極力排撃、たゞ一路大道を闊歩する底の新人任署長も着任早々先づ氏に挨拶するを例となしてゐる、この一事、よく氏の日常を物語るもので、明治十九年一月八日元之助氏の長男として三百年來の舊家、名門たる今の家に生れ、十九歳の時に機業を營み、三十八歳まで精進、秩父銘仙

を出して早くも天下に鳴り、機業界に確固たる地歩を占むるや町治に進出、町會議員たるの外に學務委員を兼ね、また衛生組合長(三十年間)、納稅組合長、氏子並に檀徒總代として盡力貢献してゐるがその間秩父用水、學校問題、衛生等に關しての殊勳を數へねばならない、衛生上の功勞者として同町上町より金屏風を贈られ、知事より衛生功勞者として表彰され故江古田町長よりは再度に涉つて自治功勞者の名の下に感狀を贈られてゐるなどまた故なしではない。なほ納稅組合の劃辰金を以て植林事業を經營してゐるが、産業新發展策の一つとして特筆大書すべきであらう。夫人との間に一女あり、今秩父高等女學校に修學中である。

小鹿野町

町會議員
前小鹿野
郵便局長

村上喜藏

當家は代々吳服商を營める舊家にして始祖を村上甚平と稱す。氏の養父半四郎

秩父町

豊泉鶴吉



當家は代々農業を以て傳へた本郡三ヶ島村屈指の舊家である。氏は嚴父與三郎氏の長男として明治二十四年一月十二日に生る。明治四十四年宇都宮輜重大隊へ入營、大正元年伍長勤務となり、歸郷するや、茨城縣警察官となり、秩父署勤務となるに及び當地方機業界の進展に着目し、秩父銘仙製造業を營む、是今日豊原織物工場として、従業員二十五名を算し秩父機業界への躍進的礎石をなしたものである。この間に於ける幾多の苦心、努力は氏の剛毅不拔の強靱なる熱意と、圓滿なる人格によつてのみ克く爲し得る處のものである

野上村本野上

日和田清七

地方共同の利益を發達せしめ、衆庶臣民の幸福を増進することを欲し——と明治二十一年自治制發布の際の告諭に申されて居る通り共同の利益と衆庶の幸福とは、自治の二大眼目である。氏はこの上



十二年再選、また小鹿野局長に任じ現在學務委員、所得稅及び營業稅調査員を兼ね、名實共に當町の功勞者である。長男利吉氏は明治三十三年二月の出生、大正九年一年志願兵として宇都宮六十六聯隊に入營、同十四年少尉に任官在郷軍人分會長を三年つとめ、若冠二十五歳の時三代目小鹿野郵便局長に任じてよくその重責に堪へ、勤續して今日に至つてゐるが、その功や大更に今後に矚目される。

氏は小鹿野郵便局長、町會議員たること多年に及ぶ町内の有力者であつた。氏は菱川藤平氏の長男として明治五年五月の岳降、同三十二年半四郎氏の養子となつて家業を繼承、商才に長じ、本耳絹織物を考案、開祖となり、旺んに關西方面に販賣した。大正十年町會議員當選、昭和

他郡よりの轉住者といふ不利の立場を排除して、現に秩父工業組合親睦會會長、秩父工業組合幹事等の要職にあり昭和八年四月には自己の主義抱負を堂々述べて高點を以て當選、昭八會を組織して、其主流となり、町政とに重厚なる存在を示す。その異色ある抱負と独自の所論は、今後大いなる期待を以て俟たれる。家庭はいそ夫人との間に三男三女を有する子福者にして、長男繁一君は縣立埼玉工業學校在學中、長女夫妻子さんは秩父高女出身である。因に夫人は同郡長若村栗原惣一郎氏の長女である。

電話野上二二三番

論を實踐し、公共の利益及び幸福に盡瘁
 貢獻せる稀有の功勞者である。明治十九
 年端午の節句に故日和田庄太郎氏の二男
 として滋賀縣に生を享け、同四十二年當



地に呉服
 日用品雜
 貨商を開
 業日に月
 に隆盛に
 向ひ、今

や當村有數の商店として喧傳されるに至
 つたが、その傍ら自治共同の事に關與し
 區長三期目をつとめるほか、村會議員、
 商工會副會長の要職にあり、地方共同の
 利益發達と衆庶の幸福増進に幾多の事績
 を遺されてゐる。令聞きくさんとの間に
 は長男清九郎氏はじめ二男與平氏、三男
 正治氏がある。

秩父町番場
 町會議員 横川新一

電話三七番

秩父町屈指の舊家たる當家は代々製氷
 業を營んだが當代に到りて酒類菓子販賣
 をも兼業するに至つた。先代榮次郎氏は
 近衛師團一等書記を勤めた人で、縣製氷
 同業組合長として知られた。元治元年に
 生を享けてより大正十三年の他界迄、秩
 父町の發展の爲めに致せる功勞は枚舉に
 遑なく、區長、町會議員たること四期、



加藤政之
 助氏の直
 系として
 民政派に
 重きをな
 した。地

方政界の異色ある存在として知られた。
 水道新設問題には畢生の熱意を傾注なし
 町民多大の感謝を受けてゐるが、井上重
 一郎、蘭田矩助、柿原氏等と共に名實兼
 有の功勞者と稱されてゐる。一度氏の病
 床に就くや時の町長故江戸氏は、その
 病室に感謝状と記念品を贈呈したが、そ
 の二時間後に町民益の實現を目前にして

長逝した。資性頑健剛直、美辭麗句を欲
 せず、熟慮斷行を致へ責任觀念の強きこ
 と岩の如き偉材として今當町民に追慕せ
 られてゐる。當主新一氏はその男として
 明治二十五年九月十八日に生れ東京商工
 中學を卒へて歸郷、後ち嚴父の衣鉢を襲
 ぎ、黙々として家業に精勵すること多年
 其の間消防部長、區長、縣製氷同業組合
 常任理事、秩父町商議員、農會總代、檀

徒總代等を歴任、昭和十二年十二月四日
 番場町一致推輓を得て町會議員に選出さ
 る。氏も亦今後に於ける町政への盡力と
 貢獻を期待する人、事業にありては堅
 實眞摯なる態度と商法によつて縣一圓の
 著名會社、官廳を販路として益々伸展途
 上にあるが、その將來や必ず大を成すこ
 と、たゞ期して待つべきである。キヨ夫
 人は同町淺賀政吉氏の三女にして、息女
 二人あり、長女敏子さんは東京佐藤高女
 出身、次女澄子さんは佐藤高女より東京
 文化學院の出身にして共に才色兼有の譽
 れが高い。

大田村品澤

村會議員 上原道藏



氏は今
 村會議員
 として初
 の村會壇
 上に登場
 日頃の抱

負と主張とを忌憚なく吐露しつゝ目覺ま
 しく活動してゐるの外、消防小頭として
 の部下の統制、消防員たるの眞の職責を
 認識徹底せしめ、よつて以てよりよき成
 果へと目指して力進してゐる。氏の家は
 土地の舊家上原嘉四郎氏より分家獨立し
 たもので、父君平藏氏は疾く東京に出て
 活版業を經營した人、當主は明治三十三年
 十二月一日の出生、宇都宮第十四師團
 に入營、勤務上等兵として除隊歸郷した
 人、曩には在郷軍人分會長、煙草耕作組
 合會長、農會總代などに擧げられて盡瘁
 貢獻せる人望家で、これまでの功勞も決

して尠なくはない。母堂健勝、夫人との
 間に二男あり、長男嘉壽君は今二十一歳
 家業を手傳つてゐる。

三田川村大指

村會議員 清水兼藏



初代源
 右衛門氏
 は享保年
 間の人、
 爾來十代
 三百年を

經る當家は、當地有數の名門である。曾
 祖父武右衛門氏時代一時家運傾きしも、
 祖父孫三郎氏これを挽回して倍舊たらし
 めた。嚴父長松氏は區長二十年以上をつ
 とめたる部落の恩人にて、七十八年の長
 壽を全うして永眠した。氏は明治十一年
 十月の出生、夙に區長、消防組小頭、同
 部長、同組頭等を歴勤、現時村會議員と
 して村自治に獻策多き濃厚な人格者であ
 る。長男林太郎氏は滿洲事變に參戦し動

八等に叙され、現在農事實行組合長に推
 され活動してゐる。

秩父町宮地

町會議員 根岸三三



熱と力
 の權化そ
 のものゝ
 如く資性
 剛毅なる
 氏は明治

三十三年四月五日の出生にて秩父農林學
 校出身、家業たる農に精進すると共に夙
 に自治、公共の事に意を注ぎ、學務委員
 農事組合長等の重職を経て、昭和八年町
 會議員に推輓を受け、引續き二期目を現
 任中にて、兼ねて町農會幹事、秩父町販
 賣購買利用組合事務理事の重責にある。
 因に當家は十七代の家系を相傳へる當町
 屈指の舊家、町勢發展の功勞尠くない家
 柄、先代傳吉氏も永年に互りて區長、町
 會議員其他の名、公職を歴任せる功勞者

であつた。當主はその三男にて長兄二人共早逝の爲、三三氏が家を繼いでゐる。家庭は頗る圓滿、尊父傳吉氏七十歳の老境にあるが、尙雙鐮として壯者を凌ぎ、母堂テフ子刀自も健在、貞淑温良なる文子夫人との間に四男三女がある。

秩父町 販賣購買 利用組合

當組合は秩父町一圓を區域として昭和十二年四月二十二日保證責任組織の下に創立せられ、現組合員数は七五〇人、出資總額一萬四千圓にして一口出資は拾圓である。その成績賭るべきものあり、だが未だ創立日浅ければその將來は町民多大の期待を以て囑目されてゐる。現組合長は加藤萬三郎氏にて根岸三三氏は専務理事の重責に在り高野照三氏が収入役として精進してゐる。

久那村

村會議員 **石渡市太郎**
温厚の士、篤實の材と稱され、郷黨の信望普き氏は、先考清吉氏の次男にして

明治十二年十一月十二日の出生である。抑々當家は三代前の八百藏氏の時、村内の舊家石渡徳惠氏宅より分家獨立せるものにして、先考は篤農家の聞え高かりし醇朴の人なりしが、昭和三年、七十三歳を一期に不歸の客となつた。當主たる氏は夙に祖業に精勵する傍ら公共事業に關與貢獻甚だ多



は夙に祖業に精勵する傍ら公共事業に關與貢獻甚だ多

く、區長を永らくつとめて部落の繁榮に寄與せること多々あり、また村會議員二期目の任にありて村治に獻策しつゝあるほか、産業組合信用評定員、報徳社參事、經濟更生委員等を兼任し、道路開發には特に功績顯著であつた。令閨との間に四人の男子を儲けたが、長男藤作氏は二十四歳にて他界、家業には二男新三郎氏が精勵してゐるが、前途有望の青年として稱へられてゐる。



正義と剛毅とによつて聞ゆる氏は兩神村の舊家顯見

秩父町 消防組頭 諸武三郎

電話秩父一四九番
家の出にして明治二十二年九月の誕生である。その祖は有名なる甲源一刀流の指南として全國的に名高い。實父は善一郎氏、氏は望まれて當諸家の先代平五郎氏の養子となり、家督を相續した。東京開成中學校を明治四十三年に卒業し、野砲兵第二十聯隊に入營、除隊後木材商を経営して奮闘途に今日の盛況を呈するに至り、この間大正十五年より町會議員たること四期、現にその任にあるほか學務委員を兼ね、また昭和十三年一月推されて消防組頭に就任、公共精神に燃え、融和

協力をモットーに四百餘名の組員を指導統制して警備の大任を果しつゝあり、他に信用組合理事、昭和重役等を兼ねる。カウ夫人は秩父高女の出身、長男貞彦君あり、熊谷中學校に勉學中である。

小鹿野町

町會議員
桐材商組合長

渡邊利作



小鹿野町の代表的履物商たる氏は先代彦七氏の長男

にして、明治三十三年十二月の誕生である。始祖以來十三代目に當り、祖先是代熊谷市に住み、六代前より蠶種製造業を營みしが先代の時、明治二十三年當町へ移住、桐材下駄商を開いて今日に至つた。氏は専念家業に精勵し、顧客は年々増加の一方で、遂に今日の盛大を呈したのである。しかもその反面社會公共の事

に竭し、大正五年以來小鹿野町桐材商組合長として二十有餘年、業界の發展策を講じ、昭和十二年には同業者を代表し最高點を以て町會議員に當選、町會に清新の氣を注入した異材である。家庭には嚴父彦七氏優游自適の日を送り、また志満子夫人は淑徳の譽れ高く、氏との間に長男光雄君のほか一男二女がある。

秩父町

田代仁作

町會議員
電話三一九・四〇〇番



當田代家は當地の松本、井上家と並稱する舊家に

して素封家として知られてゐる。其祖は田代冠者大膳大夫信綱である。人皇七十一代御三條天皇の第三皇子より五代の後裔、伊豆國住人中納言爲綱の一族にして

英雄賢士たり、その軍功武名は「東鑑」にも見え、伊豆田代村に堂跡並に居城址が現存してゐる。氏は先考七郎右衛門氏の長男として、明治十五年四月八日に生る。若くして東都に修學、小川平吉氏の書生となり、苦學力行して今日の礎石をつくつた。四谷吉田校より佐世保商工學校、鳥羽商船學校と卒へて、直ちに商船の機關士となり、後二等機關士となる。

大正三年歸郷して機業中繼業を營む。果なき大海原の中に養はれた寛裕な情操と眞摯なる熱意は業績の伸展のみならず、町民の信望大いに揚り、昭和八年推選されて、町會議員となり現在に至る。同志「昭八會」は町政の原動力として大いなる存在を示す。氏は又實業方面にも活躍する所あり、昭和館重役秩父工業組合理事の要職にある。クニ夫人は尾田蔭村の舊家栗原定五郎氏の長女である。秩父高女出身の玉子さんに慶應義塾出の平治氏を養子に迎へ、家庭極めて圓滿である。長男七郎君は神田區錦城商業に在學中で

ある。家庭極めて圓滿。

野上村

村會議員 野口武一
野口運送店主

自治も事業もその運用は結局人の問題である。氏は力量と識見とを兼備せる村内屈指の材幹、日本通運會社指定の運送店主として、且つ村會議員及び社寺總代として、その敏腕は萬人の等しく感嘆畏敬するところである。嚴父桑吉氏は野上郵便局の開局に功あり、後推されて局長に任じたるほか、野上村助役、村會議員等をつとめたる偉材にして、令兄豊氏は明治四十四年野上驛前に運送店を開業、また早くより金融業に意を注ぎ、西武銀行支店長たる地方金融界の異彩である。氏は明治二十七年十月八日を以て呱呱の聲をあげ、前記令兄豊氏の創業に成る運送店を繼承して今日に至り、よね夫人との間には長男幸成氏、二男久氏、三男通弘氏、長女はまさん、二女静子さんあり家庭鶯々の氣に満ち、至幸至福の日を送られてゐる。

三田川村飯田

村會議員 猪野梅藏



當家は先考健次郎氏の男として明治二十六年九月に呱呱をあげ、濃厚なる人格者、家業の傍ら衛生組合長、消防組部長、軍人分會副會長、氏子總代、農事實行組合及び養蠶實行組合各會計係、納稅組合長、村農會評議員、信用組合評議員、村會議員等の公職にあり、消防組軍人分會衛生組合關係に於てそれ／＼功勞者として表彰されて居り、將來性ある徳望家である。令閨は尾田時村の舊家今井欽藏氏の息女、四男一女あり、長男信一氏は家業に精勵中である。

久那村

村會議員 新井孝訓
舊家名門

當家は秩父郡有数の舊家にして代々名主をつとめ、また地方切つての豪族として名主總代に擧げられし名門である。當時の史實を傳へる數々の寶物は今も所藏され、在りし昔の權勢を傳へてゐる。現在の屋敷も周圍に堀を繞らし、石垣を積み、宛も一小城廓の觀あり、舊家名門たるを窺ふに足る。先々代は紀州家典醫として權少吏從六位まで陞り、明治九年賞勳局二等秘書官をもつとめた。先代久之助氏は専ら家業を護り、七十八歳にて永眠せられた。當主はその男、夙に家督を繼ぎ、消防組役員七年をはじめ、區長、農事實行組合長、産業組合理事、學務委員二十年をつとめ、現時村會議員二期目氏子總代、檀徒總代を兼ね、快活明朗の名門の後裔たる風格を具備せる人格者である。三男三女を有し、長男次兵衛氏は青年團役員に推されてゐる。

秩父町大畑

町會議員 大畑農事組合長

小澤興重郎
電話秩父五一七番

當家は元來農を家業とせる舊家なるも先々代嘉重郎氏は銃砲店を兼營した。先代米吉氏は區長多年に及ぶ部落の功勞者である。氏はその長男、明治二十一年三月に生れ、秩父農林學校の第二回卒業生夙に家業に就くと共に區長、廣見寺檀徒總代をつとめ、昭和八年秩父町大畑農事組合長を兼任し、同十二年四月地元區民より推されて町會議員に當選した。濃厚謹嚴、町會に何事かをなさんとする抱負經綸を有し、新議員中の白眉と稱されるハナ夫人との間は二男七女の子福者にて長男は秩父農林學校を出て目下三重高等農林學校在學中の秀才であり、夫人は原谷村長堀口寛一郎氏夫人の令姉である。因に氏は儒教の信仰厚く、區民の信望あり、趣味は狩獵、徳望普き篤行者といふべき人である。

小鹿野町下小鹿野

町會議員 方面委員

高橋金太



代運平氏は多年區長を勤め、部落の融和開發に功勞があつた。當主金太氏はその長男として明治十一年四月二十三日に呱呱の聲を擧げた。三十一年兵として麻布三聯隊に入營、後専ら家業たる農事に精勵し、資性濃厚篤實、而も眞摯熱意の人として人望あり、曩に擧げられて、區長として功績著るべきものあり、爲に町民の推輓するところとなり既に十四年前より町會議員として町政の中樞に確固たる地盤と貢獻を爲しつゝある。長男茂氏は

野上村藤谷淵

村會議員 野口仁平

當地機業界の雄といはれる氏は、故堀口定吉氏長男として明治二十二年六月に生を享け、大正九年より秩父大島耕専門の機織業を創始し、爾來至誠を以て業に當り、年毎に隆昌を加へつゝ今日に至つた。しかも傍ら消防組部長、同小頭、家屋稅調査員等を歴任、縣知事より消防功勞者として表彰されしことあり、現在は村會議員二期目、信用組合理事のほか、埼玉縣若松組專務理事、經濟更生委員、學務委員等を兼ね、産組には特に功勞多く郡部會より表彰を受けてゐる。資性温

厚篤實。令聞けささん、長男弘氏等家庭にあり、和氣霽々としてゐる。

三田川村河原澤

村會議員 福島幸八



考與先
氏は作與考
は元祿
以前よ
りの舊
家にし
て、先
當家

考與作氏は家業のほか學務委員、區長等をつとめ、部落の信望を一身にあつめた



功勞者である。また先々代及びその先代の頃には河原

澤に於て商業を經營せることがあつた。氏は明治四十年二月四日の出生、温厚なる人格者にて、區長代理、氏子總代をつ

とめ、昭和十二年には村會議員に當選今日に至り、少壯有爲の人材としてその將來はオール三田川村民の期待するところである。趣味は書道。家庭には母堂健在し、令夫人は福島幸藏氏の人である。

秩父町

町會議員
武道獎勵會長

稻葉光三



昭和十二年の町會議員改選に際して名乗りをあげた

新人中、その異彩として美事當選の榮を贏ち得た氏は、本町素封家新井氏の次男として明治二十六年十月十六日に出生、後ち稻葉家の先代氏に望まれて同家に入つたもので、中學校を卒へるや進んで東都に學び、歸郷して町役場吏員となり、大にその將來に望を囑せられた。今は家業質商に精進、産を大にし、信用實に篤

きを加へつゝあるが、進んで町政に參しまた實父氏の小野派一刀流の流れを汲んで劍道四段であるが、秩父署管内武道獎勵會秩父支部長、秩父町小野派劍道普及會々長、納稅組合長等を兼ねて銳意力進してゐる。夫人カメさんは養父雄助氏の三女、愛國婦人會々長を勤め、現に銃後の護りを業うしてゐる。間に二男二女あり、長男峻一君は、目下秩父高等小學校に通學中である。

小鹿野町

町會議員 齋藤正雄

電話小鹿野二三番



消防功勞者として縣よりの表彰二回に及ぶ氏は先代

傳吉氏の長男にして明治三十四年十月二十五日の出生、將來の多幸を約束された

新銳の中堅人材である。郷校卒業後、祖業たる繭糸雜穀商を營みつゝ、早くから自治社會のことに關與し、消防組部長たること八年、才腕は萬人の認むるところ

現時町會議員のほか商工會代議員を兼ね福島同族合名會社専務理事をつとめてゐる。抑々當家は數代前より當地に居住し祖父千代吉氏は三田川村の産にして養嗣子として當家に入り、繭糸雜穀商を創めたる中興の祖である。嚴父傳吉氏は二十八歳を一期に永眠、氏は幼少から慈愛深き母堂の手に育てられて來た。令聞なかさとの間には長男利雄君、ほか一男三女がある。

三田川村田ノ頭

村會議員 黒澤斐人

明治十九年十二月二日今は亡き先代左源次氏の男に生を享けし氏は資性穩健にして人望普く圓滿な人格の持主、青年時より夙に公共の事に力を竭し、衛生組合長、氏子總代を経て、現在村會議員の重

責に在りて村政自治の爲に盡瘁してゐるが、兼ねて養蠶實行組合長、農會總代、寺院總代、方面委員、負債調停委員の任に在り、その永年に互りて鞅掌貢獻するところ尠なからず、柔和圓滿なる人格と



一家團樂

相俟つて村民仰慕するところとなつてゐる。尙、氏は盆栽に造詣深く、柔道の喜樂流の古流には相當達してゐる。因に當家はその家系詳かならざるも村内切つての舊家にして嚴父氏は村助役、收入役、

村會議員等を勤めし村勢發展の功勞者にして、村史に記録さるべき人物であつた現在には家族六人の圓滿なる家にて、長男貴義氏（二十四歳）が父君を助けて家業たる農に勵精し、次男哲夫君は現役志願兵として赤坂歩兵一聯隊に今年の一月に入營してゐる。

秩父町上野町

町會議員 有馬兼吉



當家の祖は代々島津藩士たり。嚴父熊次郎氏は明治

維新に開港攘夷の論議々たる時、彼の神奈川に於ける生麥事件に端を發した鹿兒島灣の英船對島津藩の天下を騷然たらしめた事件に決死隊の一人として、大いに愛國の思念を燃した人である。氏はその三男として、明治十七年九月に生れ、鹿

兒島中學を卒へて東都に遊學なし、後埼玉縣廳へ奉職すること五ヶ年に及び、官吏より實業界へ轉身なし、今より三十年前秩父町に牛乳業を營む。氏の倦むなき強き信念と意志力並に溫容の風格は逐年業績の顯著なる伸張を來し、現在三十頭の乳牛と十六人の従業員を擁して、養生舎と稱し、當町に確固不拔の基礎を置いた。氏は鹿兒島縣人特有の、清廉剛毅、寡黙にして謙讓、美辭麗句を好まぬ重厚なる資性である。町民多大の推輓を受けて町會議員たり。又埼玉縣畜産組合評議員、秩父郡畜産組合副組合長等を歴任せる逸材である。家庭はイマ夫人との間に六男二女を有する子福者で、長男氏は關西大學を卒へて、大阪市住友林業に勤務なし、次男氏は目下支那事變に出征中である。宗教は神教徒。

小鹿野町

町會議員 浮田常次

電話二五番



格は事業の發展と共に町民の推輓を受くる所となり、

既に町會議員四期を勤め、現に町政の中心に確固たる存在をなし、益々町勢發展伸張の爲めに貢献なしつゝある。殊に第二期町會議員たりし時の用水路開鑿に於ける没我的盡瘁は太き功績として讃仰に値するものあり。家庭はこう夫人との間に三男二女を有する子福者にして友會副會長として、悠々自適國華の栽培に耽る



温厚篤實の人格者といはれる氏は明治二十七年三月

原谷村黒谷

村會議員 消防組頭 前助役

北太鹿

風雅の人である。家庭はセツ夫人との間に三男二女あり、長男安之助氏は宇都宮農林學校卒業後千葉縣農務課に奉職中である。次男定二氏は秩父町に齒科醫を開業なし、長女は秩父高女卒業の才媛、二女は在學中である。氏の祖父安兵衛氏は聯合戸長を勤めた名門にして、養父も亦區長、町會議員三期を勤めし町内の有力者たり。家庭に事業に、將た抱負に氏の如く充ち足り、而も營々として終焉なき努力を惜まない人は稀である。

令兄榮氏は吉田町に醫院を開業中、嚴父は助役、村長等をつとめし自治功勞者である。氏は青山師範學校に學び、東京に於て教鞭を執りしことあるも、後ち歸郷村役場に入り、兵事主任たること十八年次で助役に任じ、現在は産業組合聯合會埼玉社理事、村會議員二期目、消防組頭衛生組長、養蠶實行組長、村農會副會長、軍人分會長等數多の要職を兼任し産業組合には特に功績多く、先年産組功勞者として表彰の榮に浴した。本村産業組合は明治三十八年の設立に係り、組合員四百八十名、出資金三萬七千圓を擁し保證責任組織の四種事業經營である。氏はまた消防事業にも功勞あり、縣消防協會秩父署管内聯合會等より表彰狀及び功勞章を贈られてゐる。

三田川村飯田

村會議員 犬木勝藏

當家は相當な舊家、累代農を本業となして來たもの、先代二三九翁は篤農家を



先代三九翁

主はその男、明治二十七年九月十日

以て鳴り、區長、收入役、村會議員、消防小頭、同部長、氏子總代等を歴任し、自治功勞者として今も敬仰推賞されてゐる。當五目の出生、曾ては區長、農事實行組長として盡力し、現在は二期目の村會議員であり、また氏子總代を兼ね、挺身その職に勵みつゝある。父君六十九歳を以て健勝、父子二代相繼いで村内のために盡瘁せるその功は、村史の上に永く輝き傳へられるであらう。家の譽れであると共に、村の將た郡の名譽でもある。

秩父町別所

町會議員 黒田太善治



當地有數の舊家の流れたる當黒田家は、先代藤五

郎氏の時に分家創立されしものにて、當主は三代目、先代善重郎氏の長男として明治二十一年一月に呱呱をあげ、戸長その他自治に貢献多かりし先代が大正十三年他界の後を承けて家督を相續した。宇都宮歩兵第二十聯隊に入營勤務し、除隊後は消防組部長、區長四年等をつとめ、昭和八年選ばれて町會議員となり、同十二年再選、昭八會の中堅として町政界に重きをなす。母堂クニ刀自は米壽に近くしてなほ健在、夫人ミツさんは舊家原島春吉氏の次女にして本町方面委員井上唯吉氏は夫人の實兄、黒田、原島、井上の

三家は何れも名譽職に在り互に姻戚關係をなす。長男已善氏は日本電氣影森工場に、次男佐善治氏は巨商柿原商店に共に勤務する。

秩父町

町會議員 小林多三郎

電話三四五番



氏は本郡白川村の舊家、代々農を本業となして來た

伊吉氏の次男として、明治二十年十月八日に生れ、郷校を卒へるや秩父町大森商店に入店、専念一意店務に勵むこと二十三年、夙に勤勉と實直とを認められ同商店の片腕として推されてゐた。大正十五年、同店を退くや獨立して秩父銘仙業、(製造)を開業したが、堅實なるその商才は早くも萬人の認むるところとなり、

昭和九年推舉されて熊木區長となり、同十三年再選現任中であり、また同十二年四月町内の輿望を負ふて町會議員となり懸命努力、町民の期待に副はんことを念願となしてゐる。外に秩父工業組合常任監事、信用組合評議員、秩父町機業同盟會(榮養食共同配給組合副組合長)等の要職に就いてゐる。従業員は現在二十名を擁し、斯業また旺盛なりである。夫人との間に二男二女あり、長男善一郎氏は桐生高等工業學校出、直ちに九州旭ベルグ會社に勤務、次男徳次郎氏は横濱高等商業學校を卒業、王子製紙東京本社詰として奉職、何れもその將來を刮目期待されてゐる。なほ機業を以て賞をうくること十數回の多きに及んで、斯業界に燦たる譽れある華を咲かせ、ますく力進してゐる。

秩父町

町會議員 淺賀俊吉



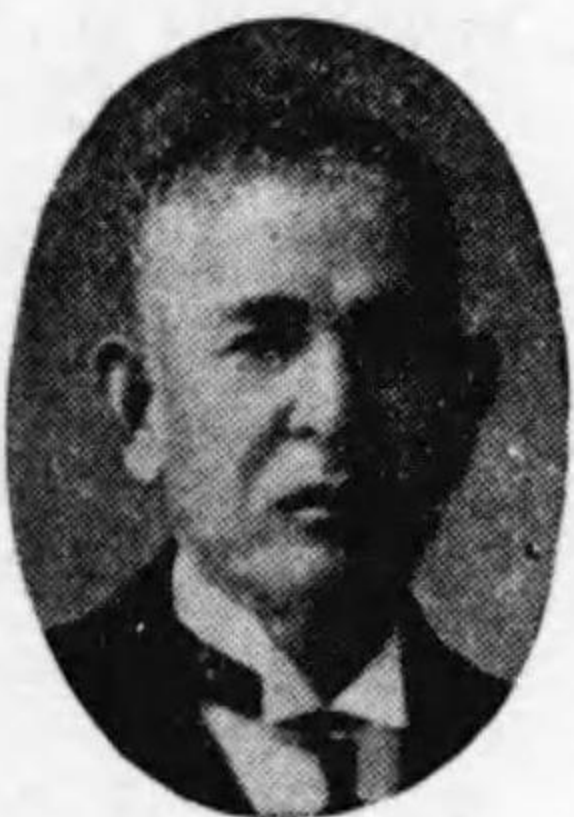
昭和十二年推されて町會議員に當選、郷土の發展を圖つて寄與尠くない。進取の氣性を有する材幹なれば、何事かを爲さんとする氣魄に富み、機都秩父の將來を託するに信を置ける人材といふべきであらう。長男卓平氏は秩父農林學校出身にして現秩父町役場書記にありて精勵恪勤、前途を望まれてゐる。

當家は凡そ三百年を経る舊家にして代

秩父町中村

郵便局長

蘭田 穎助



秩父町が有する偉材中の一異彩たる氏は、先代忠行

氏の次男にして、令兄が國幣小社秩父神社宮司となりしたため家督を相續した。東京慈惠醫學出身にて、郷里に藥局を開いて今日に至り、秩父町の代表的藥店として盛業中である。自治公共の事業に竭すところも多く、町會議員をはじめ、消防組部長、同組頭に歴任、本町消防組をして全國の模範たらしめた手腕家にして先年内務大臣より功勞賞を贈られしほか、縣消防協會より、二度に互つて表彰された。大正十二年秩父郵便局長に任命、兩來通信事業の第一線に立つてその内容改善諸施設の完備を圖つて一般公衆の利便

を増大するなど、功績顯著なるものがある。また秩父會館、知々夫演藝會社、秩父自動車會社等の重役に任じ、實業界にも重きをなしてゐる。

白川村

猪ノ鼻郵便局長

高野 俊吾



當局は明治十二年當地の舊家にし

政太郎氏が、當地方通信網の不備を嘆いて開局せるものにして、爾來地方への文化輸入と産業の興隆とは甚大なる貢獻を致してゐる。その間二代条六氏、三代眞八氏、四代高吉氏、五代現局長高野俊吾氏の人々を経た。區域は大瀧、白川の兩村にして、區域面積の大なること、縣下第一位にあり、殆ど兒玉全郡に匹敵する。現局舎は昭和七年五月の新築移轉に

代農を本業とした。先代皆吉氏は區長、町會議員に任じて秩父町發展に功あり、萬延元年の出生にして町内第一の高齡者であるが、資性濃厚篤實、壯者を凌ぐの元氣を持つてゐる。氏はその次男として明治十九年六月の誕生、川越工業組合染色學校を卒業して實業界に活躍し、現時秩父町原辯織物工場支配人に任じ敏腕を揮つてゐる。資性剛毅果斷機を見るに明あり

成るもの、局員四名、配達人十一名を有し、一ケ年の成績、通常郵便受付十一萬五千、同配達十六萬八千を超える。現局長は前局長の長男にして明治四十年十二月の誕生、昭和二年嚴父の他界と共に局長に就任今日に至り、資性實直にして堅實無比、局長としての適材中の適材であり、若年ながら手腕家との定評がある。

影森村下影森

影森郵便局長

黒澤 常三郎

氏は先代鍋次郎氏長男として明治十三年二月に岳降その祖は代々農に従事せる舊家にして、嚴父は村治に關與せる功勞者である。氏もまた村會議員及び村長をつとめ、昭和七年影森郵便局長に任命され、爾來日尙淺きに拘らず、事務能率の急ピツチと事業成績優秀により表彰數回に及び、電話事務開始の節は私財六百圓を投じ、當時縣知事よりその篤行を賞された。性溫和にして清廉潔白、十餘名の局員は悉くその人格に敬服してゐる。夫

人は白川村の舊家織田宇三郎氏の息女、内助の功多き賢婦人である。

大河原村

大久根勇三郎

大河原郵便局長
從七位勳七等

育英事業の恩人として郡下に名高い人に、現大河原郵便局長從七位勳七等大久根勇三郎氏がある。氏は自治功勞の代表的偉材たる平野平三郎氏の次男として明治十四年十月に出生、獨學力行、同三十五年小學校教員を拜命し、昭和四年退職まで、二十有餘年間、眞摯熱誠の教育者として貢献頗る多く、先年氏の薫陶を受けし人、相集りて謝恩會を開き金時計及び金杯を贈つてその勞を犒はれた。二十餘年間一小學校に勤続したことは特筆に値するところである。昭和五年大河原局長を拜命今日に至り、局務に勉勵しつゝ、俳句を趣味とする生活を送つてゐる。養父欽平氏は勳八等を有し、多年消防組副組頭をつとめ、二代大河原局長たりし人

長男貢氏は東京通信學校卒業にて目下支那事變に出征中、他に三男三女がある。

大河原郵便局

三等局、明治三十二年九月一日の開局、本村及び槻川村と比企郡

大河村全部 集配區域として、年次業績を高めてゐる。初代局長は大久根縫八郎氏、二代は同欽平氏、勇三郎氏は實に三代目である。前二代の功勞多大、十數回感狀を授けられた。

芦ヶ久保村

前村長 村越千代吉



當家は明治維新當時まで新井姓を名乗り來りし舊家

にて、當主にて十代目、先々代萬次郎氏は明治二十二年初代助役となり、同三十年村長に就任せし自治功勞者にして、大

原谷村

町田嘉之助

前原谷村長
元郡會議員

名望家にして舊家、代々農を業とし、先考廣作氏は八十三歳の高齡を全うした氏はその男にして慶應三年の出生、青年時代政治家を志し、時の總理大臣原敬氏官邸に於て自治の講演をし、滔々たる熱辯と博大の學識とに流石の大宰相も大い

に感動したといふ。原谷村長たること十數年全國有數の模範村たらしめた大手腕家にして自治功勞者として藍綬褒賞を下賜された。また信用組合の設立及び發達擴充にも功あり、本縣産組界有數の人物にして、村長辭職後聯合會埼玉社副社長となり後、社長に陞進、功績筆紙に盡し難きものがある。現今閑地に在りと雖も意を地方自治産業の開發向上に用ひ、那織物界に著名なる町久工場が氏の遺業たるは萬人の知るところ、現時秩父農林學校出身にして陸軍少尉なる長男久氏が工場一切の經營に任じてゐる。

日野澤村下日野澤

前村長 淺見利平

當家は



開祖以來五百年の歴史を有する舊家にして代

代農を業とせる家柄である。先考半藏氏は家業の傍ら區長、社寺總代をつとめ、仁徳深き温容の人であつた。氏はその長男、明治二年十一月二十二日を以て生この世に享け、二十七歳當時より村會議員に選ばれ重任二十八ヶ年、寄與貢獻頗る多く、また收入役二期、學務委員三期消防組頭、衛生組合長三期、製糸組合長二十有餘年等幾多重要な任務を遂行して敏腕を顯はれ、遂に全村民の懇望により村長に就任、村治各方面に互つて革新的政策を斷行し、村勢の發展日に隆盛を極めた。また創立當時より現今まで産業組合理事をつとめてゐる。先年縣自治功勞者として表彰さるゝ榮譽に浴した。令閨かつさんとの間に長男利恭氏、二男忠義氏、三男智氏その他がある。

尾田村

前村長 内田喜作

當家は秩父地方切つての名家にして、敏達天皇より出し小野妹子王の後裔であ

中川村

前村長 笠原松三郎

當家は四代前の松四郎氏を以て始祖となし、代々農を業となして、今日に至つた。氏は文久二年十二月の岳降若冠にし



後、郷士となつた。爾來二百數十年、内田氏を名乗つて

る。十一代の孫猪股小平太範綱それより八世を経て小野相模守時季となり、更に九代の孫五郎政行の時、武州藤田郷に城を築いて住し、その後藤田一圓を領して

て戸長役場書記となり、自治制施行後も引續き書記をつとめ、大正二年十一月助役に任じ、同六年十一月村長に推され、爾來昭和十一年まで六期間の長きに亘つて村首班の要職にありて自治産業に一筋の道を進み、書記拜命以來役場生活五十有餘年實務に



長けた名村長と惜しまれつゝその職を去つた。その間役場廳舎の新築、小學校舎の増築、道路開發及び橋梁架設、隔離病舎の建設等事績一々枚舉に遑あらず、秩父鐵道開設の際も、中川村外三ヶ村共同の期成同盟會長として活躍した。俳諧に興味深く「滿蒙も同じ恵みや初日の出」その他の名句がある。

久那村栗原
前村長 保泉長作

久那村栗原
前村長 保泉長作

當村開拓の功勞者にして、村會議員、區長其の他を多年勤め常に村勢發展の爲に村民の先鋒に立ちて活躍せる保泉橋平氏は實に當主の尊父にて、當主も亦、明治三十三年二十五歳の若冠にして村會議員に當選以來現在迄數拾年の永きに亘りて村民の福利増進の爲に執掌、その勤めるところ村會議員二十餘年を経て明治四十二年村助役に推され、收入役を兼務し、その後消防



十二年村助役に推され、收入役を兼務し、その後消防

組頭の重責をも果して村長に就任、二期を歴任した。現在尙も學務委員として努力、生絲販賣組合埼玉社久那組々合長の任にもあり、その多年に亘る貢獻業績多大にて産業組合中央會埼玉支會より表彰を受けし事もある。亦長男愛作氏も現在村會議員、區長、消防組頭の重任に在りて盡瘁をなしてゐるが、その父子三代に渡

る村勢發展への功勞は實に偉大にして燦と輝き渡り、村民より感謝と尊敬の念を以つて迎へられてゐる。尙當主の出生は明治八年六月二十二日にして、家には嚴父橋平氏老境にあり乍ら嬰孺として健在長男愛作氏の他に次男柳太郎氏、三男茂氏が家業に精勵し、頗る圓滿なる家庭である。

浦山村日向
前村長 上林清十郎



當家は十二社神社を建てたる神林土佐守を始祖とす

名門にして、先々代駒吉氏は副戸長をつとめ、寺小屋を開いて村民に教育を施し、文林と號して、俳句繪畫生花等の雅道に長じたる自治制初期の大功勞者である。當主清十郎氏は明治十一年十一月の

出生、嚴父治三郎氏の薰陶により英明果斷、獨學力行に努め、役場書記を振出しに村内各種公名譽職に歴任、村長たること三期十二年、村教育の普及、道路の開發、信用組合設立等功績一々枚舉に遑なく、信用組合長十餘年、消防組頭十六年等事績は各方面に亘り廣汎顯著である。趣味は俳句。サダ夫人との間には長男孝氏ほか三男一女あり、家内頗る圓滿幸福である。

影森村
前助役 新井菅次



郡白川村坂本禎輔氏の三男として明治八年に

呱聲をあげ、獨學力行、大正八年兵庫縣巡查を拜命、同十二年には警部補試験に合格して、謹嚴高潔なる名警官と謳はれ

た。退職歸郷後、影森村の舊家先代新井良助氏に望まれてその養子となつた。先代は名主、戸主、村會議員、收入役、助役等の公職を歴任する自治界の先賢である。氏は養父に負けず昭和八年村會議員に當選、同十二年再選、その間昭和三年には、助役に推されて勤続二期半に及んだ。本村自治發達に幾多の貢獻をなし、往年兎角圓滿を缺き勝ちであつた本村が現在の如き明朗影森村となつたのは、氏の如き清廉潔白な人材の働きに負ふところが多いのである。夫人シカさんは淑徳の譽れ高く内助の功あり、氏との間に二男二女を儲けた。

野上村本野上

前野上郵便局長
元郡會議員
正七位勳七等

村田松五郎

教育に自治に邁進に、皇運扶翼の最善を竭せる氏は、文久二年正月の生れ、夙に埼玉縣師範學校を出て、明治十六年には野上小學校長に任じ、同二十三年秩父

町大宮小學校長に榮轉、三十六年退職、同年縣會議員に當選せしも、教職を退きし直後なれば居住年月滿たず惜しくも失格した。後、郡會議員に當選、更に明治三十六年より昭和九年まで村行政に參與して獻策貢獻多く、信用組合理事、學務委員等野上村の興隆に幾多燦々たる功績を遺し、本村の至寶であり、郡下の偉材である。また野上郵便局長として昭和八年まで勤続、通信事業に於ても稀有の功勞者である。長男憲一氏は本村内に醫院を開業、兼ねて學校醫を囑託され、二男定夫氏は現月川小學校長をつとめ、四男正己氏は氏の後を承けて野上郵便局長に任じてゐる。

芦ヶ久保村

元助役 橋本虎吉

至誠敬虔、徳望全村に普く、名聲遠近に噴々たる氏は明治二十八年二月の誕生である。大正九年産業組合創立に主唱參與して専務理事に擧げられ、役場書記を

兼務しつゝ組合の發展充實に竭すところ大なるものありしが、昭和六年専任助役となり、一意村治に貢献盡力し、同七年



十二月惜しくも病を得て退職の止むなきに至るまで、

道路の開発、産業の發展等に功勞大なるものがある。家庭には長男榮壽氏ほか一男一女がある。なほ曾祖父は乙吉氏と稱し、祖父は徳太郎といひ明治二十二年初



祖徳太郎氏

代村長に選任以來大正五年まで二十七年

出征し、名譽の戦死を遂げ、勳七等に叙された護國の精華である。

原谷村大野原

萩原紋次郎

氏は先考太重氏の長男、元治元年一月の岳降である。學を源藏寺住職町田天洲師に就いて修め、資性濃厚篤實、夙に耕地總代、村會議員、村長等をつとめ、現時區長及び原谷産業組合理事を兼任し、先年戸籍事務關係により縣知事より表彰されし自治功勞者である。令閨イエさんとの間には長男佐紋治氏、次男由治氏のほか二男二女がある。因に先々代佐傳次氏は萩原家を今日の如き隆盛に立至らしめた人、即ち文化二年に呱呱を擧げ、農閑期を利用して賣藥行商をなしつゝ各地の農業經營法を研究、影森村より大野原に水道を造り用水を開いて荒廢の地を水田に拓き、萬延元年遂に事業完成を見て村民の利益甚だ大なるものあり、領主松平侯より扶持三人分を賜ひ苗字帯刀を許

されし功勞者、その徳行は今も村民の忘れぬところである。

三澤村

故玉谷延藏



翁は慶應元年の岳降、幼少より群童を擧んじて神童

の名あり、長じて、玉谷家五代を繼承した。家業の傍ら自治公共の事に竭すところ頗る多く、夙に三澤村助役を拜命、後村長に選任さるゝこと三回、自治の圓滿なる運轉、産業の飛躍的發展、交通状態の劃期的前進、教育の徹底的普及など、村治上燦として永久に消ゆべからざる功績を残し、日露戦争當時も村長の任にありて銃後の護りに遺憾なく、その功を賞して勳七等に叙された。その他郡會議員消防組頭、村會議員、學務委員を歴任本

村産業組合設立の第一の功勞者にして永年組合長にも任じたる偉大なる敏腕家であり功勞者である。當主玉谷與八氏はその養嗣子、明治二十一年六月の岳降にしてよく家業を守り、令閨シゲさんとの間には四男三女あり、家庭頗る圓滿を極めてゐる。

白鳥村岩田

元村長 雨宮富藏



當家は代々農耕に従事せる舊家なるも、先代芳太郎

氏は明治二十年頃より蠶種業を經營し、爾來年々販路を擴張して各地方に多量販賣するに至り、現在は専ら埼玉社と特約納入してゐる。氏は先代の四男として明治十二年三月十二日に呱呱をあげ、長兄逝去により家督を繼承した。二十五歳の

若冠にして村會議員に當選したる手腕と信望の人で、爾來重選數期その職にありたるほか、その間収入役を二期間つとめ村勢發展と村民の福祉増進に絶大なる功勞あり、遂に全村民の輿望を負ふて村長の椅子に就き、幾多の難問題を美事に處理し、白鳥村今日の隆盛の基礎を確固たらしめた。現在は専ら學務委員の任にあるも、蠶業方面にも多大の貢献をなしつつある。資性濃厚篤實。令閨つるきさん長男靜雄氏、同夫人たきさん、令孫三人が家庭にあり和氣霽々としてゐる。

國神村野卷

元村長 富田佐平治

當家は七代目、農を家業とし、幕政當時は名主動役、一村開發に盡すところがあり、五代目の祖太仲氏は煙草その他の副業に熱中した人だつた。當主は嘉永七年七月十七日の生れ、その二十二歳頃、群馬縣藤岡小學校長として育英事業に精進するところがあり、後ち歸村、村治方

面に進出、一村の輿望を擔つて初代村長に推輓され、爾來前後四十二年間に互つてその要職を占め、村治百年の大計を立て、一意邁進、村民の福祉は一年より一年へと増進、村内に到るところに歡呼あり、賞讃の辭止む時なく、七十餘歳にして名、公職を退いたが、その間寺院總代區長數回、日本農民會支部長、郡農會副會長、縣農會創立委員として盡瘁貢獻せる功勞は、一々枚擧するに遑なく、村史の上に輝かしい頁を飾つてゐる。明治二十七年當時、天杯を授けられてゐる。長男君は大正七年中央大學在學中に長逝他に五女あり、長女さんに熊太郎氏を迎へて家督となした。熊太郎氏は資性溫良の人、熱心家業に勵んでゐる。

三澤村

元村長 玉谷喜三郎

道路工事、學校舎建築に努力貢獻多く郡教育功勞者とも稱される氏は、玉谷太郎兵衛氏二男として慶應元年二月に岳降